

鹿部町土地利用計画

平成 31 年 3 月

鹿部町

目次

第1章 計画策定の目的と位置付け	1
1－1 計画策定の目的	2
1－2 計画策定の位置づけ	2
1－3 対象区域	2
1－4 計画期間	2
第2章 都市の現状把握	3
2－1 現況整理	4
2－2 上位・関連計画の整理	41
第3章 土地利用の問題・課題の整理	53
3－1 生活利便性の課題	54
3－2 産業の課題	55
3－3 防災の課題	56
3－4 公共施設・インフラの課題	57
第4章 住民意向の把握	58
4－1 調査の概要	59
4－2 調査の結果	65
4－3 施設の立地場所についての分析	88
第5章 各種ワークショップの実施	95
5－1 概要	96
5－2 第1回 役場ワークショップ	97
5－3 第2回 役場ワークショップ	101
5－4 町民ワークショップ	104
5－5 インタビュー調査	107
5－6 町民懇談会	112
第6章 まちづくりのビジョンの検討	117
6－1 まちづくりのビジョンの検討	118
6－2 まちの構造の検討	119
6－3 主要施設の配置案の検討	127
第7章 まちづくりのビジョンの設定	156
7－1 目指すべき“まち”の構造	157
7－2 主要施設の配置	160
7－3 実現化に向けて	162

第 1 章 計画策定の目的と位置付け

- 本計画の策定目的や、「第 5 次鹿部町総合計画」などの上位計画や他の関連計画との位置づけを整理する。
- 計画の対象区域、計画期間について規定する。

1-1 計画策定の目的

鹿部町土地利用計画は、本町が今後取り組むべき重点施策の整備方針等を反映させ、将来像を描き、まちづくりに関する様々な整備及び取組の方向性を示すものである。また、町民と行政が協働で鹿部町の将来像を描き、鹿部町全体の土地利用を計画するものである。

1-2 計画策定の位置づけ

本計画は、本町のまちづくりの最上位計画である「第5次鹿部町総合計画」の土地利用部門に関する部門別計画である。さらに、本計画は、防災、住宅、観光などの他の関連計画との連携や整合を図るものとする。

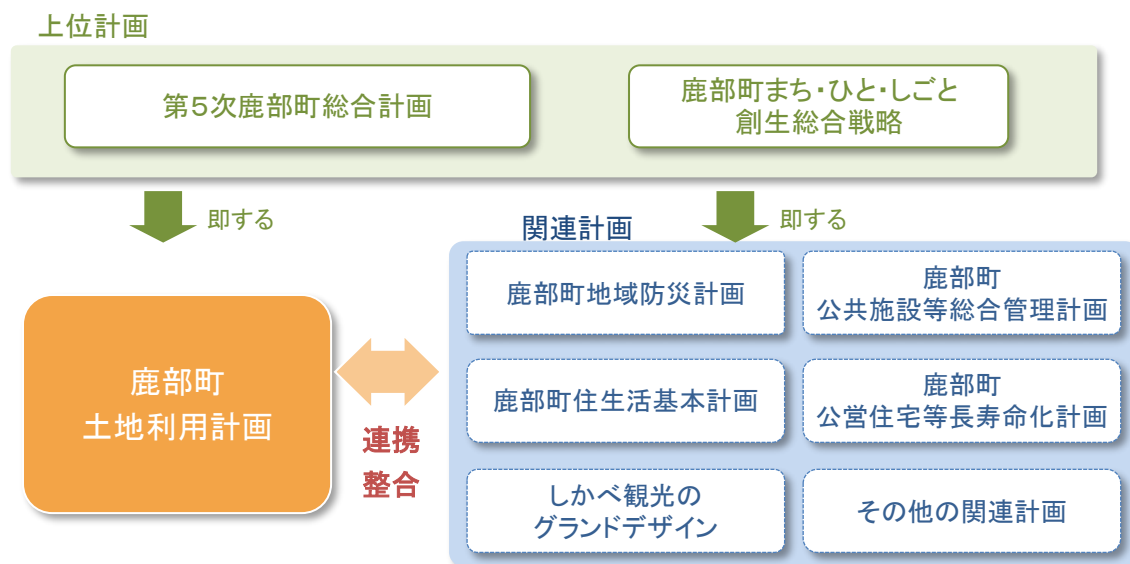


図 1-1 土地利用計画の位置づけ

1-3 対象区域

本計画の対象区域は、鹿部町全域（110.63 km²）とする。

1-4 計画期間

計画期間は平成 31 年度（2019 年度）～平成 40 年度（2028 年度）の 10 年間とする。

なお、社会経済状況の変化や国・北海道の動向、本町の人口・土地利用等の動向や上位・関連計画との整合、施策の進捗や効果等を踏まえて、適宜見直しを行うものとする。

第2章 都市の現状把握

- 持続的なまちづくりの観点から、人口・土地利用・経済活動・地域防災・都市施設などについて町の現況把握を行う。
- 都市施設（生活サービス機能）の配置に関しては、行政、医療・福祉、教育・文化、スポーツ、商業など公共公益施設や民間施設の配置について把握する。
- 上位計画・関連計画については、総合計画、人口ビジョン、総合戦略など、町全体方針に係る計画を整理し、まちの将来像に係る基本的な方向性や、拠点形成などを概括する。

② 地区区分

鹿部町は、「大岩地区」「鹿部地区」「宮浜地区」「駒見地区」「本別地区（鹿部リゾート・その他）」の5つの地区により構成されている。

「鹿部地区」「宮浜地区」は本町の中心となる地区であり、特に道道 43 号から鹿部バイパスにかけては、各種公共施設や商業施設が立地し、本町の市街地となっている。

「本別地区」にはＪＲ鹿部駅が立地している。また、本別地区と森町・七飯町の境界に駒ヶ岳がまたがっており、駒ヶ岳の景観を生かした「鹿部リゾート」が分譲されている。

「駒見地区」は大沼国定公園に近接しており、豊かな自然を活かし、ゴルフ場等が立地している。

「大岩地区」は函館市（南茅部）と隣接しており、また「鹿部地区」との地区境界付近には「渡島リハビリテーションセンター」が立地している。

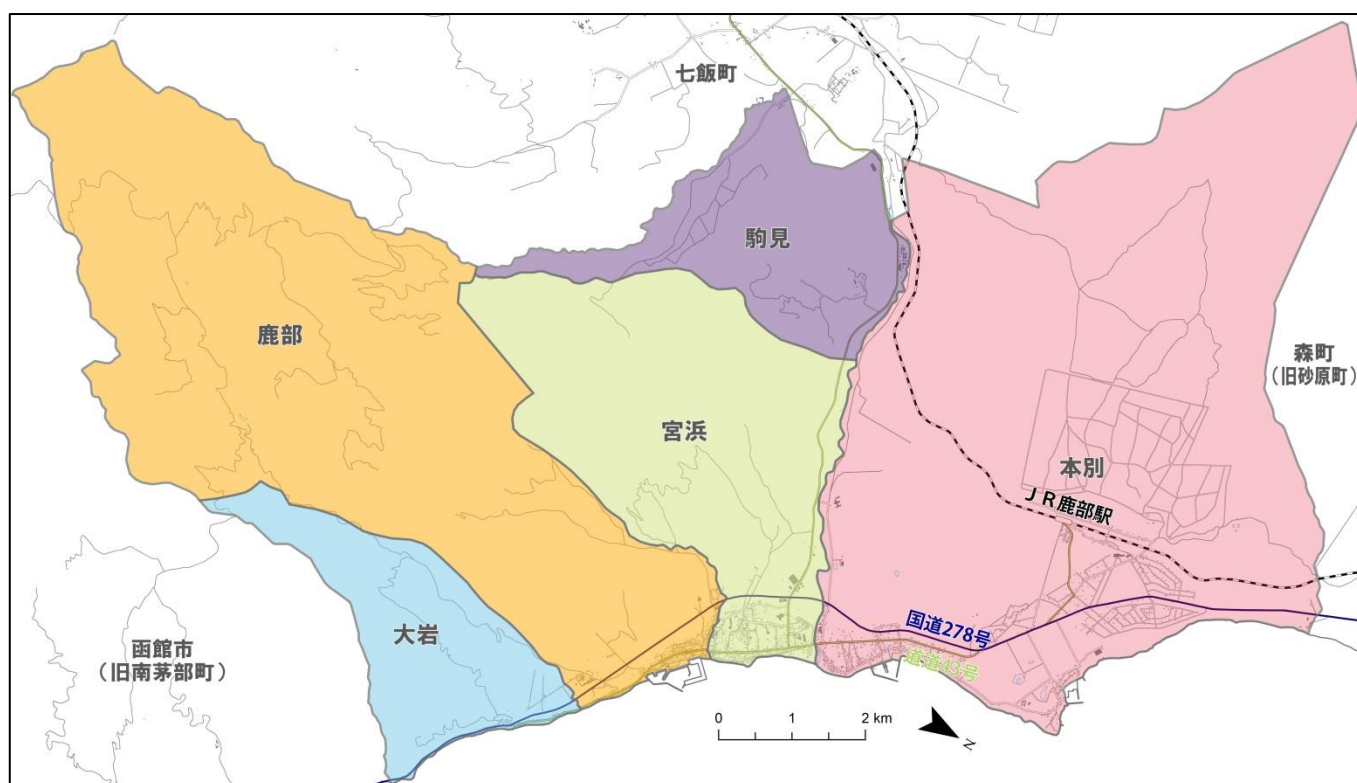


図 2-2 鹿部町の地区区分

(2) 人口

① 人口推移と将来推計

1970 年（昭和 45）以降の鹿部町の人口をみると、1985（昭和 60）年の 5,107 人をピークに減少傾向となり、2015 年（平成 27）には 4,226 人となっている。特に 2010 年（平成 22）から 2015 年（平成 27）にかけては、減少数が約 500 人を超え、これまでの中で最も急速に減少している。

また、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の将来人口推計によると、20 年後の 2035 年（平成 47）には、2015 年（平成 27）の約 7 割（2,939 人）となると推計されており、今後もさらなる人口減少が進むと予測されている。

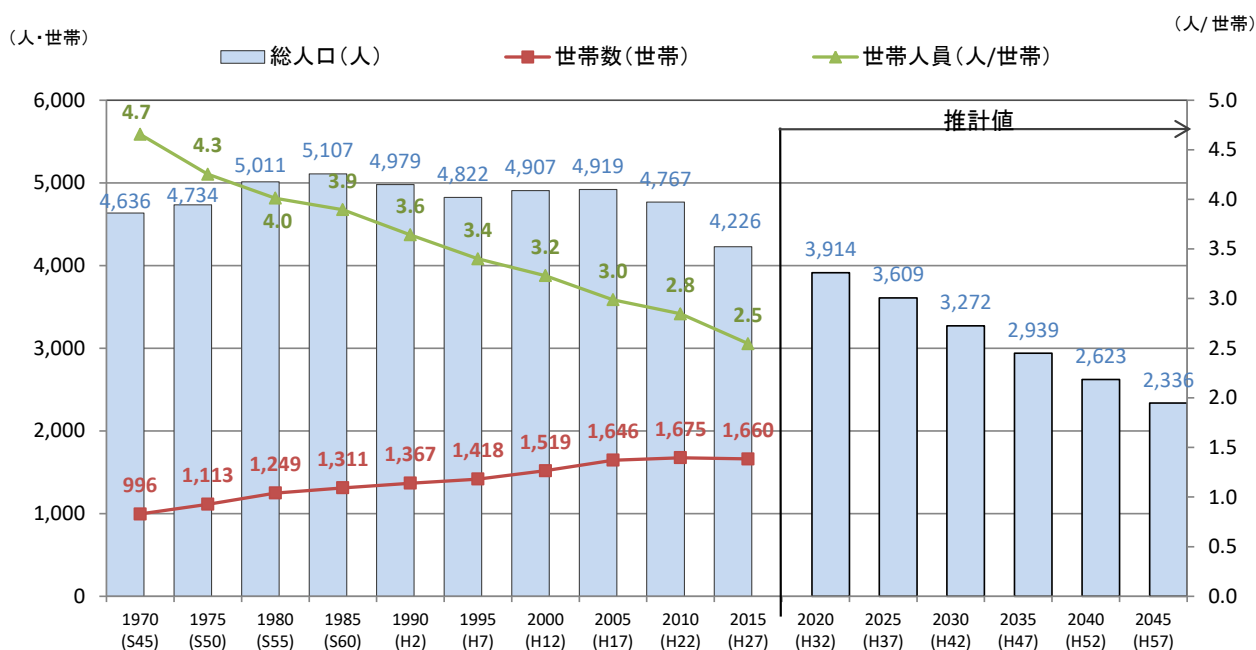


図 2-3 鹿部町の人口の推移と将来推計

資料：総務省「国勢調査」（実績値）、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 3 月推計）」（推計値）

2015 年（平成 27）までの鹿部町の人口を年齢階層別でみると、年少人口（15 歳未満人口）、生産年齢人口（15～64 歳人口）ともに、1985 年（昭和 60）以降減少傾向である一方、老年人口（65 歳以上人口）は増加傾向にある。しかしながら、2015 年（平成 27）以降の将来推計では、老年人口についても 2025 年（平成 37）より減少に転じると推計されている。

2045 年（平成 57）には、年少人口が 7.9%、生産年齢人口が 48.8%、老年人口が 43.3%と少子高齢化が進むと推計されている。

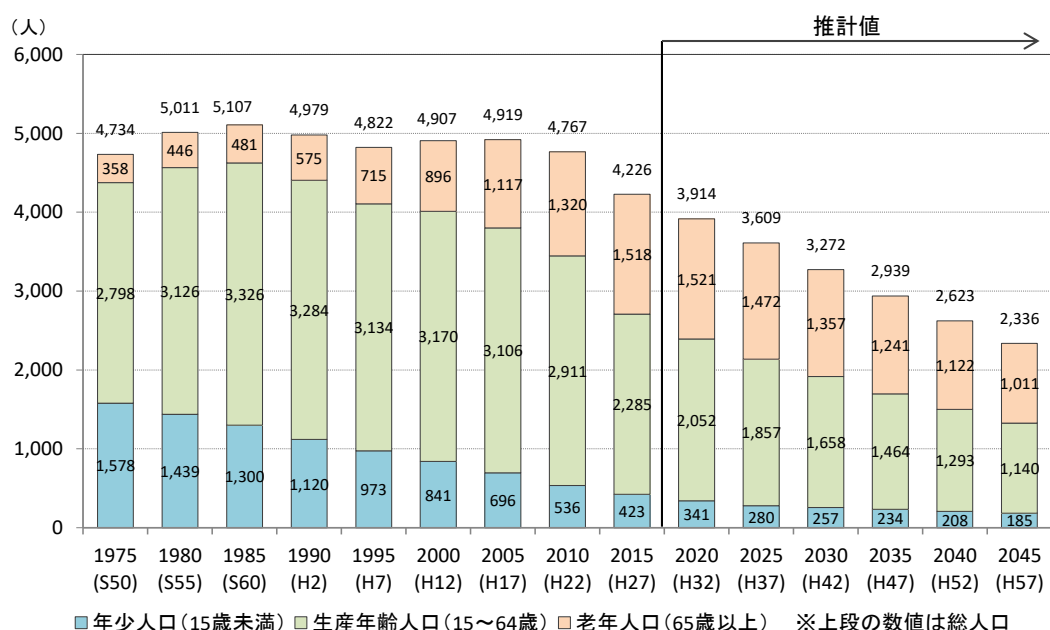


図 2-4 鹿部町の年齢 3 階層別人口の推移と将来推計

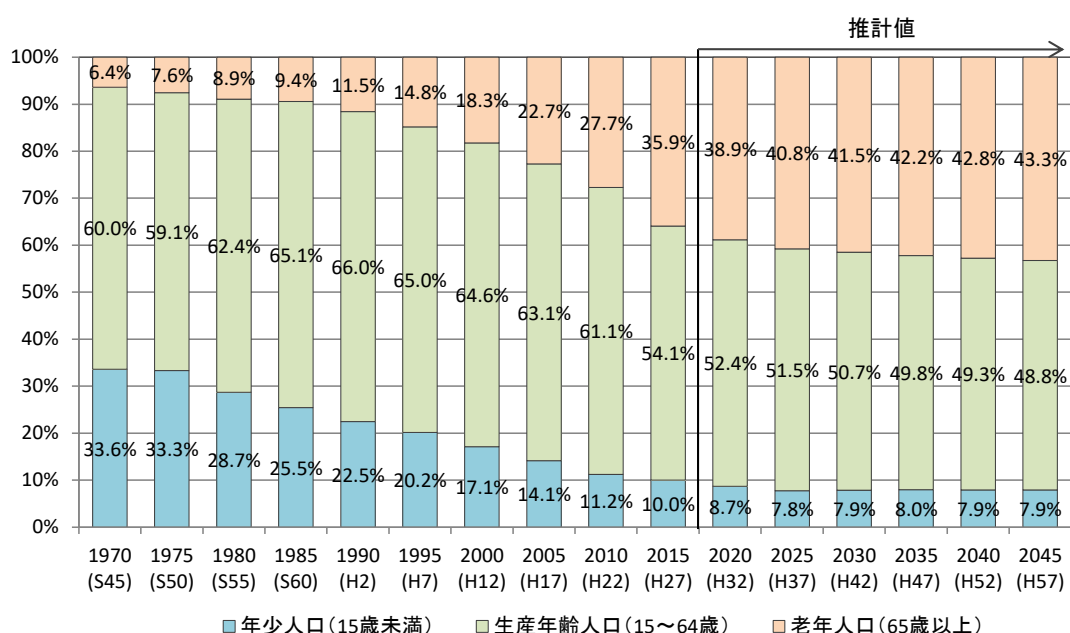


図 2-5 鹿部町の年齢 3 階層別人口構成比の推移と将来推計

資料：総務省「国勢調査」（実績値）、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 3 月推計）」（推計値）（本項全て）

② 転入転出人口

2001 年（H13）以降の社会増減（転入数と転出数）をみると、転入数が転出数より多い年もあったものの、2006 年（平成 18）以降、転出数の方が多い状態が続いている。

2012～2014 年（平成 24～26）の 3 年間における社会増減について、性別・年齢階級別でみると、15～19 歳と 20～24 歳で転出超過が目立つ状態となっている。

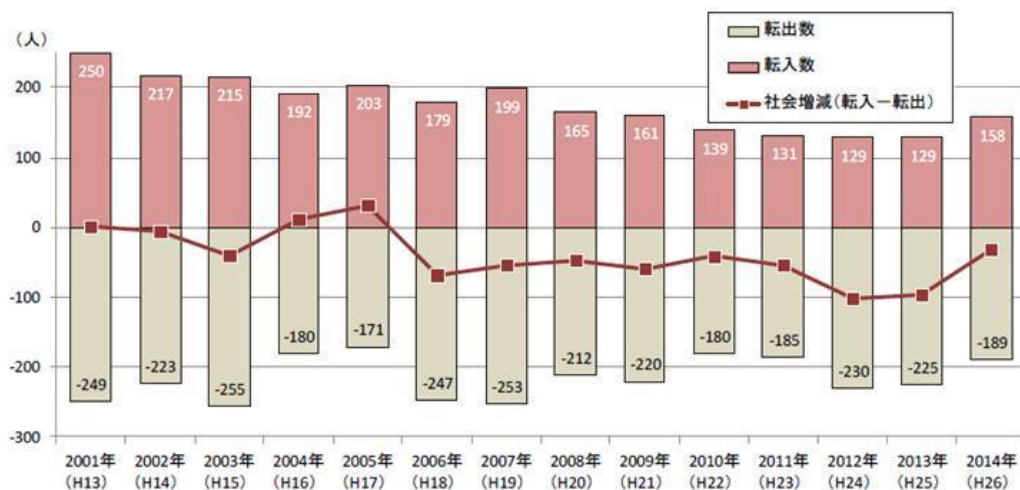


図 2-6 転入数と転出数の推移

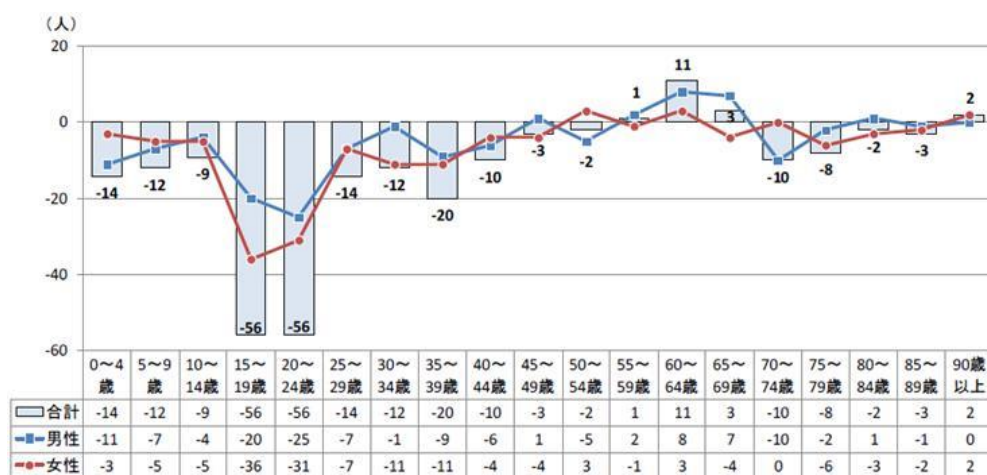


図 2-7 性別・年齢階級別の社会増減の状況（2012 年から 2014 年の 3 年間の合計）

資料：鹿部町「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2016 年 2 月）（本項全て）

③ 地区別人口の推移

2018 年（平成 30）時点の各地区の人口をみると、全人口のうち宮浜地区に 43%、鹿部リゾートを含む本別地区に 36%の人口が居住しており、この 2つの地区に人口が集中している。

また、2003 年（平成 15）年時点を 100 とした場合の各地区の人口増減率をみると、鹿部リゾートを除く全ての地区で減少傾向にある。特に、大岩地区の人口減少率が高く、2018 年（平成 30）では、63%まで人口が落ち込んでいる。

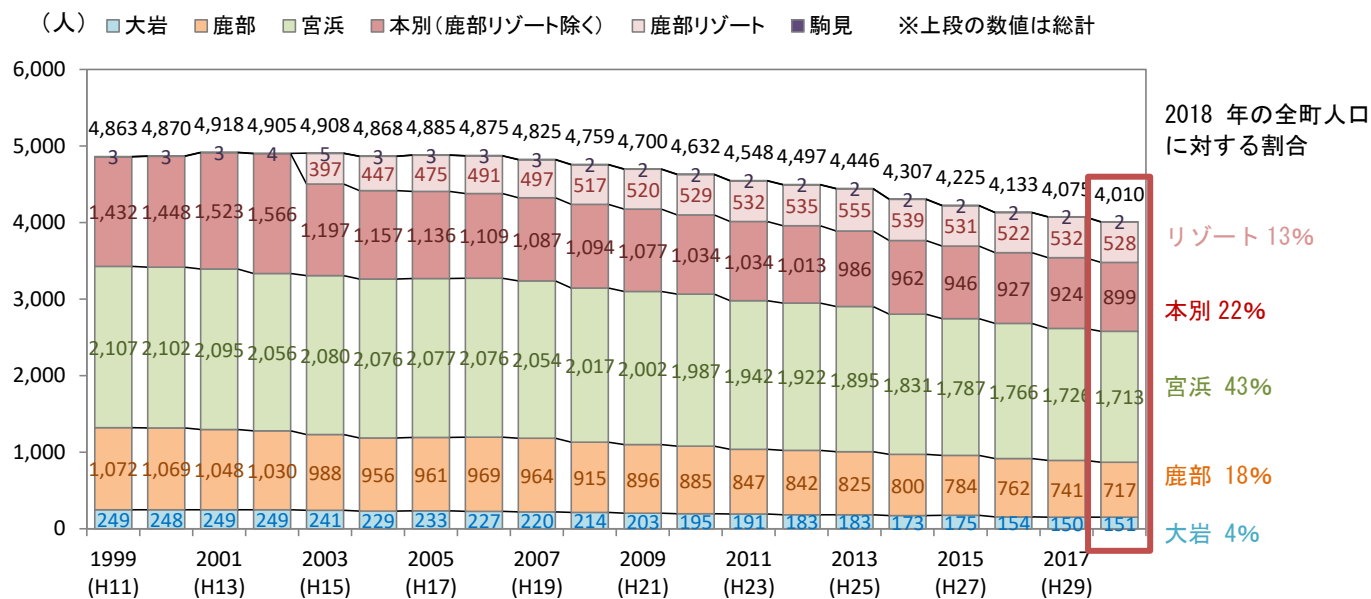


図 2-8 各地区の人口の推移

※鹿部リゾートは 2003 年（平成 15）より人口の集計を行っている。

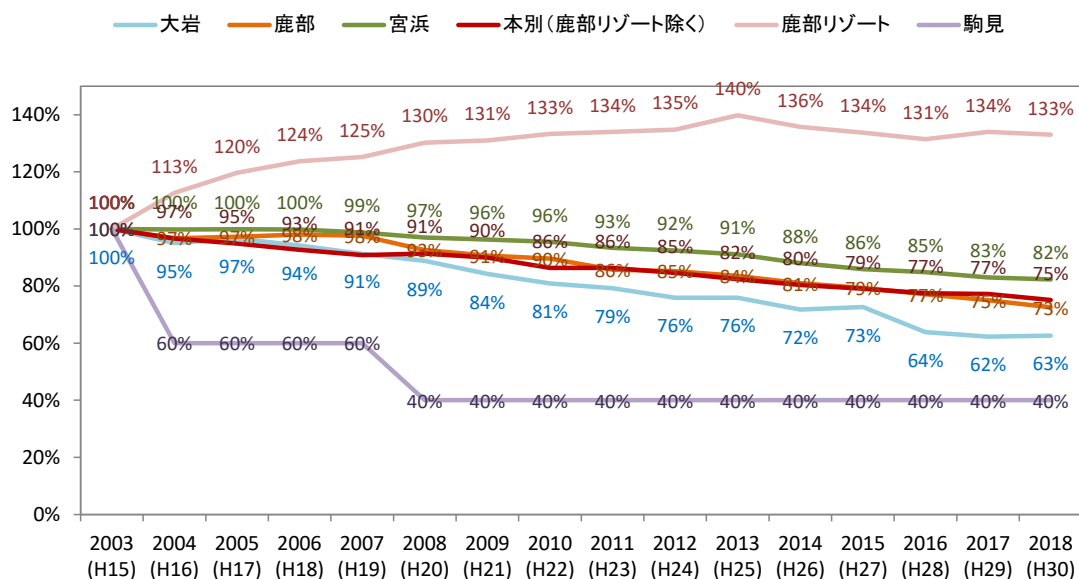


図 2-9 2003 年（平成 15）を 100 とした場合の人口の増減率

資料：鹿部町資料（本項全て）

（３）土地利用

① 土地利用の状況

鹿部町の土地利用の状況をみると、全町に広く「農業地域」と「森林地域」が指定されている。また、「自然公園地域」は本町の西側に指定されている。

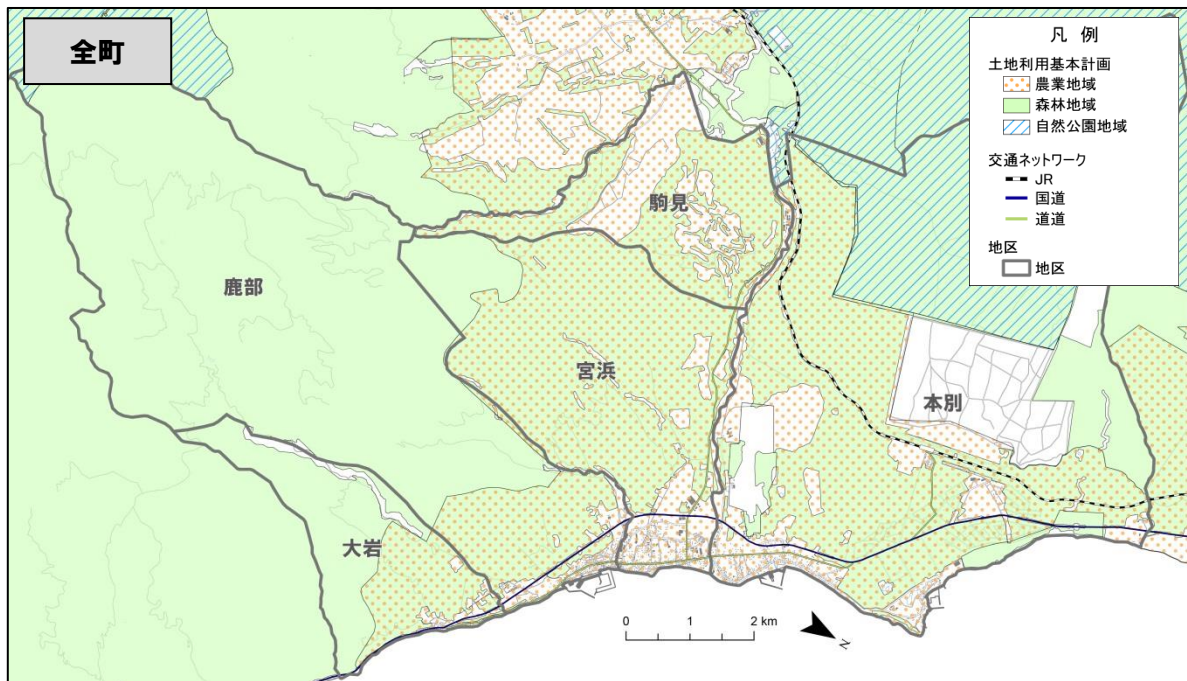


図 2-10 鹿部町の土地利用

資料：国土交通省「国土数値情報」

② 建築着工数

建築工事届出台帳による建築着工数※をみると、2008 年度（平成 20）頃までは毎年 10～15 戸、総延床面積 1500 ㎡前後が着工されていたが、2008 年度（平成 20）以降は着工数が減少し、毎年おおむね 10 戸以下、総延床面積 1,000 ㎡以下となっている。

また、地区別に着工数をみると、本別地区で 5 棟前後、宮浜地区で 1～3 戸程度が毎年建築されている。

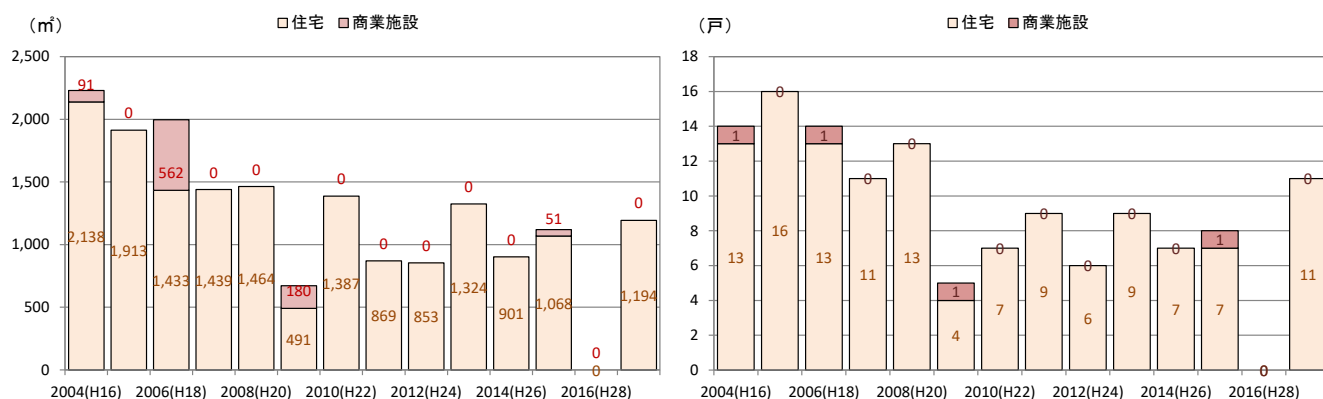


図 2-1-1 地区別の着工延床面積※（左）と着工戸数※（右）の推移

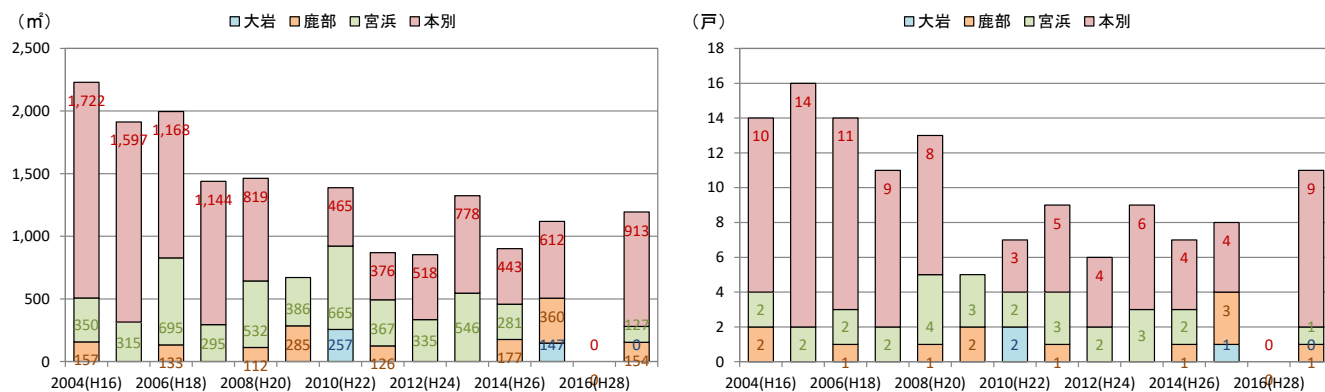


図 2-1-2 地区別の着工延床面積※（左）と着工戸数※（右）の推移

資料：鹿部町「建築工事届出台帳」より集計（本項全て）

※建築工事届が出提出されているものに関する集計であり、全数ではない。

※建築物の用途については、建築工事届出で「住宅」「併用住宅」「専用住宅」と届け出られているものを「住宅」、「店舗」「事業所」「工場」として届け出られているものを「商業施設」として集計している。

③ 町有地

鹿部町の公有地の所有状況をみると、各地区に公有地を所有している状況にある。市街地にも公有地はあるものの、すでに公共施設や公営住宅等に使用されている土地が多い。

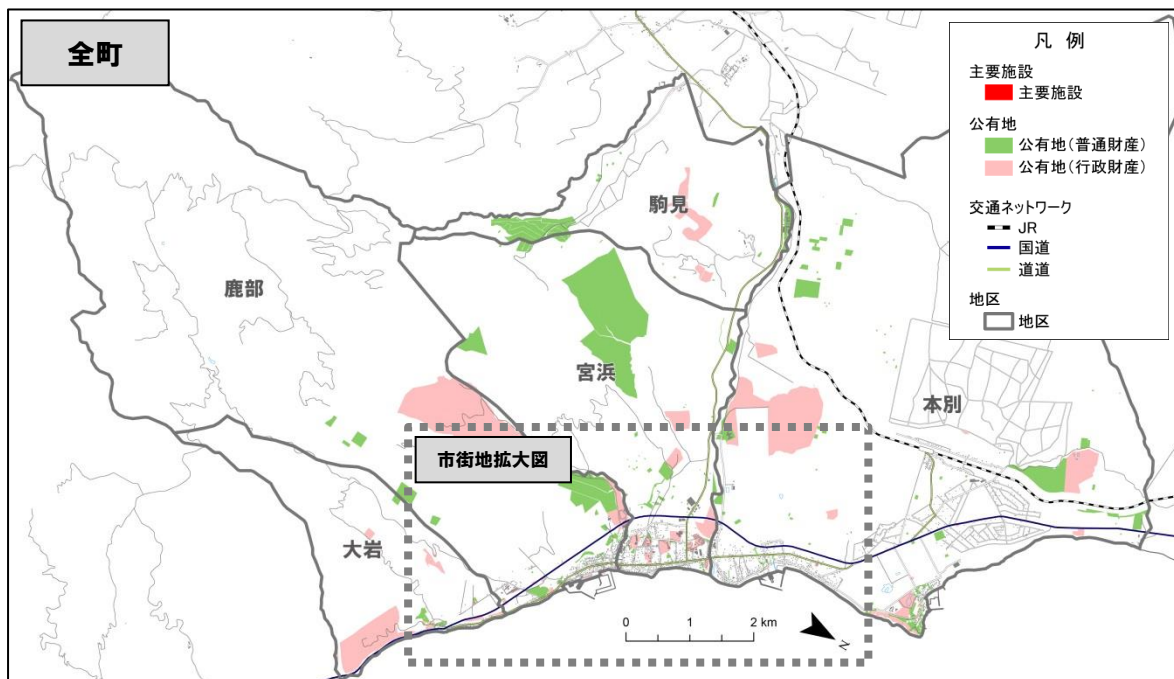


図 2-1 3 鹿部町の町有地（全町）

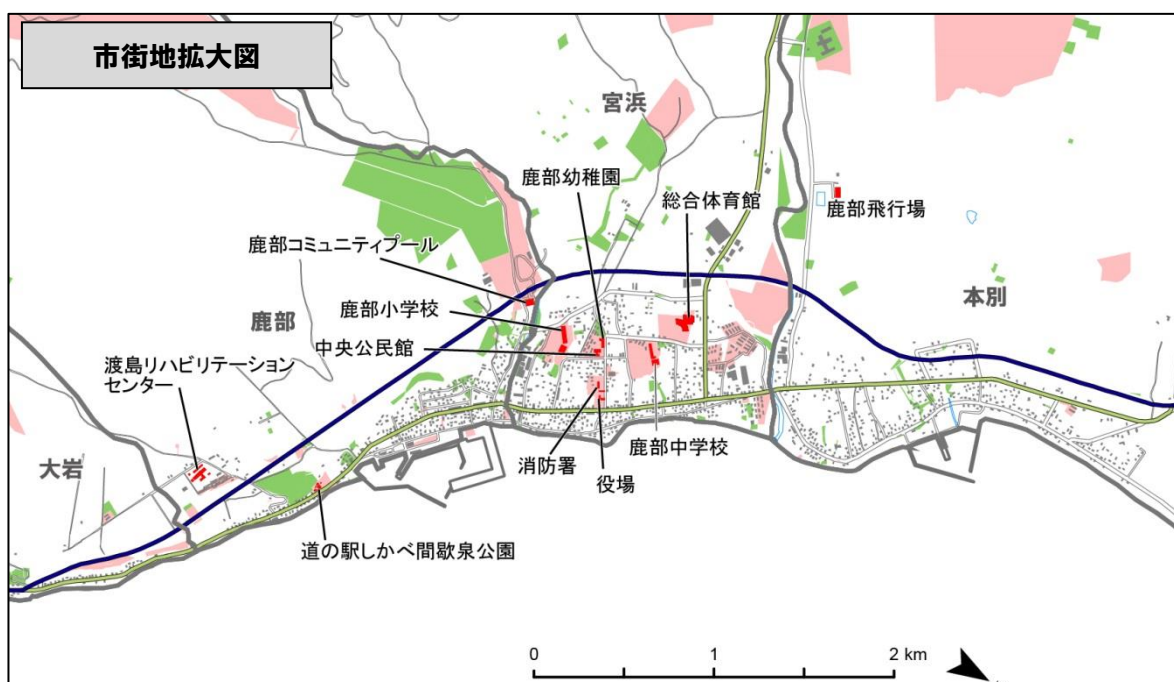


図 2-1 4 鹿部町の町有地（市街地拡大図）

資料：鹿部町調べ

（４）交通・移動

① 道路ネットワーク

本町には、主たる道路として、「国道 278 号」と「道道 43 号（道道大沼公園鹿部線）」が存在している。

「国道 278 号」はまちを北西から南東へ貫く主要道路であり、本町を森方面および南茅部方面と結んでいる。「国道 278 号」のうち、市街地を迂回する「鹿部バイパス」が 2002 年（平成 14）に工事着手され、2013 年（平成 25）に開通した。

「道道 43 号」は「国道 278 号」と並行・直角に整備されており、町内移動や七飯方面への移動を支える道路である。元々は「国道 278 号」の一部であったが、「鹿部バイパス」の開通後、道道に変更となった。

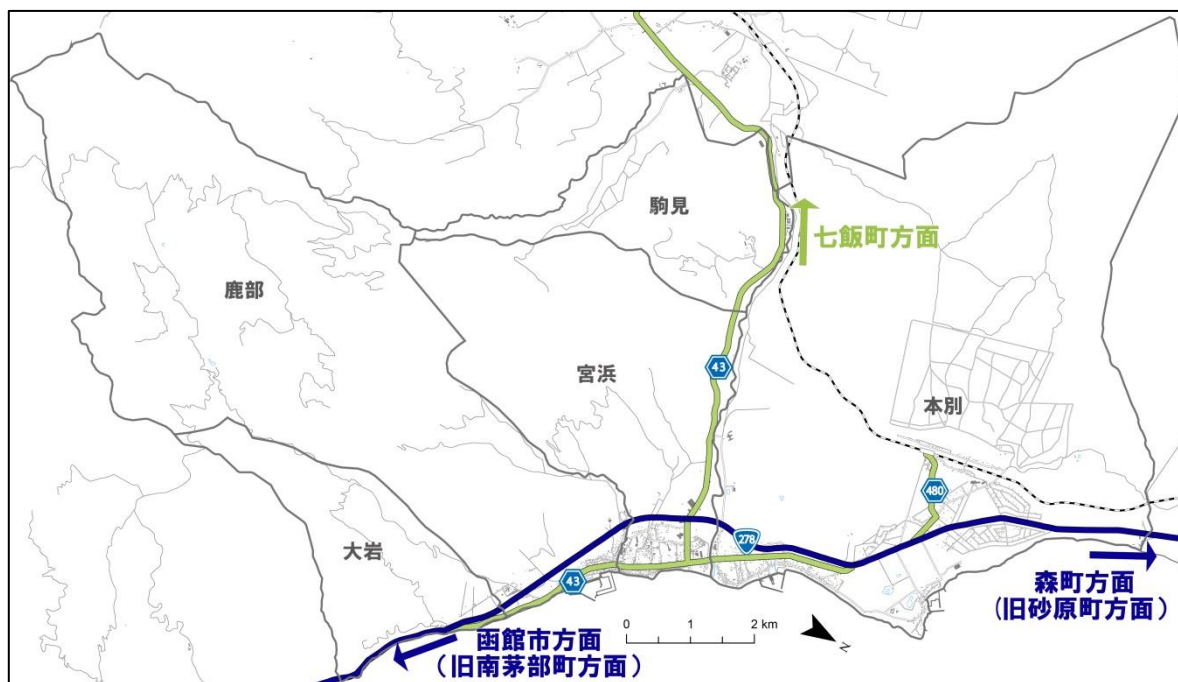


図 2-15 鹿部町の道路ネットワーク整備状況

② 鉄道

鹿部駅の運行ダイヤをみると、上りが1日あたり7本、下りが1日あたり5本となっている。

表 2-1 鹿部駅の鉄道運行ダイヤ

上り			下り		
始発駅	鹿部駅 発車時刻	終着駅	始発駅	鹿部駅 発車時刻	終着駅
森	6 : 04	函館	函館	7 : 04	森
森	6 : 45	函館	函館	15 : 33	長万部
長万部	8 : 37	函館	函館	18 : 06	森
長万部	15 : 16	函館	函館	19 : 57	森
森	16 : 43	函館	函館	21 : 24	森
長万部	18 : 20	函館			
森	21 : 24	函館			

資料：JTB「JR時刻表」（平成30年3月改正）

③ 公共交通ネットワーク

町内を通過するバス路線は函館バスが運行する 7 路線がある。

本町と函館方面を結ぶ「函館・鹿部線」は、函館→鹿部方面が 1 日 7 本、鹿部→函館方面が 1 日 6 本運行している。本町と南茅部方面を結ぶ「鹿部・古部線」は 1 日あたり 3 往復、「鹿部・南茅部線」1 往復が運行している。鹿部町内を運行する路線（「鹿部・魚栽センター」「鹿部・鹿部駅」「鹿部・鹿部駅（魚栽センター経由）」の 3 系統の合計）は、1 日あたり 6 往復運行している。

表 2-2 鹿部町内のバス路線・運行本数※

路線名	運行者	起終点	運行本数
函館・鹿部（川汲経由）	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 函館バスセンター	函館→鹿部 4 本/日 鹿部→函館 3 本/日
函館・鹿部（大沼公園経由）	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 函館バスセンター	3 往復/日
鹿部・古部	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 古部	3 往復/日
鹿部・南茅部	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 南茅部支所前	1 往復/日
鹿部・魚栽センター	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 出来潤築港前	6 往復/日
鹿部・鹿部駅	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 鹿部駅前	
鹿部・鹿部駅（魚栽センター経由）	函館バス	鹿部出張所 ⇄ 鹿部駅前	

資料：函館バス株式会社「時刻表」

※平成 30 年 7 月 22 日現在の平日ダイヤ

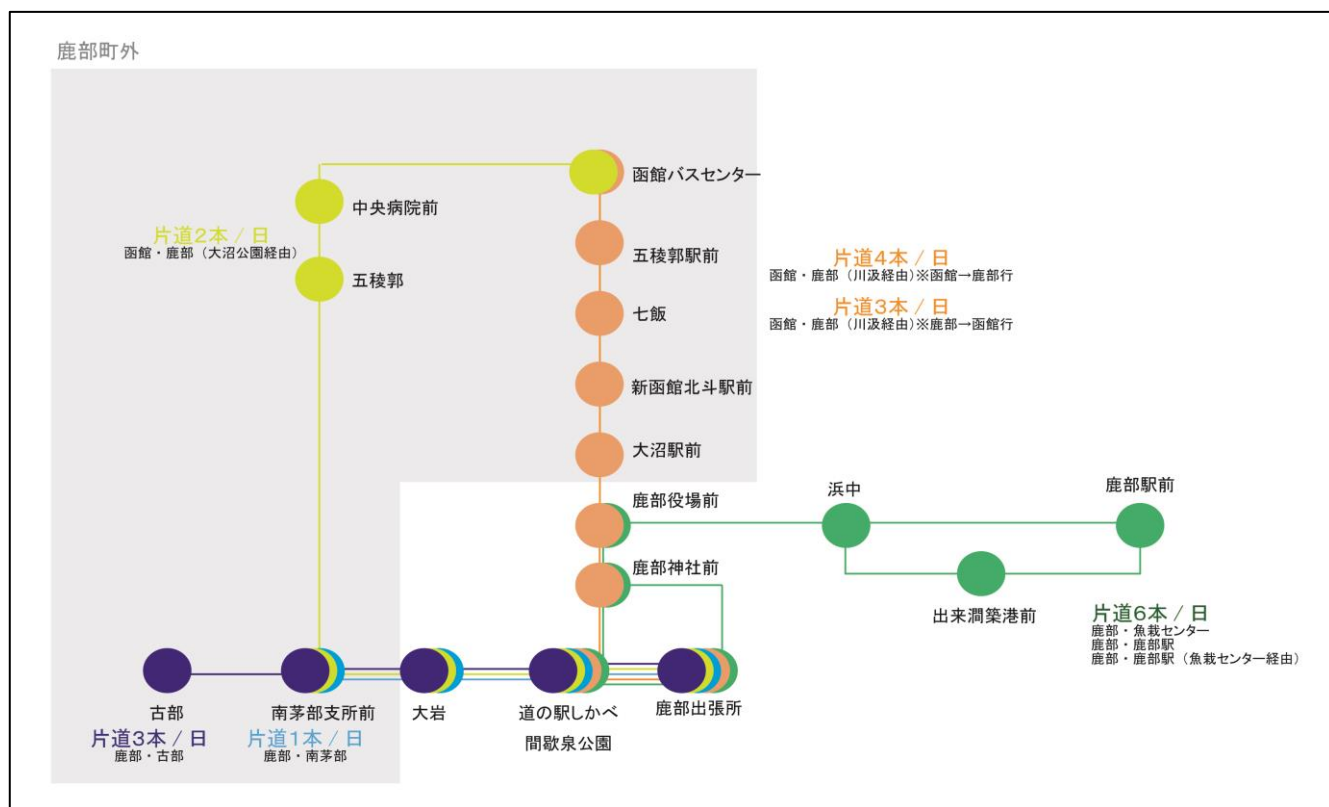


図 2-16 鹿部町を通過するバス路線および主なバス停

全町

凡 例

主要施設
 ■ 主要施設

交通ネットワーク
 - - JR
 - 国道
 - 道道
 - - バス路線
 ● バス停留所
 ○ バス停 徒歩圏(300m)

鹿部 駒見 宮浜 本別

市街地拡大図

大岩

JR鹿部駅

0 1 2 km

④ 通勤・通学の状況

2015 年（平成 27）における鹿部町に関連する通勤の状況をみると、鹿部町で働く就業者数 2,045 人、鹿部町に住む就業者数 2,015 人に対し、鹿部町で住み鹿部町で働く就業者は 1,668 人と、ほとんどが町内居住かつ町内就業している状況である。また、鹿部町で働く就業者数（2,045 人）のほうが、鹿部町に住む就業者（2,015 人）よりも若干多い状況である。他市町との関係をみると、函館市（流入 190 人、流出 102 人）森町（流入 61 人、流出 102 人）との関係が強くなっている。

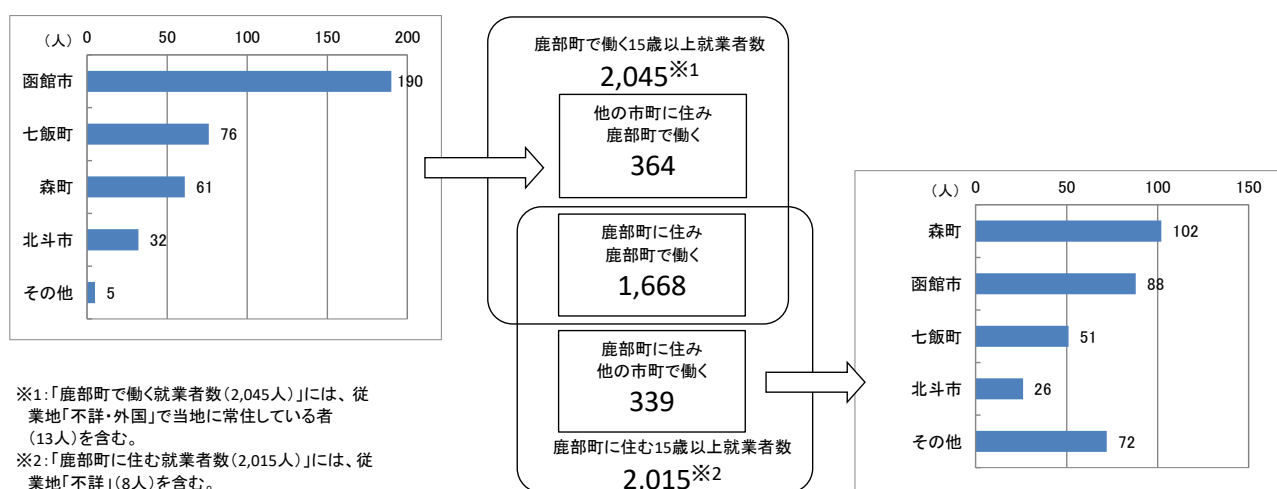


図 2-18 鹿部町関連の通勤の状況（15 歳以上の就業者）

資料：平成 27 年国勢調査

2015 年（平成 27）における鹿部町に関連する 15 歳以上の通学者の状況をみると、鹿部町に住む 15 歳以上通学者 179 人のうち、鹿部町での通学者数は 60 人、町外へ通学する通学者は 119 人と、約 7 割が町外へ通学へ通学している。うち、函館市へは 77 人（町外通学者のうち 65%）、森町へは 28 人（同 24%）が通学している。

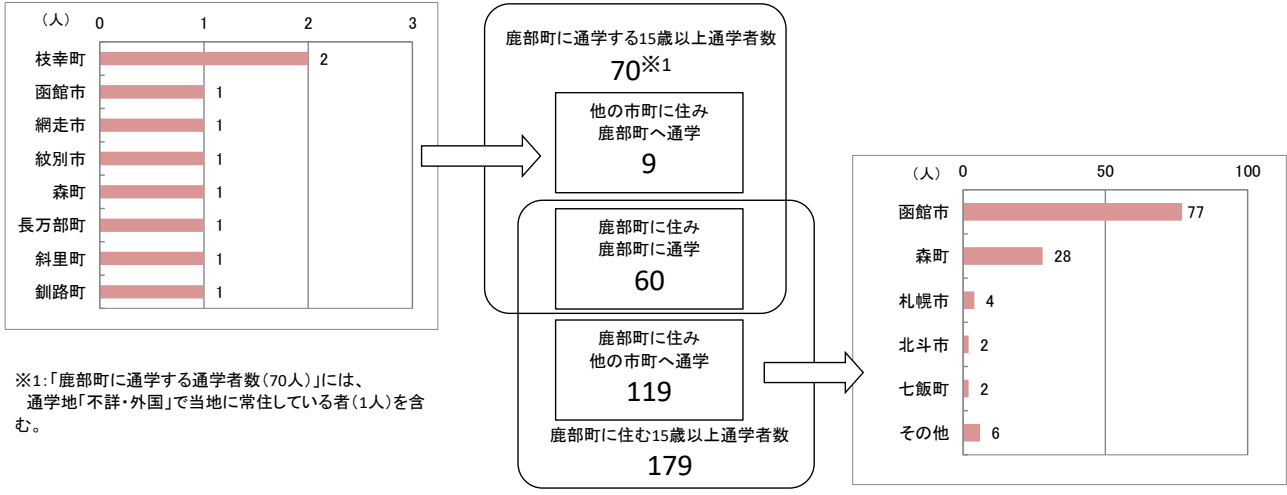


図 2-19 鹿部町関連の通学の状況（15 歳以上の通学者）

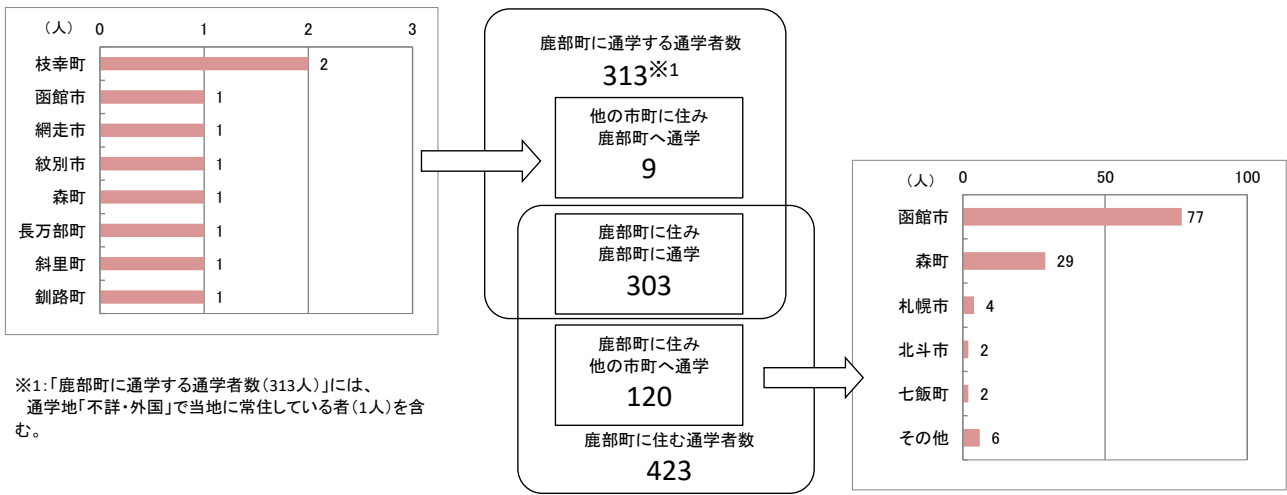


図 2-20 【参考】鹿部町関連の通学の状況（15 歳未満を含む通学者）

資料：総務省「平成 27 年国勢調査」（本項全て）

⑤ 交通手段の状況

鹿部町に住む 15 歳以上の方の「通勤・通学に関する交通手段」をみると、すべての地区において、「自家用車」の使用割合が 6～7 割と最も高くなっている。

自家用車に次いで使用割合の高い交通手段をみると、鹿部地区・宮浜地区では「徒歩だけ」、本別地区では「鉄道・電車」、大岩地区では「乗り合いバス」となっている。

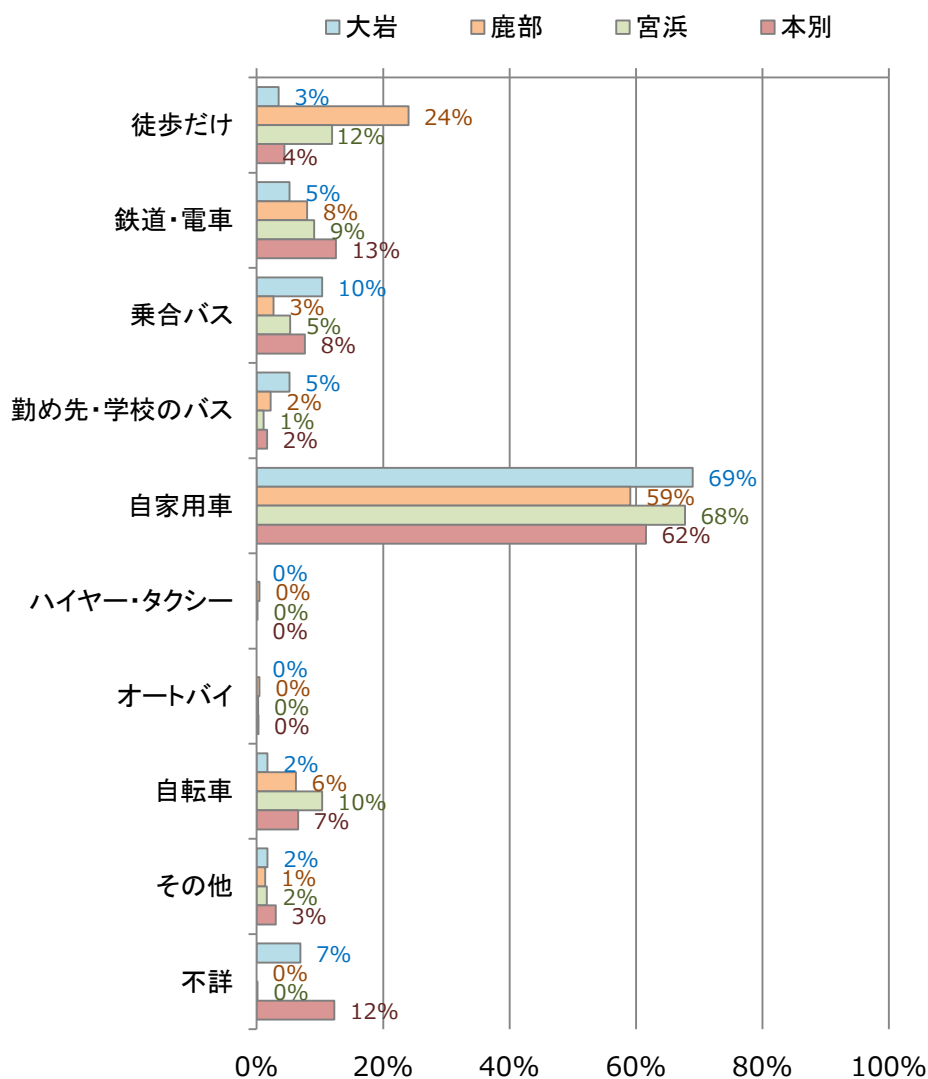


図 2-2 1 鹿部町居住者の通勤・通学交通手段

資料：総務省「平成 22 年国勢調査」

※複数回答であるため、各項目の和は必ずしも 100%と一致しない。

※駒見地区は秘匿地域であるため、本別地区に合算して集計されている。

また、鹿部町に居住する高校生の進学状況をみると、本町には高校が立地していないため、函館市や森町へ進学している状況にある。通学手段としては、ほとんどの学生が JR などの汽車を利用している。

市町村	高等学校名	H29 進学者数	主な交通手段
函館市	北海道函館中部高等学校 北海道函館西高等学校 北海道函館工業高等学校 北海道函館商業高等学校 市立函館高等学校 函館大妻高等学校 清尚学院高等学校 遺愛女子高等学校 函館大学付属柏陵高等学校 函館大谷高等学校	14	汽車（鹿部駅～函館駅または五稜郭駅） 等
	函館工業高等専門学校 函館大学付属有斗高等学校	4	ほぼ下宿か寮
森町	北海道森高等学校	5	汽車（鹿部駅～森駅） 等
七飯町	北海道七飯高等学校 北海道七飯養護学校	5	汽車（鹿部駅～七飯駅） 等
北斗市	北海道函館水産高等学校 北海道大野農業高等学校	1	汽車（鹿部駅～五稜郭駅～七飯浜駅、 または鹿部駅～新函館北斗駅） 等
その他		1	
計		30	

表 2-3 鹿部町に居住する高校生の進学先および主な交通手段

資料：鹿部町、鹿部町教育委員会

(5) 都市機能

① 都市機能の立地状況

町内にある都市機能の立地状況をみると、鹿部地区、宮浜地区に立地が集中している。

その中で、「商業施設」や「福祉施設」のうち診療所といった、民間による都市機能は旧国道（道道 43 号）付近に、「学校教育施設」や中央公民館といった、公共による主要施設は、鹿部バイパスから旧国道（道道 43 号）にかけて立地している傾向にある。

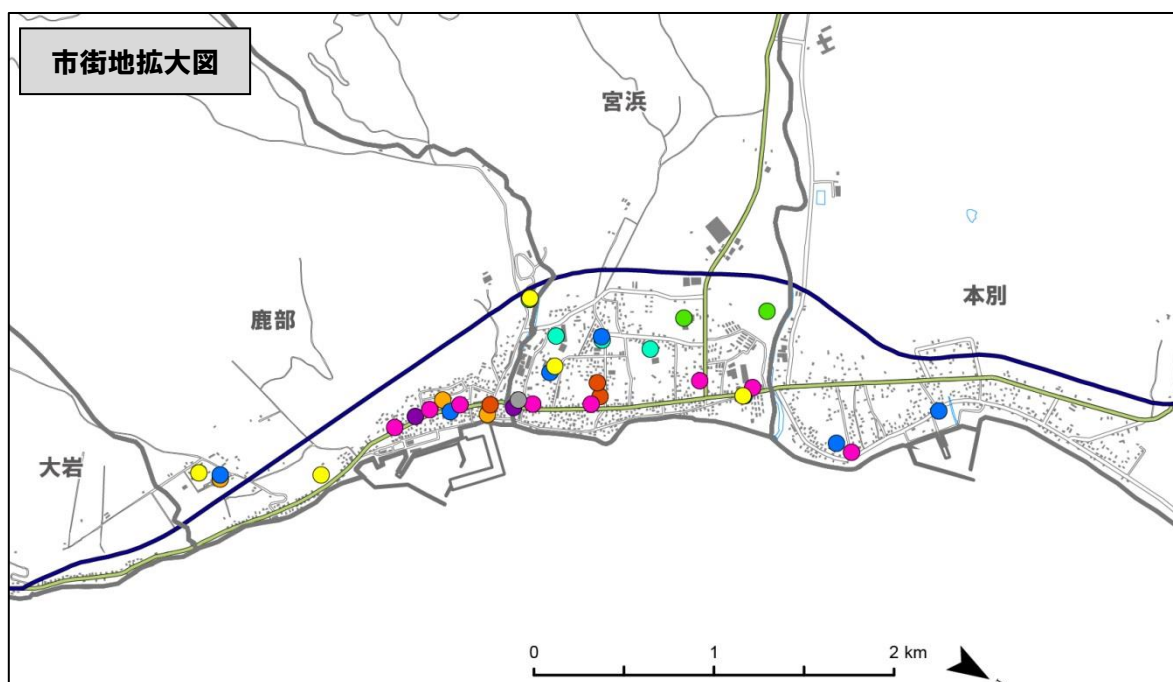
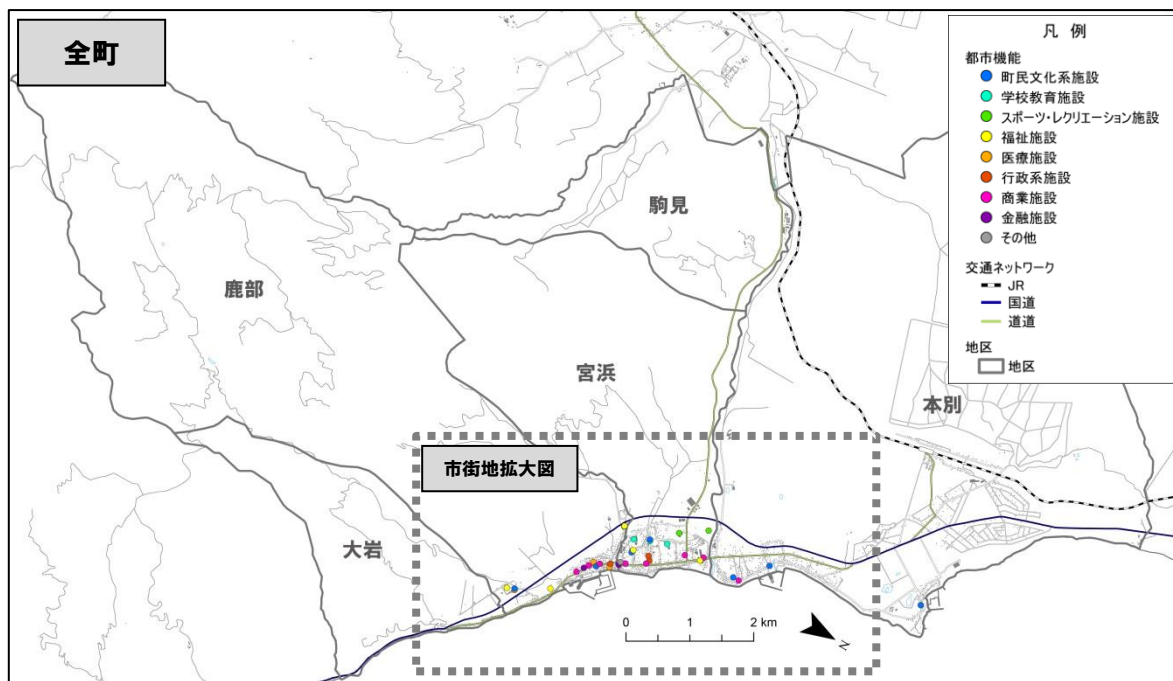


図 2-22 鹿部町内の都市機能の立地状況

資料：国土交通省「国土数値情報」、鹿部町資料

表 2-4 鹿部町内の主要な都市機能一覧

分類	施設名	住所
町民文化系施設	鹿部町中央公民館	字宮浜 3 1 1 - 2
	宮浜児童館	字宮浜 2 1 0 - 6
	宮浜生活館	字宮浜 3 1 4 - 1 0 8
	鹿部会館	字鹿部 1 1 2 - 2 0
	大岩地域会館	字鹿部 2 5 8 - 1 8
	本別中央会館	字本別 2 2 5 - 1
	出来潤会館	字本別 5 4 0 - 7
	本別生活改善センター	字本別 7 0
学校教育施設	しかべ幼稚園	宮浜 3 1 1 - 4
	鹿部小学校	宮浜 3 1 4 - 1
	鹿部中学校	宮浜 2 8 1 - 1
スポーツ・レクリエーション施設	鹿部町総合体育館	字宮浜 2 6 5 - 1
	鹿部町山村広場多目的グラウンド	字宮浜 3 6 9
	鹿部コミュニティープール	字鹿部 2 1 3 - 2・3・8
福祉施設	渡島リハビリテーションセンター特別養護部	字鹿部 2 5 8 - 7
	いこいの湯	字鹿部 2 1 3 - 8・9
	しかべ・ぽっぽ館	字鹿部 2 2 - 1
	社会福祉協議会	字宮浜 2 1 0 - 6 (宮浜児童館内)
	グループホーム桜の園	字宮浜 3 1 4 - 1 0 8
医療施設	渡島リハビリテーションセンター診療所	字鹿部 2 5 8 - 7
	しかべ内科診療所	字鹿部 1 0 0 - 1 7
	岩井歯科医院	字鹿部 1 4 7 - 7
行政系施設	本庁舎	字宮浜 2 9 9
	南渡島消防事務組合鹿部消防署	字宮浜 2 8 6 - 1
	森警察署鹿部駐在所	字鹿部 1 5 4 - 3
商業施設	大沢商店	字宮浜 3 2 1
	葛西商店	字鹿部 1 1 8 - 1 2
	小坂商店	字鹿部 9 5 - 3
	マルマツストアー	字本別 1 4 6 - 4
	セブン・イレブン鹿部町店	字鹿部 6 5
	ローソン鹿部町店	字宮浜 2 5 2 - 8
	セイコーマート鹿部店	字宮浜 9 4 - 2
	デイマートナカガワ	字宮浜 2 3 1 - 1
金融施設	渡島信用金庫鹿部支店	字鹿部 8 0 - 3
	鹿部郵便局	字宮浜 2 - 1
その他	鹿部漁業協同組合	字宮浜 3 2 3

（６）経済活動

① 商圈と自都市購買率

2009 年度（平成 21）における、鹿部町民の買い物場所についてみると、最寄品※、買回品※ともに、鹿部町内での購買率※は 12%前後となっている。

一方、鹿部町民の函館市における購買率は、最寄品では 54.6%、買回品では 68.3%となっており、函館市への流出が大きくなっている。また、函館市に次いで森町への流出も大きく、鹿部町民のうち、最寄品については 12.5%、買回品については 6.8%が森町で購買している。

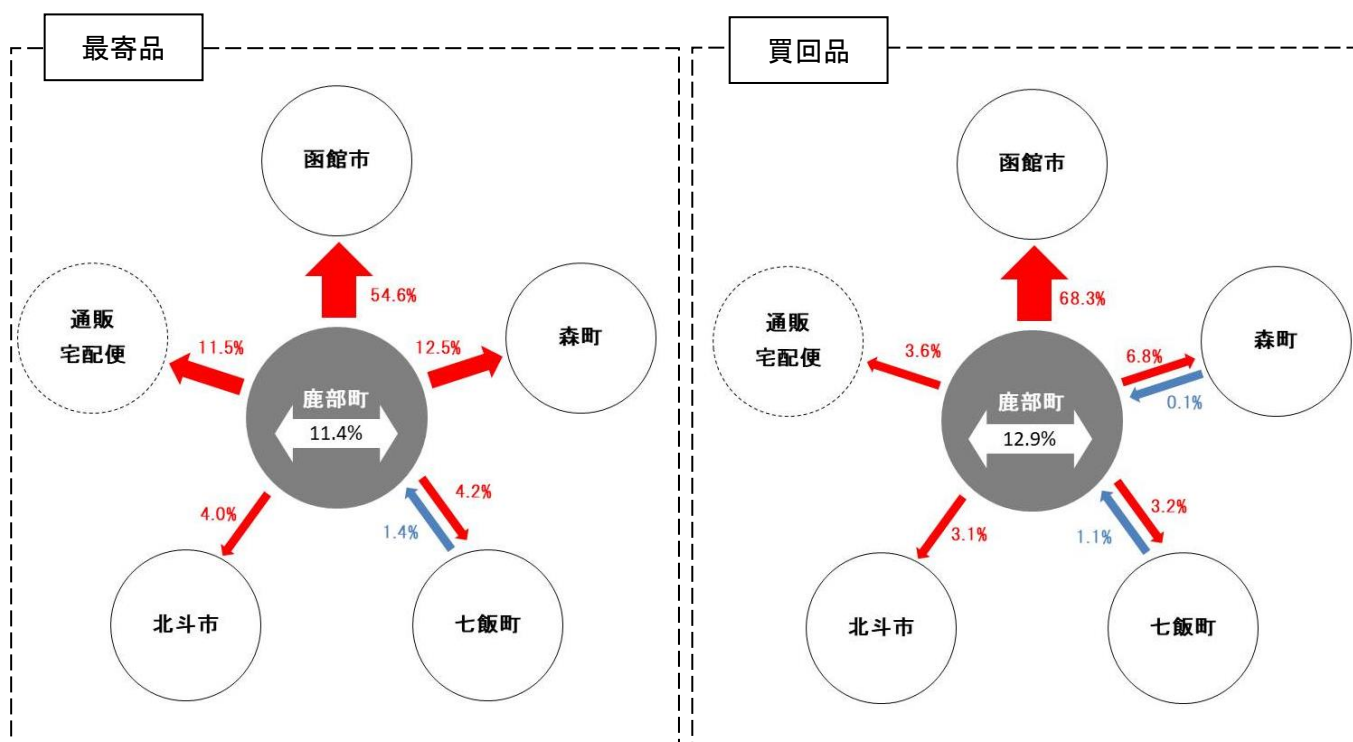


図 2-2 3 鹿部町民の買い物動向

資料：北海道「広域商圈動向調査（平成 21 年度）」

※購買率：ある商品分野について、各市町村の消費者数に対するその購買地（市町村）別の消費者数の割合

最寄品：日常的に高い頻度で購入する商品（食料品や日用雑貨等）

買回品：その商品を買うために複数の店を見て回り、価格やデザインなどを比較して決める商品

（高級衣料や家庭電化製品等）

② 産業別就業者数の推移

1995 年（平成 7）以降の就業者数の推移をみると、2015 年（平成 27）までの 20 年間で、就業者数は約 400 人減少している（1995 年比 17%減）。特に、第 1 次産業においては、約 250 人減少しており（1995 年比 24%減）、大幅に減少している。

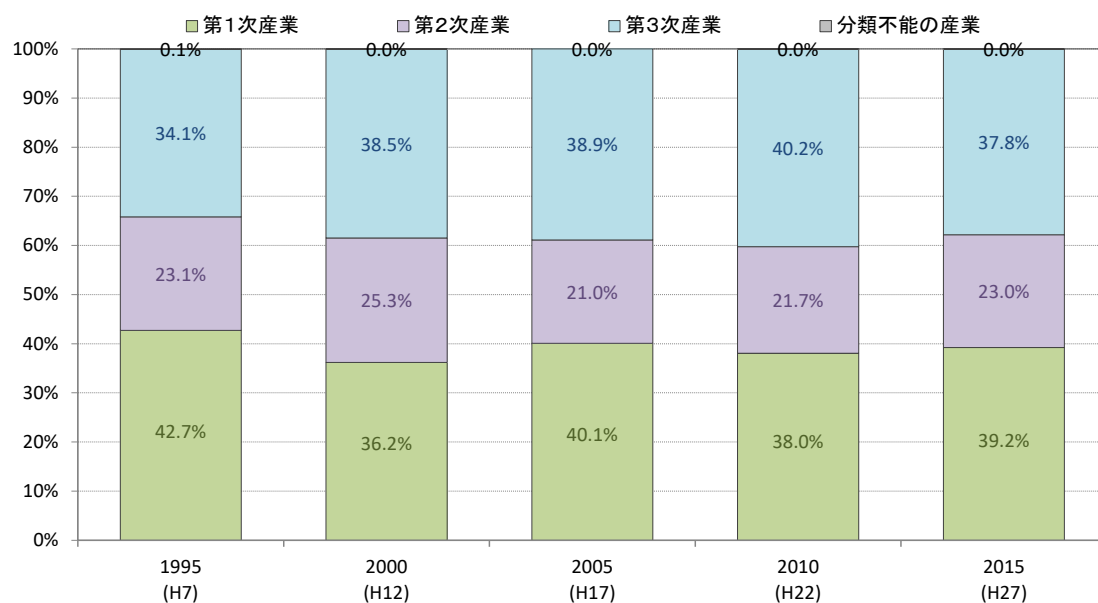
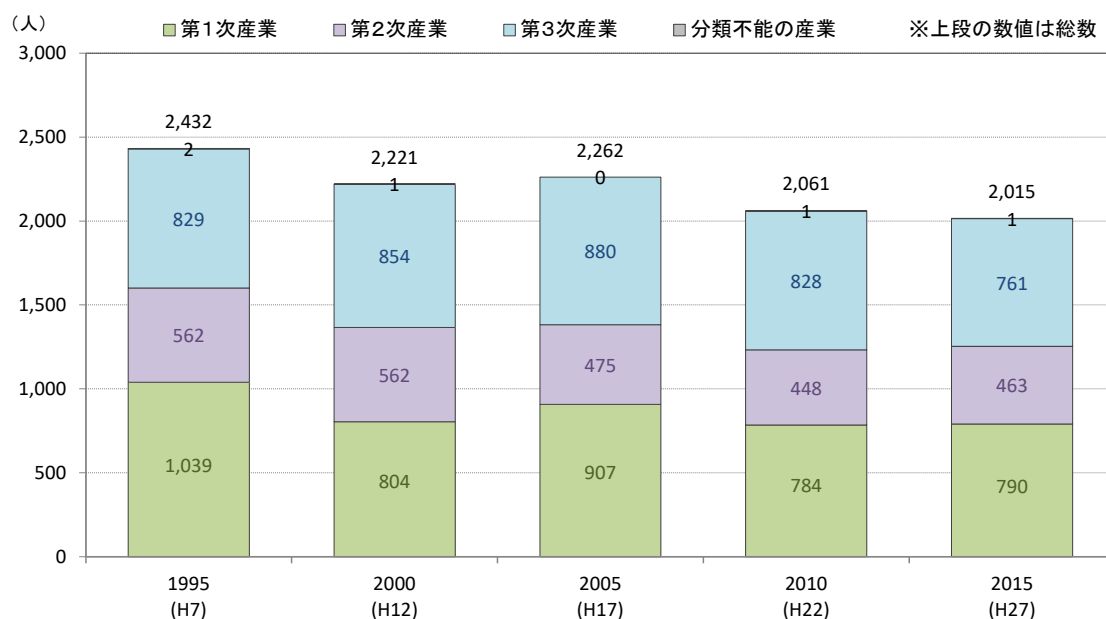


図 2-24 産業別就業者数（上）と割合（下）の推移

資料：総務省「国勢調査」

2010 年（平成 22）および 2015 年（平成 27）の産業大分類別の就業者数をみると、いずれの年も漁業における就業者数が最も多く、全就業者数のうちの約 4 割を占めている。

また就業者数の推移をみると、卸売業・小売業の就業者数が 22 人減（177 人→155 人）と最も減少しており、次いで宿泊業・飲食サービス業が 18 人減（105 人→87 人）となっている。一方、製造業に関しては、16 人増（328 人→344 人）と最も増加している。

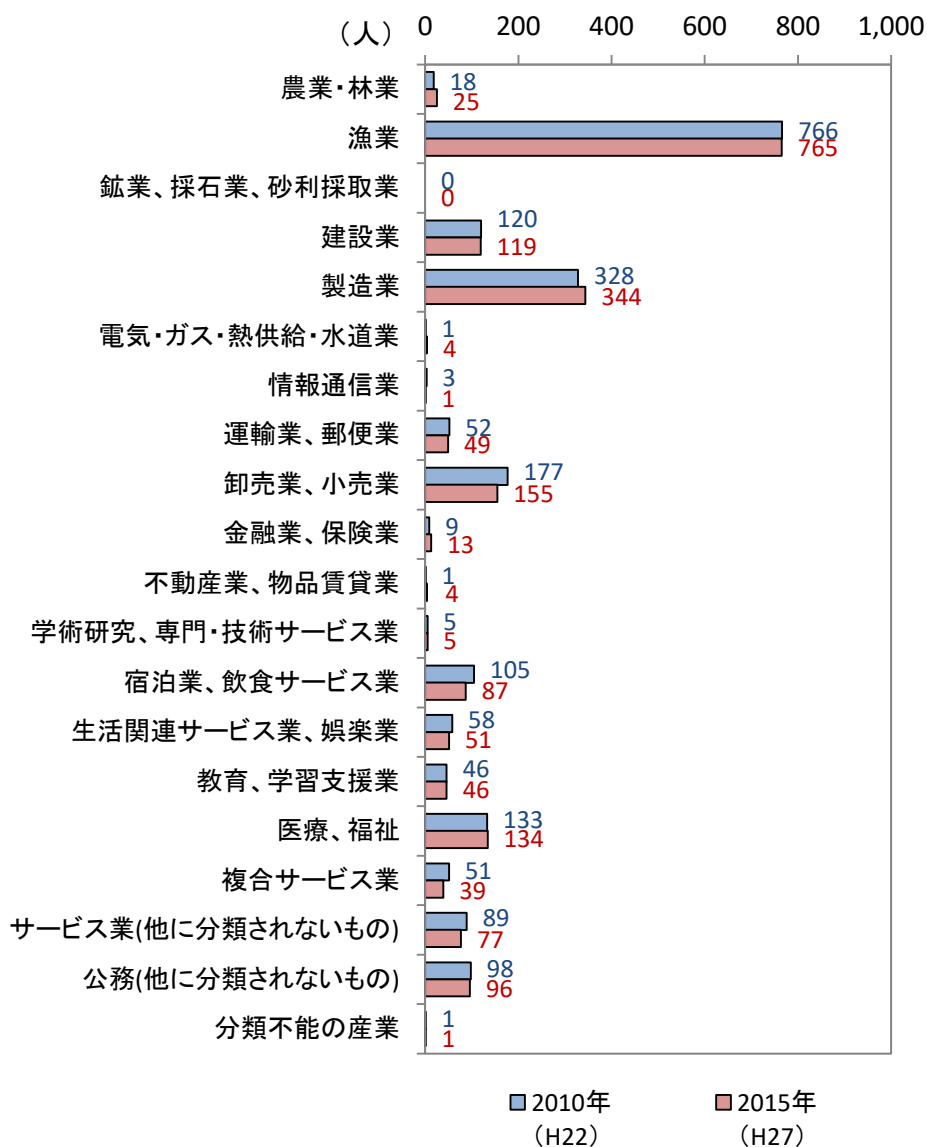


図 2-25 産業大分類別就業者数の推移

資料：総務省「国勢調査」

③ 事業所数・従業者数の推移

1996 年（平成 8）以降の民間事業所数・従業者数についてみると、民間事業所数は比較的横ばい状況であるが、2006 年（平成 18）以降、減少が続いている。従業者数は 2001 年（平成 13）に増加に転じたが、その後、減少が続いている。

また、事業所数を産業大分類別にみると、近年は、卸売・小売業、その他の第 3 次産業の減少が目立つ。



図 2-2 6 民間事業所数と従業者数の推移

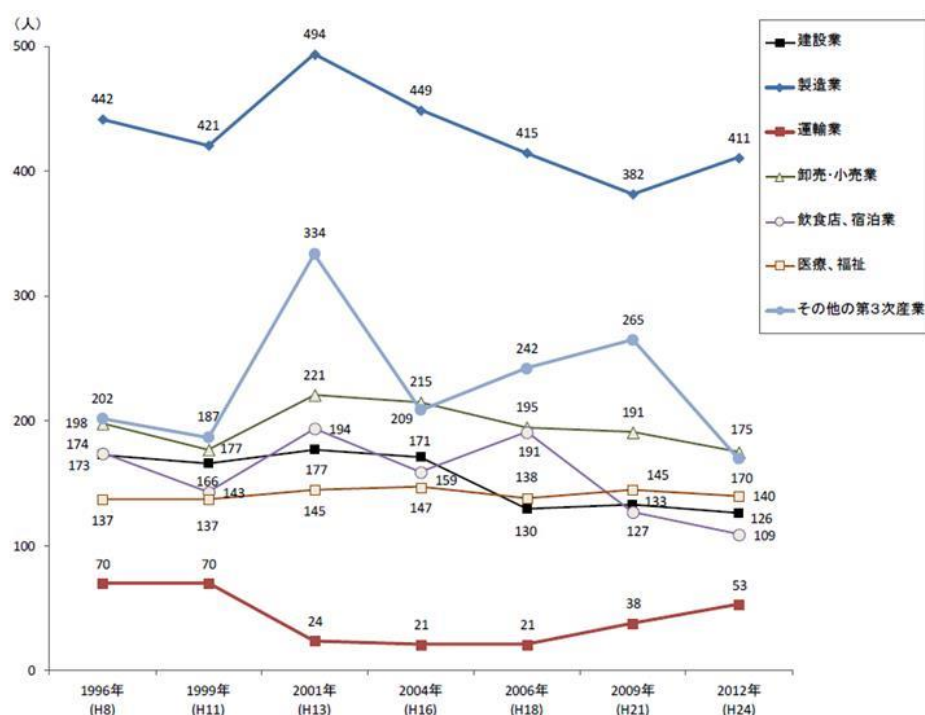


図 2-2 7 産業別民間事業所の従業者数の推移

資料：鹿部町「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2016 年 2 月）（本項全て）

④ 観光入込客数

2004 年度（平成 16）以降の鹿部町への観光入込客数をみると、2007 年度（平成 19）頃までは減少傾向であり、その後は 20 万人前後で横ばい傾向であったが、2016 年度（平成 28）に大幅増加し、48 万人となっている。

観光入込客数を日帰客・宿泊客別でみると、8 割から 9 割とほとんどが日帰り客となっている。また、道内客・道外客別でみると、8 割から 9 割が道内客で構成されている。

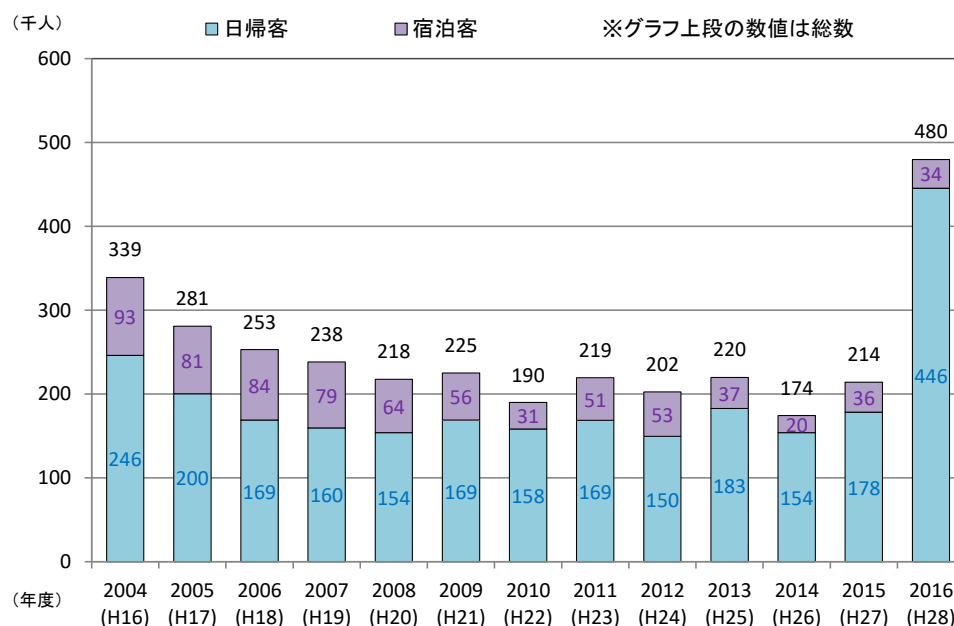


図 2-28 鹿部町の観光入込客数の推移（日帰客・宿泊客別）

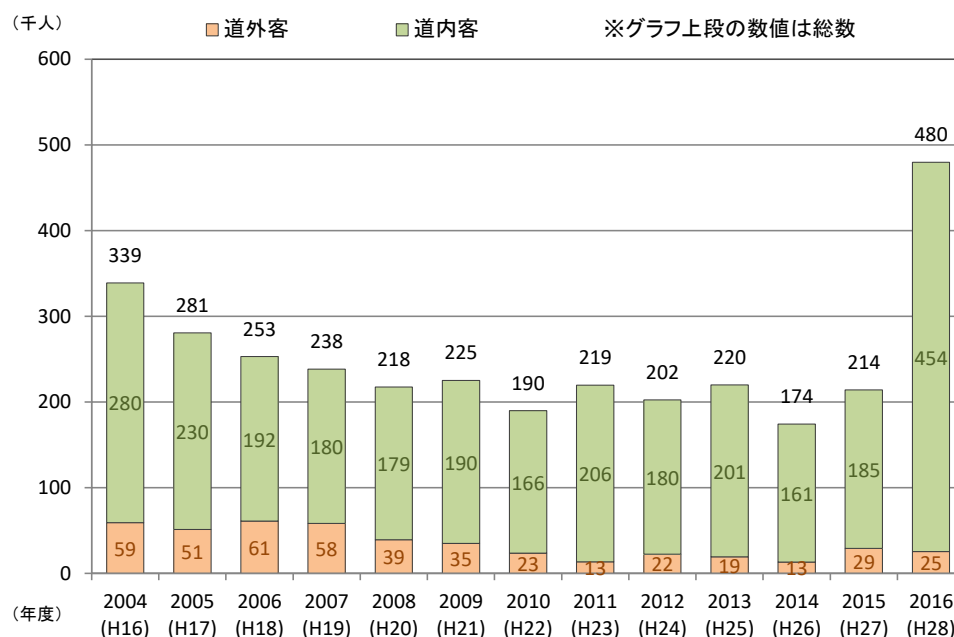


図 2-29 鹿部町の観光入込客数の推移（道内客・道外客別）

資料：北海道「北海道観光入込客数調査」（本項全て）

また、2011 年度（平成 23）および 2016 年度（平成 28）における、観光地点別の入込客数をみると、2016 年（平成 28）3 月に道の駅しかべ間歇泉公園がオープンした影響もあり、2016 年度（平成 28）には間歇泉公園・道の駅の入込客数割合が大幅に増加している。一方、間歇泉公園・道の駅以外の観光入込客数は横ばいもしくは減少傾向となっている。

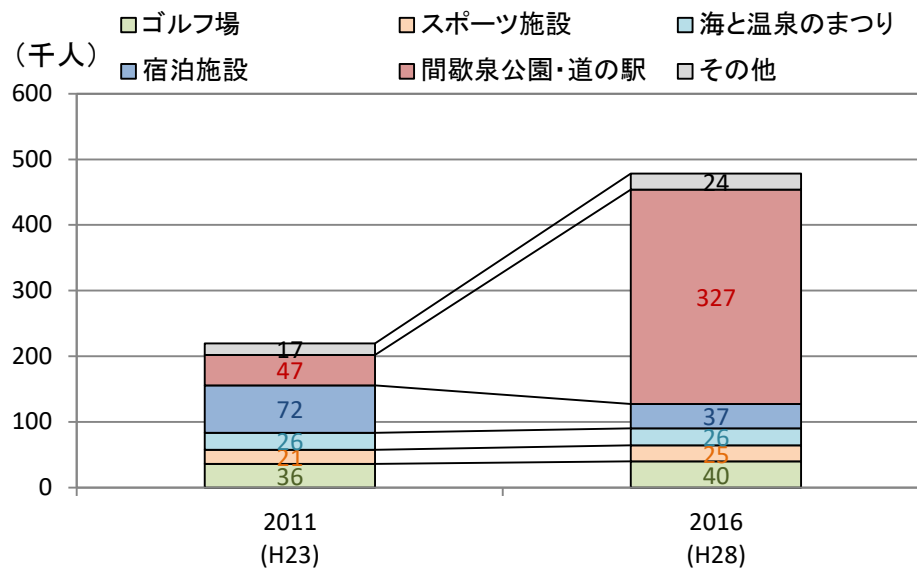


図 2-30 観光地点別の観光入込客数の割合の変化

資料：鹿部町調べ

⑤ 訪日外国人宿泊客数

2004 年度（平成 16）以降の訪日外国人宿泊客数の推移をみると、2014 年度（平成 26）まで概ね減少傾向であったが、その後大幅に増加し、2016 年度（平成 28）では 1.1 万人となっている。

また、訪日外国人宿泊客数を国・地域別でみると、2006 年度（平成 18）までは香港、2013 年度（平成 25）までは韓国が多かったが、その後は中国が多数を占めている。

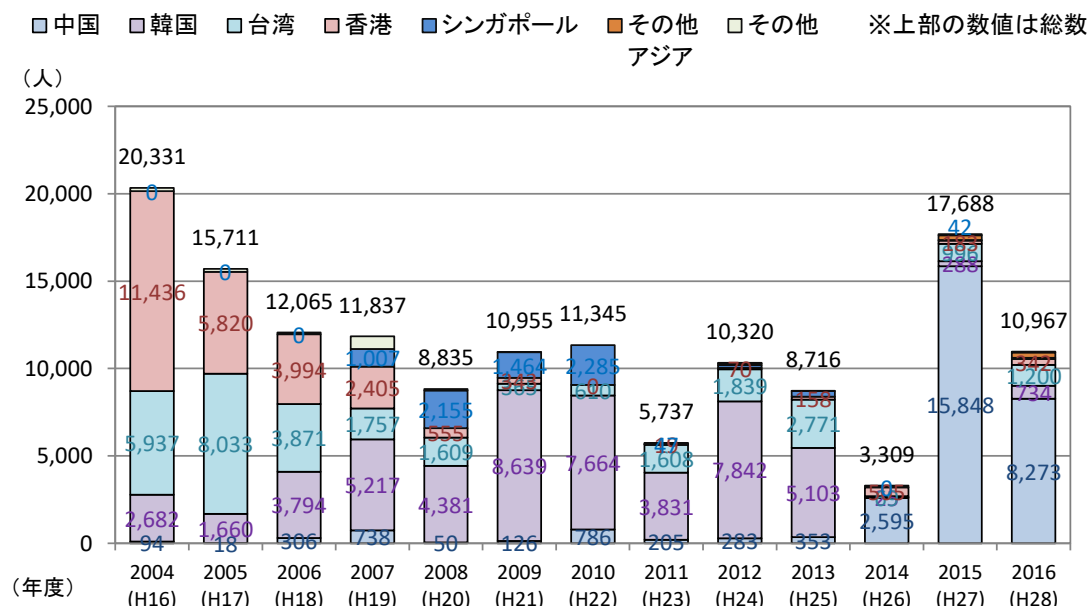


図 2-3 1 鹿部町の訪日外国人宿泊客数の推移

表 2-5 鹿部町の訪日外国人宿泊客数の推移

	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	その他アジア	その他	計
2004 (H16)	94	2,682	5,937	11,436	0	0	182	20,331
2005 (H17)	18	1,660	8,033	5,820	0	0	180	15,711
2006 (H18)	306	3,794	3,871	3,994	0	0	100	12,065
2007 (H19)	738	5,217	1,757	2,405	1,007	0	713	11,837
2008 (H20)	50	4,381	1,609	555	2,155	0	85	8,835
2009 (H21)	126	8,639	365	343	1,464	0	18	10,955
2010 (H22)	786	7,664	610	0	2,285	0	0	11,345
2011 (H23)	205	3,831	1,608	19	47	0	27	5,737
2012 (H24)	283	7,842	1,839	70	159	96	31	10,320
2013 (H25)	353	5,103	2,771	158	328	0	3	8,716
2014 (H26)	2,595	25	69	505	0	115	0	3,309
2015 (H27)	15,848	288	996	183	42	271	60	17,688
2016 (H28)	8,273	734	1,200	342	64	310	44	10,967

資料：北海道「北海道観光入込客数調査」（本項全て）

(7) 地価

① 地価の状況と変遷

2017 年（平成 29）時点における、鹿部町内の調査地点における地価をみると、最も地価が高いのは鹿部地区の 1 m²あたり 10,200 円となっており、本別地区の約 2 倍の地価に相当する。

また、1998 年（平成 10）以降における地価の推移をみると、2002 年（平成 14）頃から地価の下落が起こり、2017 年（平成 29）では 1 m²あたり 5,000 円～10,200 円（1998 年比 59%～74%）となっている。地価の下落率が比較的小さいのは本別地区、次いで宮浜地区となっている。

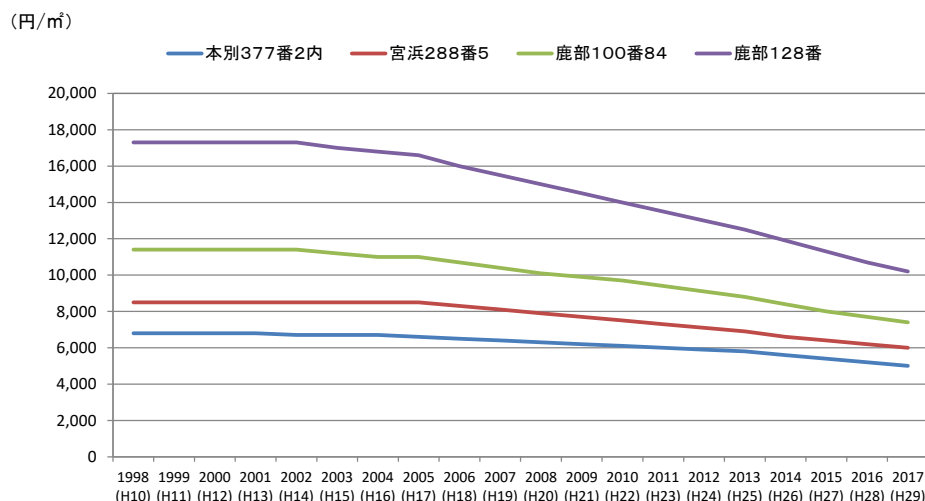


図 2-3 2 都道府県地価の推移

表 2-6 都道府県地価の推移

地点	2017年時点 の利用状況	1998 (H10)	1999 (H11)	2000 (H12)	2001 (H13)	2002 (H14)	2003 (H15)	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)
本別377番2内	住宅	6,800	6,800	6,800	6,800	6,700	6,700	6,700	6,600	6,500	6,400
宮浜288番5	住宅	8,500	8,500	8,500	8,500	8,500	8,500	8,500	8,500	8,300	8,100
鹿部100番84	住宅	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,200	11,000	11,000	10,700	10,400
鹿部128番	住宅,店舗	17,300	17,300	17,300	17,300	17,300	17,000	16,800	16,600	16,000	15,500

地点	2017年時点 の利用状況	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
本別377番2内	住宅	6,300	6,200	6,100	6,000	5,900	5,800	5,600	5,400	5,200	5,000
宮浜288番5	住宅	7,900	7,700	7,500	7,300	7,100	6,900	6,600	6,400	6,200	6,000
鹿部100番84	住宅	10,100	9,900	9,700	9,400	9,100	8,800	8,400	8,000	7,700	7,400
鹿部128番	住宅,店舗	15,000	14,500	14,000	13,500	13,000	12,500	11,900	11,300	10,700	10,200

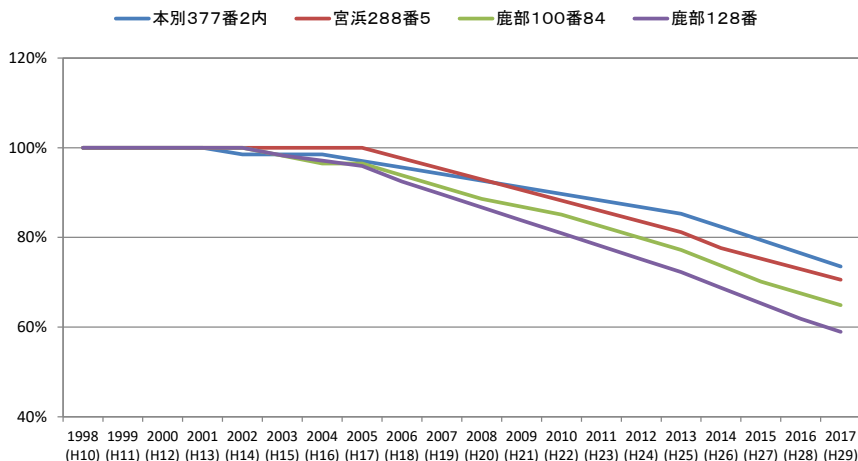


図 2-3 3 1998 年を 100%とした場合の都道府県地価の変化率

資料：国土交通省「国土数値情報」（本項全て）

(8) 災害

① 津波浸水予測範囲

2012 年度（平成 24）に公表された、推定される最大クラスの津波による「浸水予測範囲」をみると、本町の市街地である海側において、広く津波浸水すると想定されている。

本町の主要施設の最大浸水深は、道の駅しかべ間歇泉公園が 2.0～4.0m 未満、役場が 1.0m～2.0m 未満、鹿部中学校が 0.5～1.0m 未満、消防署・総合体育館が 0.5m 未満と想定されている。

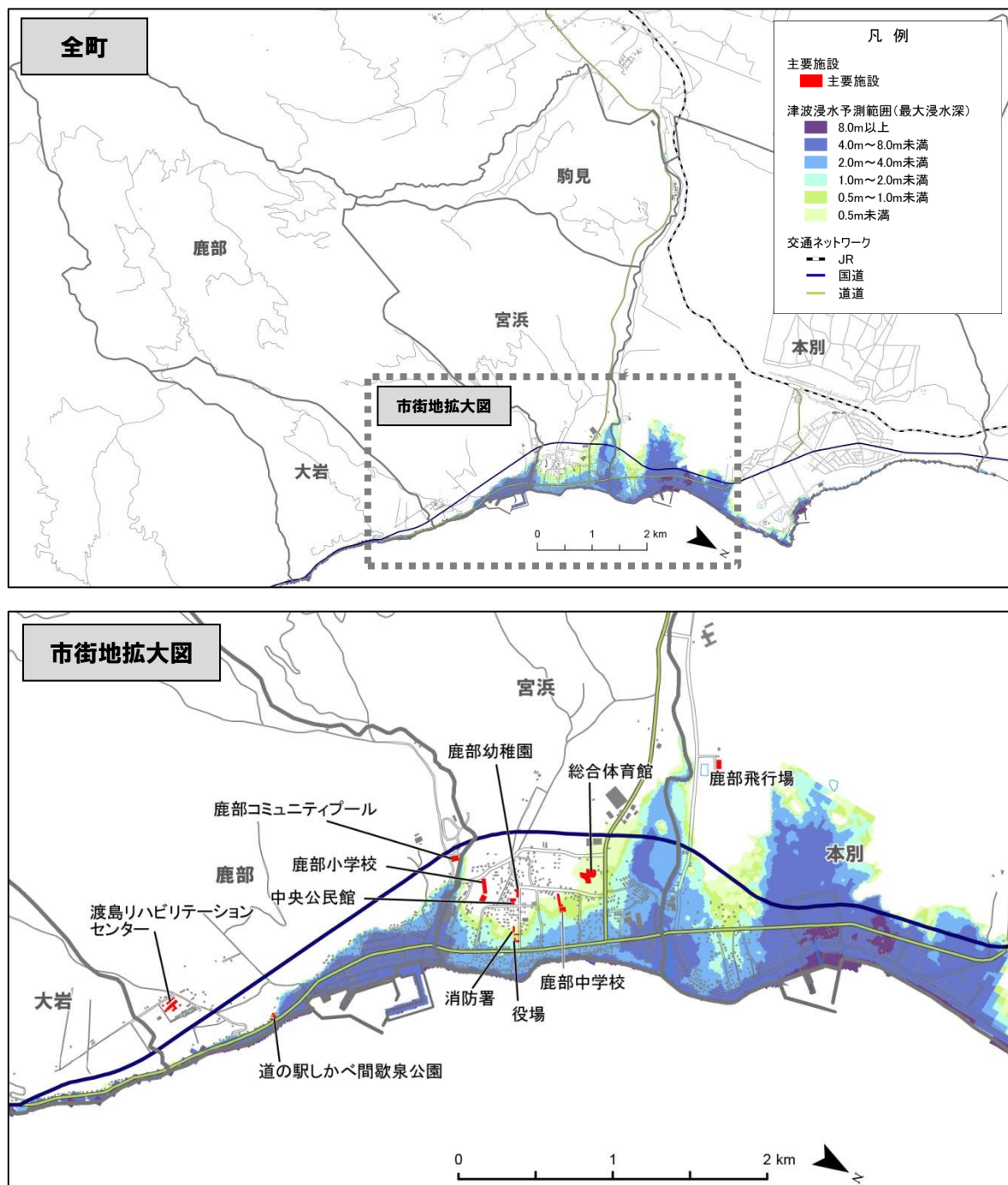


図 2-3 4 津波浸水予測範囲図

資料：北海道「北海道防災情報」

② 土砂災害

町内で指定されている「土砂災害特別警戒区域」「土砂災害警戒区域」についてみると、鹿部地区・大岩地区のうち、鹿部バイパス・旧国道（道道 43 号）付近に指定されている。

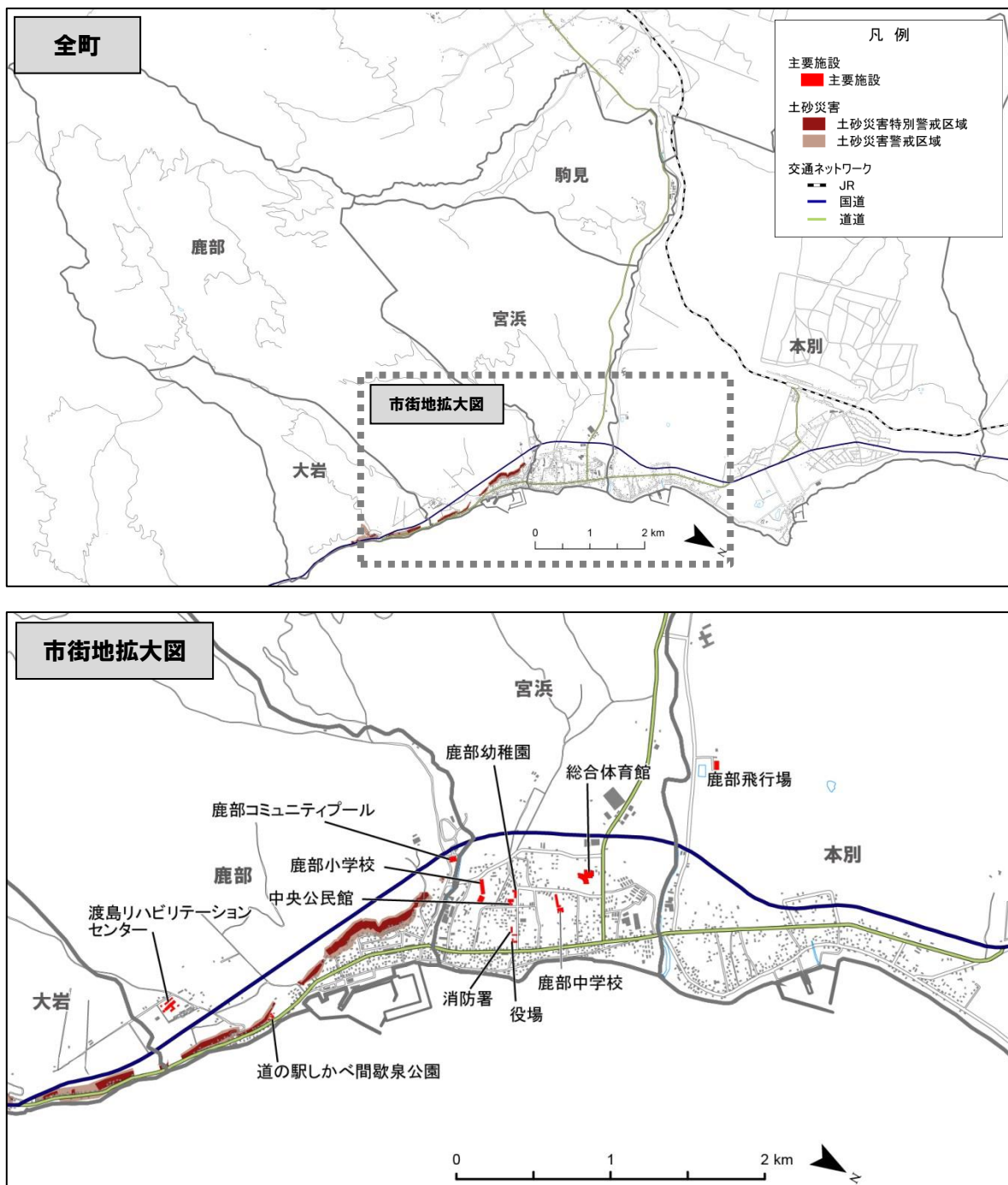


図 2-35 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域

資料：北海道「北海道土砂災害警戒情報システム」

③ 噴火災害（火砕流・火砕サージ）

駒ヶ岳噴火時の火砕流・火砕サージの到達想定範囲をみると、中小規模の噴火では、下図の危険区域Aに示すように、本別地区の西側に火砕サージが到達する恐れがあると想定されている。

大規模の噴火では、下図の危険区域Bに示すように、宮浜地区・本別地区において、火砕流によって軽石等に埋め尽くされる恐れがある。また、危険区域Cに示すように、大岩地区以外では、火砕サージによって災害が発生する可能性があるとして想定されている。

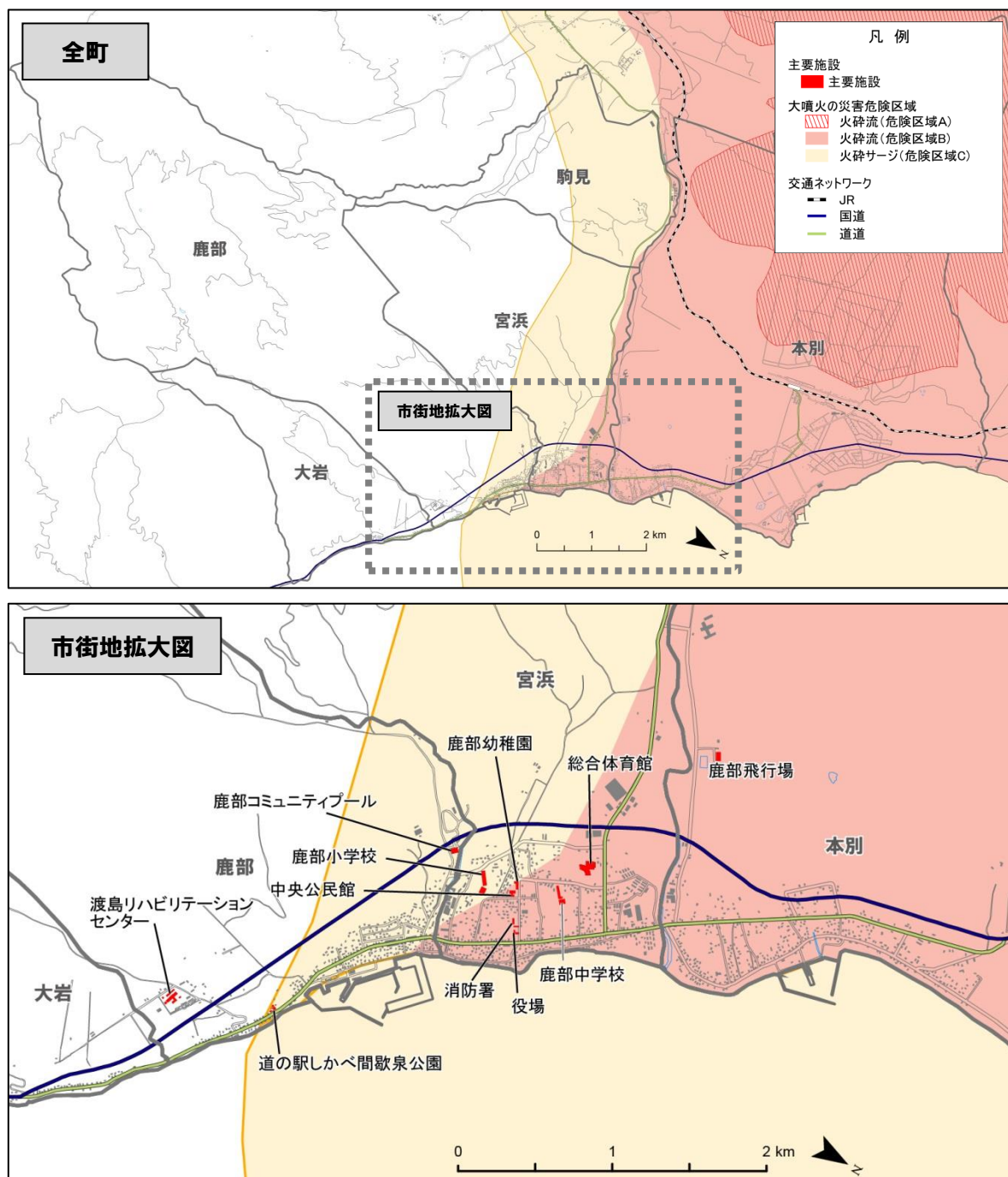


図 2-3 6 駒ヶ岳火山噴火災害予測区域

資料：鹿部町「鹿部町地域防災計画(平成28年6月修正)」

(9) 財政

① 歳入・歳出の状況

歳入額は 2001 年度（平成 13）～2016 年度（平成 28）では 25.4 億～36.5 億円で変動しており、2016 年度（平成 28）は 31.3 億円となっている。主な自主財源である地方税は 4 億円前後で推移しており、2016 年度（平成 28）では 4.5 億円となっている。

歳出額については、2001 年度（平成 13）～2016 年度（平成 28）では 24.9 億～36.1 億円で変動しており、2016 年度（平成 28）は 30.0 億円となっている。人件費、公債費は減少傾向であるが、扶助費などは増加傾向となっている。今後は高齢者の大幅な増加が見込まれることから扶助費等の義務的経費は増加していくものと考えられる。

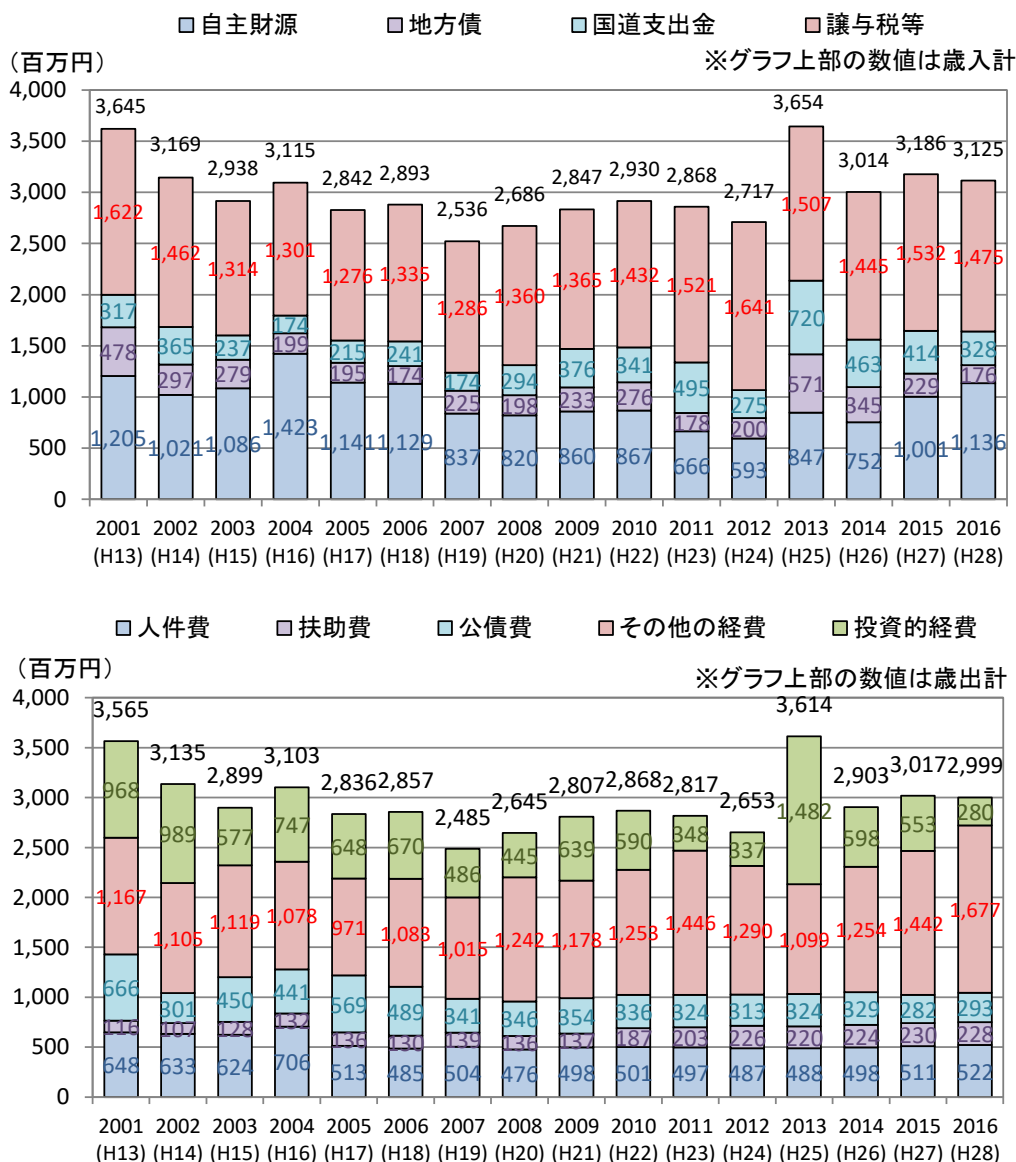


図 2-37 歳入（上）・歳出（下）の状況

資料：鹿部町「鹿部町公共施設等総合管理計画」、総務省「市町村別決算状況調」

② 財政力指数

財政力指数についてみると、ここ数年、税収の増加により、0.2 中盤を維持し、2016 年度（平成 28）においても 0.25 となり、類似団体平均を 0.07 ポイント上回っている。しかし、人口の減少や基幹産業である漁業の長引く不振により、税収等の自主財源の割合が低い状況にある。

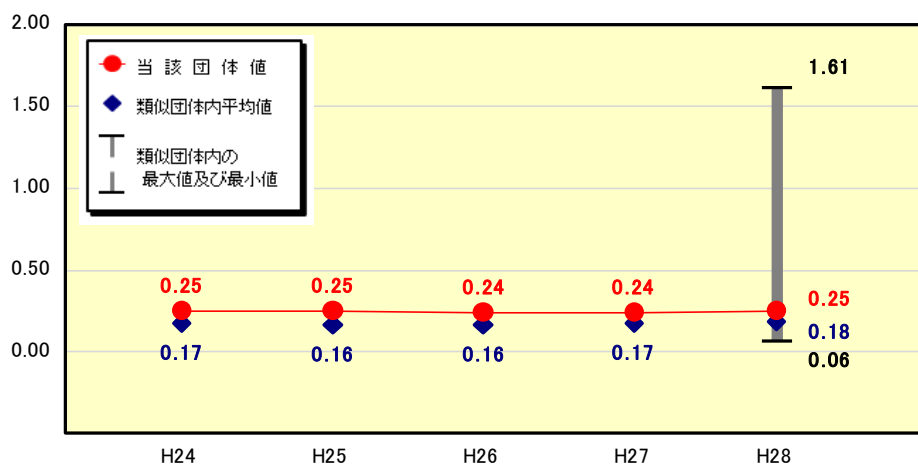


図 2-3 8 財政力指数

資料：鹿部町「平成 28 年度財政状況資料集」

③ 公共施設の保有状況

鹿部町が保有する公共施設（建築施設）は、167 施設、延床面積は 58,876 m²（平成 27 年度末時点）であり、延床面積では、公営住宅が最も多く 31.7%、次いで学校教育施設が 17.1%と続いている。

昭和 40 年代後半から平成にかけて建設されたものが多く、経過年数 30 年以上の公共施設は、91 施設（54%）、32,181 m²（55%）となっている。また、旧耐震基準である 1981 年（昭和 56）5 月以前に建築された公共施設は、76 施設（46%）、22,755 m²（39%）となっている。

表 2-7 施設数および延べ床面積

施設種別	施設数		延床面積	
	施設数	構成比 (%)	延床面積 (m ²)	構成比 (%)
町民文化系施設	9	5.4	4,290	7.3
スポーツ・レクリエーション系施設	11	6.6	6,129	10.4
学校教育系施設	8	4.8	10,085	17.1
子育て支援施設	2	1.2	955	1.6
保健・福祉施設	2	1.2	453	0.8
医療施設	1	0.6	341	0.6
行政系施設	17	10.2	3,236	5.5
公営住宅	46	27.5	18,726	31.7
公園	15	9.0	573	1.0
供給処理施設	7	4.2	4,694	8.0
その他	49	29.3	9,394	16.0
合計	167	100.0	58,876	100.0

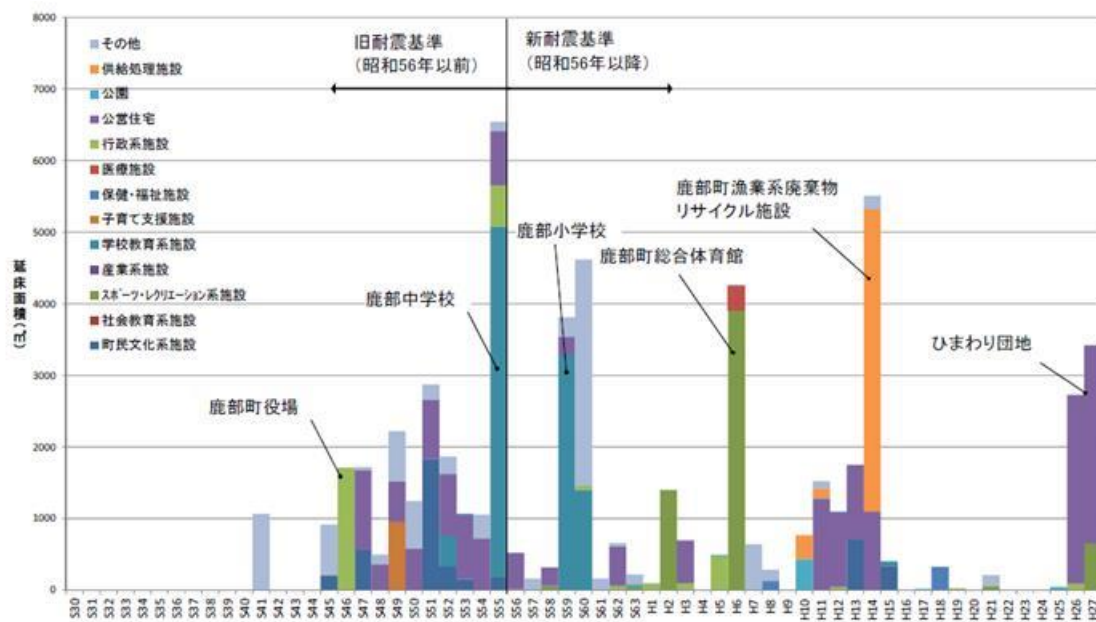


図 2-3 9 年度別整備床面積

資料：鹿部町「鹿部町公共施設等総合管理計画」（2017 年 3 月）（本項全て）

(10) 都市施設

① 公園の整備状況・整備見込み

町内には、「鹿部公園」「しかべ間歇泉公園」「山村広場」「ひょうたん沼公園」の4つの公園がある。

公園ごとに特性があり、「鹿部公園」は川遊びができる河川敷やアスレチック遊具、「しかべ間歇泉公園」は足湯や間歇泉、「山村広場」はグラウンドやパークゴルフ場、「ひょうたん沼公園」は遊歩道等を整備している。

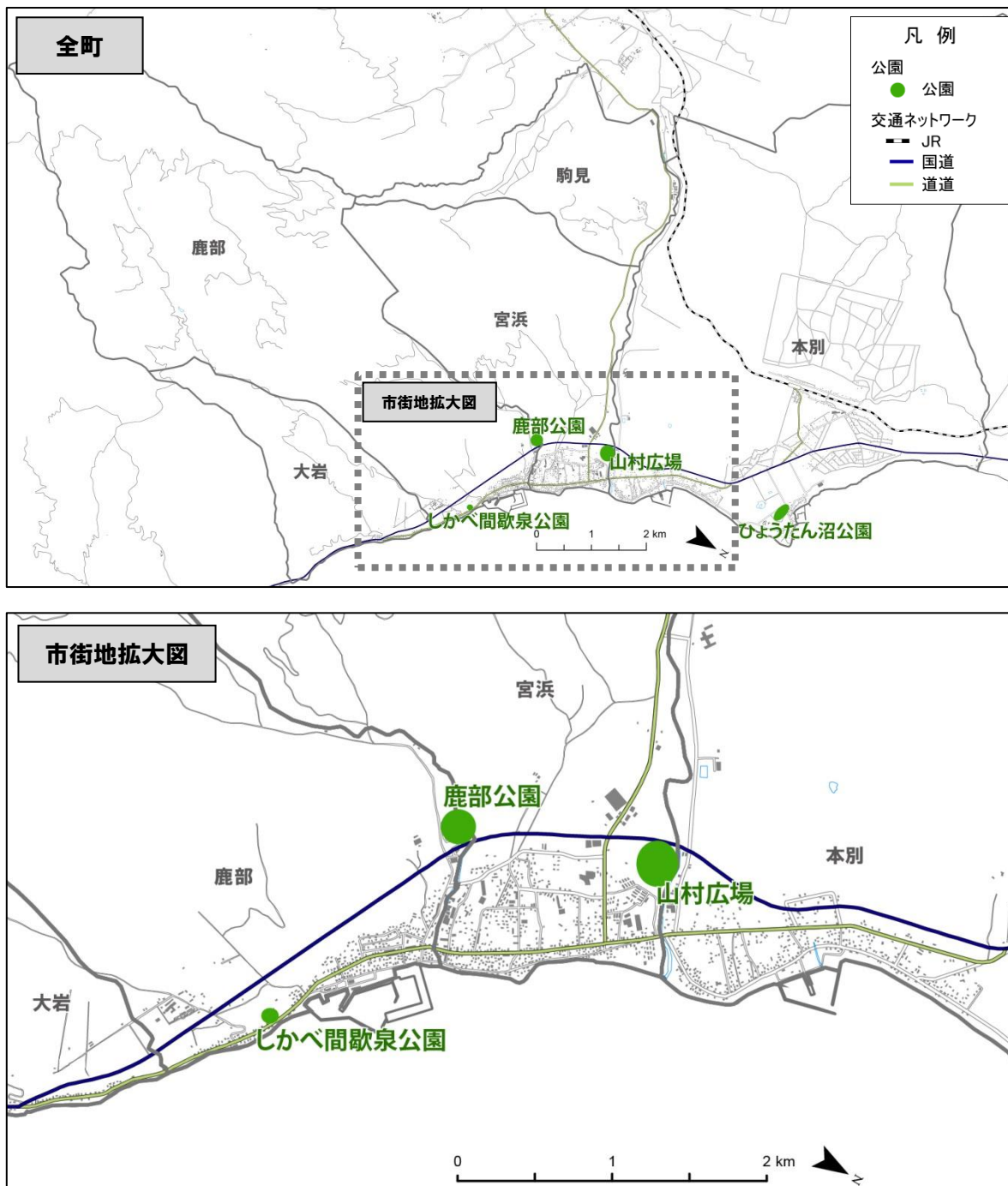


図 2-40 公園の立地状況

表 2-8 鹿部町内の公園の概要

所在地区	公園名称	概要	
鹿部	鹿部公園	<ul style="list-style-type: none"> ・川遊びができる河川敷・遊歩道・アスレチック遊具、芝生を整備。 ・桜やオオデマリ、ナナカマド等四季折々の花や草木を楽しむことができる。 	
	しかべ間歇泉公園	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉を利用した足湯や間歇泉を楽しむことができる。 ・道の駅も併設している。 	
宮浜	山村広場	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーや野球等を楽しむことができる「多目的グラウンド」、全 18 コースの「パークゴルフ場」を備えている。 	
本別	ひょうたん沼公園	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地性の沼を中心とした公園。 ・散策路や多目的広場、バーベキューもできるあずまや等がある。 ・四季折々の花々を愉しむことができる。 	

資料：鹿部町「鹿部町ホームページ」

② 上水道の整備状況・整備見込み

上水道の給水エリアをみると、おおむねまちの東側（海側）が給水エリアとなっており、鹿部バイパスより西側（山側）は給水エリア外となっている。一部、鹿部地区の鹿部バイパスの東側（海側）なども給水エリア外となっている。

土地利用状況や住宅等建設状況を見据えて配水管の拡張整備を検討している。

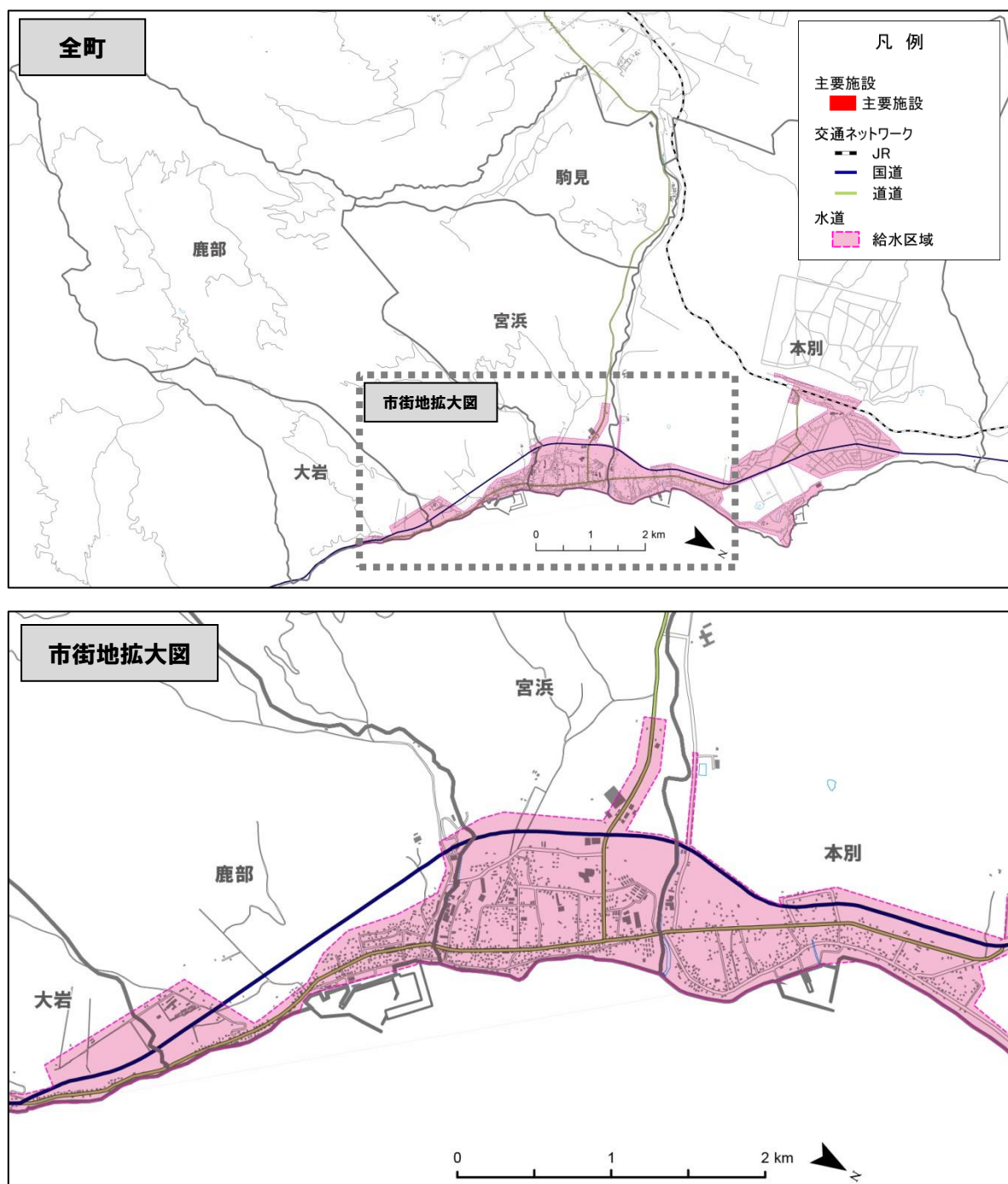


図 2-4 1 給水区域

資料：鹿部町建設水道課調べ

③ 合併浄化槽の整備状況・整備見込み

生活雑排水を含めたあらゆる排水を、下水道で処理するのか浄化槽で処理するのか、決まっていない状況である。下水道処理は、財政的にも受益者負担の面からも相当困難な状況である。一方、集落規模で浄化槽による処理を行う場合、放流先までの排水管を敷設しなければならないが、市街地の既存住宅に浄化槽を設置する場合、多くの場合、設置場所の確保が難しい状況である。

家庭排水やし尿の処理については、合併処理浄化槽の設置を促進しているが、単独処理浄化槽の世帯が多い地区も見られる。また、現在浸透式の排水処理が多く、土壌汚染や河川水汚染等が懸念されている。

また、2015 年度末（平成 27）における町内の浄化槽の設置状況をみると、本別地区の浄化槽は人口カバー率が 106%と、地区の人口を超える処理能力を有している。一方、鹿部・宮浜地区では、浄化槽の人口カバー率は 3 割程度、大岩・駒見地区では 0%に留まっている。

表 2-9 浄化槽の人槽と人口カバー率（2016 年 3 月）

	大岩			鹿部		
	浄化槽	(うち単独 浄化槽)	(うち合併 浄化槽)	浄化槽	(うち単独 浄化槽)	(うち合併 浄化槽)
人槽	0	0	0	248	129	119
人口カバー率	0%	0%	0%	34%	17%	16%

	宮浜			本別			駒見		
	浄化槽	(うち単独 浄化槽)	(うち合併 浄化槽)	浄化槽	(うち単独 浄化槽)	(うち合併 浄化槽)	浄化槽	(うち単独 浄化槽)	(うち合併 浄化槽)
人槽	590	20	570	1525	308	1217	0	0	0
人口カバー率	34%	1%	33%	106%	21%	84%	0%	0%	0%

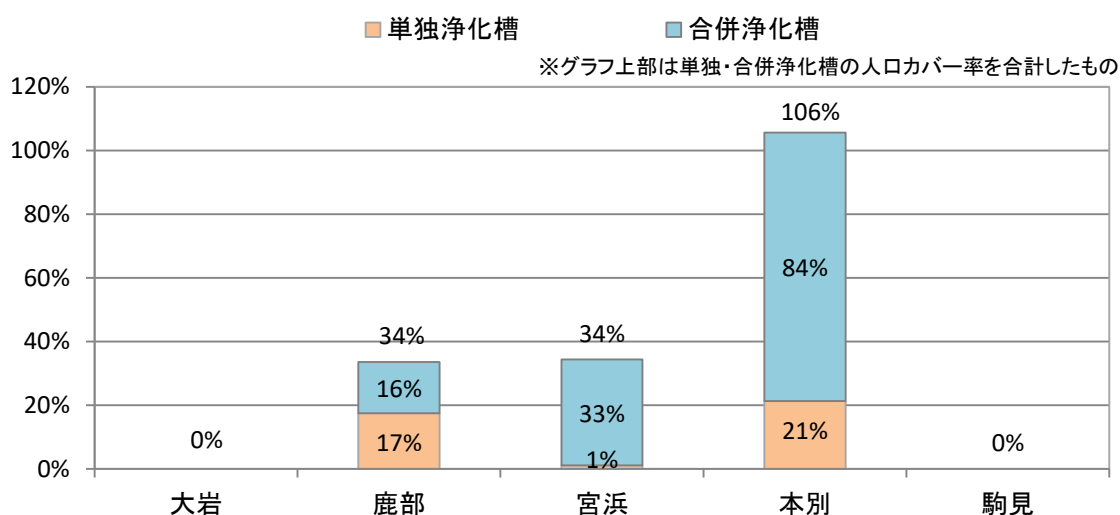


図 2-4 2 浄化槽の人口カバー率（2016 年 3 月）

資料：鹿部町建設水道課調べ

※人槽：浄化槽の大きさを指し、通常、利用者数よりも人槽が大きい。
 ※人口カバー率：ここでは、地区の人口に対する人槽の割合のことであり、100%を上回る場合がある。

2-2 上位・関連計画の整理

(1) 第5次鹿部町総合計画

「第5次鹿部町総合計画」とは、鹿部町のまちづくりの指針となる計画であり、鹿部町が目指す将来の姿や取組の方向性、具体的な事業などを記載したものである。

2013年（平成25）に策定され、計画期間は2013年度（平成25）～2022年度（平成34）である。

① まちづくりのテーマ・施策の基本目標

第5次鹿部町総合計画では、まちづくりのテーマ・基本目標を以下のように定めている。

【まちづくりのテーマ】

きらめく海・駒ヶ岳（やま） うるおいの湯郷（さと）

【施策の基本目標】

- ・人が育ち、つながりを大切にすまち
- ・安心して暮らせるまち
- ・安全で住みよい美しいまち
- ・活気ある産業をはぐくむまち
- ・小さくても創意で行政運営を進めるまち

② 施策内容

第5次鹿部町総合計画で記載されている施策のうち、公共施設配置や居住、都市機能に関する施策を抜粋すると、以下のようになる。

ア. 人が育ち、つながりを大切にすまち

項目	施策名	具体的な取組内容
社会教育	(6)学習活動が活発に行える施設の充実に努めます。	①中央公民館の維持管理
スポーツ	(5)スポーツ施設の整備や維持管理に努めます。	②スポーツ施設の維持管理、機器の更新
幼稚園	(1)今後の運営動向をふまえ、幼稚園の施設、設備の維持管理に努めます。	①幼稚園施設の改修、維持管理 ②幼稚園施設の建て替えの検討
義務教育	(1)小中学校の施設、設備の充実に努めます。	①小中学校施設の改修、維持管理
	(8)教職員の資質向上を促進する機会や環境の充実に努めます。	③教職員住宅の計画的な改修、維持管理
コミュニティ、町内での交流	(1)住民の協力を得ながら、コミュニティ施設の運営、維持管理に努めます。	①中央公民館の維持管理 ②地区要望に応じた施設、設備の充実、運営面の充実

イ. 安心して暮らせるまち

項目	施策名	具体的な取組内容
高齢者の福祉	(6)生活支援やいこいの場となる高齢者福祉施設の充実に努めます。	②高齢者福祉に関する施設の維持管理（いこいの湯）
子育て支援、ひとり親家庭の支援	(2)就学まで子どもを安心して預けることができる施設を検討します。	①総合こども園の整備の検討 ②広域保育の実施
	(5)子どもが安全に楽しく遊べる場の充実に努めます。	①安心安全な遊び場の確保 ②公園の遊具の充実と更新

ウ. 安全で住みよい美しいまち

項目	施策名	具体的な取組内容
道路・除雪	(3)町道の整備と維持管理、安全性の向上に努めます。	①「道路整備計画」に基づいた町道の計画的な整備
	(4)町道の排水機能やアクセス機能、避難路としての機能などを高めます。	①国道への雨水排水接続箇所の整備（開発建設部との協議） ②鹿部バイパスへの接続道路の整備
	(5)歩きや自転車でも安全に利用できる道づくりに努めます。	③通園路・通学路の歩道整備
	(8)橋梁の整備、維持管理に努めます。	①「橋梁長寿命化計画」に基づく架け替えの推進
公共交通	(2)鉄道の利便性の向上と周辺環境の整備に努めます。	②鹿部駅の適正管理についての要請
	(3)路線バスの利便性を高め、利用者の確保に努めます。	①路線変更、ダイヤの改正の検討
	(4)住民がタクシーを利用しやすい環境づくりに努めます。	①タクシー事業者の誘致に向けた取り組み
住宅、宅地	(3)人口構造や居住ニーズをふまえながら、町営住宅の整備や更新、維持管理に努めます。	①町営住宅の整備推進（老朽住宅の建て替え、コストダウンの推進、生活利便性等を考慮した整備） ②現存する町営住宅（既存ストック）の居住水準の向上（改善事業、長寿命化型改善事業の推進） ③町営住宅の適正な維持管理の推進（適正な管理戸数による管理、既存ストックの修繕・維持管理、収入超過者対策）
上水道	(2)安全で安定した水が需給できる上水道施設の維持管理に努めます。	①各施設の更新および長寿命化の計画策定 ③各施設の耐震化の検討
公園・広場、緑化	(1)細やかな管理や利用しやすい公園や広場づくりに努めます。	①公園や広場にある施設の計画的な維持管理
排水処理、し尿処理	(2)合併処理浄化槽の設置と適切な維持管理を促進します。	④合併処理浄化槽の設置の促進 ⑤単独処理浄化槽から合併浄化槽方式への改善指導
ごみ処理・リサイクル	(5)ごみを安全で適正に処理する施設運営や維持管理に努めます。	②新たな埋立地等の整備
防災	(1)災害に強い山づくりや海岸や河川の浸食防止など、自然災害の軽減に努めます。	①鹿部川の浸食対策の検討（河床洗掘の防止） ②本別海岸浸食対策の要請
消防、救急	(1)常備消防に必要な人員体制の維持と資質の向上、車両や資器材の整備に努めます。	⑥消防庁舎の維持管理

エ. 活気ある産業をはぐくむまち

項目	施策名	具体的な取組内容
水産業	(6)漁港を整備し、利便性と環境保全をともに向上させます。	①漁港の整備、適正管理 ③衛生管理型漁港としての環境整備の推進
観光	(3)鹿部ならではの産業と連携した観光プログラムを生みだし、継続性のあるものにします。	④体験観光ができる施設の整備

(2) 鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略

「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは、将来めざすべき人口のあり方（将来展望）とその実現のために目指すべき方向と実効性が期待できる施策を示すものである。第1章の人口ビジョンと第2章の総合戦略から構成されている。

2016年（平成28年）に策定され、計画期間は2015年度（平成27）～2019年度（平成31）である。

① 人口ビジョン

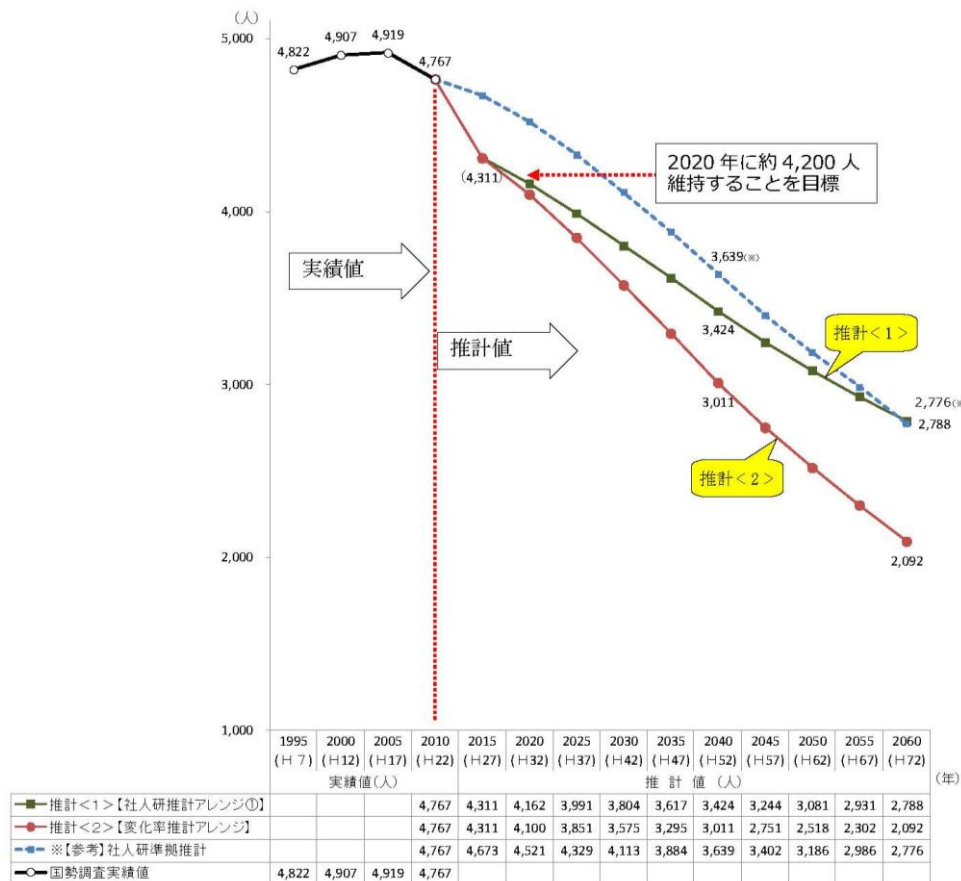
ア. 推計の方法

推計<1>社人研推計アレンジについては、社人研推計（移動収束）をベースに、以下の条件を適用して推計している。

合計特殊出生率	国の長期ビジョンに準拠し、1.61（2020年）、1.80（2030年）、2.07（2040年）と設定
純移動率	2015年推計のみ、住民基本台帳による直近5年間の変化率（2010年→2015年）を適用。

イ. 将来人口の設定

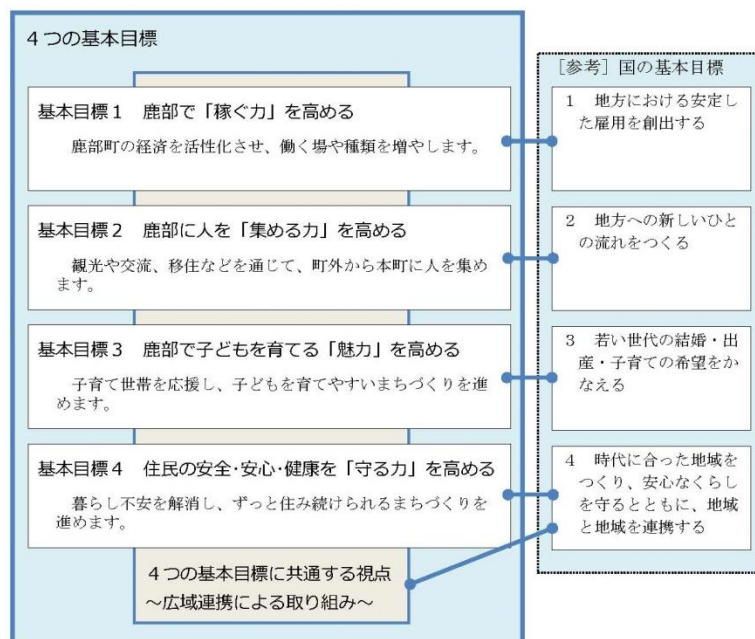
2020年に約4,200人を維持することを短期的な目標とし、それ以降は出生率の更なる向上と、社人研推計で想定された移動状況の改善に努め、おおむね推計<1>のような人口推移を目指すこととする。



② 総合戦略

ア. 基本目標

総合戦略では、下記の4つの基本目標を設定している。



イ. 取組内容

総合戦略の取組内容のうち、公共施設配置や居住、都市機能に関わるものを抜粋すると、以下のようになる。

基本目標	施策名	具体的な取組内容	事業の概要
基本目標1	施策1-1 水産業を軸に、地域経済の好循環を拡大させます	漁港関連の道路整備事業	・鹿部漁港と鹿部バイパスを結ぶ幹線道路を整備します。(水源地道路線ほか)
基本目標2	施策2-3 移住やUターンを促進します	移住促進事業	・リゾート地区の空き屋による長期移住体験の実施、移住・定住政策を進めます。
基本目標4	施策4-2 安心して生活できる基盤づくりを進めます	地域公共交通体制の整備事業 (地域巡回バス事業を含む)	・運転免許証を所持しない方や障がい者等の交通弱者の日常生活に係る移動手段を確保するなど、実証検証を踏まえ、効果的な地域公共交通の振興のための施策を検討するとともに、本町の新たな公共交通軸づくりを進めます。
		サービス付き高齢者向け住宅の整備事業	・一人暮らしになった高齢者が安心して鹿部町に住み続けるために、住まいを確保するだけでなく、生活上、必要なサービスが受けられるようサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)を整備する事業者を誘致します。

(3) 鹿部町地域防災計画

「鹿部町地域防災計画」とは、鹿部町の地域に係る防災に関し、災害予防、災害応急対策及び災害復旧等の災害対策を実施するために策定された計画である。

① 災害予防計画（地域防災計画 第6章第3節）

ア. 地震に強いまちづくり

災害予防計画において、「地震に強いまちづくり」を進めるために、次の予防対策の推進に努めるものとしている。（※公共施設配置、都市機能・居住に関するものを抜粋）

1 建築物等の安全化の促進

- (1) 町は、不特定多数の者が使用する施設及び学校並びに医療機関等の応急対策上重要な施設について、耐震性の確保に充分配慮する。
- (3) 町は、既存建築物の耐震診断・耐震補強・不燃化等の促進に努める。
- (4) 町は、建築物の落下物対策及びブロック塀等の安全化対策に努める。
- (5) 町は、鹿部町耐震改修促進計画に基づき既存建築物の耐震化の推進に努める。

2 公園等の整備

- 町は、震災時における避難場所・災害応急対策活動拠点等として防災上重要な役割を果たす公園、広場を防災まちづくりの一環として、より充実整備に努める。

3 避難場所の計画的な整備促進

- 町は、災害応急対策の実施拠点や避難場所となる公立学校施設等の防災拠点となるべき公共施設の耐震化・不燃化等の計画的な整備促進に努める。

5 主要交通の強化

- 町は、防災関係機関等の協力を得て、道路、橋梁、漁港等の基幹的な交通施設等の整備に当たって、耐震性の強化や多重性・代替性を考慮した耐震設計やネットワークの充実に努める。

イ. 津波に強いまちづくり

- (1) 津波からの迅速かつ確実な避難を実現するため、やむを得ない場合を除き、徒歩による避難を原則として、地域の実情を踏まえつつ、できるだけ短時間で避難が可能となるようなまちづくりを目指すものとする。
- (2) 町は、浸水の危険性の低い地域を居住地域とするような土地利用計画、できるだけ短時間で避難が可能となるような避難場所・津波避難ビル等及び避難路・避難階段等の整備等、都市計画と連携した避難関連施設の計画的整備や民間施設の活用による避難関連施設の確保、建築物や公共施設の耐浪化等により、津波に強いまちの形成を図るものとする。
- (4) 町は、老朽化した社会資本について、その適切な維持管理に努めるものとする。

(4) 鹿部町公共施設等総合管理計画

「鹿部町公共施設等総合管理計画」とは、公共施設の長寿命化や公共施設の利活用促進、統廃合等の取組の基本的な方向性を示すものである。

2017年（平成29）3月に策定され、計画期間は2017年（平成29）～2032年（平成44）の16年間である。

① 基本方針

公共施設マネジメントにおいて、以下の3つの基本方針を設定している。

ア. 施設保有量の適正化

- 建築物については厳しい財政状況を踏まえ、施設の性能と町民ニーズから統廃合、規模縮小を進めます。また、インフラ施設については、施設種別毎の特性を踏まえて、中長期的視点でそれぞれの整備計画に即した総量の適正化を図ります。

イ. 公共施設等の長寿命化の推進

- 今後も活用していく公共施設については、定期的な点検・診断と計画的な維持修繕を実施し長寿命化を推進することにより、安心・安全なサービスの提供に努めるとともに環境への配慮をしつつ、財政負担の軽減・平準化を図ります。

ウ. 既存施設の有効活用

- 「施設の維持から機能の維持」を視点に一定の公共サービスを確保しつつ、既存施設の管理運営形態の見直しや機能の集約、複合化などを進め、総量の抑制と経費の削減を図ります。

② 施設類型別の基本方針

各施設の特性を踏まえ、次のように供給に関する方針、品質に関する方針、財務に関する方針を整理している。

施設	方針	
町民文化系	供給に関する方針	・施設の利用者数を適切に踏まえ、他の施設類型の機能を含めて集約化を進めるとともに、他の機能との複合化を検討していくことで、スペースの有効活用を図ります。
	品質に関する方針	・集会施設などは町民活動の拠点であり、災害時の避難施設となるため、定期点検の実施による予防保全を推進します。
	財務に関する方針	・現状の維持管理にかかる費用や施設使用料等の適正化を図ります。
レクリエーション・スポーツ	供給に関する方針	・体育館やプールなど地域の住民が利用する施設については、利用状況などを考慮して今後の修繕・更新を検討します。特に体育館については、鳥害による屋根の損傷が激しく漏水しているため、早急に改修を検討します。
	品質に関する方針	・比較的新しい建物が多いことから、予防保全による継続使用を前提として検討を進めます。
	財務に関する方針	・広域利用が可能な施設については、本町だけではなく周辺自治体との共同利用など、広域的な観点からも検討を行い、維持管理費用や施設使用料等の適正化を図ります。

(続き)

施設	方針	
学校教育系	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校とも1校ずつであるが、今後の改修・更新の検討にあたっては、生徒数を適切に踏まえた規模とすることが必要あり、小中一貫教育の導入についても検討します。 ・また、空き教室の状況を把握し、複合利用も検討します。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が日常的に使用する施設であり、災害時の広域避難施設となることから、定期点検の実施による予防保全を図り長寿命化を推進します。 ・学校給食センターは建設後41年が経過し老朽化が進んでおり、調理方式等も含め改修や更新等について検討します。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理にかかる費用を分析し、維持管理費用の適正化を図ります。
子育て支援	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・改修・更新を検討するにあたっては、少子化に伴う園児数の減少等を踏まえた適切な規模とする必要があります。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・更新に向けての検討を進め、状況に応じた応急処置で対応を実施します。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理にかかる費用を分析し、維持管理費用の適正化を図ります。
保健・福祉	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い入浴施設は高齢者の福祉施設としてその重要性が高まっていますが、高齢者人口の減少も予想されることから、人口動向を踏まえながら、今後の維持更新を検討します。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的新しい建物であることから、予防保全による継続使用を前提として検討を進めます。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理・修繕にかかる費用を分析し、維持管理費用や施設使用料等の適正化を図ります。
医療施設	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の健康を守るために不可欠な施設であることから、今後も機能の維持・充実を図る必要があります。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・町民にとって必要な施設であることから、予防保全による継続使用を前提として検討を進めます。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理・修繕にかかる費用を分析し、維持管理費用の適正化を図ります。
行政系	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の防災拠点となる施設は町民の安全を守る必要性から、今後の改修・更新においては、機能の集約化や他の施設との複合化を検討していくことが必要です。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的新しい建物は町民防災の観点から、予防保全による継続使用を前提として検討を進めます。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理・修繕にかかる費用を分析し、維持管理費用の適正化を図ります。 ・今後の改修・更新を想定し、財源となる基金の積立てや対象となる補助金制度等の検討について、財政部局との連携を図ります。
供給処理	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少等の社会構造の変化に対応しながら、今後の修繕・更新の検討をし、更新においては周辺自治体との連携も視野に入れて検討します。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的新しい建物が多いことから、予防保全による継続使用を前提として検討を進めますが、漁業系廃棄物リサイクル施設については、内部結露等による鉄骨等の腐食が問題となっており、建替等も含め検討を進めます。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理にかかる費用を分析し、維持管理費用の適正化を図ります。
その他	供給に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の利用状況を踏まえ、改修、更新について検討を進めます。 ・合わせて、利用者ニーズに対応した住環境の提供を進めます。 ・未利用施設の解体を検討します。
	品質に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・築30年を過ぎた建物については、大規模改修の検討とともに、利用状況を踏まえて更新を検討します。
	財務に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の維持管理・修繕にかかる費用を分析し、維持管理費用の適正化を図ります。

(5) しかべ観光のグランドデザイン

「しかべ観光のグランドデザイン」とは、町民によるワークショップ等を踏まえながら、観光に関わる事業展開について提言したものである。2012年（平成24）3月に策定された。

① 鹿部町観光振興の方向性・テーマ

「しかべ観光のグランドデザイン」では、下記のように、鹿部町観光振興の方向性、テーマを抽出している。

初訪問客対応	滞在客対応	再訪問対応
1. 間欠泉公園の魅力アップ 鹿部訪問の動機づけとして、目玉施設のソフト面とハード面の充実及びバイパスへとつなぐ周辺地域の整備・開発	2. 鹿部ならではの体験プログラムづくり 訪問者の滞在時間を延ばし、リピーターになってもらって経済効果につなげるための体験型観光プログラムづくり	
新市場への参入		
3. 教育・修学旅行対応 昨今の市場ニーズから、農林漁家に民泊をする教育旅行ニーズに注目、体制の整備を検討		

② 具体的な事業展開・商品づくりに関する提言

観光に関わるまとめと提言のうち、公共施設配置や居住、都市機能に関わるものを抜粋すると、以下ようになる。

テーマ1 間欠泉公園の魅力アップ

1-2 周辺地域の整備
<ul style="list-style-type: none">●間欠泉公園隣地との一体整備を行う●取得地のバイパスからの誘導、単に景観を見せるだけではない新施設の整備●鹿部観光の目玉拠点とした、機能の充実

(6) 鹿部町住生活基本計画

「鹿部町住生活基本計画」とは、2012 年（平成 24）3 月に策定され、良好な住環境の形成を目指すため、住宅対策の基本的方向や地域特性に応じた具体的施策の展開方向等を明らかにしたものである。計画期間は平成 24 年度（2012）～平成 33 年度（2021）までの 10 年間である。

① 基本理念

鹿部町住生活基本計画では、以下の基本理念および基本目標を設定している。



② 住宅施策の展開方向

住宅施策のうち、公共施設配置・居住、都市機能に強く関わるものを抜粋すると、以下のようになる。

【基本目標1】安心して住み続けられる住まいづくりの施策展開

主な施策・事業	
② ユニバーサルデザインの推進	○ユニバーサルデザインによる町営住宅の建設
③ 安全なまちなみの形成	○空き家撤去の助成の検討

【基本目標2】住宅セーフティネットとしての町営住宅づくりの施策展開

主な施策・事業	
① 町営住宅の整備推進	○老朽町営住宅の建替の推進 ○民間活力の活用や適正な型別供給、シンプルな平面計画等によるコストダウンの推進 ○生活利便性等を考慮した町営住宅の整備
③ 町営住宅の適正な維持管理の推進	○適正な管理戸数による管理

【基本目標3】多様な住宅需要に対応した住まいづくりの施策展開

主な施策・事業	
① 多様な住宅を取得できるための環境整備	○建設費助成検討も含めた民間賃貸住宅の建設促進 ○戸建て住宅の建設にかかる助成の検討 ○サービス付き高齢者住宅の建設促進

【基本目標4】鹿部らしい自然環境に配慮した住まいづくりの施策展開

主な施策・事業	
① 新エネルギー等の活用促進	○太陽光発電パネル設置等の促進 ○北方型住宅の建設促進
② 自然と調和した住環境の形成	○民間賃貸住宅への駐車場設置及び堆雪スペースの確保の促進 ○水洗化（浄化槽設置）の促進

(7) 鹿部町公営住宅等長寿命化計画

「鹿部町公営住宅等長寿命化計画」とは、2012 年（平成 24）3 月に策定された、町営住宅等ストックの長寿命化を図り、老朽ストックの円滑な更新を目指すことを目的とした計画である。

計画期間は平成 24 年度（2012）～平成 33 年度（2021）までの 10 年間である。

① 基本理念・基本目標

鹿部町公営住宅等長寿命化計画において、下記の基本理念・基本目標が設定されている。

【基本理念】

地域の賑わいを創出し、安心して住み続けられる町営住宅等ストックの形成

【基本目標】

基本目標 1：安心して住み続けられる町営住宅等ストックの形成

基本目標 2：長期活用できる良質な町営住宅等ストックの形成

基本目標 3：地域の賑わいを創出する利便性の高い町営住宅等の整備

基本目標 4：長寿命化のための適正な維持管理

② 活用手法の設定

鹿部町が保有する公営住宅等について、下記のように活用手法を設定している。

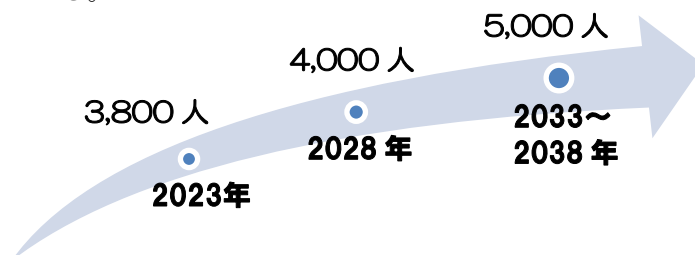
団地名	竣工年	構造	H23末戸数	活用方針	戸数	工種	計 画 期 間										事業数 合計	H33末 戸数
							H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33		
出来洞	S45	簡平	4	用途廃止	4	解体							▲ 4 (金て)				4	0
本別	S53	簡平	8	維持管理	8	耐力度調査			4								4	8
折戸川	S46-48 S47	簡平 簡二	40 8	移転建替	48	解体				▲ 12 (1-3号棟)	▲ 12 (4-6号棟)	▲ 12 (7,8,11号棟)	▲ 12 (9,10,12号棟)				48	0
(仮)新折戸川 (折戸川移転先)						新規建設		20 (A棟・中耐)	32 (B棟・中耐)								52	52
折戸	S49 S62	簡平 簡二	12 8	維持管理	20	耐力度調査			4								4	20
はまなす	S50-59	簡平	64	維持管理	64	耐力度調査			4								4	64
宮浜中央	H11-14	耐三	45	長寿命化	45	外壁・防水改修							15 (A棟)	12 (B棟)	12 (C棟)	6 (D棟)	45	45
宮浜中央 (特公賃)	H14	耐三	6	長寿命化	6	外壁・防水改修										6 (D棟)	6	6
鹿部川	H3	簡二	8	維持管理	8												0	8
湯の沢	S51-53 S47	簡平 簡二	20 8	維持管理	28	耐力度調査			4								4	28
大岩	S53-56	簡平	8	維持管理	8	耐力度調査			4								4	8
H23末管理戸数							0	20	32	0	0	0	0	0	0	0	52	
							0	0	0	12	12	12	18	0	0	0	52	
							0	0	0	0	0	0	15	12	12	12	51	
							0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	20	
合 計							0	20	52	12	12	12	31	12	12	12	175	
管理戸数 累計							239	239	259	291	279	267	255	239	239	239	239	239
管理戸数 設定値																		239

(8) 町長ビジョン

「町長ビジョン」とは、5年後（2023年）、10年後（2028年）、15～20年後（2033～2038年）の本町の未来像を描くものである。

① めざす人口の推移

町長ビジョンでは、本町の人口の未来像として、2023年に3,800人、2028年に4,000人、2033～2038年に5,000人としている。



② まちの未来像

5年後（2023年）、10年後（2028年）、15～20年後（2033～2038年）のビジョンとして、以下のよう本町の未来像を描いている。

ア. 5年後（2023年）の未来像

項目	概要（抜粋）
まちの構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ グランドデザイン（役場の建替えやまちの構造）が決定。 ・ 道の駅周辺の「スマートエコタウン化」に着手。 ・ 行政手続きのオンライン化を見越したまちの構造の検討の実施。
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育館・プールなどを稼げる施設として位置づけ。 ・ 幼稚園の建替え完了。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡島リハビリテーションセンターを拠点とした「地域共生型複合施設」の構築の推進。 ・ 高齢者施設などの福祉施設の建設。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿部流公共交通の確立。（オンデマンド式タクシーバスなど） ・ 自動運転の試験走行の実施。
産業・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場や付着物処理施設などの整備。 ・ 道の駅周辺の温浴施設の整備。 ・ DMOの確立、食と観光によるまちづくりの推進。 ・ 鹿部ブランドの構築。 ・ 今までにない産業の起業、テレワークの誘致。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅周辺の防災拠点化。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地熱エネルギーの活用施設の設置。

イ. 10 年後（2028 年）の未来像

項目	概要（抜粋）
まちの構造	・「スマートエコタウン」の整備。
福祉	・ 渡島リハビリテーションセンターを拠点とした地域共生型複合施設が完成。 ・ 高齢者施設などの福祉施設の拡大。
交通	・ 鹿部スタイルの交通網の整備推進。 （自動運転バス、道の駅・リゾート地区を拠点とした交通網形成）
産業・観光	・ ジェット型ドローンによる物流会社が整備。 ・ 漁業の6次産業化が確立。 ・ 鹿部ブランドが確立。
エネルギー	・ 地熱・温泉熱利用による漁業・農業施設が完成。 ・ 地熱・水力・風力・太陽光の販売。

ウ. 15～20 年後（2033～2038 年）の未来像

項目	概要（抜粋）
まちの構造	・ コンパクトシティへ緩やかに移行。
福祉	・ 地域でお金が循環する福祉産業の構築。
交通	・ 鹿部スタイルの交通網の整備。
産業・観光	・ リゾートエリアと浜の美しい融合の促進。 ・ 漁業が憧れかつ儲かる産業となっている。 ・ 道の駅を拠点とした、交流から移住への形が確立。 ・ 鹿部スタイルの農林漁業の確立。
防災	・ 災害リスクを回避した宅地造成の推進。

第3章 土地利用の問題・課題の整理

- 町の現状把握結果等を踏まえ、「生活利便性」「産業」「防災」「公共施設・インフラ」の4つの観点から、土地利用の問題点・課題について分析する。

3-1 生活利便性の課題

(1) 買い物利便の課題

- ・町内での購買率が低い（最寄品、買回品ともに町内購買率 12%前後）
- ・函館市への購買流出が大きい（最寄品で 55%、買回品で 68%が函館で購入）
- ・函館へ通勤割合は 4%程度にすぎないことから、大多数の町民が休日などに函館まで買い物に出かけていると考えられる。

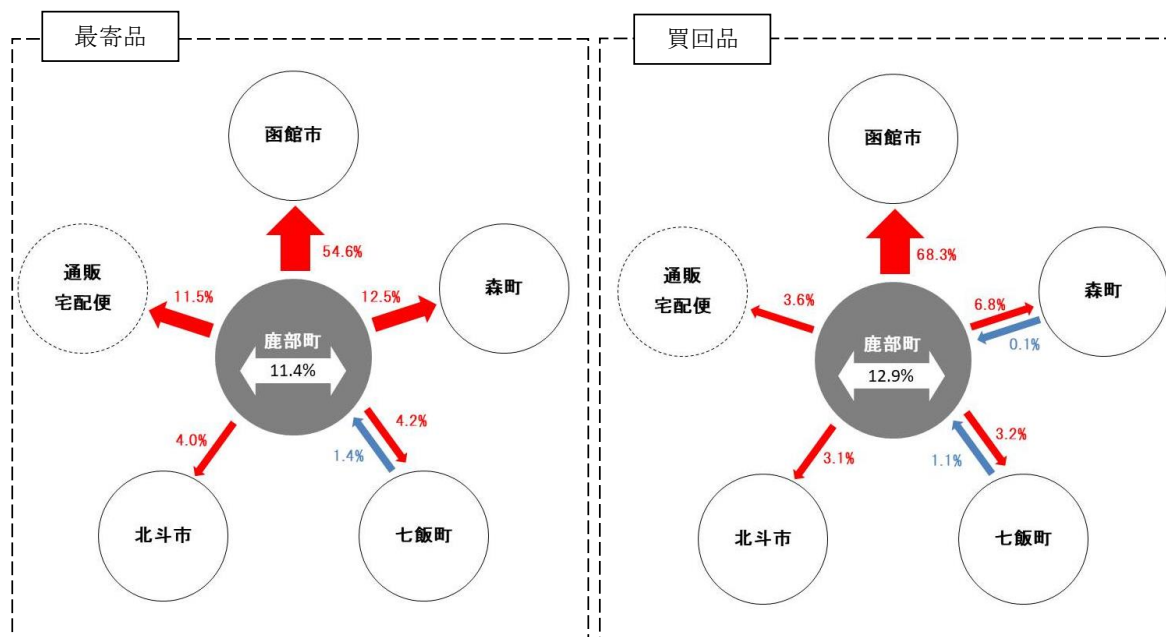


図 3-1 鹿部町民の買い物動向

資料：北海道「広域商圈動向調査（平成 21 年度）」

(2) 通院利便の課題

- ・町内には診療所と歯科医院が立地しているが、高次医療施設が存在しないため、函館などへの通院が必要。

(3) 通学利便の課題

- ・町内に高等学校が無いため、函館市や森町・七飯町の高校に進学する生徒が多い。
- ・高校生の多くは鹿部駅から J R で通学しているが、市街地から駅が離れているため生徒の多くは保護者による送迎で駅まで移動している。

(4) 公共交通利便の課題

- ・J R の函館行は 1 日 7 本、森行は 5 本。函館と結ぶ路線バスは日 6.5 往復。
- ・鹿部駅と市街地を結ぶバスは日 6 往復。

3-2 産業の課題

(1) 鹿部町の人口と産業

- ・2015年の人口で約4,200人。急速な人口減と少子・高齢化の進行が懸念される。
- ・地区別人口推移を見ると、鹿部リゾート以外の地区は人口減少傾向にある。減少割合は大岩・駒見が大きく、次いで鹿部・本別、宮浜が最も緩やかな減少であり、市街地の縁辺部ほど減少割合が大きい傾向にある。
- ・1995年には、就業者数の43%が第1次産業に従事していたが、現在は40%まで減少。

(2) 漁業の課題

- ・漁獲金額は30～50億円で推移しているが、徐々に減少傾向にある。
- ・「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標において、「基幹産業である水産業を軸に、地域経済の好循環を拡大」することが位置づけられている。

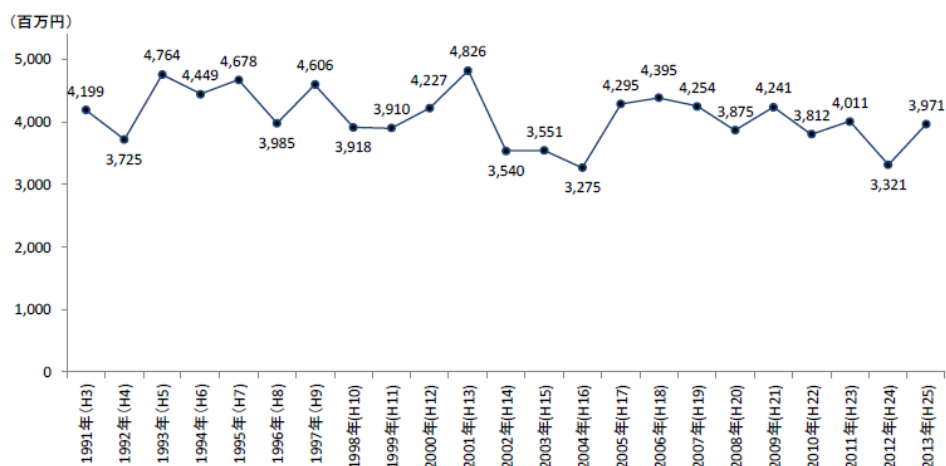


図3-2 漁獲金額の推移

資料：鹿部町「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」

(3) 観光の課題

- ・2015年までは町の観光入り込み客数は減少傾向にあったが、2016年3月に道の駅しかべ間歇泉公園がオープンし、入込客数が大幅に増加した。

(4) リゾート・別荘地の課題

- ・開発から40年あまりが経過し、リゾート地区は60～70歳代の割合が特に多い。

3-3 防災の課題

(1) 津波災害のリスク

- ・現在の市街地の大部分が津波浸水予測範囲に含まれる。
- ・浸水予測範囲外で住宅等が立地している主な地区は、「鹿部リゾート地区」「宮浜地区市街地の南西部（小学校～宮浜中央団地からバイパスにかけて）」「鹿部地区市街地の東南部（リハビリセンターや湯ノ沢団地など）」である。
- ・現在の町役場・消防署・中学校・診療所は浸水予測範囲内に立地している。

(2) 水害・土石災害のリスク

- ・「鹿部地区市街地の縁辺部」と「大岩地区の国道沿線」に土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域が存在している。

(3) 噴火災害のリスク

- ・駒ヶ岳の大規模な噴火を想定した場合、「大岩地区」を除くほぼ町全域が「火砕サージ危険区域C」に含まれる。

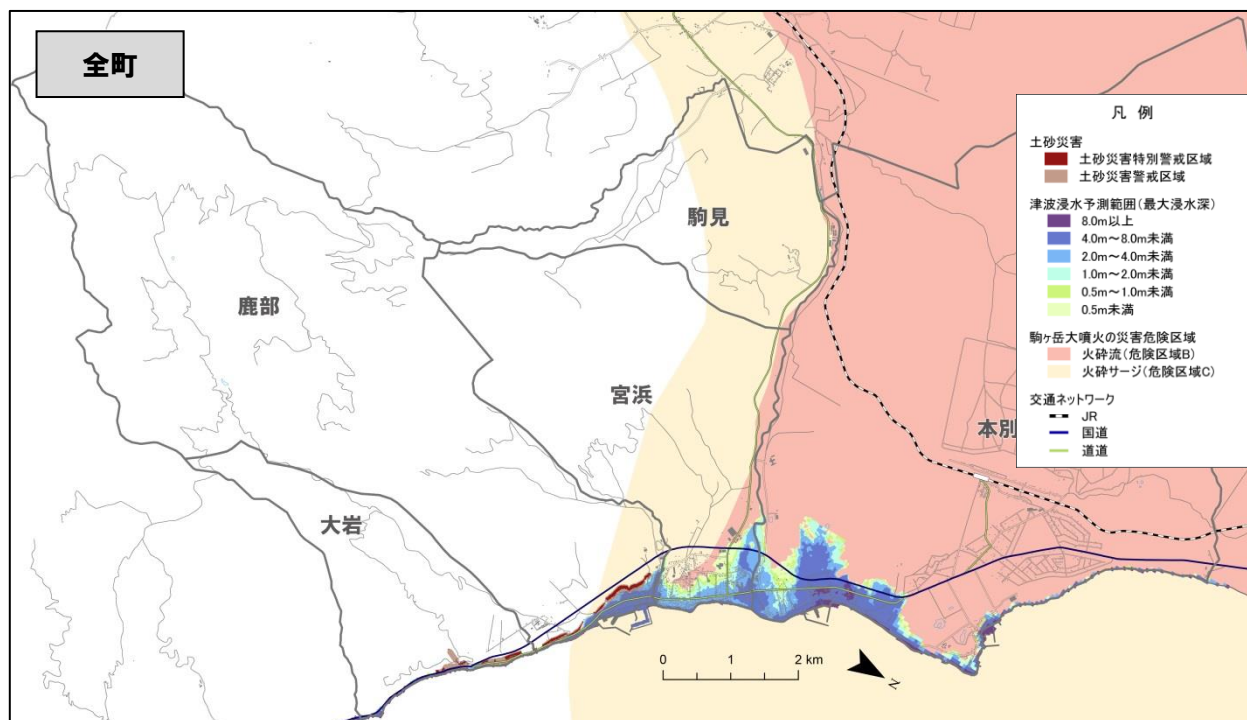


図3-3 災害（津波・水害・噴火）による被災予測と危険箇所

資料：北海道「北海道防災情報」、北海道「北海道土砂災害警戒情報システム」、鹿部町「鹿部町地域防災計画(平成28年6月修正)」

3-4 公共施設・インフラの課題

(1) 維持・更新費用の課題

- ・公共施設（建築物）について、現在の施設を保有し続け、定期的に更新・改修した場合の費用は年平均 6.17 億円と試算され、これまでの投資的経費の 1.6 倍にあたる。
- ・インフラ施設についても、過去の経費実績を大きく上回る更新費用が今後必要になる見通しであり、これまでの手法で施設全てを更新していくことは困難。
- ・そのため公共施設の統廃合や規模縮小を進める必要があり、インフラ施設についても総量の適正化と管理手法の見直しが必要。

表 3-1 公共施設（建築物）とインフラ施設の更新費用の推計結果

	投資的経費（億円）		今後の推計（億円）		B/A
	5 箇年計	年平均 (A)	40 年計	年平均 (B)	
公共施設	18.97	3.79	246.69	6.17	1.6
道路	4.93	0.99	87.88	2.2	2.2
橋梁	0.20	0.04	3.27	0.08	2.0
公園	6.00	1.20	48.01	1.20	1.0
上水道	0.96	0.19	44.45	1.11	5.8

資料：鹿部町「鹿部町公共施設等総合管理計画」（2017 年 3 月）

(2) インフラ（道路・上下水）の課題

- ・上水道は既存の市街地をカバーしており、今後の土地利用・住宅建築の動向をみて配水管拡張を進めることとしている。
- ・老朽管の更新について今後多額の費用がかかる見通しである。
- ・下水道整備は財政的に困難な状況にあることから、合併浄化槽の整備を進めている。

(3) 公共施設（建築物）の課題

- ・町の保有する公共施設は 167 施設、延べ床面積は約 5 万 9000 m²。延べ床面積でみると公営住宅が 32%、学校教育施設が 17% と多い。
- ・旧耐震基準である 1981 年 5 月以前に建築された公共施設が延べ床面積ベースで約 4 割を占める。
- ・老朽など課題施設は、「町役場」「消防署」「幼稚園」「中央公民館」および「小学校」「中学校」。

(4) 町有地の課題

- ・市街地内で現行施設の敷地以外の町有地は少なく、道の駅からバイパスに至る町有地については宿泊拠点の整備が検討されている。

第4章 住民意向の把握

- 主要施設（役場・消防署・文教施設）に関する意見を収集するため、町民1,000名を対象として実施した、アンケート調査に関する設問内容および集計結果について整理する。
- 結果の集計では、単純集計に加えて「回答者属性」と「望ましい配置場所」のクロス集計を行う。

4-1 調査の概要

「町内の主要施設の配置」に関する意見を収集し、「鹿部町土地利用計画」に反映することを目的に、無作為抽出による町民 1,000 人へのアンケート調査を実施した。

図表 4-1 調査概要

項目	内容
調査期間	平成 31 年 1 月 7 日（発送日） ～平成 31 年 1 月 21 日（返信期限）
調査対象	町内に居住する 18 歳以上の 1,000 人を無作為抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収
回収数	390 票
回収率	39.0%
調査項目	・回答者属性 ・「役場」「消防署」「文教施設」の望ましい立地場所 ・利用頻度の高い施設

鹿部町土地利用計画にかかる 町民アンケート調査ご協力のお願い

日頃より、町政の運営につきましては、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
鹿部町では、まちの将来を見通し、いつまでも安心・便利に暮らせるまちづくりを考えていくために、「鹿部町土地利用計画」の策定を進めております。

「鹿部町土地利用計画」は、「まちづくりの方向性」と「主要施設の配置」を検討することで、持続可能なまちの将来像を描く計画です。

そこで、町民の皆様のご意見を「鹿部町土地利用計画」に反映させるべく、無作為に抽出した町民 1,000 名の方を対象にアンケート調査を実施することとしました。アンケート回答は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することではなく、皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の目的や趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 31 年 1 月 鹿部町建設水道課

アンケート調査の背景

下記のような現状・課題に対応し、いつまでも安心・便利に暮らせるまちづくりを目指します。

生活 利 便



- ・ 町民の多くは町外で買い物・通院している
- ・ 高校生は、函館等の町外へ通学
- ・ 駅と市街地が遠く、JR を利用しづらい

産 業



- ・ 一次産業従業者は減少傾向
- ・ 基幹産業である漁業の漁獲金額は徐々に減少傾向
- ・ 道の駅のオープンを機に、観光客が増加

公 共 施 設 等



- ・ 役場や消防署、幼稚園など老朽化した施設が点在
- ・ 公共施設を定期的に改修した場合、年平均 6 億円の支出が必要となる

防 災



- ・ 市街地の多くが「津波」「駒ヶ岳の大噴火」の影響を受けると予測されている
- ・ 災害に対応するため、主要施設の移転や避難路の整備などを検討する必要がある

鹿部町土地利用計画

- ・ 上記の現状・課題を踏まえて、**持続可能なまち**を目指します。
- ・ 鹿部のあるべき町の姿を描く「**まちづくりの方向性**」と「**主要施設の配置**」を検討し、将来を見通したまちづくりを進めます。
- ・ **町民のご意見を反映するために**、本アンケートを実施します。

鹿部の未来を
考えよう！



鹿部町観光キャラクター
カールス君

図表 4-2 調査依頼文 (1 枚)

記入上の注意

- ①調査は無記名方式ですので、お名前を書く必要はありません。
(結果は統計的に処理し、個人の情報が外部に伝わることはありません。)
- ②選択式の設問については、該当する番号に○を付けてください。
- また、()や 内には、数字や文章をご記入してください。
- ③ご記入いただいた調査票は、平成31年1月21日(月)までに、同封
の返信用封筒に入れてポストに投函してください。切手は不要です。



①あなた（回答者）ご自身について

問1 あなたの性別 (1つに○)

①男性 ②女性

問2 あなたの年齢 (1つに○)

①18～29歳 ②30～39歳 ③40～49歳 ④50～59歳
⑤60～69歳 ⑥70歳以上

問3 あなたのご職業 (1つに○)

①農林畜産業	②漁業・水産加工業	③自営業（商工業）
④会社員	⑤公務員・団体職員	⑥パート・アルバイト
⑦専業主婦（主夫）	⑧学生	⑨無職
⑩その他（具体的に：		）

問4 家族の人数 (カッコ内に記入)

あなたを含む家族の人数	() 人
うち 65 歳以上	() 人
うち 12 歳以下	() 人

問5 お住まいの地区 (1つに○)

①大岩 ②鹿部 ③宮浜 ④本別（鹿部リゾート除く）
⑤鹿部リゾート ⑥駒見

図表 4-3 アンケート調査票 (1枚/A3 見開き 2枚)

②鹿部町の主要施設について

※問 6 をお答えになる前に、こちらをお読みください。

町内の主要施設（役場・消防署・文教施設）の将来的な配置について「どこに立地することが望ましいか」役場内ワークショップを開いて話し合いました。

役場は防災拠点だし、安全な場所が良いな

消防は出動のしやすさが大事だな

今の幼稚園は乳幼児も預かっているから、災害になると避難が大変だね

文教施設（幼稚園、小学校、中学校）は将来的にまとまった場所にある方がいいね

その結果、将来的な主要施設の配置には、「2つの視点」が重要であると確認しました。

視点1：災害リスク（危険性）

- ・「津波」や「駒ヶ岳の大噴火」が何十年・何百年に1度起こるかはわからないが、もしもの時のために、**災害リスク（危険性）が少ない場所**に立地すべき。

視点2：交通アクセス（交通利便性）

- ・車で利用しやすいように、**幹線道路に近い場所**に立地すべき。
- ・郊外に立地するなら、**地域交通など交通手段**を確保するべき。

施設の「特徴」に合わせ、「どの視点を重視するか」を検討し、「将来的な施設配置（案）」をまとめました。

注：以下はあくまでも現時点の案であり、アンケート結果や町民懇談会も踏まえて施設配置を検討します。また、事業実施においては、実現性や費用などの再検証を行い、場所を選定します。



鹿部・大岩地区（渡島リノベーションセンター）付近に配置

- 役場は非常時の防災拠点となるため、**災害リスク（危険性）を重視し、「津波」「駒ヶ岳噴火」の危険性が少ない鹿部・大岩地区に配置**するべき。
- 地域交通の検討を同時に進め、**交通利便性の確保**が必要。



鹿部バイパスと道道の交差点付近に配置

- まち全体への出動（火災や救急）のしやすさが重要であるため、**交通アクセス（交通利便性）を重視し、全町に出動可能なまちの中央部に配置**するべき。



鹿部公園付近に配置

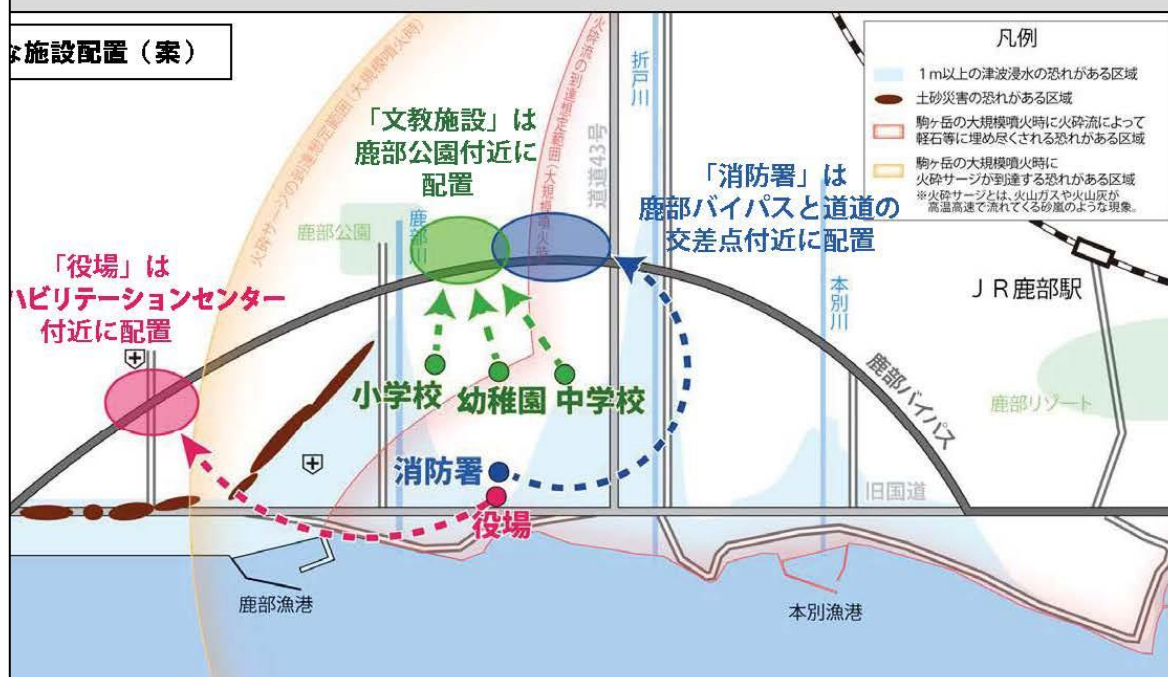
- 避難に時間がかかる乳幼児を含めた園児、児童や学生の**災害リスク（危険性）を重視し、津波避難の必要が少ない場所**である鹿部公園付近に配置するべき。
- 通園や通学の利便性も確保できる。
- 津波避難施設としての活用も期待できる。

将来的な

渡島リ

問6 将来的に、「役場」「消防署」「文教施設（幼稚園・小学校・中学校）」はどこに立地するとよいと思いますか。理由もお答えください。

施設	望ましいと考える立地場所（1つに○）	その理由（当てはまるもの全てに○）
役場	①役場が検討した配置案 （渡島リハビリテーションセンター付近） ②その他⇒〔あなたがイメージする移転場所を記載〕	①災害のリスク（危険性）が低いから ②交通アクセス（交通利便性）がよいから ③日常生活に便利だから ④その他〔具体的に： 〕
消防署	①役場が検討した配置案 （鹿部バイパスと道道の交差点付近） ②その他⇒〔あなたがイメージする移転場所を記載〕	①災害のリスク（危険性）が低いから ②全町各地へ出動がしやすいから ③役場との連携がしやすくなるから ④その他〔具体的に： 〕
文教施設	①役場が検討した配置案 （鹿部公園付近） ②その他⇒〔あなたがイメージする移転場所を記載〕	①災害リスク（危険性）が低いから ②交通アクセス(交通利便性)がよいから ③子育て環境がよいから ④その他〔具体的に： 〕



図表 4-5 アンケート調査票（3枚/A3 見開き2枚）

問7 鹿部町にある以下の施設のうち、あなたがよく利用する施設はどれですか。

(当てはまるもの全てに○)

- | | | |
|------------------|-------------|---------|
| ①町役場 | ②しかべ幼稚園 | ③鹿部小学校 |
| ④鹿部中学校 | ⑤中央公民館 | ⑥地区の集会所 |
| ⑦総合体育館 | ⑧コミュニティープール | ⑨いこいの湯 |
| ⑩渡島リハビリテーションセンター | ⑪道の駅 | |
| ⑫その他(具体的に： | |) |

問8 「まちづくり」や「公共施設」について、ご意見があればご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成31年1月21日(月)までに、同封の返信用封筒にてご返信ください。



■今後の予定

今後は、皆様から頂いたアンケートを参考にして、将来の施設配置を検討していく予定です。

なお、土地利用計画を策定・公表する前に、「町民懇談会」を実施し、土地利用計画の素案をご説明させて頂く予定です。ご興味のある方は奮ってご参加ください。

《町民懇談会》

開催日：平成31年2月上旬

開催場所：中央公民館大ホール

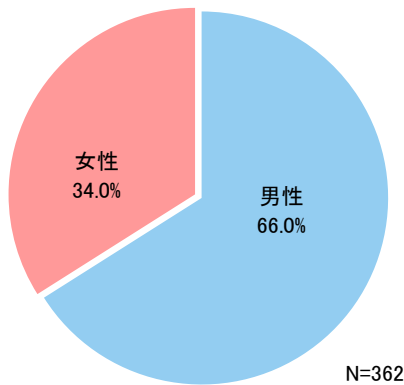
※詳細が決まり次第、HPや防災無線で周知致します。

4-2 調査の結果

(1) 回答者属性

【問1】回答者の性別

・回答者のうち、男性は 66.0%、女性は 34.0%となっている。

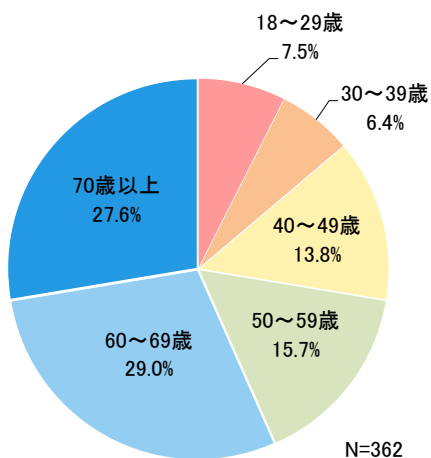


設 問	回答数	割合
男性	255	65.6%
女性	134	34.4%
合計	389	100.0%
無回答・無効回答	1	

図表 4-7 回答者の性別

【問2】回答者の年齢

・「60～69 歳」「70 歳以上」の回答者が多く、合計すると全体の 56.6%を占める。
・「40～49 歳」「50～59 歳」は合計すると 29.6%、「18～29 歳」「30～39 歳」は 13.8%となっている。

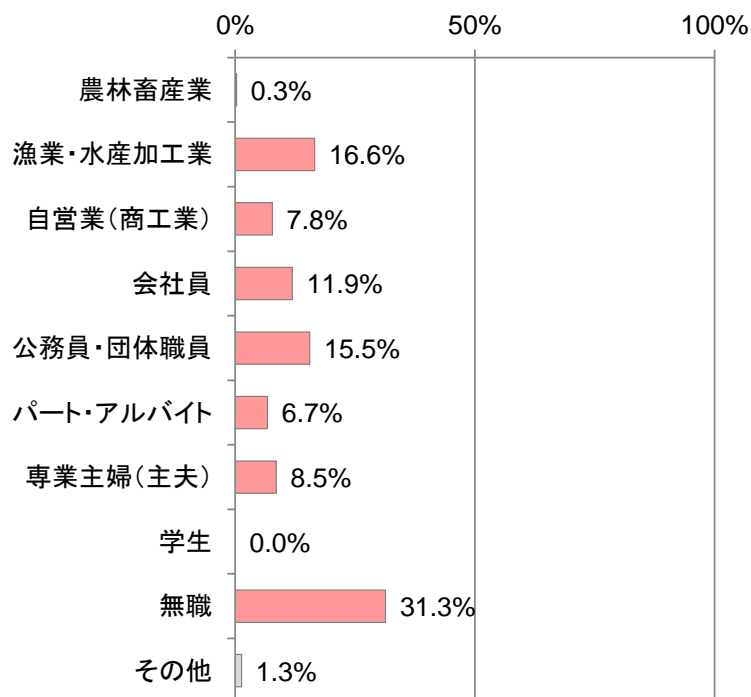


設 問	回答数	割合
18～29歳	29	7.5%
30～39歳	26	6.7%
40～49歳	54	13.9%
50～59歳	64	16.5%
60～69歳	108	27.8%
70歳以上	108	27.8%
合計	389	100.0%
無回答・無効回答	1	

図表 4-8 回答者の年齢

【問3】回答者の職業

・職業は「無職」が最も多く 31.3%、次いで、「漁業・水産加工業」「公務員・団体職員」「会社員」がそれぞれ1割～2割となっている。



N=386

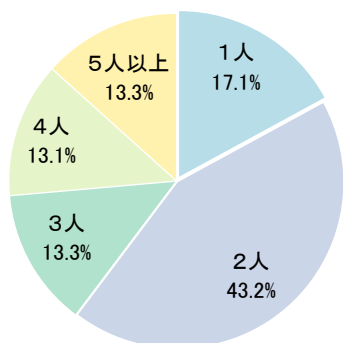
設 問	回答数	割合
農林畜産業	1	0.3%
漁業・水産加工業	64	16.6%
自営業(商工業)	30	7.8%
会社員	46	11.9%
公務員・団体職員	60	15.5%
パート・アルバイト	26	6.7%
専業主婦(主夫)	33	8.5%
学生	0	0.0%
無職	121	31.3%
その他	5	1.3%
合計	386	100.0%
無回答・無効回答	4	

図表 4-9 回答者の職業

【問4】家族の人数

- ・「2人暮らし」が最も多く、全体の43.2%を占める。
- ・家族に「65歳以上」がいる家庭は75.5%と全体の7割強を占める一方、「12歳以下」がいる家庭は23.9%となっている。

ア. 自分も含めた家族の人数

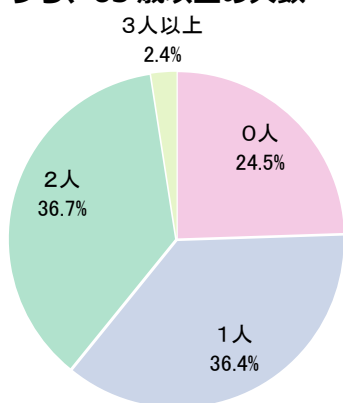


N=375

設 問	回答数	割合
1人	64	17.1%
2人	162	43.2%
3人	50	13.3%
4人	49	13.1%
5人以上	50	13.3%
合計	375	100.0%
無回答・無効回答	15	

図表 4-10 回答者の家族の人数

イ. うち、65歳以上の人数

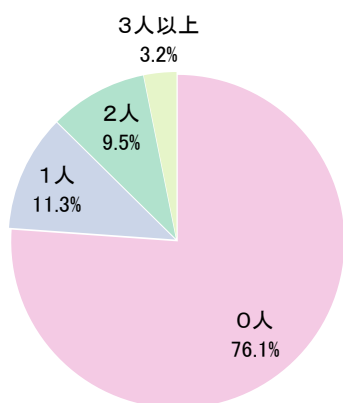


N=286

設 問	回答数	割合
0人	70	24.5%
1人	104	36.4%
2人	105	36.7%
3人以上	7	2.4%
合計	286	100.0%
無回答・無効回答	104	

図表 4-11 うち、65歳以上の人数

ウ. うち、12歳以下の人数



N=222

設 問	回答数	割合
0人	169	76.1%
1人	25	11.3%
2人	21	9.5%
3人以上	7	3.2%
合計	222	100.0%
無回答・無効回答	168	

図表 4-12 うち、12歳以下の人数

工. 家族の人数別の「65 歳以上の家族」「12 歳以下の家族」の有無

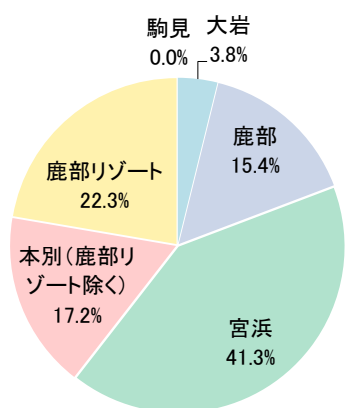
家族の人数		1人	2人	3人	4人	5人以上	総数
高齢者・子どもの人数							
うち、65歳以上の人数	0人	33	17	4	10	6	70
	1人	28	42	11	9	11	101
	2人		64	10	6	18	98
	3人以上			4	2	1	7
	総数	61	123	29	27	36	276
	無回答	3	39	21	22	14	99
うち、12歳以下の人数	0人	63	81	8	9	8	169
	1人	0	0	6	7	12	25
	2人		0	0	11	9	20
	3人以上			0	0	7	7
	総数	63	81	14	27	36	221
	無回答	1	81	36	22	14	154

家族の人数		1人	2人	3人	4人	5人以上
高齢者・子どもの人数						
うち、65歳以上の人数	0人	54.1%	13.8%	13.8%	37.0%	16.7%
	1人	45.9%	34.1%	37.9%	33.3%	30.6%
	2人		52.0%	34.5%	22.2%	50.0%
	3人以上			13.8%	7.4%	2.8%
	総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	無回答					
うち、12歳以下の人数	0人	100.0%	100.0%	57.1%	33.3%	22.2%
	1人	0.0%	0.0%	42.9%	25.9%	33.3%
	2人		0.0%	0.0%	40.7%	25.0%
	3人以上			0.0%	0.0%	19.4%
	総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	無回答					

図表 4-13 家族の人数別の「65 歳以上の家族」「12 歳以下の家族」の有無（上：実数、下：割合）

【問5】居住地区

・「宮浜地区」が 41.3%と最も多く、次いで、「鹿部リゾート」「本別（鹿部リゾート除く）」がそれぞれ2割前後となっている。



N=390

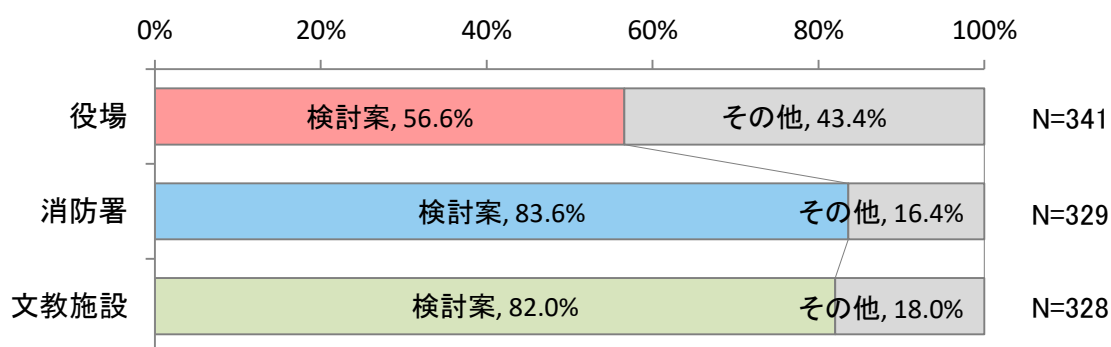
設 問	回答数	割合
大岩	15	3.8%
鹿部	60	15.4%
宮浜	161	41.3%
本別(鹿部リゾート除く)	67	17.2%
鹿部リゾート	87	22.3%
駒見	0	0.0%
合計	390	100.0%

図表 4-14 回答者の居住地区

(2) 主要施設の配置

【問6-1】将来的な「役場」「消防署」「文教施設（幼稚園・小学校・中学校）」の立地場所

- ・「役場」については、「役場の検討案」の支持割合は 56.6%、「その他」は 43.4%であり、拮抗している。
- ・「消防署」「文教施設」については、「役場の検討案」を 8 割以上の方が支持している。



設 問	役場		消防署		文教施設	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
検討案	193	56.6%	275	83.6%	269	82.0%
その他	148	43.4%	54	16.4%	59	18.0%
合計	341	100.0%	329	100.0%	328	100.0%
無回答・無効回答	49		61		62	

図表 4-15 将来的な「役場」「消防署」「文教施設」の立地場所

<施設の配置を「その他」とした方の具体的な移転場所>

- ・「役場」対する「その他の移転場所」の自由記述内容をみると、「現在地・まちの中心部」「リハビリ以外のバイパス付近」「その他」に大別できる。
- ・「その他の移転場所」の自由記述内容のうち、最も多かったのは、「バイパス付近」の 23.2%（全体回答数 341 人中）であり、その中でも、「鹿部公園付近がよい」との回答が多かった。
- ・また、「バイパス付近」に次いで多かったのは、「現在地・まちの中心部」であり、12.6%となっている。

図表 4-16 「役場」の立地場所について、「その他」と記載した方の具体的な場所

位置		回答者数	割合	
現在地 まちの中心部	「現在地」	27	7.9%	
	「まちの中心部」	9	2.6%	
	「幼稚園」・「中央公民館」付近	5	1.5%	
	「総合体育館」付近	2	0.6%	
	(小計)	43	12.6%	
バイパス 付近	「リハビリ」～ 「鹿部公園」	「大岩会館」付近	1	0.3%
		「リハビリ」～「鹿部公園」の中間等	3	0.9%
	「鹿部公園」～ 「バイパス・道道交差点」	「鹿部公園」付近	36	10.6%
		「バイパス・道道交差点」付近	21	6.2%
		「鹿部公園」～ 「バイパス・道道交差点」の中間等	17	5.0%
	「バイパス・道道交差点」～ 「本別地区」	「山村広場」付近	1	0.3%
		(小計)	79	23.2%
その他	「鹿部駅」付近	1	0.3%	
	「道の駅」付近	4	1.2%	
	「町民公園」付近	3	0.9%	
	「浄水場」付近	1	0.3%	
	「宮浜地区」	5	1.5%	
	「中間点」	1	0.3%	
	「バス停の前」	1	0.3%	
	「高台」	1	0.3%	
	「高齢者が行きやすい場所」	1	0.3%	
	「他の公共施設付近」	1	0.3%	
	(小計)	18	5.6%	
無回答		9	2.7%	
「その他」回答者合計		148	43.4%	

- ・「消防署」に関しても「その他の移転場所」の自由記述内容は、「現在地・まちの中心部」「バイパス・道道交差点以外のバイパス付近」「その他」に大別できる。
- ・「その他の移転場所」の自由記述内容のうち、最も多かったのは、「バイパス付近」の 8.8%（全体回答数 329 人中）であり、その中でも「リハビリ付近がよい」「鹿部公園付近がよい」との回答が多かった。
- ・次いで多かったのは、「バイパス付近」に次いで多かったのは、「現在地・まちの中心部」であり、4.3%となっている。

図表 4-17 「消防署」の立地場所について、「その他」と記載した方の具体的な場所

位置		回答者数	割合	
現在地 まちの中心部		「現在地」	13	4.0%
		「まちの中心部」	1	0.3%
		(小計)	14	4.3%
バイパス 付近	「リハビリ」～ 「鹿部公園」	「リハビリ」付近	15	4.6%
	「鹿部公園」～ 「バイパス・道道交差点」	「鹿部公園」付近	13	4.0%
		「鹿部公園」～ 「バイパス・道道交差点」の中間等	1	0.3%
		(小計)	29	8.8%
	その他	「鹿部駅」付近	1	0.3%
「道の駅」付近		2	0.6%	
「町民公園」付近		1	0.3%	
「鹿部漁港」付近		1	0.3%	
「浄水場」付近		1	0.3%	
「宮浜地区」		1	0.3%	
「高台」		2	0.6%	
「災害対応しやすい場所」		1	0.3%	
(小計)		10	3.0%	
無回答		3	0.9%	
「その他」回答者合計		54	16.4%	

- ・「文教施設」に関しても「その他の移転場所」の自由記述内容は、「現在地・まちの中心部」「鹿部公園付近以外のバイパス付近」「その他」に大別できる。
- ・「その他の移転場所」の自由記述内容のうち、最も多かったのは、「バイパス付近」の 8.9%（全体回答数 328 人中）であり、その中でも「リハビリ付近がよい」との回答が多かった。
- ・また、「バイパス付近」に次いで多かったのが、「現在地・まちの中心部」であり、7.1%を占めている。

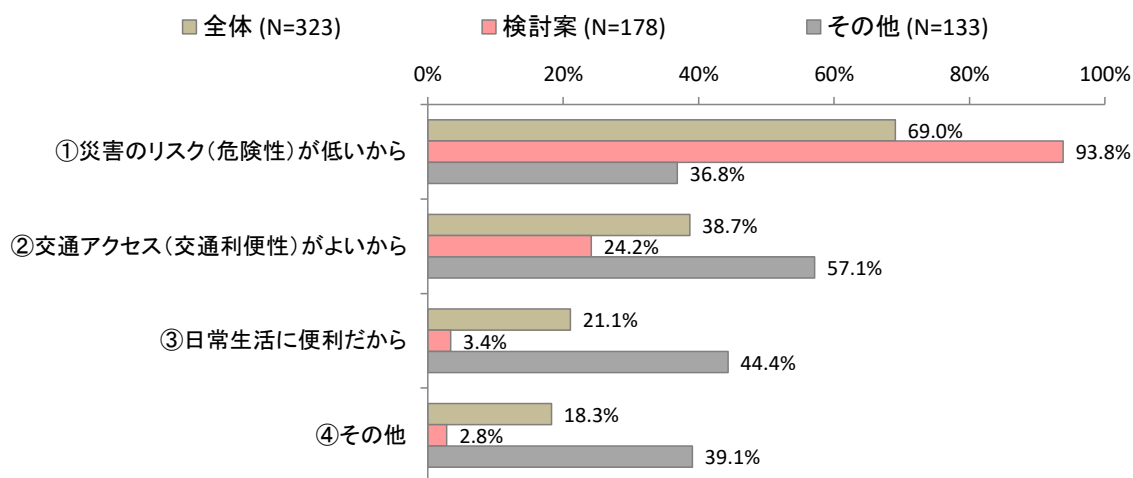
図表 4-18 「文教施設」の立地場所について、「その他」と記載した方の具体的な場所

位置		回答者数	割合
現在地 まちの中心部	「現在地」	19	7.1%
	（小計）	19	7.1%
バイ パ ス 付 近	「リハビリ」～ 「鹿部公園」	「リハビリ」付近	15 5.6%
	「鹿部公園」～ 「バイパス・道道交差点」	「町民プール」付近等	2 0.7%
		「バイパス・道道交差点」付近	2 0.7%
		「鹿部公園」～ 「バイパス・道道交差点」の中間等	2 0.7%
	「バイパスその他」	上記以外	2 0.7%
	（小計）		24 8.9%
その他		「道の駅」付近	1 0.4%
		「町民公園」付近	1 0.4%
		「宮浜地区」	1 0.4%
		「高台」	2 0.7%
		「川や海から離れた場所」	1 0.4%
	（小計）		6 2.2%
無回答		10	3.7%
「その他」回答者合計		59	18.0%

【問6-2】立地場所を選んだ理由（複数回答）

ア. 役場

- ・「問6-1の役場の立地場所」として、「役場の検討案」を選んだ方の選択理由をみると、「災害のリスク（危険性）が低いから」を93.8%の方が選んでいる一方、「日常生活に便利だから」は3.4%に留まっており、「災害リスクの低さ」を重視し、「日常生活の利便性」はさほど重視していない傾向にある。
- ・「問6-1の役場の立地場所」として、「その他」を選んだ方の選択理由については、「交通アクセスがよいから」を57.1%の方が選択しており、次いで、「日常生活が便利だから」が44.4%、「災害リスクが低いから」が36.8%と続いている。「その他」を選んだ方は、「役場の検討案」を選んだ方に比べ、「交通アクセス」「日常利便性」「災害リスク」を満遍なく重視している傾向がある。
- ・また、立地場所を選んだ理由を「その他」とした方の自由記述内容をみると、役場の立地場所を「現在地・まちの中心部」とした方は、「まちのシンボルである役場はまちなかにあるべき」といった意見が複数見られ、リハビリ以外の「バイパス付近」とした方は、「役場は地理的な町の中心がよい」といった意見や「消防署や文教施設の近くにおき、施設の複合化や連携を図るべきだ」といった意見が複数見られた。



選択理由	「役場」の立地場所		全体		検討案		その他	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①災害のリスク(危険性)が低いから	223	69.0%	167	93.8%	49	36.8%		
②交通アクセス(交通利便性)がよいから	125	38.7%	43	24.2%	76	57.1%		
③日常生活に便利だから	68	21.1%	6	3.4%	59	44.4%		
④その他	59	18.3%	5	2.8%	52	39.1%		
合計	323		178		133			
無回答・無効回答	67		15		15			

図表 4-19 「役場」の立地場所を選んだ理由（複数回答）

＜「役場の立地場所」を選択した理由を「その他」とした方の自由記述内容＞

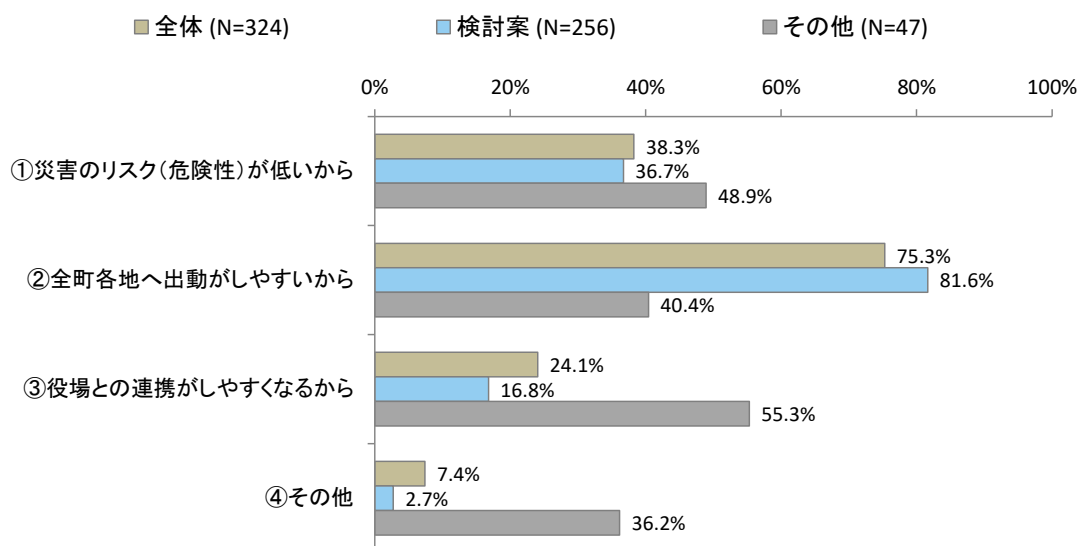
図表 4-20 「役場の立地場所」を選択した理由を「その他」とした方の自由記述内容

望ましい立地場所	分類	No.	意見
検討案	交通アクセス	1	②「交通アクセス」は最重点に考えてほしい。
		2	高齢化により車を利用できなくなるため、定期的な送迎車を用意して欲しい。
		3	交通利便性が悪いのが難点だが。
	災害リスク	4	上から下の町が良く見えることによって、何かあった時に早い対応ができると思う。
	その他	5	1 は山にダムがある
その他	交通アクセス	6	交通利便性がよいため、いまの場所のままがよい。
		7	高齢者にはリハビリは遠すぎる。
		8	住民が徒歩で行ける。
		9	仕事があるので昼休みにしか利用できません。リハビリまでは遠い。
		10	今の場所からかなり離れている。必ずしも全世帯に車があるとは限らない。
		11	リハビリ付近だと交通の便も悪い。車を運転出来る住民ばかりではないので移転すると不便。→自転車や徒歩の方々も多数います。
		12	リハビリだと車のない人は不便
	災害リスク	13	大岩に近く海が近く心配。
		14	役場職員の自宅が宮浜が多く、緊急時に集まりやすい。車移動が不可能な場合、町の中央にあった方がよいと思う。
		15	現役場庁舎三階(展望台)は、駒ヶ岳及び全町・前浜が見える(監視)できる場所に建てられている＝新たな役場庁舎や消防署はこの機能を維持することが重要ではないか。例：役場庁舎を3階～4階にして、上の階には防災課などが常に全町が見える施設づくり。道道～幼稚園付近までの町道拡幅が必要。日常的な「まちづくり」中心的公共施設。
	まちとしてのシンボル	16	災害時での役場の役割を考慮するなら、災害時での避難場所である総合体育館の近くにあるのが合理的である。本庁舎は現在地に置きつつ、支所を災害リスクが少なく、鹿部町の中心街からも遠くなく、災害時での機動性(オープンスペースがあること等)に優れ、交通アクセスもよい場所に設置するの一案(鹿部バイパスと山村広場の合流地点等)。
		17	役場だけはやはり中心(鹿部町の)にあるべきだと思います。
		18	町の中心
		19	役場は鹿部の「まちのへそ」。旧国道沿いの街並みこそが鹿部の歴史であり、町の重心である。役場が災害リスクや施設改修コストの負担を理由に町の郊外に移ることは、鹿部の街並みを捨てることであり、旧国道沿いに居住する住民を見捨てることでもある！旧国道沿いの街並みは、「道の駅」～間欠泉公園～鹿部温泉名湯巡り～鹿部海、港～シーフードレストラン～シーサイドカフェ といった観光資源の本丸であり、駒ヶ岳山麓リゾートエリアへのゲートウェイでもある。
	その他	20	町民の反対も少ないと思う。利便的には、町中央部。
		21	真に建て替えが必要なら検討結果でも良い。
		22	もしも(災害)のことばかり気をとられずに町の経済効果を優先すべき。
その他	交通アクセス	23	リハビリに配置したら本別地区は遠いです。宮浜バイパス上がよろしいです。
		24	車が無い為、坂道だと体がつらいので。
		25	町民が徒歩、自転車で出向きにくい(高齢者)。
		26	本別リゾートには高齢者が多く、運転を自分でできない方も多い為、今以上に遠くなるともっと不便になります。
	災害リスク	27	リハビリの方は遠すぎるので災害の時に困ると思います。
		28	災害で車が使えない時徒歩で行くことが難しい。
		29	リハビリ付近は片寄りすぎ。災害の時に避難所となる学校等と近くて良いと思います。
		30	大岩地域会館を臨時役場とすべくバックアップ体制を整えておく。
		31	津波対策
		32	災害、利便性を総合的に考え。
		33	消防と近い方が災害時連携しやすいと思ったから。

望ましい立地場所		分類	No.	意見
その他	バイパス付近	まちとしてのシンボル	34	行政機関は町の中心が良いと思う
			35	町内の真ん中が町民みんなの中心だから。
			36	中心に近いから
			37	町の中央部に
			38	町の中心地域に配置することが住民サービスにつながる。
			39	町全体の中心部に。
			40	町内中心に近い所
		他施設との連携・複合化	41	他関係部署と連絡が取り易い
			42	主要施設をまとめる
			43	集中化
			44	連携をとる為
			45	全部近くがいいから
			46	消防・公園・学校の近くにあるとよい。
			47	役場、消防、文教施設は１ヶ所にまとめたほうが機能的、効率的であるから。
			48	消防署とリンク
			49	役場は消防と近い方がよい。
			50	リハビリにも近いし消防とも連携しやすくなる。
			51	文教施設に近い
			52	この3つの施設は近い所が良い。
			53	主要施設がまとまっている方がよいと感じる。
			54	大岩会館に同居
			55	公園を活用しながらの。
			56	何かあった時に一ヶ所に集中しておくで非常設備建設費のコストがおさえられる。
その他	バイパス付近	その他	57	バイパス付近の宮浜
			58	別荘地域を考慮。町の将来計画と10年計画をあわせて未来の町構成とする。
			59	役場を利用する時は思ったほど少なくなっている。
			60	環境が良いから
	その他・無回答	交通アクセス	61	町民が徒歩や自転車で行き来できる場所だから
			62	渡島リハビリテーションセンター付近は遠くて不便。
			63	リハビリ近くは町営バスもなく、遠い場所に立地を考えると高齢者には酷だと思う!! 交通の便が非常に悪い。中間地点にすべきである。
			64	リハビリ近くは車がないとダメ。大岩地区に不便を感じる。町民の多くは宮浜、鹿部が多いので。
		災害リスク	65	川にはさまれていないため。
			66	役場は司令本部となるため、被災しない所が良い。
		日常の安全性	67	リハビリ付近の交差点の事故が心配
		他施設との連携・複合化	68	文教、消防の連帯位置
			69	学校等有る
		その他	70	町営バスは一般の人も乗り降り出来る様にすべきである。
			71	町民公園利用者は年間どのくらいの人数が？
			72	②と③を開発できれば場所にこだわらず。
			73	災害リスクが少ないが町発展を根本から変えるのでは。
無回答		交通アクセス	74	日常生活で交通の利便性がわるい
			75	車の運転ができない人でも行ける所
		災害リスク	76	安全だから

イ. 消防署

- ・「問 6－1 の消防署の立地場所」として、「役場の検討案」を選んだ方については、「全町各地へ出動しやすいから」を 81.6%の方が選んでいる一方、「役場との連携がしやすくなるから」を選んだ方は 16.8%に留まっている。
- ・「問 6－1 の役場の立地場所」として、「その他」を選んだ方については、「役場との連携がしやすくなるから」が 55.3%、「災害のリスクが低いから」が 48.9%、「全町各地へ出動がしやすいから」が 40.4%と、「役場との連携」「災害リスク」「出動のしやすさ」を満遍なく重視している傾向にある。
- ・また、立地場所を選択した理由を「その他」とした方の自由記述内容をみると、消防署の立地場所を「現在地・まちの中心部」とした方は、「現在地でも全町に出動可能」「住宅地が移動しないのであれば消防署も現在地が良いのでは」といった意見が見られた。また、消防署の立地場所を「道道とバイパスの交差点以外」の「バイパス付近」とした方は、「津波が心配」という意見が複数寄せられた。



選択理由	「消防署」の立地場所		全体		検討案		その他	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①災害のリスク(危険性)が低いから	124	38.3%	94	36.7%	23	48.9%		
②全町各地へ出動がしやすいから	244	75.3%	209	81.6%	19	40.4%		
③役場との連携がしやすくなるから	78	24.1%	43	16.8%	26	55.3%		
④その他	24	7.4%	7	2.7%	17	36.2%		
合計	324		256		47			
無回答・無効回答	66		19		7			

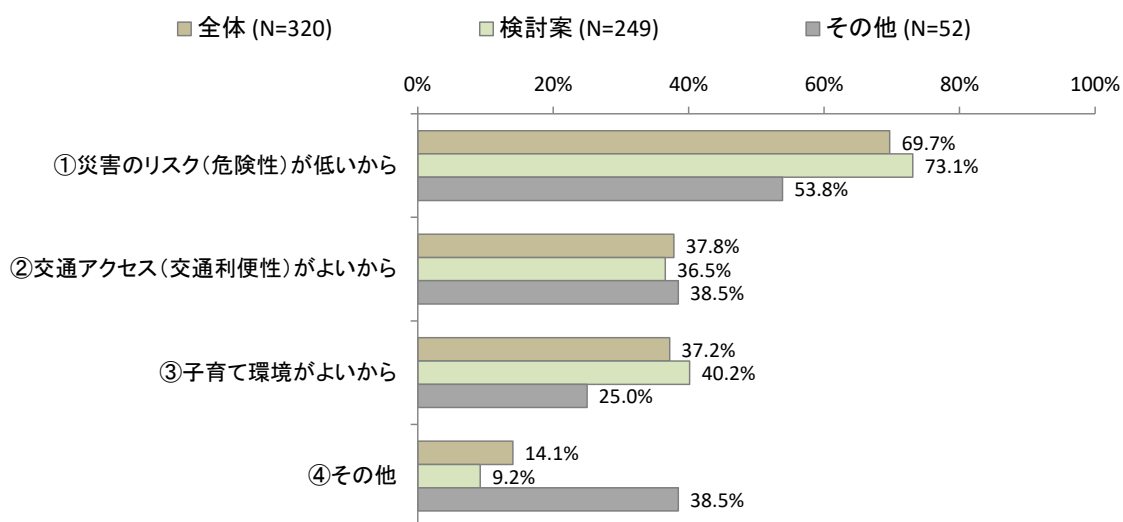
図表 4-2 1 「消防署」の立地場所を選んだ理由（複数回答）

＜「消防署の立地場所」を選択した理由を「その他」とした方の自由記述内容＞

望ましい立地場所		分類	No	意見
検討案	出勤のしやすさ		1	函館/北斗等へ移動し易い
			2	出勤に一番便利だから。
			3	町の中心
	その他		4	文教施設付近だと通学中危険かなあと思う。
			5	場所的にベストと思う。
			6	適地があまりない為
			7	特になし
その他	現在地・まちの中心部	出勤のしやすさ	8	今の場所でも全町へ出勤可能な訳だし、特に問題は無いと思うから。
			9	住宅地が変わらない。
			10	船の火災とかもあるから。
			11	町内の行き先、まようから
		その他	12	対費用効果の点で移転・新設は不合理。消防署の移転は不要。災害時に必要なのは、消防署(建物)ではなく、消防士・救急救命士と緊急車両(消防車や救急車)であり、両者は常に行動を共にしている(24 時間シフト等)。従って、何らかの災害が発生した場合(あるいは噴火等が予想される場合)、両者が臨機応変に適切な場所へ移動し、適宜、その場所を活動拠点化(モバイル通信環境の完備が前提)していくことが現実的で合理的である。
	バイパス付近	出勤のしやすさ	13	278 号線。海岸線に通行困難時バイパスより侵入が出来るから。
			14	リハビリ付近でも出勤時間に 1 分も差はないと思う。
		災害リスク	15	津波の時の事を考えたら、高い所が良いと思う。
			16	津波浸水区域外。
			17	川の近くは×。
			18	役場と隣接の方が良い。津波が来たときの場合①の場合ですと低地ですので災害がおきたら出勤が困難なのでは。
			19	①と加えて役場が検討した配置案だと津波のとき機能するか疑問がある。
			20	計画では、ハザードマップによると火砕流の到達区域内となっている為リスク回避する。少しでもリスクが有る場所は回避する事が最善策です。
		他施設との連携・複合化	21	役場に近いほうが良い？
			22	役場とリンク
			23	役場と近いほうが良いと思う。
			24	管理コストと合理性を考えるべき。できれば役場と併設。
			25	大岩会館と合同庁舎とし個々に作らず。
その他	その他	災害リスク	26	より高い場所。
			27	町、港を一望出来る所。
			28	道道交差点は駒ヶ岳噴火災害を考えた場合？もっと大岩、鹿部方面ではないか。
		出勤のしやすさ	29	町(街)が見える場所。日常の救急車利用＝リハビリやリゾート。
		他施設との連携・複合化	30	施設は集中してるほうが対応しやすい
		災害リスク	31	川に近い(津波)

ウ. 文教施設

- ・「問 6－1 の文教施設の立地場所」として、「役場の検討案」を選んだ方については、「災害のリスクが低いから」が最も多く、73.1%の方が選んでいる。次いで「子育て環境がよいから」が 40.2%、「交通アクセスがよいから」が 36.5%と続いており、「災害リスク」を最重視しながらも、「子育て環境」「交通アクセス」も満遍なく重視している傾向にある。
- ・「問 6－1 の役場の立地場所」として、「その他」を選んだ方についても、「災害のリスクが低いから」が最も多いものの、53.8%となっている。また、「子育て環境がよいから」は 25.0%と「役場の検討案」と比較して、重視している方の割合は低い。
- ・また、立地場所を選んだ理由を「その他」とした方の自由記述内容をみると、文教施設の立地場所を「現在地・まちの中心部」とした方は、「バイパスを超えて通学するのは危険ではないか」や「鹿部公園付近は熊が出る可能性があるのではないかな」といった「日常の安全性」を重視する意見が寄せられた。また文教施設の立地場所を、鹿部公園以外の「バイパス付近」とした方は、「火砕流の危険性があるため、リハビリ付近にした方がよいのではないかな」「リハビリ付近に建て、役場と連携したらどうか」といった意見が複数見られた。



選択理由	「文教施設」の立地場所		全体		検討案		その他	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①災害のリスク(危険性)が低いから	223	69.7%	182	73.1%	28	53.8%		
②交通アクセス(交通利便性)がよいから	121	37.8%	91	36.5%	20	38.5%		
③子育て環境がよいから	119	37.2%	100	40.2%	13	25.0%		
④その他	45	14.1%	23	9.2%	20	38.5%		
合計	320		249		52			
無回答・無効回答	70		20		7			

図表 4-2-2 「文教施設」の立地場所を選んだ理由（複数回答）

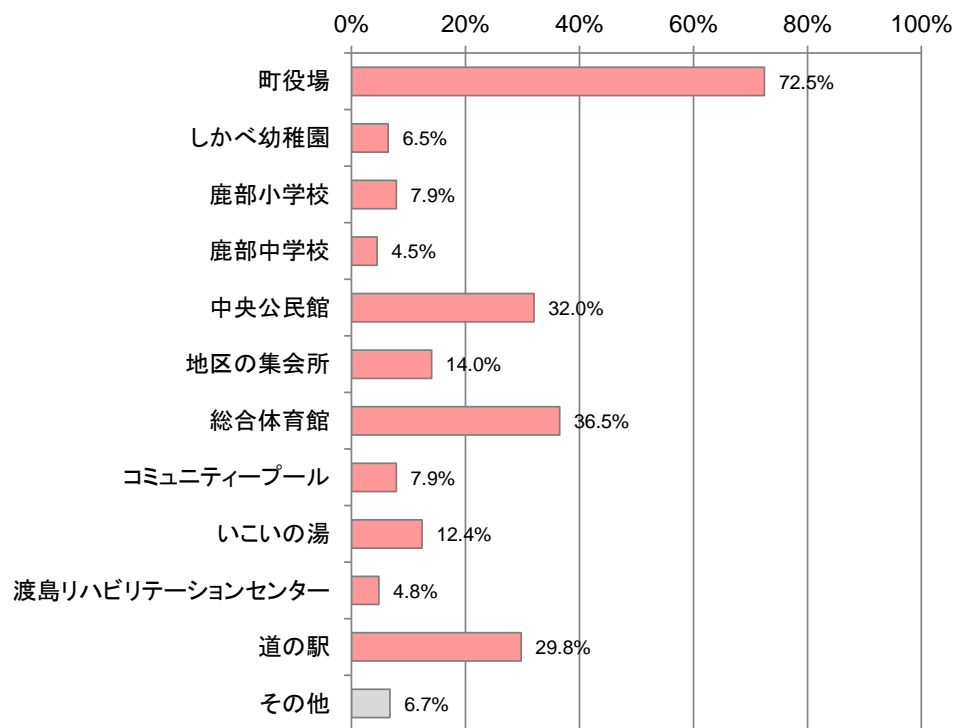
＜「文教施設の立地場所」を選択した理由を「その他」とした方の自由記述内容＞

望ましい立地場所		分類	No.	意見
検討案		交通アクセス	1	現状との距離に差が少ない。
			2	シャトルバスを考える
			3	スクールバスも考えてはどうですか？
			4	他の文教施設（公民館等）も集約すべき。「文教施設」の集約化には公共交通機関等の充実が不可欠。
		災害リスク	5	危険性が一番ない所なのでいいと思います。
			6	避難場所としても使用可
			7	幼小中とまとまっていたら災害などの時、保護者が子供の安否が確認しやすい。
			8	川が近くにあるが、津波などの災害は大丈夫か
			9	子は宝です。高台へ。
		日常の安全性	10	消防署とはもう少し離しては？
			11	防犯のため鹿部駐在所近くに。熊と馬にも注意が必要。
			12	児童の通学路の安全性、特に冬道の確保を考えて欲しい（今より遠く、山路となる）。
			13	今の学校交通は道路がせまいです。バイパス上の学校だと交通にしる歩道が広いし通いやすいです。
			14	バイパスに通学路の標識ができれば、皆速度も落とすでしょ。
			15	バイパス付近に配置するのは良いが児童が交通事故にあうリスクが気になる。
		他施設との連携・複合化	16	集中化
			17	文教地区とする
			18	全部近くがいい
			19	公園自体の活性化にもなる
			20	子供たちがプールや公園で使うのに便利だと思う
			21	プールも近い。
			22	町民プールが近い
			23	幼稚園や学校のみならず、公民館や図書館、コンサートホール、ローカル FM/ネットステーション等の文化・コミュニティ施設を、鹿部公園周辺に集約配置することには合理性（新しい鹿部カルチャーの発信拠点として）がある。前提として、災害発生時での緊急移動手段としての活用も含め、町内や鹿部近郊、駒ヶ岳山麓や大沼公園等の観光スポット、JR 鹿部駅等を周遊するスクールバスやコミュニティバスの充実が必要。
		その他	24	JR 鹿部駅周辺を、オールシーズンのトレッキングコース・クロスカントリースキーコースとして整備し、道南の新たなエコツーリストスポットとして活用すれば、ダイワロイヤルホテルと連動した新たなインバウンド観光の振興策にもつながるものと考えます。
			25	場所的に最適だと思います
			26	平坦地が少ない為
			27	特になし
その他	現在地・まちの中心部	交通アクセス	28	子供たちが歩いて通えるのか。
		災害リスク	29	災害時、バイパスが混雑すると予想され、逆に避難ができなくなるのではないかな...
		日常の安全性	30	あまり山へ建てると熊の出没もあるかも。市民が見守れるほうが良い。
			31	BP を超えて通学することにそれなりのリスクがある
			32	周りに行き届く
		他施設との連携・複合化	33	例えば小学校を小中一緒にするとか etc
			34	現在の小学校の場所に小中と一緒に。幼稚園は現在の場所がいい。公民館やプール、総合体育館が近くて便利だから。災害のことは普段から準備が大切!!
			35	現在の施設のリニューアルと統合。新設、移動は控えるべきです。
		その他	36	バイパス上は、土地の整備だけでも費用がかかると思う。
			37	何でもかんでもバイパス沿いの考えを否定します。

望ましい立地場所		分類	No.	意見
その他	バイパス付近	交通アクセス	38	リハビリ付近でも、現代は親が車で子供を送迎するので、遠くても問題は無いと思う。
			39	リハビリ付近に移転させる。スクールバスがあっても良いと思う。
			40	公園付近でも良いと思うが、バス通学している子供達もいるのでバス停からの距離が遠くなるのではないかとと思うので、学校の目の前までバスを乗り入れてもらう又はスクールバスの導入等を考えてもらいたい。
			41	鹿部公園付近は、子どもたちが通うのに困るのでは？
			42	鹿部公園利用は自然に触れ良いと思うが。園児は親が迎えにくるが、児童は歩きや自転車が主も。
		災害リスク	43	リハビリ付近がよい。災害リスクが最も低いから
			44	少しでも災害リスクを0(ゼロ)に近づけるために、全ての施設をなるべくリハビリに近いほうが良いと思う。
			45	リハビリに移転。計画では、ハザードマップによると火砕流の到達区域内となっている為リスク回避する。少しでもリスクが有る場所は回避する事が最善策です。
			46	町民プール付近。津波には強いと思う。
			47	リハビリ付近都市、確実に命を守ること。津波はもちろん、火砕サージのことも考え、1棟にまとめた方が何かと目も届く。管理もしやすい。建てる費用も変わるのでは。役場を建てる所と同じに文教施設をいれるべき。鹿部公園付近だと、もしものとき先生方が子供を連れ避難となるととても大変だと思う。いつおこるかわからない災害。明日かもしれない、1か月後かもしれない、1年、10年後かも。最悪な事態を考えての計画がただの計画だけで終わらないことを願います。今いる子供たちが大人になり、また鹿部に住みたいと思えるような計画をして実現して下さい。
			48	利便性より災害リスクを優先。
			49	環境は良いが川のそばは危険。
			50	公園付近だと、津波の時川につたって波が昇ってくる恐れがある為。
			51	鹿部公園付近は、川の近くであり、また熊が出没する危険性がある。
その他	バイパス付近	災害リスク	52	子ども達が通うのに坂を登るのが大変そう。鹿部公園付近はクマが出るので危ないので避けたい。
			53	児童を見守る体制に不安がある。
		他施設との連携・複合化	54	役場との連携がしやすくなるから。
			55	リハビリ付近にたてたら。1階幼稚園や教育関係、2階小学校、3階中学校、4階役場関係など、博多にはそのように建てているところがある。子どものことを考え、検討してほしい。
			56	リハビリ付近でバイパスつながりで良いかも。
			57	幼小中を1棟とする(統合)。
			58	施設は集中してるほうが対応しやすい
		その他	59	園舎も役場も津波の高さを考えた施設づくり＝1階は駐車場(役場)、1階は遊び場(幼稚園)など、お金はかかるが、そんな施設づくりもある。
			60	公共施設の多目的利用や財源の軽減。現小学校の活用。例:園児は二階など。
			61	役場をリハビリ付近とした理由。
			62	町の中央部に
無回答		交通アクセス	63	交通の利便性がわるい
		災害リスク	64	川の近くは津波の時に危険ではないですか？

【問7】町内の主要施設のうち、よく利用する施設（複数回答）

- ・「町役場」をよく利用していると回答した方が最も多く、72.5%となっている。
- ・次いで、3割程度の方が「総合体育館」「中央公民館」「道の駅」をよく利用していると回答した。
- ・今回の課題施設である文教施設（「しかべ幼稚園」「鹿部小学校」「鹿部中学校」）をよく利用していると回答した方は5%程度に留まった。



N=356

設問	回答数	割合
町役場	258	72.5%
しかべ幼稚園	23	6.5%
鹿部小学校	28	7.9%
鹿部中学校	16	4.5%
中央公民館	114	32.0%
地区の集会所	50	14.0%
総合体育館	130	36.5%
コミュニティープール	28	7.9%
いこいの湯	44	12.4%
渡島リハビリテーションセンター	17	4.8%
道の駅	106	29.8%
その他	24	6.7%
合計	356	
無回答・無効回答	34	

図表 4-23 よく利用する施設

(3) 【問8】自由記述

- ・自由記述の内容をみると、おおよそ「今回の課題施設」「他の主要施設」「まちづくり全般」「交通」「産業」「財政」「災害リスク」の7つのカテゴリに分類できる。
- ・最も多くの意見が寄せられたのは、「今回の課題施設」についてであり、「役場や消防署、文教施設はなるべくまとまって建てた方が使いやすく財政上も負担が少ないのではないか」といった意見が多数寄せられた。また、次いで多くの意見が寄せられたのは「他の主要施設」についてであり、「スーパーや衣料品店が欲しい」「町営の温泉施設が欲しい」といった意見や、「観光コンテンツを整備したほうがよいのではないか」といった意見も寄せられた。
- ・また、「まちづくり全般」について、「公共施設をバイパス沿いに移転するであれば、住宅地や商業ゾーンも移転するのか」といった「まちの構造」についての意見も複数寄せられた。
- ・その他、「交通」については、「町営バスやコミュニティーバスの運行が必要」といった意見、「産業」については、「町に働く場が欲しい」といった意見が見られた。

分類	No.	内容
今回の課題施設について	1	津波、駒ヶ岳の噴火、災害に対応するための主要施設の場所の配置、よく考えられていますね。公園では春は桜と、自然豊かで子供たちの心に残るふるさとを作ってください。
	2	役場が検討した配置案と同じ考えです。
	3	公共施設の建替えする際には、出来るだけ複合化してほしい(利便性の向上、イニシャルコスト削減)
	4	主要施設は一ヶ所に集めると便が良いと思う。リハビリの方は遠すぎ。中央辺りにすべき。
	5	役場、消防署、文教施設全部まとめてしまったら。
	6	文教施設、消防署、役場が近くにあるのがよいと思います。
	7	公共施設はなるべくまとまっていたほうが良いと思います。少子化でこどもの数が少ないので、幼稚園、小学校、中学校は1つの建物で良いのではないかと思います。
	8	鹿部は広いです。出来るなら1ヶ所にまとめて造ると何かと便利で解りやすいと思います。
	9	幼稚園、小学校、中学校、給食センターすべてが1つの校舎にしてみたらどうでしょう。1階が小学校、2階が中学校、隣の棟に子ども園など...少子化で寂しくなるので、それもあり?と思ったりします。
	10	学校建設に関して建てる場合(新設)小学校と中学校は1つの建物に集約するべきと考えます。生徒数の事、先輩後輩等の事を考えた場合。
	11	役場、文教地区、体育館、集会所、歩いていける様に1ヶ所にまとめてほしい。
	12	問6の文教施設、総合学園のようにして共用利用の施設も考えれば建設費の節約になると思います。
	13	集中化によって利便性が出てくる。又、交通網を検討することで町全体の循環的な動きが出来る。噴火・津波の影響を受けないためには、標高の高い所へ。役場建て替えを検討の場合、その地域に行けばおおよそのことが出来る様に(役場、公民館、図書室、文教施設)。出来ることなら医療施設もあれば...
	14	役場、消防署、小中学校など、公共施設はバラバラの地に移動するのではなく、隣接地に全て集結し(高台の、津波が避けられる立地)連携を密に出来るようにすると共に、造り方を工夫する事で建設費用のコストダウンをはかる。コミュニティバスなどの運行についても集結スタイルの方が便利。漁連、郵便局、渡島信用まで含めて集結出来ればベストと思う。年配者の利便性が格段に向上する。
	15	1.役場も公共施設も交通利便性が確保できる文教施設のある所がいいと思います。2.小中学校は生徒数が少ないので一緒にしたほうが良いと思います。
	16	用地の問題もあるが、バイパス、しかば公園を基にして役場、文教施設など人が集まる場所と公園も観光資源として活用しては?!
	17	今まで通り、鹿部町の中に作ったほうが良いと思います。
	18	今のままでいい。今のままが一番良い。
	19	アンケートにも書いたが、役場は町の中心付近が良い。リゾートや出来瀬地区の利便を考えると。それでなければ交通アクセスを考えてほしい。人口も減っていくので、大きな施設を作らず小回りのきく町作りを望みます。
	20	役場は宮浜にあったほうが良いと思います。
	21	まず初めに、町役場は町の中央部にあるべきだと思います。町内全域から行き易いことが大事で、消防署の

分類	No.	内容
		近くにあるのが望ましいと思います。文教施設は自然環境の良い鹿部公園付近に、というのは賛成です。様々な催し会場となる中央公民館も文教施設の近くにあるといいと思います。
今回の課題施設について	22	役場は生活拠点から離さず、利用しやすい地点を考えて。
	23	町とリハビリテーションセンターとの協力関係が将来の鹿部町にとって大事だと思います。ぜひリハビリの近くにしてください。
	24	役場の場所については、災害リスクのみを考えると役場案に賛成だが、町のシンボリック要素と利便性を考えると現在地のほうが良いと思われ、決めかねる部分もある。要検討。
	25	防災を考えた場合、役場、消防、幼稚園は現在位置から移動すべきである。問 6 将来的とあるが、5 年先なのか 50 年先なのかで出てくる意見も変わるのではないかな。
	26	コンパクトな町づくりと公共施設については、既設の施設の活用が望ましい。今後、人口減となり財政的に苦しい時代が来るので施設の建設はひかえるべきです。
	27	役場は避難場所になるわけではないので、建て替える必要はないのではないのでしょうか。それよりも町民の生活をより豊かにする方に予算をくんでください。
	28	利用者、町民の利便性を重視した配置を考慮して頂きたい。
	29	役場がリハビリ付近に行ったら公住から遠くなるので車の無い人の事を考えて下さい。
	30	役場は町の中心に使い所が良いと思います。リハビリの方では本別方面からは遠いのではないかと思います。
	31	自家用車がなくても町役場、郵便局に行けるとよいのだが。
	32	幼稚園のサクの周りの一部に長イスとテーブルなんか置いてお年寄りがお遊戯などを見られるようにしたり、一緒に遊べる様にしたら先生の負担も減って良いかな。
	33	幼小中学校 3 校を建てるには平坦地が無く、町内所有者の土地も少ないのではないかな？
	34	学校などは危険性をなくすため。周りに目のつきやすい所が良いと思います。
	35	1.町の人口減少を考えて箱物は作らない(将来若者に現代人の負の財産を残さない)。2.どうしても作るならこの町を出ていく。3.国の補助金(70%)をあてにして一部業者を喜ばすな!! 4.現在の町有財産の将来へのメンテナンス費用を考えよ!! 5.町有地の一部町民利用。現状は改める(利用を入札制及び現状の公表する)。
	36	人口統計して過度な大きさは極力さけるべき。
他の主要施設について	37	ショッピングセンターを誘致してほしい。
	38	薬局やスーパーと一緒にある複合施設を作してほしい。
	39	ドラッグストア(サツドラ、サンドラ、ツルハ)がないので不便。ニコットじゃ用が足りない。
	40	日用品の買い物が大変不便。今は車の運転ができるから大変だけど暮らせているが、年をとって車の運転ができなくなった時、ここでは暮らせないと思う。店がふえてほしい。
	41	衣類を扱う店がないので小人から大人までの衣類を扱う店がほしい。町外まで行けない人が多いと思うので。食品などは今の店で充分だとは思いますが、薬局などもあれば。町外で買い物する人が減るのではないだろうか？
	42	飲食店や、子供から大人まで楽しめる施設をもっと増やしてほしい。遠方から友人や両親などが遊びに来て遊ぶところがなく、なかなか来なくなってしまふ。コミュニティカフェはとても良いと利用して思いました。これからも利用して行きたいと思いました。子どもの遊べる遊具もあると運動になりもっと楽しいかな。
	43	町の人口・規模にしては公共施設が充実していると思います。飲食店が少ないのが難です。
	44	病院も少ない。診療所での診察が無理な場合、病院に通えない。住みづらい町。住みづらく交通の便が悪いから免許証を返納できない。
	45	温泉施設の充実。食事も出来る健康センターのような施設。家族も利用できること。
	46	公営の「温泉施設」を新設して欲しい。教育施設の移転をする際には、図書館も合わせて造ると良いのでは。
	47	日帰り温泉入浴施設、併設でオートキャンプ場、自然を利用したアスレチック遊具や体験型施設等があれば通年で町民をはじめ、町外からの観光客や海外からの旅行者が訪れるのではないのでしょうか。バイパスと道々交差点のたらし看板の上部に時計が付いているが温度計の方が良いと思います(町民の話題作りにもなる)。町全体で Wi-Fi スポットを作れば便利。
	48	温泉施設。でっかいの。
	49	見晴らしの良い場所に温泉施設。それに付随する宿泊施設。ここに滞在して楽しめる釣り公園、パークゴルフ場、温水プール等。(子供連れで楽しめる雪遊び(そりやスキー)施設)(鹿部公園を冬も楽しめる(そりや歩くスキー)施設に改修。昔は小山でそり等が出来た)
	50	道の駅に入浴施設と間歇泉公園の無料化。
	51	町民の健康維持のため、プールを冬場もオープンしてほしい。その際、～200 円程度のプール使用料を払っても良いのではないかな。
	52	あくまでも希望です。冬場のプールがあれば！運動不足解消です。
	53	プールには行きたいが送迎がないので行けない。
	54	図書館を公民館内ではなく、新設してほしいです。本を通じて学ぶ事はたくさんあると思いますが、文化、教養の面でも鹿部町は学べる場所が少なすぎると思います。
	55	町民公園の利用者は年間何名くらい利用しているか。公園敷地内にまとめたほうが良いのではないかな。
	56	公民館は鹿部公園に作る方が良いと思います。

分類	No.	内容
	57	役場も建替えの時期と思われるが、各地区の集会場(生活館等)の集約等を先にすべきと思う。又、公営住宅についても、はまなすや湯の沢についても、建替えが必要と思われるが？
他の主要施設について	58	他の公共施設(公民館、社協等)も将来は同じ場所に!! 将来の人口減を考え、ランニングコストを徹底的に削減すべきである。1.温泉熱、地熱等の利用。2.ガードマン等のミニマム配置。役場を中心としたコンパクトなコミュニティゾーンにすべきである。
	59	①災害に強いまちづくり ②各イベントに対応出来る公共施設 ③避難場所 ④公共施設の老朽化(プール等)出来る限り公共施設は1ヶ所にまとめたほうが良いのではないかな？
	60	中央公民館など、土足でも入室可能にしてほしい。玄関でスリッパに代えるのは不便だし、何か災害があった時は危険だと思う。特に老人達はめんどろである。又、エレベーター設置も考慮してほしい。
	61	「総合体育館利用者も年々少なくなるでしょう(現在の利用者の高齢化)。幼稚園園舎を付近に建てて、柔道場なども活用して、元気な「鹿部っ子」を育てることもあり、と思います。※頑張ってくださいまちづくりをお願いします。
	62	道の駅の駐車場が不便。年寄りが歩くのが大変。子供の集まる所には親と一緒に来るので、観光面で考えると子供が季節を問わず利用できる場所を作って、町外からの人を呼び込むことも必要(人が来ないと物も売れない)。町の対策を見ていると大人の事(年配者)のことばかり考えが寄っている気がする。公民館は大ホールは直しているけど、裏の控え室が使いづらいし、全体的に使いづらい。総体前の元の噴水の所は板も傷んできて、小さい子供が遊んでいても危ないと思うことがある。町民公園の、元は滝のあった場所は景観が悪く改善したほうが良い。道の駅のバイパス側も草が生えていて見栄えも悪い。早く何かしら(計画していることでも)の対応をして欲しい。大岩の川もせっかく鮭が遡上するので遡上しやすくしてあげることで資源増へ働きかけて欲しい。
	63	鹿部町に移り6年が経過しました。東京生まれの東京育ちの私にとり、自然と海に近く趣味の釣りも出来、環境的には満足していますが、年を重ね10年～15年先のことを考えますと渡島リハビリもあります、ダイワのホテルを利用した特老ホームが出来ないかと、村会があるたびに話をしておりますが、町としてもダイワホテルを利用した施設が提案出来ないか希望します。又、道の駅高台に温泉を利用した1日じゅうアロハ1枚で過ごせる南国の音楽等が流れる鹿部ハワイアンセンターはどうでしょうか。又、温泉組合とも相談し、古い日本をイメージ出来る、宿泊設備が併設し町外だけでなく海外からも集客出来、又、雇用も増えると考え、強く希望します。移動する手段がない町民への小型循環バス等の整備もお願いします。
	64	グランピングなど流行していて昔、鹿部にもあったように思うのですが、キャンプ場があればもっと町外からも人が集まると思います。管理など大変だと思いますので有料で。
まちづくり全般について	65	現在海拔が低い家の高所への移転のための住宅ゾーンは確保されているのでしょうか？また、新たな基幹産業のためのゾーンなども考えられているようなら、それをも意識した公共施設の立地計画であるなら良いと思います。
	66	皆が利用しやすい立地、災害にも強いということが大切ですが、現在の他の商店、公営住宅等の関係もあると思うので、その今後の動きとあわせて考える必要があると思う。高齢者、子ども等が施設までの利用がしやすくする必要もあると思います。今のバイパスは夜暗く、熊が出る危険もあると思うので、災害等の非常時だけでなく、通常時の安全面も考える必要があると思います。大掛かりな移動、まちづくりへの取り組みにおいて、町の財政面での心配もあるので、無理のない範囲内で実施してほしい。
	67	災害中心となるとバイパス付近になるが、一番の生活拠点バイパス付近ではないので、全てが良いとは言えない。人口減少が進む中で矛盾しているが、子どもが宝というのであれば、第三者であるが、一番しなければならぬ事はわかんと思います。私も親となり子ども中心の生活でよりよい鹿部町を期待しています。
	68	バイパス道路においては、避難路として作ったのだと思いますが、それにより旧国道沿いの衰退を招いているのは事実だと思います。今後、公共施設がバイパス沿いに移転などするならば、それなりの施策を考えるべきだと思います。
	69	全体的に街の中を鹿部バイパス周辺に移動させる方向が良いと考えます。
	70	いつまでも安心・便利に暮らせるまちづくりとは新しい道路ではなく、「ちょっと広げて」利用しやすく、今ある公共施設が気軽に利用しやすい体制づくりが必要だと思います。公共施設は「何を建て替えし」「何を利活用するのか」を整理すべきと考えます。
	71	全てを一度に進める、進めているような感があるので、出来ること、やりたいことを順序を決めて進めてほしい。「幸せ待ち」だけでは町は豊かにならないと思うので、現実的な施策も行ってまちづくりしてほしい。公共施設はどうせ建てるならハンパなものではなく、しっかりした建物をお金をかけてでも建てたほうが良いと思う。
	72	人口減少や高齢化を食い止める為、他府県からの移住を推進できるような街づくりを目指してください。
	73	町の人口が15年前と比較するとかなり少なくなっている。商店の数も少なく5本指にも満たない状態です。これから老人の多い町になっていく可能性は大と思われます。漁業の町も漁業をする人が少なくなると...？若い人達に町に残ってもらう方策を考えなければ!!
	74	65歳以上の方々のちからを借りての町づくりができると思うのですが。
	75	人的交流がしやすい町であって欲しい。
	76	「アンケート調査の背景」に記載されている問題の解釈が必要ですね。
	77	現状の(アンケート調査)生活利便性を考えた時、少々の不便は考慮したとしても、健康で居続けた場合のみ

分類	No.	内容
		町内で生活できるが、高齢者、自動車運転ができなくなった際にはここには住めない。何をもって安心、便利という定義が理解しかねる。
まちづくり全般について	78	<p>①今回の「町民アンケート調査」について：公共施設について、移設や新設を前提とするようなアンケートの実施、項目設定は、鹿部町民をミスリードするものです。「ハコモノ」(ハード)が先行し、「まちづくり」(ソフト)を後付け的に、お飾りとして扱った都市計画が、多くの自治体を財政圧迫・破綻に追い込んだこれまでの教訓が活かされていません。「防災」は国や道から相応の予算を獲得するうえで説得力のある現実的な方便であることは否めませんが、その成果が「ハコモノ」の乱立を招くだけでは、まちの活性化や町民の鹿部への愛着を育むことにはつながりません。町民の意見を「鹿部町土地利用計画」に反映させようとするなら、まずは「まちづくりの方向性」について町民と議論を深め、コンセンサスを形成する過程で、例えば、公共施設のありかた(「新設ありき」ではなく)などについて、種々の観点を織り交ぜた計画作りを行うのが行政のプロの役割です。まちの活性化や人口の増加があって初めて、持続可能なまちづくりにつながります。ピカピカの公共施設をつくることは、手段ではあっても目的ではありません。</p> <p>②「アンケート調査の背景」について：現状・課題について、「生活利便」、「産業」、「公共施設等」、「防災」の四点で整理されていますが、これらの観点・課題は、今回の公共施設の配置によって解決されるのでしょうか。特に「産業」振興こそが、持続的なまちづくりの源泉であり、その具体策こそが「鹿部町土地利用計画」の柱です。「町民アンケート調査」で町民に問うべきなのは、防災や老朽化を理由とした公共施設の新設計画推進(ハコモノ行政の猪突猛進)のお墨付きではなく、基幹産業である漁業の振興策、旧国道沿いの街並みのあり方、インバウンドも含めた観光業の振興策、町内や周辺の観光資源ともリンクする交通アクセスのありかたなどについて、具体案を提示し、鹿部町民が将来のまちづくりを考える短期・中期・長期の視座を提供することです。予算消化のための「アンケート調査」であってはいけません。</p>
交通	79	リゾートに住んでいるのですが、バスの停留所をゴルフ場と国道の交差点辺りに設けて欲しい。
	80	鹿部リゾートと街中の交通アクセスの検討が必要。高齢となりマイカー運転も出来なくなる為、コミュニティバスを運行して欲しい。料金も100円程度、日中の本数は1時間に1本とし、停留所も増やして欲しい。
	81	これから高齢者が更に増え、運転免許証を返納する人も多くなると考えられます。町内の施設や買い物など、自由に動けるのが町づくりの基本です！そこで町内を細かく巡回する町営バスが必要になります。ダサイ大型バスではなく、乗りたくするような遊園地風の中型バスが良いと思います(私立幼稚園の送迎バスのような物)。利用しないガラガラのバスが走っているのを見ると本当に痛ましい!!
	82	町営バスはいつ走るのですか？不便で仕方ありません。リゾート～役場、人を頼まなければ行けません。駅行のバスでは不便が出ます。道の駅にばかり力を入れる町では、高齢者を考えてない。
	83	町の地域公共交通について、高齢になり、現実買い物や通院、銀行など個人で行くのが困難になってきました。鹿部リゾート地域と市街地をつなぐ巡回バスを定期的に運行していただきたいと共に、新しく建設される公共施設への交通の整備をお願いします。
	84	公共施設を廻るバス(片道¥200)が2～3時間に1本のペースであると便利だと思う。
	85	鹿部町には生涯住み続けたいと思っています。そのためには、町役場、公民館、郵便局、診療所、渡島信金、道の駅、商店等を循環するコミュニティーバスを是非、運行して欲しいです。
	86	10年先になるとコミュニティバスが必要になるのでは。
	87	定期的なコミュニティー交通機関があると助かる。タクシー位は有っても良いのだが...
	88	役場案を進めるのなら地域交通網(マイクロバス)の拡充を考えて欲しい。
	89	今後は老人がもっと増えると考えられるが、1人で買い物や歩きが自由に出来る交通手段を考えて欲しい。
	90	児童、学生にスクールバスがあれば良いなあと思う。
	91	他の町の様にスクールバスを出してほしい。人の雇用にもなり、幼少中の迎いで通らずらくならない為。
	92	JR函館本線の現状を考えると、昼間の旅客列車運行がなく「住民の足」として機能不全に陥っています。学生の通学にはエコロジーの観点からも欠くことのできない存在でありながら、大部分が自宅と駅の往復は自家用車での送迎に依っているという環境負荷、家族負担の矛盾を抱えています。新幹線が札幌まで延伸されると函館本線はJRの手を離れ第3セクター化されるはずですが、「住民に愛される」鉄道創りをできるだけ早い段階で周辺自治体と協議するとともに、独自に函館本線と鹿部駅のあるべき姿を検討していただきたいと思っています。
	93	バス料金の高さをなんとかしてほしい。JRの時間が少なすぎる。
	94	町役場に高校生を朝集合し、駅が学校近くに送迎出来ると若い子が町外に行くことが減るかもしれない。
	95	(特に)役場立地場所について、検討の案の通り交通利便性の確保が必要と考えられます。コンビニ等における住民票等証明書交付サービス提供がなされる事により一層の利便性が向上すると思慮いたします。
	96	役場が考えた通りでいいと思うが、交通アクセスをしっかりと考え充実させてほしい。
	97	もう1本大沼に行ける道路があれば良いですね。
	98	道々鹿部、大沼線、見なおしていただきたい(通行止めになるので)。
	99	車輛事件がありすぎる。

分類	No.	内容
	100	バイパスに信号をつけてほしいです(本別方面)。 スピードを出す車が多いため、子供が道路を渡る時心配です(カーブもあって車が来ているか見づらい)。
産業	101	町内に働ける場所がほしい。理由:子供を預ける所は出来たが働く場所がないから。
	102	働く場所を作って(企業誘致等)人口を増やすべき。働く場所があれば、人は町に住むと思う。ないから外へ出て行くのだと思う(町内に働く場所がほしい)。
	103	人口増加をするために職場を増やしてほしい。
	104	若い人達が住みやすい町づくりをしてほしい。雇用の問題とか、あと、産業をたくさん増やしてほしい。
	105	これからますます人口減が進み、採算の取れない事業は撤収し、町外への人の流出が加速する気がする。漁業の基幹産業は重要であるが、それだけで生活が成り立つわけではない。これまでここで生活してみて、危機感を感じられない。近隣町と協力して新しい産業を生み出すとか、人が集まってくる町に変えていかないと町としての存続が怪しいのでは？
	106	鹿部町では観光を第2の基幹産業を皆で育てていこうとするなら、ゴミが散乱している漁港周辺、国道や道道脇のゴミ除去と町民マナーの向上などにまず地道に取り組まれ、基幹の漁業の一部の観光漁業化を推進したりすることも大事ではないかと思います。
	107	仕事が少なく若い人が町から少なくなっている事を考えると、大きな工場など誘致すべきだと思います。
	108	道の駅のオープンで観光客が増加の傾向にあるといいますが、その客を誘導できる観光施設を作るべきです。ひょうたん公園からの景色は最高です。最近では多くのアジサイが植えられていて、その季節は素敵だと思いますが、ほとんど見に来る人はいません。道東の芝桜ほどでなくても、例えば北竜町のひまわり畑、滝川の菜の花畑のように、色んな種類のアジサイを植えてアジサイ公園として集客できるようにはならないものかと考えますが…。思いつきですみません。
	109	海と温泉の町としては、海岸が観光客の為に整備されているとは思えない。観光客が遊べる海岸が少ない。
	110	道の駅の日帰り温泉の件、開発が遅れているがリスクを考えすぎで、道の北海道遺産になったことでなにも行動が早急に進めるべきだと思う。遅れば遅れるほど実現しなくなると思うし、冷え込むだろう。他に付加価値を付けて実現してほしい。
	111	鹿部町で働く仕事が漁業関係が主なのですが、漁獲量が減少している為、将来の事を考えた場合、漁業以外の仕事があると町内で働けるので良いと思います。
	112	温泉の町なので地熱を利用する事をもっとやってほしい。
財政	113	税金さえ高くならないければ建て直して OK。どこからお金は出るのですか？
	114	将来税金が高くないか心配です。
	115	建設に係る予算を十分検討して下さい。
	116	問6で検討の対象になっている施設の移転は全て必要と思いますし、できるだけ早く実施をするべきだと思いますが、費用のこともありますので何を優先させるか大切です。この点について十分検討して頂きたいと思います。
	117	鹿部町の財政の負担にならないよう無理な出費をしない形で計画していただきたいです。
	118	移転を計画されても実施する財力が鹿部町にはあるのか。
	119	ムダなお金を使わないでほしい。どこに配置しても変わらないと思う。
	120	身の丈にあったまちづくりをお願いします。
	121	町民の利便性を最優先にしたほうが良いと思う。町に財源があるのかわからない。公共施設の建て替えよりも優先しなければいけない事があると思います。
災害リスク	122	役場は町民も職員も距離的に近い場所にあったほうが良い。災害は台風や雨、風の災害のときにも歩いてでも夜にでも近い場所が良いと思う。文教施設に避難者が多くいる場合に、リハビリからなら職員が来るのに遠すぎませんか？歩いてでも行ける距離にしてほしいです。自分自身、これから年を取るのです、歩いていける今の場所の近くにしてほしいです。
	123	公共施設の建替える際には、再生可能エネルギーの活用をお願いしたい(災害対策)
	124	中央公民館なども避難場所になっているが、津波など不安を感じる場所にある。
	125	各会館や体育館が避難場所になっているが、海の近くで津波が来そうなところだったり、噴火で火砕流が来そうな所にあるの多いが大丈夫なのだろうか。
	126	駒ヶ岳の避難場所の総合体育館は火砕流の危険区域の中にあるので危ないと思います。ぜひ他の場所を避難場所に!!
	127	現在、駒ヶ岳噴火の際の避難所が総合体育館となっていますが、避難する程の大規模の場合は、体育館でも相当の被害があるはずで、避難所としては望ましくないと思います。
	128	本別地区の避難場所が総合体育館となっていますか？高齢者にはとても不便で、ひとり暮らしの人は大変なことだと思います。できれば本別地区に避難する場所を整えてほしいと思います。
	129	災害に強い町造りをお願いします。
	130	災害時において、町の機能がストップしないような検討を十分重ねていくと良いと思います。又、今後の人口

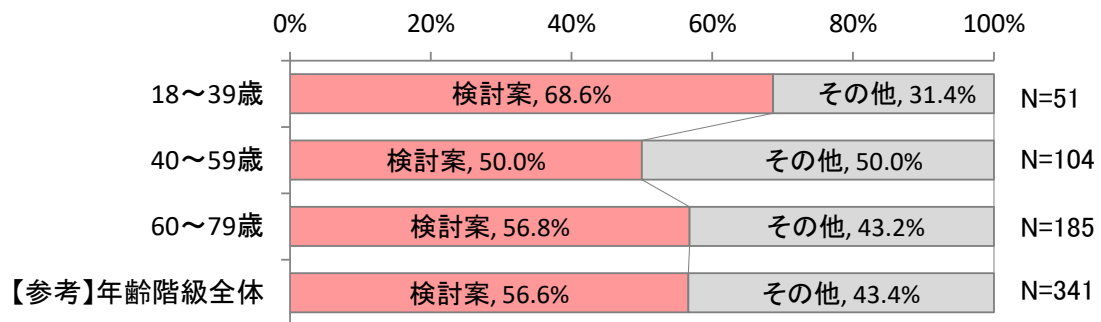
分類	No.	内容
		減少に伴い、公共施設を１ヶ所に集めて機能させることも大事かと考えます。ライフライン(ガス、電気＝非常電源設備、水道、燃料の備蓄)の確保も検討しておいたほうがよいと思います。
災害リスク	131	自然災害のリスクを少しでも回避したいのは行政として当然な考えでしょう。全国的な人口減の時代です。鹿部町も残念ながら然です。そして高齢化社会です。日本全国どこに住んでいても同じ様な気がします。余り考え過ぎないでコンパクトな町作りをして欲しいです。又、役場は非常時の防災拠点になるでしょうから、思い切って鹿部駅付近の高台に配置するのも考えのひとつでしょう。今後も町民が住みやすい街になるよう、職員にも頑張ってもらいたいです。
	132	安心...常識が常識でない、想定が想定外となっている自然現象が続いている中で、津波、噴火をデータだけで判断し、より遠くより高地へと公共施設を移転して良いか疑問があります。
	133	人口密度の高い本州の諸都市と比較すると、危険性はかなり低く見積もれるのではないのでしょうか？検討した結果を確実に実行できる様、宜しくお願い致します。
その他	134	鹿部は 0～3 歳くらいの子供が遊べる背の低い遊具や場所がない。外の遊び場もないし、雨でも利用できる建物もない。総体は大きい子供だけで、小さい子の遊べる場所、物が少なすぎ！
	135	コミュニティの床がほとんどじゅうたんになっているので、丁度良い広さの木の床になると体育館の小ホールしかない。そこを使っていると他にないので使用を制限される。産業も鹿部だけでなく湾全体の自治体が協力してゴミ、山の保全を考えていかないと無理だと思う。この辺のゴミ(特に道路際)ひどすぎます。モラルが低すぎます。
	136	今回新たに移設となりますが、景観を良くする為に電線の地中化を進めて下さい。移設に伴い、交通体系も試行が出来る様に交通体系も早期に計画・実施に邁進して下さい。下水道整備に注力。議会報告を読んでも一度も議論されていませんし、行政の方々から立案し行動することを望みます。
	137	空き家があるのに「売」ばかりで「賃」物件がない。団地も空きなし。「貸家」なし。もっと団地やアパート(町営)など、「貸家」増やしてほしい。
	138	道がせまい(雪が降った時、除雪で道幅がせまくなるのは仕方ないが、雪なのに自転車に乗ったり車道を歩いたりする為、事故がおきると運転手の責任になるので、歩行者や自転車に乗る人の意識改革が必要だと思う。小中学生には注意するのだから大人も注意すべき)。
	139	道の駅第 2 期計画場所がメインになるので、この計画をすすめるのかどうか、又、今はストップしても今後検討の余地ありということで残しておくのか。あるいはやめるのか。これらの前提によって立地場所の考え方が左右される。
	140	墓石の代わりに町花のつつじを墓標にして、遺骨を埋葬できる町営の墓苑建設を提案します。樹木葬という形ですが、将来的にはつつじ山が出来上がり、家族の一員であるペットも一本のつつじの下に埋葬可とし、骨つぼをホタテの貝をくさき練って作り、いづれは遺骨共々土に還すのが良いです。ヨーロッパの庭園のようにつつじの間を散歩したり、家族が墓参りできるように合同塔(もしくは町木のななかまど)があり、鹿部町民に限らず、全国のどなたでも受け入れてはどうでしょう。つつじの苗木代も含めて価格とし、このような形態の樹木葬を町営でやるのは全国的に珍しいと思われます。地元のお寺との兼ね合いもあり大変なことですが、鹿部町に骨を埋めたいと思う移住者や、つつじの一本になりたいと考える全国の皆さんのため、一考お願いします。
	141	役場内の税金とかを収める窓口が出入り口付近にあると良いと思う。今の場所なら行くまでの間、他の係の前を通らなければならない、職員の視線が気になるので。
	142	消防、消火栓が凍結して機能しないとは？水槽付きの消防車で、初期消火に備えるとか考えないと。
	143	大分具体的になっていて良いと思いますが、どれくらいの期間で実施されるのか、そのスパンを又連絡していただけるか。よろしくお願いします。
	144	このアンケートの意見が反映されずに、役場が言っている所で決まるのではないかと？本当にアンケートの意味はあるのか？いずれにしても早く決めてほしい!!
	145	生活の利便性の質問が少ない。
	146	鹿部町のまちづくりを考える前に、鹿部町役場職員の町民に対する横柄な態度、物言いを直させ、鹿部町のうわさの元は町職員だと言われている。町職員の守秘義務を徹底させてください。
	147	今で十分で感謝しております。

4-3 施設の立地場所についての分析

施設の立地場所（問6-1） × 年齢（問2）

- ・「役場」については、「年齢階級全体」と比べて、「18歳～39歳」の「役場の検討案」の支持率が高くなっている。（「年齢階級全体」は56.6%、「18歳～39歳」は68.6%）
- ・「消防署」「文教施設」については、どの年齢階級に着目しても、「年齢階級全体」の傾向とおおよそ同様となっている。

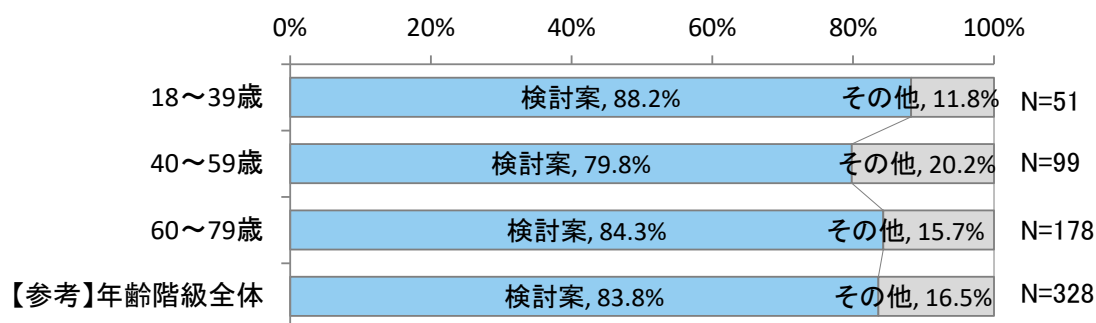
ア. 役場



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
18～39歳	35	68.6%	16	31.4%	51	100.0%	4
40～59歳	52	50.0%	52	50.0%	104	100.0%	14
60～79歳	105	56.8%	80	43.2%	185	100.0%	31
年齢 未回答の方	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0
【参考】年齢階級全体	193	56.6%	148	43.4%	341	100.0%	49

図表 4-24 「役場の立地場所」と「回答者の年齢」の関係性

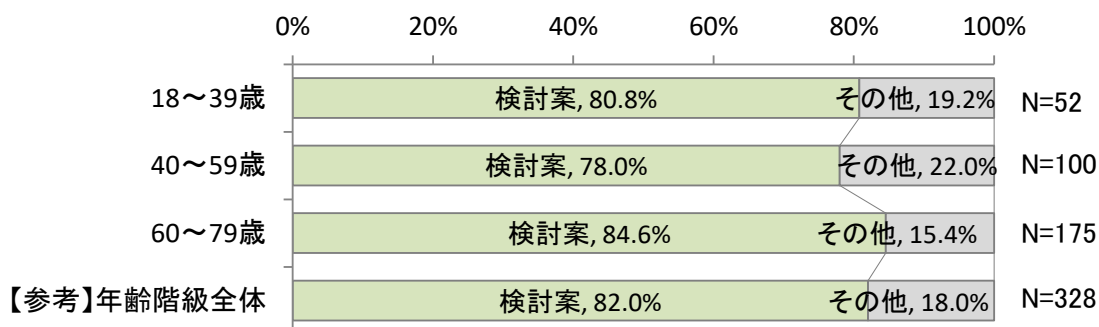
イ. 消防署



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
18～39歳	45	88.2%	6	11.8%	51	100.0%	4
40～59歳	79	79.8%	20	20.2%	99	100.0%	19
60～79歳	150	84.3%	28	15.7%	178	100.0%	38
年齢 未回答の方	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0
【参考】年齢階級全体	275	83.6%	54	16.4%	329	100.0%	61

図表 4-2 5 「消防署の立地場所」と「回答者の年齢」の関係性

ウ. 文教施設



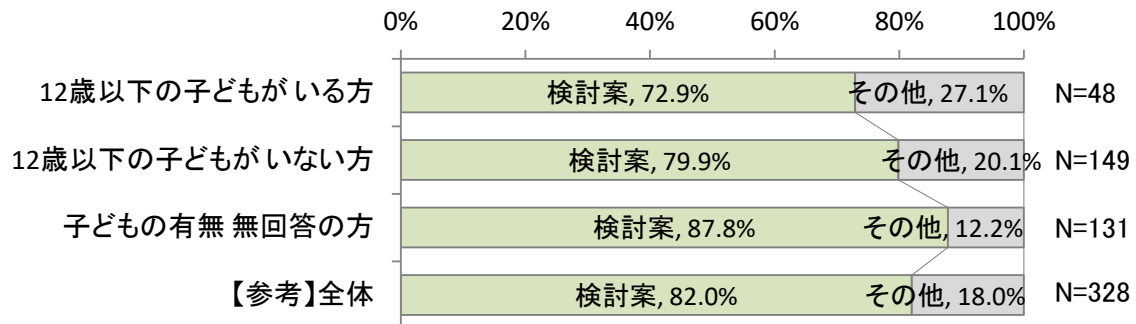
設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
18～39歳	42	80.8%	10	19.2%	52	100.0%	3
40～59歳	78	78.0%	22	22.0%	100	100.0%	18
60～79歳	148	84.6%	27	15.4%	175	100.0%	41
年齢 未回答の方	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0
【参考】年齢階級全体	269	82.0%	59	18.0%	328	100.0%	62

図表 4-2 6 「文教施設の立地場所」と「回答者の年齢」の関係性

施設の立地場所（問6-1） × 12歳以下の子どもの有無（問4）

・「12歳以下の子どもがいる方」は「12歳以下の子どもがいない方」に比べ、「役場の検討案」の支持率が若干低いものの、双方とも3/4近くの方が「役場の検討案」を支持している。

ア. 文教施設



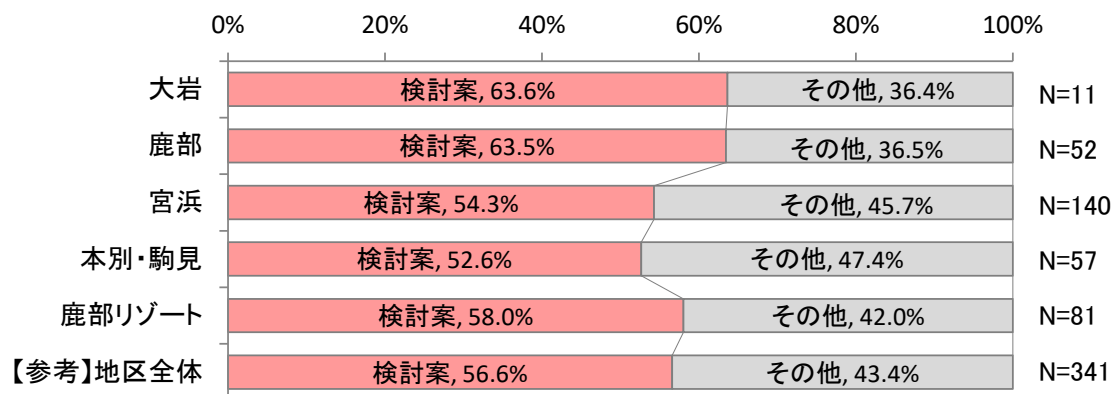
設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
12歳以下の子どもが いる方	35	72.9%	13	27.1%	48	100.0%	5
12歳以下の子どもが いない方	119	79.9%	30	20.1%	149	100.0%	20
子どもの有無 無回答の方	115	87.8%	16	12.2%	131	100.0%	37
【参考】全体	269	82.0%	59	18.0%	328	100.0%	62

図表 4-27 「文教施設の立地場所」と「12歳以下の子どもの有無」の関係性

施設の立地場所（問6-1） × 居住地区（問5）

- ・「役場」については、「役場の検討案」に地理的に近い「大岩」「鹿部」の「役場の検討案」の支持率が若干高くなり、「宮浜」の「役場の検討案」支持率は若干低くなっているものの、どの地区を着目しても、「地区全体」の傾向と大きな違いはない。
- ・「消防署」についても、「鹿部」「鹿部リゾート」における「役場の検討案」の支持率が若干高くなり、「宮浜」の「役場の検討案」の支持率が若干低くなっているものの、どの地区においても、「地区全体」と同様の傾向となっている。
- ・「文教施設」については、「役場の検討案」から地理的に遠い「大岩」の「役場の検討案」の支持率が低くなっている。

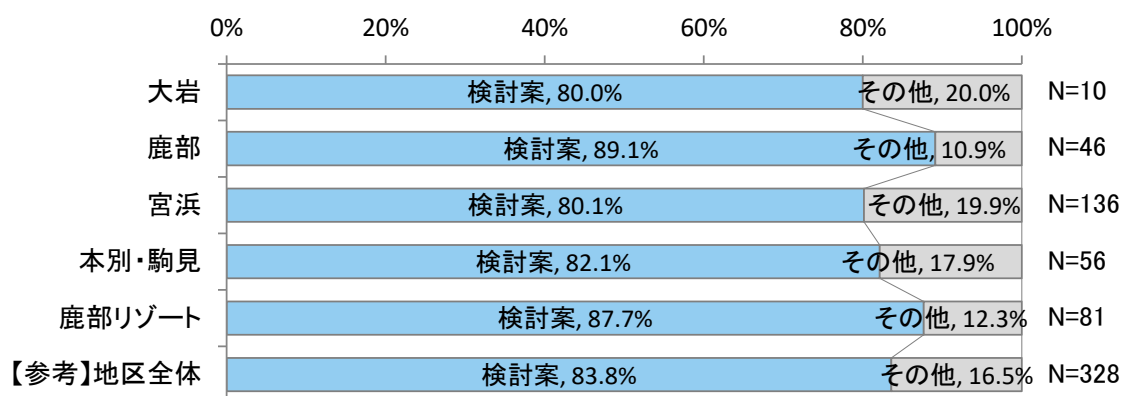
ア. 役場



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
大岩	7	63.6%	4	36.4%	11	100.0%	4
鹿部	33	63.5%	19	36.5%	52	100.0%	8
宮浜	76	54.3%	64	45.7%	140	100.0%	21
本別・駒見	30	52.6%	27	47.4%	57	100.0%	10
鹿部リゾート	47	58.0%	34	42.0%	81	100.0%	6
【参考】地区全体	193	56.6%	148	43.4%	341	100.0%	49

図表 4-28 「役場の立地場所」と「回答者の居住地区」の関係性

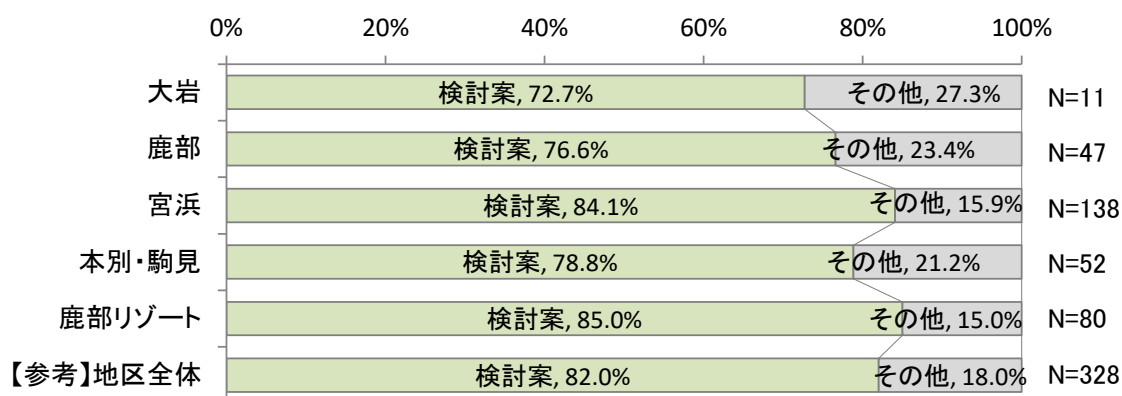
イ. 消防署



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
大岩	8	80.0%	2	20.0%	10	100.0%	5
鹿部	41	89.1%	5	10.9%	46	100.0%	14
宮浜	109	80.1%	27	19.9%	136	100.0%	25
本別・駒見	46	82.1%	10	17.9%	56	100.0%	11
鹿部リゾート	71	87.7%	10	12.3%	81	100.0%	6
【参考】地区全体	275	83.8%	54	16.5%	328	100.3%	61

図表 4-29 「消防署の立地場所」と「回答者の居住地区」の関係性

ウ. 文教施設



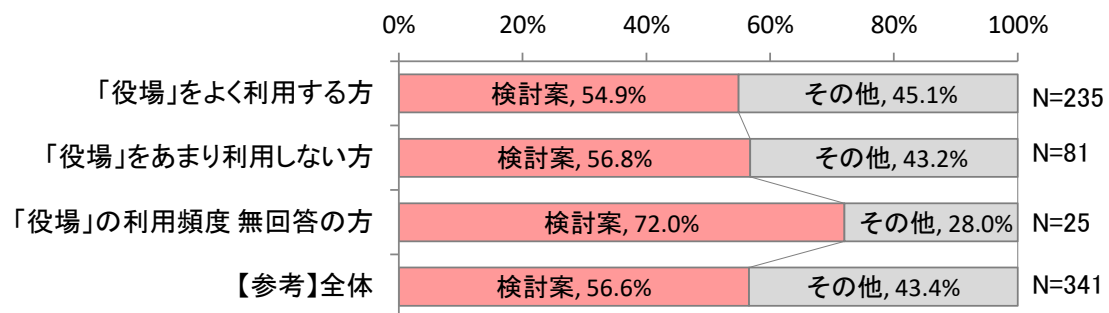
設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
大岩	8	72.7%	3	27.3%	11	100.0%	4
鹿部	36	76.6%	11	23.4%	47	100.0%	13
宮浜	116	84.1%	22	15.9%	138	100.0%	23
本別・駒見	41	78.8%	11	21.2%	52	100.0%	15
鹿部リゾート	68	85.0%	12	15.0%	80	100.0%	7
【参考】地区全体	269	82.0%	59	18.0%	328	100.0%	62

図表 4-30 「文教施設の立地場所」と「回答者の居住地区」の関係性

施設の立地場所（問6-1） × よく使う施設（問7）

- ・「役場」については、「役場をよく利用する方」「役場をあまり利用しない方」どちらについても、「役場の検討案」への支持割合は5割強と同程度になっている。
- ・「文教施設」については、「小学校をよく利用する方」の方が「役場の検討案」を支持している傾向にある。一方、「中学校」の利用頻度に着目すると、「中学校をよく利用する方」は「役場の検討案」の支持率が低くなっている。

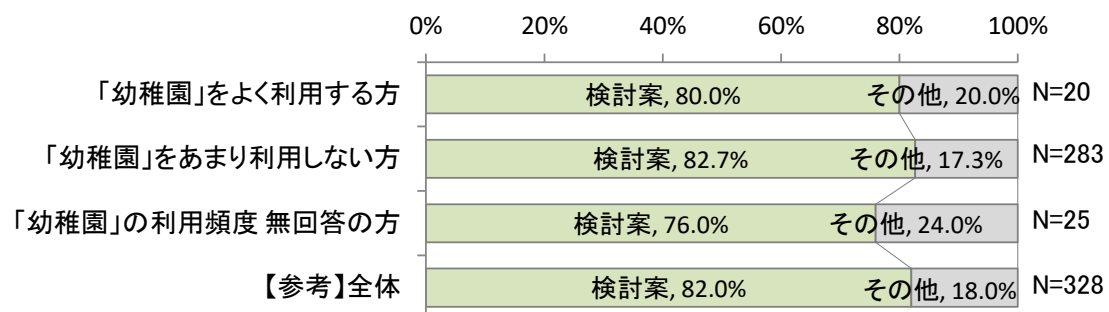
ア．「役場」の立地場所 × 「役場」の利用頻度



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
「役場」をよく利用する方	129	54.9%	106	45.1%	235	100.0%	23
「役場」をあまり利用しない方	46	56.8%	35	43.2%	81	100.0%	26
「役場」の利用頻度 無回答の方	18	72.0%	7	28.0%	25	100.0%	0
【参考】全体	193	56.6%	148	43.4%	341	100.0%	49

図表 4-3 1 「役場の立地場所」と「回答者の役場の利用頻度」の関係性

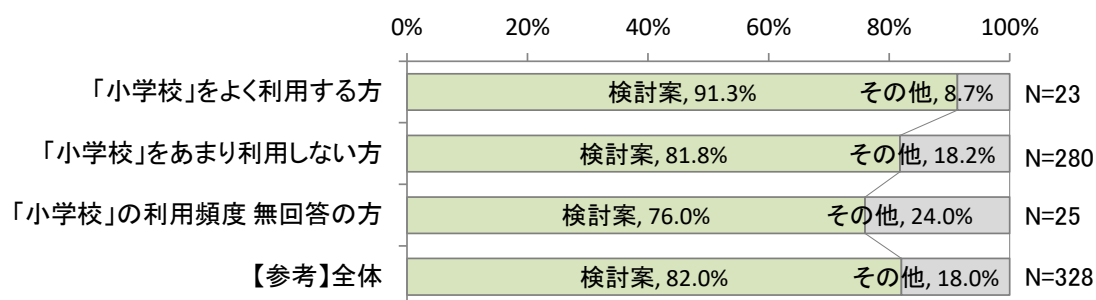
イ．「文教施設」の立地場所 × 「幼稚園」の利用頻度



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
「幼稚園」をよく利用する方	16	80.0%	4	20.0%	20	100.0%	3
「幼稚園」をあまり利用しない方	234	82.7%	49	17.3%	283	100.0%	59
「幼稚園」の利用頻度 無回答の方	19	76.0%	6	24.0%	25	100.0%	0
【参考】全体	269	82.0%	59	18.0%	328	100.0%	62

図表 4-3 2 「文教施設の立地場所」と「回答者の幼稚園の利用頻度」の関係性

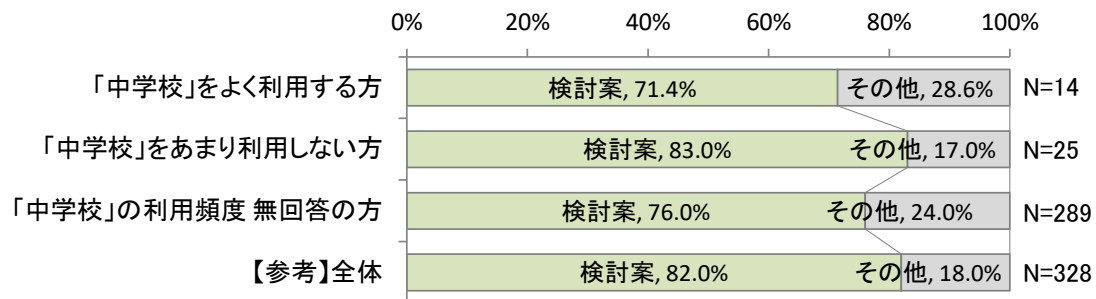
ウ. 「文教施設」の立地場所 × 「小学校」の利用頻度



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
「小学校」をよく利用する方	21	91.3%	2	8.7%	23	100.0%	5
「小学校」をあまり利用しない方	229	81.8%	51	18.2%	280	100.0%	57
「小学校」の利用頻度 無回答の方	19	76.0%	6	24.0%	25	100.0%	0
【参考】全体	269	82.0%	59	18.0%	328	100.0%	62

図表 4-33 「文教施設の立地場所」と「回答者の小学校の利用頻度」の関係性

エ. 「文教施設」の立地場所 × 「中学校」の利用頻度



設 問	検討案		その他		合計		無回答 無効回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
「中学校」をよく利用する方	10	71.4%	4	28.6%	14	100.0%	2
「中学校」をあまり利用しない方	240	83.0%	49	17.0%	289	100.0%	60
「中学校」の利用頻度 無回答の方	19	76.0%	6	24.0%	25	100.0%	0
【参考】全体	269	82.0%	59	18.0%	328	100.0%	62

図表 4-34 「文教施設の立地場所」と「回答者の中学校の利用頻度」の関係性

第5章 各種ワークショップの実施

- 町民の意見を収集するために行った、各種ワークショップやインタビュー調査、町民懇談会の結果について記載する。
- 2回にわたって開催された「役場ワークショップ」にて「主要施設の配置」に関する検討案を議論し、第4章の町民アンケートにおける基礎的材料とした。アンケート結果を受け、「インタビュー調査」や「町民懇談会」を行い、より具体的な意見を収集した。

5-1 概要

まちの構造・施設配置について、より詳細に町民の意見を収集するため、下記の概要で各種ワークショップやインタビュー調査、町民懇談会を実施した。

表 5-1 各種ワークショップ・インタビュー調査・町民懇談会の概要

名称	実施日	概要
第1回 役場ワークショップ	平成30年 10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・役場職員を対象に、ワークショップを実施 ・主に、まちの構造と主要施設の配置を検討する上で、「重視すべき視点」と「主要施設の具体的な配置」について議論
第2回 役場ワークショップ	平成30年 12月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・役場職員を対象に、ワークショップを実施 ・主に、町民アンケートで示す「施設配置の検討案」の設定に向け、「まちの構造」「主要施設の具体的な配置」について議論
町民ワークショップ	平成31年 2月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿部町民を対象に、ワークショップを実施 ・主に、「主要施設の配置」や「配置に伴う不安点」などを議論
インタビュー調査	平成31年 2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿部町で事業を展開している事業者を対象として、対面式のインタビュー調査を実施 ・主に、「主要施設の配置」や「まちづくり全般」について聞き取りを実施
町民懇談会	平成31年 2月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿部町民を対象に、町民懇談会を開催 ・「まちの構造・施設配置」について、今までの検討経緯を説明し、町民から意見を募った

5-2 第1回 役場ワークショップ

(1) 開催概要

まちの構造と主要施設の配置を検討する上で、「重視すべき視点」と「主要施設の具体的な配置」について議論するため、役場職員を対象に、ワークショップを行った。

開催概要は下表に示すとおりである。

表 5-2 役場ワークショップ 開催概要

項目	内容
日時	平成 30 年 10 月 30 日
対象	鹿部町 役場職員
議題	まちの構造と主要施設の配置を検討する上で、 「重視すべき視点」と「主要施設の具体的な配置」について議論
進行次第	(1) あいさつ (2) 会議のテーマ・進め方の説明 (3) グループ討議 ①町民アンケート（案）の回答 ②意見交換 ・目指すべき町の姿（メインストリート・住宅地など） ・公共施設（町役場・消防署・幼稚園など）の立地すべき場所 (4) 全体討議 ・各テーブルの発表と意見交換 (5) 閉会

(2) 開催結果

第1回役場ワークショップを行った結果、「主要施設の配置を検討する上で重視すべき視点」については、「災害リスク」「交通利便性」「生活利便性」の観点が重要であるという議論になった。

上記の観点に基づき、主要施設の具体的な配置については、役場は「現位置」「大岩地区」「鹿部公園付近」「鹿部バイパスと道道 43 号の交差点」、消防署は「大岩地区」「鹿部バイパスと道道 43 号の交差点」、幼稚園は「現位置」「現小学校付近」「鹿部バイパス付近」に配置するとよいのではといった意見が出された。

グループごとの議論概要については、次頁に示すとおりである。

【會議概要】

・**住宅地**：これから新しく居住する人は「大岩地区」に住んでもらい、現在住んでいる人はそのまま住み続けたらよいだろうという結論になった。

- ・災害リスクを考慮して、**役場**は「鹿部公園付近」、**幼稚園**は「現小学校位置」、**消防署**は交通の利便性も勘案して、「バイパスと道道の十字路口」に立地するのがよいだろうという結論になった。
- ・住宅地は今のままでよいという結論になった一方、公共施設の立地場所が鹿部バイパス沿いになると、将来（20年以上後）は住宅地の中心も鹿部バイパスになるのではないかとという話もなされた。
- ・アンケートに関しては、火砕サージの注釈が恐怖感を煽りすぎているため、内容を検討したほうがよいという意見や、財政負担（問15）は町民の負担との関係性がわからないので表現を見直した方がよいという意見が出された。

【模造紙】

メインストリートとは何か？定義は？

- ・「要」の道路が
- ・「生活中心」の道路化か

しかし、20年後では無理（商業など移転できない）

メインストリートはバイパス

- ・災害危険が少ない

メインストリートはバイパス

- ・「浸水域が少ない

漁師は海側それ以外はバイパス側（こだわりはないです）（公共施設の場所による）

住宅地は将来的に

- ・公共施設
- ・主要施設周辺へ

新規はこつちに住宅地

- ・役場
- ・消防
- ・幼稚園

主要施設は火砕流被害範囲外

消防は十字路

幼稚園は小学校近く

旧鹿部墓地を新墓地および合葬墓地へ移動役場をここに

高齢者対策でシェルターを設置

消防署

消防場

役場

公民館

中学校

総合体育館

ローソン

内科診療所

道の駅

セブンイレブン

郵便局

信用金庫

波島

土砂災害の想定範囲

津波浸水の想定範囲

リハビリセンター

大岩地域会館

当面のメインストリート

- ・旧国道沿い

「生活中心」の道路

住宅地

- ・今のまま
- ・良い

住宅地

- ・現状のまま
- ・昔からの町並

・新函館・北山駅の周辺施設を見ると新規の力が弱いので、防災ではなく、減災を目指した町づくり

ホテル

鹿部リゾート

出来洞漁港

出来洞漁港

本別中央会館

本別中央会館

マルメツストア

本別漁港

98

【議論概要】

- ・火砕流・火砕サージの区域までを検討すると、まちづくり自体が進んでいかない。また、火砕流・火砕サージは屋内に避難すればよいのか遠くへ避難しなければならぬのか、被害想定程度の合意が不明確である。よって、今回は火砕流・火砕サージは考慮せず、施設の立地場所を検討した。
- ・**消防**：「ババイパス付近」の2つの意見が出たが、津波浸水区域外に立地する必要があることから、「ババイパス付近」がよいという結論になった。
- ・**出帆**：緊急出動の必要性がまちの中心付近、また津波浸水区域外がよいことから、「ババイパスと道道の交差点」がよいという結論になった。
- ・また、議論の過程で、役場を「現位置」で建替えるならば、災害時に拠点となる防災センターを消防署に併設して、津波に対応できるようにした方がよいという意見があった。
- ・**幼稚園**：文教施設はまとまってあるべきこと、住宅地から離れると子育て世代が不便になることから、「現位置」近辺がよいという結論になった。
- ・**メインストリート・住宅地**：20年という短時間で商店等が移動するかという懸念と腹地のまちであるため、やはり海沿いがメインになるだろうという理由から、メインストリートは「旧国道」、それに伴い住宅地の中心も「旧国道」がよいという結論になった。
- ・アンケートに関しては、火砕流・火砕サージを掲載すると、火砕流・火砕サージの危険性がわからず住民が回答しづらくなるため、掲載しない方がよいという意見が出た。

[illegible]

99

Cグループ

【議論概要】

- ・議論の結果、全体的な立地場所として「利便性」を重視するならばバイパスと道道の十字路、防災を重視するならば「大岩地区」がよいのではないかという結論になった。
- ・**役場**：「バイパス沿い」がよいのではないかという意見が出たが、一方で火砕サージを避け、「大岩」に立地してもよいのではないかという意見も出た。
- ・**消防**：出動のしやすさを重視すると「道道とバイパスの交差点」、防災を重視すると「大岩」がよいのではないかという意見が出た。
- ・また、役場と消防は別々の場所に立地させ、それぞれに防災機能を設置し、片方の施設が被災した場合にも備えられたらよいのではないかという意見も出された。
- ・**幼稚園**については、現位置に近いと送迎に便利であるという意見と、津波に備えて若干バイパス寄り（大岩）に立地したほうがよいのではないかという意見が出た。
- ・**メインストリート**については、土地の造成、インフラ整備の観点から、20年という短期間では移動できず、旧国道がメインストリートになるとではないかという結論になった。
- ・**住宅**：公共施設がバイパス沿いに立地したとしても、車を使ってアクセスするため、住宅がバイパス沿いに建替えられるのは考えづらいという意見が出た。

【模造紙】



図5-3 第1回役場ワークショップの議論概要（3枚 / 3枚）

5-3 第2回 役場ワークショップ

(1) 開催概要

町民アンケートで示す「施設配置の検討案」の設定に向け、「まちの構造」「主要施設の具体的な配置」について議論するため、役場職員を対象に、ワークショップを行った。

開催概要は下表に示すとおりである。

表 5-3 役場ワークショップ 開催概要

項目	内容
日時	平成 30 年 12 月 4 日
対象	鹿部町 役場職員
議題	町民アンケートで示す「施設配置の検討案」の設定に向け、 「まちの構造」と「主要施設の具体的な配置」について議論

(2) 開催結果

第2回役場ワークショップを行った結果、「まちの構造」については、両グループとも「バイパス沿いをメインストリートとすべき」という議論になった。(ただし、②グループは行政的なメインストリートはバイパス沿い、商業的なメインストリートは旧国道沿いとしている。)

主要施設の具体的な配置については、役場は「大岩地区」「鹿部公園～鹿部バイパス道道 43 号の交差点の間」、消防署は「大岩地区」「鹿部バイパスと道道 43 号の交差点」、幼稚園は「鹿部公園付近」「現位置付近」に配置するとよいのではないかといった意見が出された。

グループごとの議論概要については、次頁に示すとおりである。

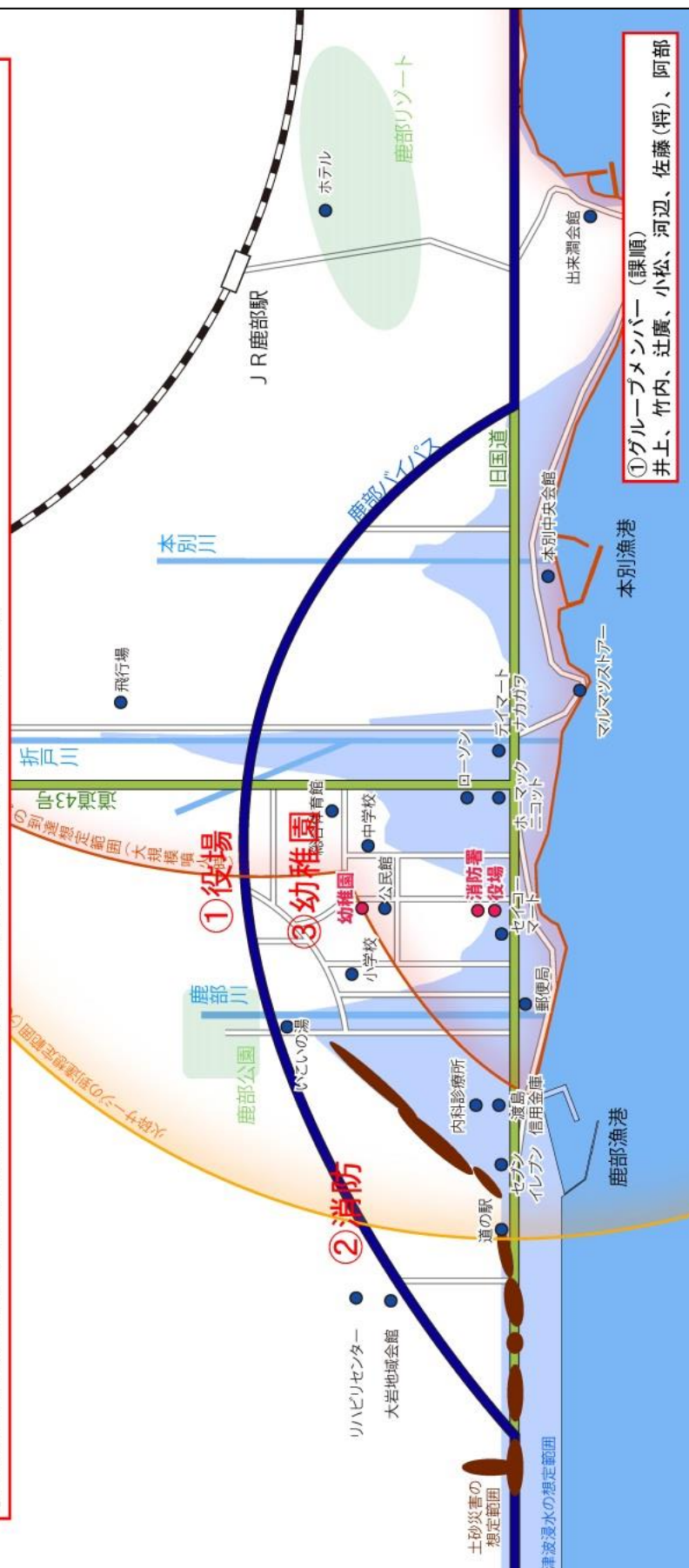
① グループ

①役場：今の位置の山側でパイパス沿いが良い。防災だけを考慮すると、リハビリテーション付近（消防との併設も有り）となるが、役場はまちなシンボルであり、まちの中心地にあった方が良好と考える。

②消防：重視するのは防災面であり、津波や噴火を考慮し、危険エリアを回避した場所が望ましく、リハビリテーション付近が適していると考える。

③幼稚園：幼小中の文教施設がまとまっていた方が良い。また、防災の観点からも幼稚園への避難を考へてもそれほど重要ではなく、今の位置から大きく変える必要はないと考える。

④市街地：現在は旧国道付近に集まっているが、将来はパイパス沿いが栄えて行くことが理想である。



102

②グループ

②消防→⑤メインストリート→③幼稚園→④住宅→①役場の順で検討した。

①役場：津波や噴火の防災面と、まちの機能として中心地にあるべく

として、の中心施設である役場が近くにすることが望ましい。役場が現在の中心地から離れることによる利便性については、交通面はワンダ・パスの運行により解消できる、住民票や諸証明の交付については、各会館などに自動交付機を導入することで解消できると考える。

②消防：重視したのは100年に一度の噴火と、20年に一度の大きな災害ではなく、通常時の火災や救急の出動に要する時間を優先し、さらに交通の便を考慮しながら沿いとする。ただし、防災拠点としての機能も必要であることから、津波と火砕流による影響を受けない場所とした。

③幼稚園：行政的なメインストリートがバィス沿いとした場合、様々な手続等を考え、また、行政が移っていくことで、将来的に住宅地がバィス沿いになっていくことを考えると、バィス沿いに配置することが良い。さらに、鹿部公園の付近とすることで、自然豊かで子どもたちの環境としても良い。

④住宅地：現在は旧国道付近に集まっているが、将来はバイパス沿いが栄えることが理想である。

⑤メインストリート：20年では難しいかもしれないが、A級グルメが今後展開していくことを考慮すると、大岩側からバイパス沿いに賑わいができくる。行政的なメインストリートはバイパス沿い、商業施設は旧国道沿いといった住みわけが出来ればよい。



103

5-4 町民ワークショップ

(1) 実施概要

「主要施設の配置」や「配置に伴う不安点」などについて議論するため、鹿部町民を対象に、ワークショップを行った。

開催概要は下表に示すとおりである。

表 5-4 町民ワークショップ 開催概要

項目	内容
日時	平成 31 年 2 月 4 日
対象	鹿部町 町民
議題	「主要施設の配置」や「配置に伴う不安点」などについて議論
進行次第	(1) 役場検討案の説明について (2) アンケート結果について (3) 意見交換 (4) まとめ

(2) 開催結果

町民ワークショップを行った結果、「主要施設の配置」を検討する上では、役場ワークショップの結果と同様、「生活利便性」や「交通利便性」、「災害リスク」の観点を踏まえることが重要であるという議論がなされた。

また、主要施設の配置に伴う不安点としては、「鹿部公園付近は熊がでるのではないか」や「災害は想定を超えることもあるため、大岩地区が安全だと限らないのではないか」「大岩地区に役場を移転するのであれば、地域交通の整備が必要であり、整備コストが嵩むのではないか」といった意見が出された。

グループごとの議論概要については、次ページに示すとおりである。

【議論概要】

- ・主要施設の配置については、「すべて鹿部公園付近に移転すべき」という議論となった。
- ・理由としては、「火災サージラインで止まるわけではないだろう。大岩付近が安全とは限らない」「鹿部公園付近は現在の居住地からそれほど遠くもなく、標高が高く比較的安全と考えられる」といった意見や「公共施設の複合化や近接立地を検討して、公共施設の連携や利便性の向上を促進すべき」「災害時の司令塔となる役場は、まち全体が一望できる場所がいい」といった意見が出された。
- ・また、主要施設の移転とあわせて、「バイパスまでの道路を整備すべき」「跡地は道路整備用の用地として活用したらどうか」、「大岩付近の土地は空き地のまま残しておき、津波時に仮設住宅の用地として活用したらどうか」といった**インフラ整備や土地の利活用についての意見**も出された。
- ・**将来的な住宅地形成に関する意見**としては、「バイパス沿いには住宅ニーズは生まれないのではないか」といった意見が出された一方、「津波を経験したり、公共施設がバイパス沿いに集まれば、居住地をバイパスの上を選ぶ人が出てくるのではないか」という意見もあった。

公共施設の複合化

[illegible]

106

5-5 インタビュー調査

(1) 実施概要

「主要施設の配置」や「まちづくり全般」などについて町内事業者等の意見を具体的かつ詳細に収集するため、鹿部町で事業を展開している8事業者等9名対象として、対面式のインタビュー調査を実施した。

実施概要は下表に示すとおりである。

表 5-5 インタビュー調査 実施概要

項目	内容
日時	平成31年2月15日
対象	鹿部町で事業を展開している事業者等
インタビュー形式	対面式
インタビュー内容	(1) 主要施設の配置について (2) まちづくり全般について

(2) 調査結果

事業者インタビュー調査を行った結果、役場が示した「検討案」については、「市街地から離れるため不便」としつつも、「災害リスクを踏まえると納得できる」との意見が多かった。一方で、「主要施設は近接させた方が、利便性が高まる」「役場と消防署は近接させ、災害時の連携を促進させたほうがよい」といった、施設連携に関する意見も多く寄せられた。

インタビュー回答の概要については、下記に示すとおりである。

【役場・消防署・幼稚園・小中学校などの施設配置について】

回答者	インタビュー回答の概要
A	<ul style="list-style-type: none"> ・津波を考えると役場位置が大岩というのは納得できる。 ・文教地区の位置は意外に感じた。校舎の耐震改修をしたのが無駄になる。いますぐではなく、長期的な配置だろう。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・消防は出動などの利便が良いに越したことはない。 ・役場が大岩に移転するのは遠いと個人的に思う。 ・災害時に社会福祉協議会は災害ボランティアセンター支部なる。そのため、本部（役場）のそばにあることが大事。被災地の例を聞くと、ボランティアが車でドッと来るので、その受入れが大変らしい。災害ボランティアセンターに、広い駐車できるスペースが確保出来ることが望ましい。舗装されていない空き地でもいい。 ・今の社会福祉協議会は海拔4mに位置し、津波のリスクが大きい。役場庁舎内または近接して立地したい。役場と併せて保健センターを整備するであれば、そこへ社協も入るのだろうか。保健センターの用地としてはバイパス沿線の大岩から鹿部公園の区間が好ましい。 ・社協への町民の来客は、車で来る方がほとんど。（福祉器具レンタルなどの用事）歩いてくることはない。高齢者のもとへはヘルパーが出向く。 ・役場も町民は車で来るので、旧国道から離れていても利便上は問題ない。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・施設立地はガソリンスタンドの業務に影響はない。バイパス開通は影響があったが。 ・証明書関係の手続きなどで行く機会があるので、個人的には役場は近い方が便利である。 ・役場と消防はなぜ離れた立地とするのか。消防の位置に役場も一緒に立地してもいいのではないか。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・役場は今の位置で津波に強い構造にしたらいい。今の建物はガサい。 ・鹿部町の人口が減っていくなか、消防・役場の合体で建てるといい。 ・町有地がないなら、買収といっても広い区画がないので、難しいのではないかな。 ・施設配置は商売に影響はないだろうが、高齢者の利便は問題だろう。大岩は町のはずれであり、今の役場位置が町の中心である。 ・（大岩の）リハビリあたりは、標高は高いが不便。 ・津波のことを考えたら、どこにも建てられない。金のことを考えたらいろいろ難しい。

回答者	インタビュー回答の概要
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討案の配置は良いと思う。 ・ 皆車で行くので、バイパス沿いの方が便利。 ・ 役場の大岩立地も別にいいと思う。 ・ 学校は町の中心部にあるほうがいい。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役場と消防署は同じ場所に置くという話を以前聞いていたが、今回の案で離れているのは何故か。災害時は対策本部をつくるために、同じ位置にある方が良いのではないか。 ・ 用地の問題か。大岩には具体的な用地はあるのか。 ・ 役場は耐震改修するよりも、建て替えたほうが良いだろう。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトに全部の施設がまとまっていることが大事。 ・ 高齢化で歩くのが不自由な人が増える。コミュニティバスなどを運行したとしても、一カ所にまとまっているほうが、ついでに寄るなどできて良い。 ・ 学校は幼小中が一緒に建物に入ったほうがいい。活気が出る。 ・ 役場は中心部のほうが良い。大岩はリゾート地区から遠すぎる。せっかく鹿部に移住してもらっているのに利便が悪い。 ・ 災害リスクよりも集約することが重要。 ・ 避難所として考えた時は、学校は被災エリア外に立地すべき。バイパス手前あたりが良い。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの施設配置は中心地から分散する傾向にあったように感じるが、地域にとけ込むように立地すべき。分散しないで集合的に配置し、役場を中心に商店街と結びつけた、集約的なまちづくりをすすめるべき。 ・ バイパスは車が通り過ぎてしまい、まちの賑わいに繋がらない。せっかくの「漁師町」「釣り場」という魅力を活かすべき。 ・ 学校は、外国の例の様に小学校と中学校も一緒にすれば良い。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役場と消防については、核となる施設が津波被災してはいけないので、高台に立地すべきと思う。 ・ 施設立地が変化すれば、当然バスルートも変更となる。

【鹿部町のまちづくりに対するご意見】

回答者	インタビュー回答の概要
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跡継ぎもいないし、将来の明るい希望を描けない。今の生活を現状維持できることが大事。 ・ 目の前の町営団地がなくなって経営は厳しい。役場が街中からなくなると影響あるだろうが仕方がない。 ・ バイパス側に町が徐々に移動していくのだろう。
B	-
C	-
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波より駒ヶ岳の噴火のことを考えるべき。昭和17年の噴火では1m火山灰が積もった。噴煙で空が真っ暗になった。車では逃げられない。 ・ 紙（アンケート）に書くのは億劫だから、こうして生で声を聞いてくれるのは良い。
E	-
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ この場所は、小学校が一時避難場所となっているが、避難時に川を渡らないといけない。大岩であれば川を渡らないで済む。 ・ 母の話では、昭和4年の噴火では1～2mほど軽石が積もったらしい。 ・ 噴火から避難は出来るだろうが、積もった火山灰などに対する対策は考えているのか。 ・ 考えてもみなかったような災害が起きるかもしれない。
G	-
H	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅が観光の拠点になっているので、駐車場をしっかりと整備することで、もっと発展できる余地がある。現在は交通面で危ない立地になっており、駐車場台数も少ない。バスの転回スペースが必要で、駐車台数が多く取れない。 ・ 空き地、空き家が増えてきているので、それらを更地にして活用を。コミュニティづくり、集まる場所づくり、ベンチや憩いの場など、そういうものが欲しい。 ・ 商店街に防災カメラを設置して。 ・ 空き店舗が目立つ。買い物難民の問題が生じるなか、昔のような御用聞きが復活すべき。 ・ 子供も住みやすく、リクリエーションが楽しめる一体感のあるまちづくりを。 ・ そして災害時はどの様に避難するか考えるべき。できるところから徐々にやっていく。 ・ バイパスを通り抜けるだけの道路ではなく、魅力ある沿道にしたい。

回答者	インタビュー回答の概要
I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、リゾート地区から公民館や体育館へのバス移動ニーズがある。 ・ 幼稚園と小学校の前、公民館の前も道路が狭く、大型バスでは入りにくい。 ・ 鹿部町がコミュニティバス（小型バス）を運行委託すると良いのではないかと。 ・ 鹿部町はタクシーが無い（廃業した）のでバス事業者の役割が大きい。 ・ 森高等学校への通学バスは貸切形態で運行していた。30人以上が乗車し、高校前まで直行しており利便性が高かった。しかし、制度変更で貸切運行の料金下限が設定されたため、JR に敵わなくなり路線廃止に至った。 ・ 現在、高校生の通学は親が駅まで送っている。JR に乗る生徒が40人いてもバスに乗る生徒はごく僅かしかない。JR の始発、最終にはバス接続がない。車なら駅まで5分なのに、ぐるぐる回ってバスは15分かかる。生徒はギリギリまで寝たいので、親に送ってもらう。 ・ 退職者の再雇用で安価な人員を使えると良いが、そういう人材がいなくなってきた。他社では人手不足を理由に減便している例もある。 ・ デマンドバスは利用者にとって面倒で、うまくいかない。 ・ 小型バス＆フリー乗降が良い。バス停を降りた後、ルート上を歩いている人に対しては、運転手から最寄りのポイントで降ろしてあげると次回乗車時に声を掛けている。 ・ バス停はどんどん作っても良いが、ゴミの問題など敬遠されることもある。 ・ 函館から朝に鹿部に着く便がない。路線補助要件で日3本以上というのはあるが、数あわせで使い勝手が考えられてない。

5-6 町民懇談会

(1) 実施概要

「まちの構造」や「主要施設の配置」について町民からの意見を広く収集するため、鹿部町民を対象として、町民懇談会を開催した。

開催概要は下表に示すとおりである。

表 5-6 町民懇談会 開催概要

項目	内容
日時	平成 31 年 2 月 15 日
対象	鹿部町 町民
議題	「まちの構造」や「主要施設の配置」について議論
配布資料	次ページより掲載

鹿部町 土地利用計画 町民懇談会 資料

1. 計画の策定背景

鹿部町 土地利用計画とは？

□ まちの現状・課題を踏まえて、持続可能なまちを目指す計画

<まちの現状・課題>

生活利便性 … 町民の多くは町外で買い物・通院
産 業 … 一次産業従業者・漁獲金額が減少傾向
公共施設等 … 役場などが老朽化、今後改修金額は増大
防 災 … 市街地の多くが津波、駒ヶ岳大噴火の影響を受けると予測

計画では何を決めるのか？

□ まちづくりの方向性
□ 主要施設の配置（役場・消防署・文教施設）

2

2. 計画の策定経緯 ～ 概要

これまでの検討の経緯

□ 主に、「主要施設の配置」について、段階を踏んで議論

H30 4月～ 事務局内部で議論
10月 役場内ワークショップ（1回目）
12月 役場内ワークショップ（2回目）
H31 1月 町民アンケート
2月 町民ワークショップ

3

2. 計画の策定経緯 ～①役場内ワークショップ

役場内ワークショップ（10月、12月）

□ 役場内で、様々な部署・年代で話し合い

<議題>

① 主要施設を考える上で、重要となる視点
② 主要施設の具体的な配置場所



4

2. 計画の策定経緯

□ ワークショップの結果、2つの視点が重要であると確認

視点1 災害リスクの少ない場所（津波・駒ヶ岳噴火）
視点2 交通アクセスの良い所（幹線道路付近または地域交通の検討）

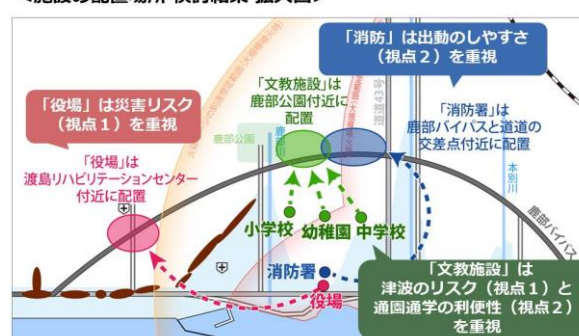
□ 「検討案」として、施設の配置場所を検討



5

2. 計画の策定経緯

<施設の配置場所 検討結果 拡大図>



2. 計画の策定経緯 ～②町民アンケート

町民アンケートの実施（1月）

□ 主要施設の配置を問うアンケートを実施

<設問内容>

・ 回答者属性（年齢・居住地区など）
・ 主要施設の配置（「検討案」に対するご意見）
・ 主要施設の配置を選んだ理由

<対象>

・ 町民1,000名（18歳以上の世帯主）

<回答期間>

・ 平成31年 1月 7日 ～ 1月 21日

<回収数>

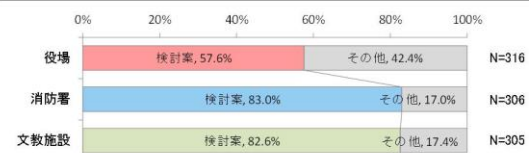
・ 363票（回収率36.3%）

等

7

2. 計画の策定経緯 ～②町民アンケート

設問6）将来的に、「役場」「消防署」「文教施設（幼稚園・小学校・中学校）」はどこに立地するとよいと思いますか。



□ 役場は、「検討案」と「その他」が拮抗。
□ 「消防署」「文教施設」については、8割以上の方が「検討案」を支持

8

図5-8 町民懇談会資料（1～8ページ / 19ページ）

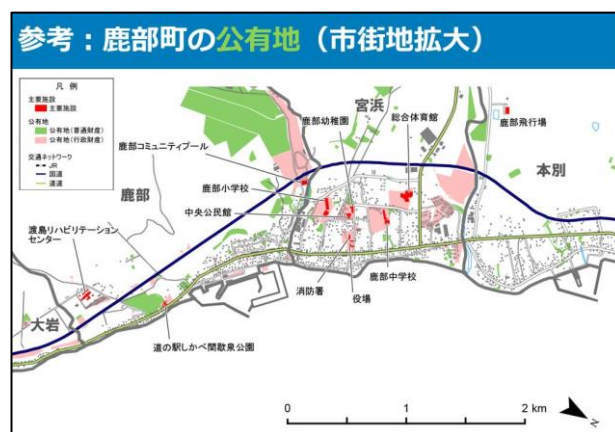
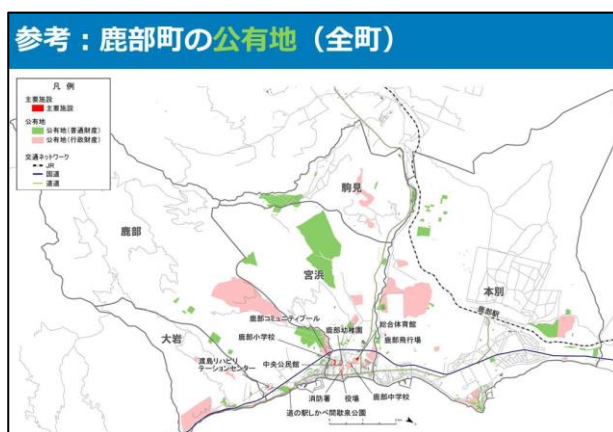
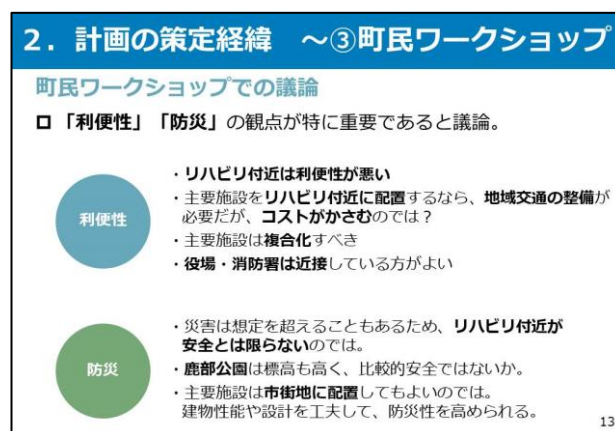
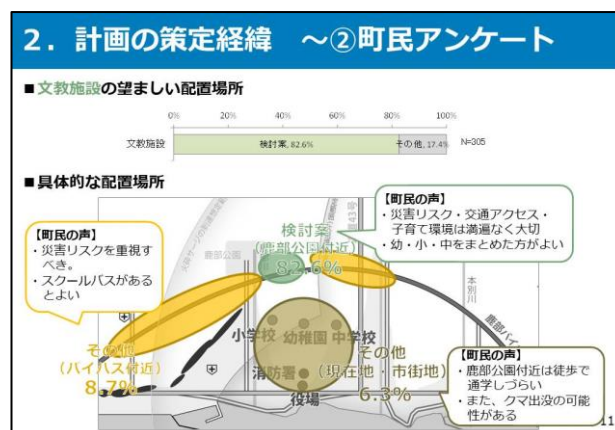
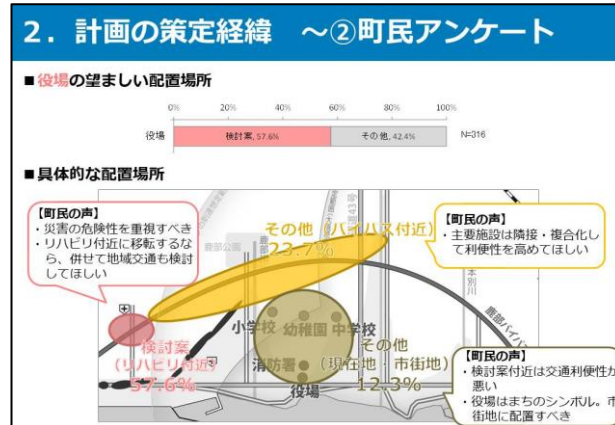


図 5-9 町民懇談会資料（9 ～ 15 ページ / 19 ページ）

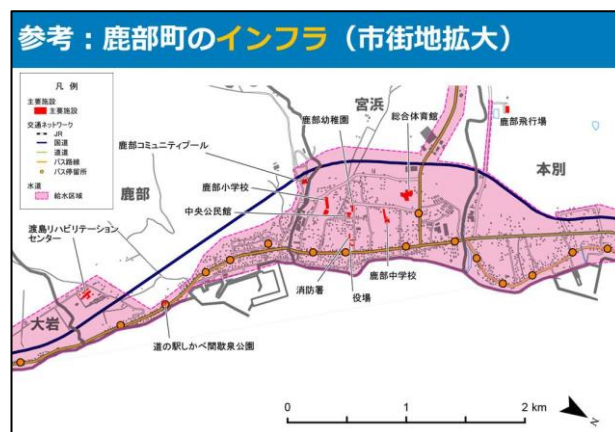
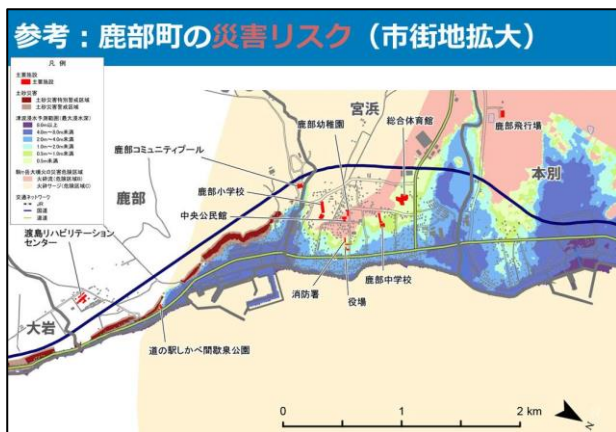


図 5-10 町民懇談会資料（16 ～ 19 ページ / 19 ページ）

(2) 開催結果

町民懇談会で意見交換を行った結果、「主要施設の連携」に関する質問や「災害リスク」に関する質問などが寄せられた。

意見交換での意見概要については、下表に示すとおりである。

表 5-7 町民懇談会 意見概要

カテゴリ	意見概要
施設 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・役場はリハビリ付近、消防は道道・バイパス交差点付近に、と別々の場所に建設する案になっているが、隣接して建てることはしないのか。 →（町回答）検討の結果、「役場と消防署では重視すべき視点が異なる」との議論になり、別々の場所に建設する案となっている。この案では、役場は津波や噴火などの「防災の視点」、消防署は「日常の出動容易性の視点」を重視している。 ・幼稚園・小学校・中学校に関しては、1つの建物にまとめたほうがよいのではないか。グラウンド等を共有できる上、学年を超えて児童が交流できる。 →（町回答）町民アンケートやWSでもそのようなご意見を頂いた。今後検討したい。
災害 リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料には様々な津波の高さが記載しているが、結局鹿部には何mくらいの津波がくるのか？また各主要施設の配置案の標高は何mくらいなのか。 →（町回答）標高に関しては、おおよそではあるが、役場の配置案である「リハビリ付近」が33m、消防署の配置案である「道道・バイパス交差点付近」が10m、文教施設の配置案である「鹿部公園」が20mとなっている。 また、今回お示ししているのは、「津波の高さ」ではなく、「土地が何mくらい津波で浸水するか」である。 ・新聞で「1600年代に鹿部に8mの津波が到達した」との記事を読んだ。そのレベルの津波が到達する場合もある。 →（町回答）1600年代の津波は噴火に伴うものである。今回資料にてお示ししている津波浸水想定は「十勝沖・日高沖・青森県沖の全ての震源地で地震が起きた場合」を想定したものである。
用地 インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ・配置案としている場所に、あまり公用地がない。 →（町回答）本計画で配置案を定めた後に、具体的な用地を定めることになる。その場合は、用地を買収するか、または事業費等を検討して、配置案と同様の場所に配置することになる。 ・併せて道路拡幅等も検討すべきでないか。 →（町回答）検討する。
計画策定 全般	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の施設配置の話は、いつ頃から議論してきた話なのか。 →（町回答）役場の耐震性に課題があるということもあり、前々から議論していた話である。 ・懇談会の前に、町民WSを実施したそうだが、懇談会を先に行った方がよかったのではないか。 →（町回答）今回は施設配置案を設定するにあたって、策定委員会や町民WSで検討し、皆様に諮るというステップで検討した。検討の順序については様々な行い方があがるが、いずれにせよ今回皆様から頂いたご意見についても、計画に反映したい。 ・今後の検討スケジュールはどのようになっているのか。 →（町回答）策定委員会で協議を行い、最終的な方針を定める予定である。

第6章 まちづくりのビジョンの検討

- まちづくりビジョンとして、「まちの将来像」および「まちの構造」を複数案設定する。

6-1 まちづくりのビジョンの検討

(1) まちの将来像の検討

① 考え方

「まちの将来像」と「まちの構造」については、以下の考え方に基づいて、検討する。

- ・ 鹿部町の将来の生活像を踏まえ、「目指すべきまちの構造」を描く。
- ・ 「まちの構造」は複数案を設定する。
- ・ 「まちの構造」とセットとなる「主要施設配置」を想定する。
- ・ 利便性・安全性など多面的に比較評価する。

② 将来の生活像

「まちの将来像」をより効果的に描くために、「町民の将来の生活像」を整理する。「町民の将来の生活像」は「町長ビジョン」や「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を参考に整理する。

「将来人口」

- ・ 人口が増加・またはゆるやかな減少となっている。
 - ・ 「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、2040 年には人口約 3,400 人を目指すこととしている。(高齢者割合 41%、年少人口割合 12%)
 - ・ 「町長ビジョン」で 2033~2038 年頃に人口 5,000 人程度を目指すこととしている。(2015 年の人口は約 4,200 人。高齢者割合は 36%、年少人口割合は 10%)

「行政サービス」

- ・ 行政手続きのオンライン化が普及し、町民は窓口へ訪れる必要は少なくなっている。
- ・ 行政機能の効率化・高度化が図られている。
- ・ 防災拠点が整備されるとともに、町内で想定される災害に対し、適切にリスク分散が図られている。

「学校」

- ・ オンライン教育の発達により町内で高等教育を受けることが可能となっている。

「産業」

- ・ 漁場整備や漁業の6次産業化により、漁業が憧れられるかつ儲かる産業となっている。
- ・ 「浜のかあさんシリーズ」「まるごと鹿部」など鹿部ブランドが確立し、食と観光によるまちづくりが推進されている。
- ・ 福祉産業による地域循環型経済が構築され、町民が様々な福祉サービスが享受できる環境整備が図られている。

「リゾート・移住」

- ・ 交流・関係人口増加から移住へという形態が確立している。
- ・ リゾートエリアと浜の美しい融合が実現されている。

「自然」

- ・ 森・川・海の自然を間近に感じることができる生活を送ることができる。
- ・ 磯の保全と活用が図られている。

「交通」

- ・ 自動運転バスやA Iによる効率的配車等により公共交通が維持されている。
- ・ 北海道新幹線（新函館北斗～札幌）が開業、北海道縦貫自動車道（函館～札幌）が開通。

「エネルギー」

- ・ 地熱エネルギー活用を活用して、漁業や農業振興に活用されている。

6-2 まちの構造の検討

「まちの将来像の考え方」に基づき、まちの構造について、A案、B案、C案を設定し、それぞれについて、商業ゾーン・観光交流ゾーンなどの「まちの賑わいや利便性を高めるゾーン設定」と「主要施設の配置」を設定する。

各案のコンセプトは下表に示すとおりである。

表 6-1 各案のコンセプト

案	コンセプト
A 案	現状のまちの構造の維持
B 案	災害リスクを考慮した機能の再配置
C 案	バイパスを軸とした都市構造形成

(1) A案：現状のまちの構造の維持

① コンセプト

A案は現在のまちの構造を踏襲し、コンセプトを「現状のまちの構造を維持」とする。

② 将来のまちの構造

A案の将来のまちの構造は下表・下図に示すとおりである。

表 6-2 将来のまちの構造（A案）

	名称	「位置」	主な構成施設・基盤施設
拠点	商業ゾーン	「市街地内の旧国道沿線」	小売店・飲食店
	観光交流ゾーン	「道の駅から鹿部漁港の旧国道沿線」	道の駅・旅館・温泉
	行政ゾーン	「現役場周辺」	町役場・消防
	教育文化ゾーン	「現小学校、幼稚園、公民館周辺」 および「中学校」	小学校、幼稚園、公民館 中学校
	福祉ゾーン	「バイパス沿線の現リハビリセンター周辺」	リハビリセンター
	リゾートゾーン	「大和～鹿部駅」	鉄道駅・ホテル・ゴルフ場
軸	生活の軸	「旧国道 278 号（道道 43 号大沼公園鹿部線、鹿部町本別～鹿部町大岩）」	・生活交通システム（路線バス、デマンド交通など） ・安全快適な歩行・自転車空間
	広域交通軸	「鹿部バイパスを含む国道 278 号」（町内地域間移動と町外移動の自動車軸）	・国道
		「道道大沼公園鹿部線」（町外との主たる移動軸）	・道道 ・都市間バス
		「鉄道」（公共交通の移動軸）	・鉄道

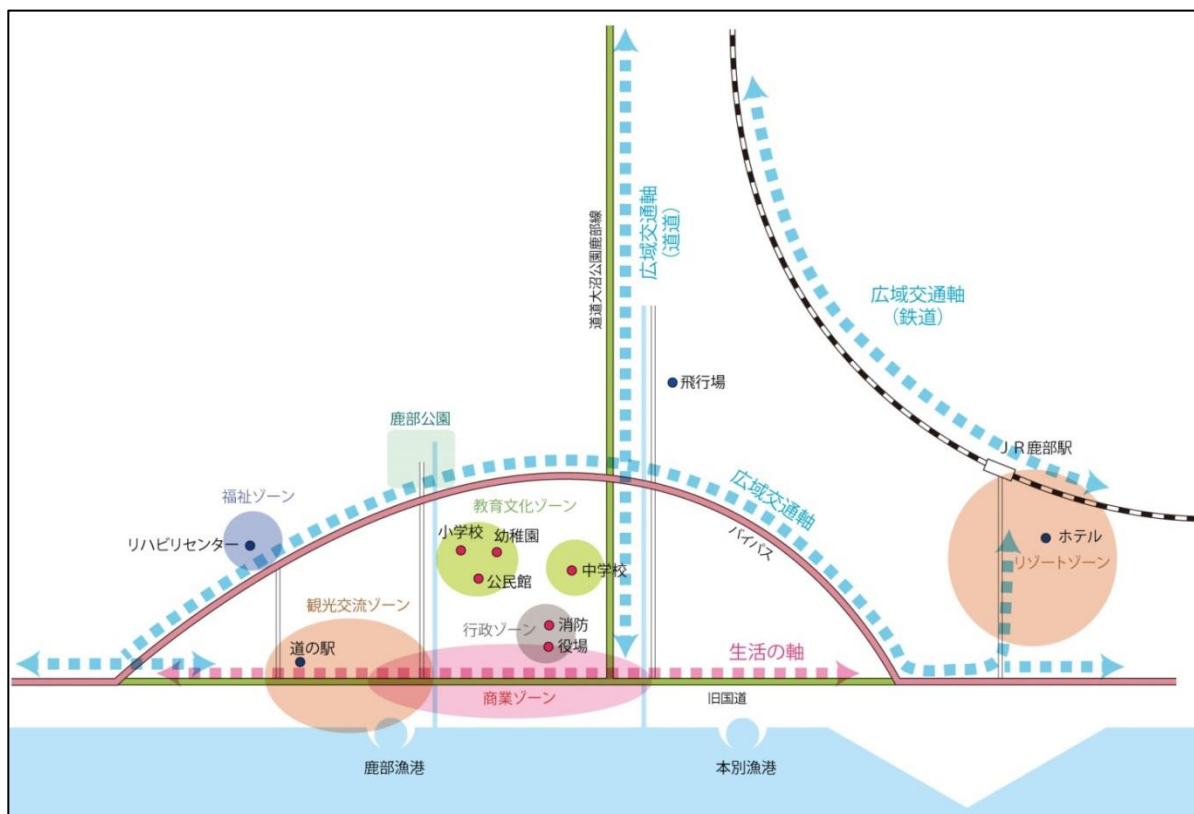


図 6-1 将来のまちの構造（A案）

③ 主要施設の配置

A案の将来の主要施設の配置は下表に示すとおりである。

表 6-3 課題施設の配置（A案）

施設名称等※1	将来の配置	配置の考え方
鹿部町役場 (主棟 1971 年築、RC 造、1,710 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 2,181 m ²)	現地（現地建替）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内各所からの来訪利便を考え、町中心部に立地する。 ・ 生活軸である旧国道からのアクセス利便から現在の敷地に配置する。（現地建替）
鹿部消防署 (主棟 1980 年築、S 造、556 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 618 m ²)	現地建替	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内各所への出勤利便を考え、町中心部かつバイパス沿線に立地する。 ・ 津波浸水想定範囲外とする。 ・ 上記条件に該当する町有地は存在しないため、用地取得が必要である。
鹿部中学校 (1980 年築、RC 造、3,640 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 4,900 m ²)	現地建替	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校用地には広い敷地が必要であるため、現在の学校敷地を基本とする。
鹿部小学校 (1985 年築、RC 造、3,288 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 4,753 m ²)	現地建替	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校用地には広い敷地が必要であるため、現在の学校敷地を基本とする。
しかべ幼稚園 (1974 年築、CB 造、930 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 955 m ²)	現地 (現地建替)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地内の津波浸水想定範囲外に立地する。 ・ 小学校、公民館と近い配置とする。 ・ 今後とも現在の幼稚園と中央公民館のある町有敷地を活用する。
鹿部町中央公民館 (1976 年築、RC 造、1,831 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 1,831 m ²)	現地 (現地建替)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童の活動場所として利用される機会が多いことから、学校・幼稚園と近い位置とする。 ・ 今後とも現在の幼稚園と中央公民館のある町有敷地を活用する。

※1：名称、主たる棟の建築年と構造と延べ床面積、附属棟を含む施設の総延べ床面積

(2) B案：災害リスクを考慮した機能の再配置

① コンセプト

B案は本町の津波浸水想定区域・駒ヶ岳噴火の災害危険区域を考慮し、コンセプトを「災害リスクを考慮した機能の再配置」とする。

② まちの構造

B案の将来のまちの構造は下表・下図に示すとおりである。

表 6-4 将来のまちの構造（B案）

	名称	「位置」	主な構成施設・基盤施設
拠点	商業ゾーン	「市街地内の旧国道沿線」	小売店・飲食店
	観光交流ゾーン	「道の駅から鹿部漁港の旧国道沿線」	道の駅・旅館・温泉
	行政ゾーン	「現役場周辺」	町役場
	教育文化ゾーン	「現小学校、幼稚園、公民館周辺」	小学校、中学校（統合） 幼稚園、公民館
	福祉ゾーン	「バイパス沿線の現リハビリセンター周辺」	リハビリセンター
	リゾートゾーン	「大和～鹿部駅」	鉄道駅・ホテル・ゴルフ場
軸	生活の軸	「旧国道 278 号（道道 43 号大沼公園鹿部線、鹿部町本別～鹿部町大岩）」	・生活交通システム（路線バス、デマンド交通など） ・安全快適な歩行・自転車空間
	広域交通軸	「鹿部バイパスを含む国道 278 号」（町内地域間移動と町外移動の自動車軸）	・国道
		「道道大沼公園鹿部線」（町外との主たる移動軸）	・道道 ・都市間バス
		「鉄道」（公共交通の移動軸）	・鉄道

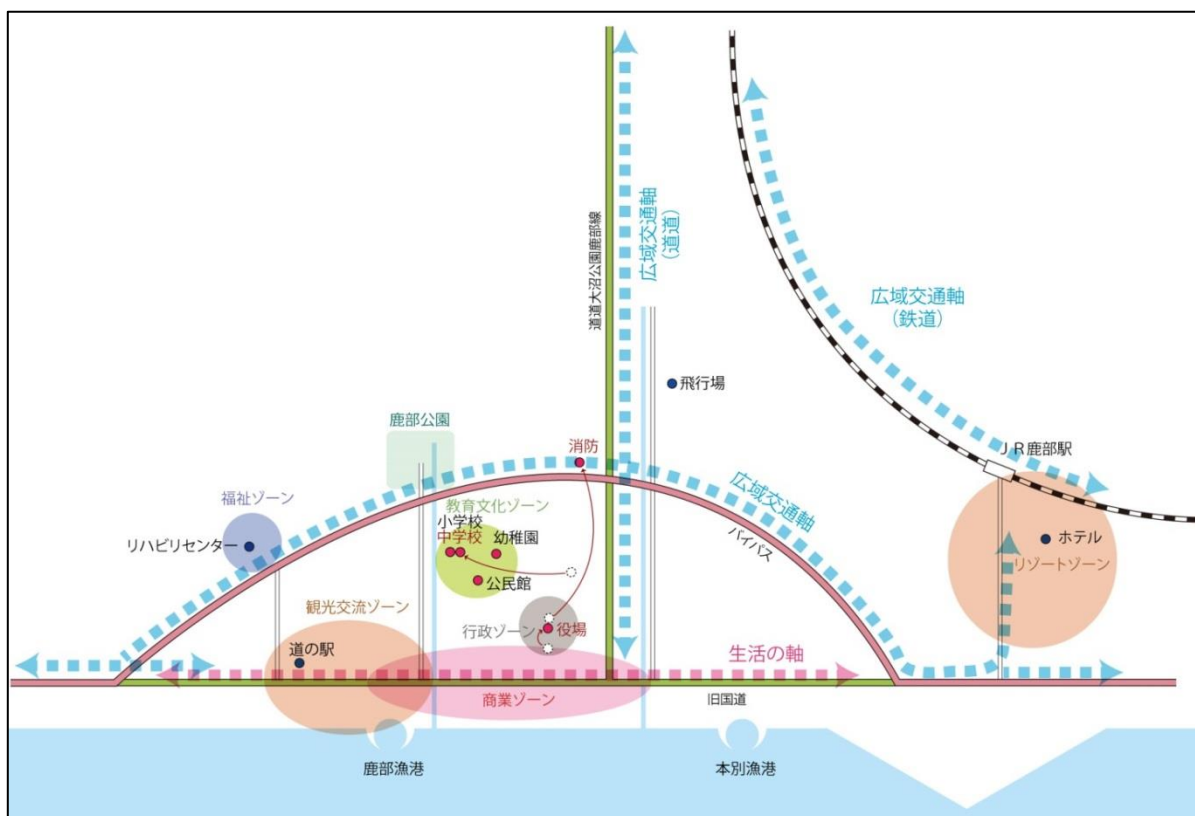


図 6-2 将来のまちの構造（B案）

③ 主要施設の配置

B 案の将来の主要施設の配置は下表に示すとおりである。

表 6-5 課題施設の配置（B 案）

施設名称等※ ¹	将来の配置	配置の考え方
鹿部町役場 (主棟 1971 年築、RC 造、1,710 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 2,181 m ²)	隣接する消防敷地へ移 転建替	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内各所からの来訪利便を考え、町中心部に立地する。 ・ 現在の敷地のほか、下記に示す消防署移転の跡地や中学校移転の跡地が候補となるが、整備順序と生活軸である旧国道からのアクセス利便から消防署跡地に立地する。
鹿部消防署 (主棟 1980 年築、S 造、556 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 618 m ²)	バイパス沿線（宮浜地区）へ移転建替	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内各所への出動利便を考え、町中心部かつバイパス沿線に立地する。 ・ 津波浸水想定範囲外とする。 ・ 上記条件に該当する町有地は存在しないため、用地取得が必要である。
鹿部中学校 (1980 年築、RC 造、3,640 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 4,900 m ²)	現小学校位置へ統合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校用地には広い敷地が必要であるため、現在の学校敷地を基本とする。 ・ 津波浸水想定範囲外に位置する現鹿部小学校敷地に立地する。
鹿部小学校 (1985 年築、RC 造、3,288 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 4,753 m ²)		
しかべ幼稚園 (1974 年築、CB 造、930 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 955 m ²)	現地 (現地建替)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地内の津波浸水想定範囲外に立地する。 ・ 小学校、公民館と近い配置とする。 ・ 現在の幼稚園と中央公民館のある町有敷地を活用する。 (A 案と同じ配置)
鹿部町中央公民館 (1976 年築、RC 造、1,831 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 1,831 m ²)	現地 (現地建替)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童の活動場所として利用される機会が多いことから、学校・幼稚園と近い位置とする。 ・ 現在の幼稚園と中央公民館のある町有敷地を活用する。 (A 案と同じ配置)

※ 1：名称、主たる棟の建築年と構造と延べ床面積、附属棟を含む施設の総延べ床面積

（３）Ｃ案：バイパスを軸とした都市構造形成

① コンセプト

C案は災害に強いまちづくりを標榜し、コンセプトを「バイパスを軸とした都市構造形成」とする。

② 将来のまちの構造

C案の将来のまちの構造は下表・下図に示すとおりである。

表 6-6 将来のまちの構造（C案）

	名称	「位置」	主な構成施設・基盤施設
拠点	観光交流ゾーン	「道の駅～鹿部漁港～市街地の旧国道沿線」	小売店・飲食店・道の駅・旅館・温泉
	行政・福祉ゾーン	「バイパス沿線の現リハビリセンター周辺」	町役場、リハビリセンター
	教育文化ゾーン	「宮浜地区のバイパス沿線」	小学校、中学校、幼稚園（統合） および公民館
	リゾートゾーン	「大和～鹿部駅」	鉄道駅・ホテル・ゴルフ場
軸	生活の軸	「鹿部バイパス（道の駅～道道交差点）」	・生活交通システム（路線バス、デマンド交通など） ・安全快適な歩行・自転車空間
	広域交通軸	「鹿部バイパスを含む国道 278 号」 （町内地域間移動と町外移動の自動車軸）	・国道
		「道道大沼公園鹿部線」 （町外との主たる移動軸）	・道道 ・都市間バス
		「鉄道」（公共交通の移動軸）	・鉄道
	観光周遊軸	「旧国道ほか（道の駅～リゾートゾーン）」	・安全快適な歩行空間（観光交流ゾーン内、そぞろ歩き） ・自転車空間

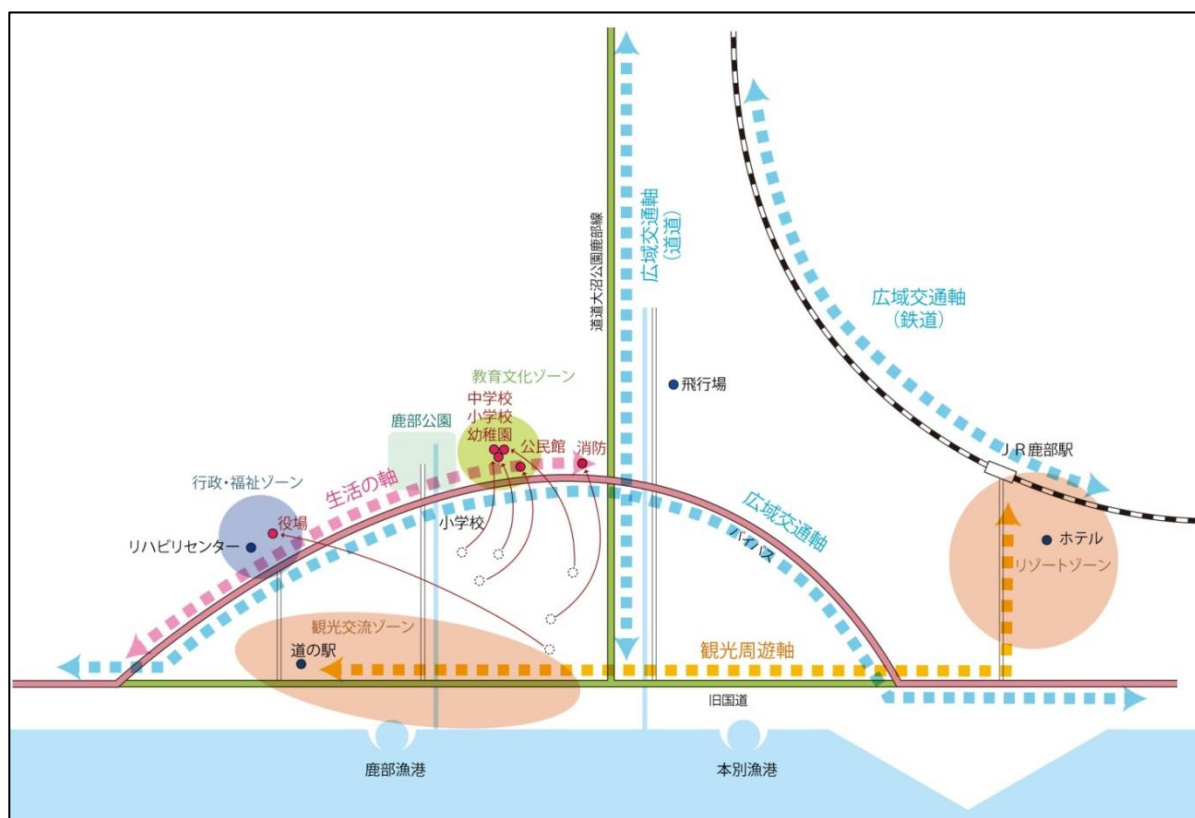


図 6-3 将来のまちの構造（C案）

③ 主要施設の配置

C 案の将来の主要施設の配置は下表に示すとおりである。

表 6-7 課題施設の配置（C 案）

施設名称等※ ¹	将来の配置	配置の考え方
鹿部町役場 (主棟 1971 年築、RC 造、1,710 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 2,181 m ²)	大岩地域のバイパス高台へ移転	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリセンターと合わせて行政・福祉ゾーンを形成 ・浸水想定範囲外のバイパス沿線に立地する。
鹿部消防署 (主棟 1980 年築、S 造、556 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 618 m ²)	バイパス×道道付近へ移転建替	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各所への出勤利便を考え、町中心部かつバイパス沿線に立地する。 ・津波浸水想定範囲外とする。 ・上記条件に該当する町有地は存在しないため、用地取得が必要である。(B 案に同じ)
鹿部中学校 (1980 年築、RC 造、3,640 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 4,900 m ²)	宮浜地区のバイパス北の高台へ移転統合 同上	<ul style="list-style-type: none"> ・バイパス沿線で中学校・小学校・幼稚園を統合した学校施設とする。 ・水道給水区域内に立地する。 ・鹿部公園と近接することで良好な学習環境を提供する。 ・学校用地には広い敷地が必要であるため、大きな用地取得が必要である。
鹿部小学校 (1985 年築、RC 造、3,288 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 4,753 m ²)		
しかべ幼稚園 (1974 年築、CB 造、930 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 955 m ²)		
鹿部町中央公民館 (1976 年築、RC 造、1,831 m ² 、 附属棟を含む総延べ床 1,831 m ²)	統合学校施設の近傍	<ul style="list-style-type: none"> ・学童の活動場所として利用される機会が多いことから、学校・幼稚園と近い位置とする。 ・用地の取得が必要である。

※ 1：名称、主たる棟の建築年と構造と延べ床面積、附属棟を含む施設の総延べ床面積

ページ調整用白紙

6-3 主要施設の配置案の検討

(1) 役場の配置に関する比較評価

① 町民アンケート結果

町民アンケート調査の結果、「検討案」「その他」と回答した割合は拮抗している。

「その他」のうち、意見が多かったのは、「鹿部公園～道道バイパス交差点付近」となっている。

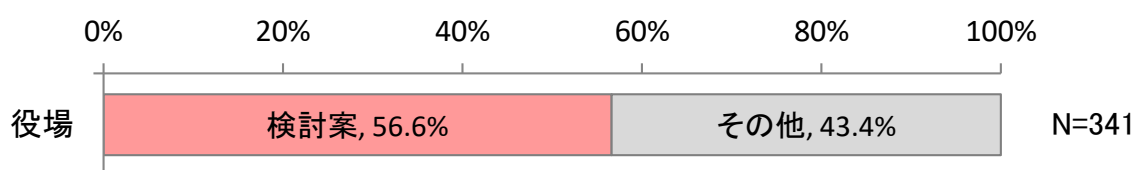


図 6-4 役場の配置に関するアンケート結果

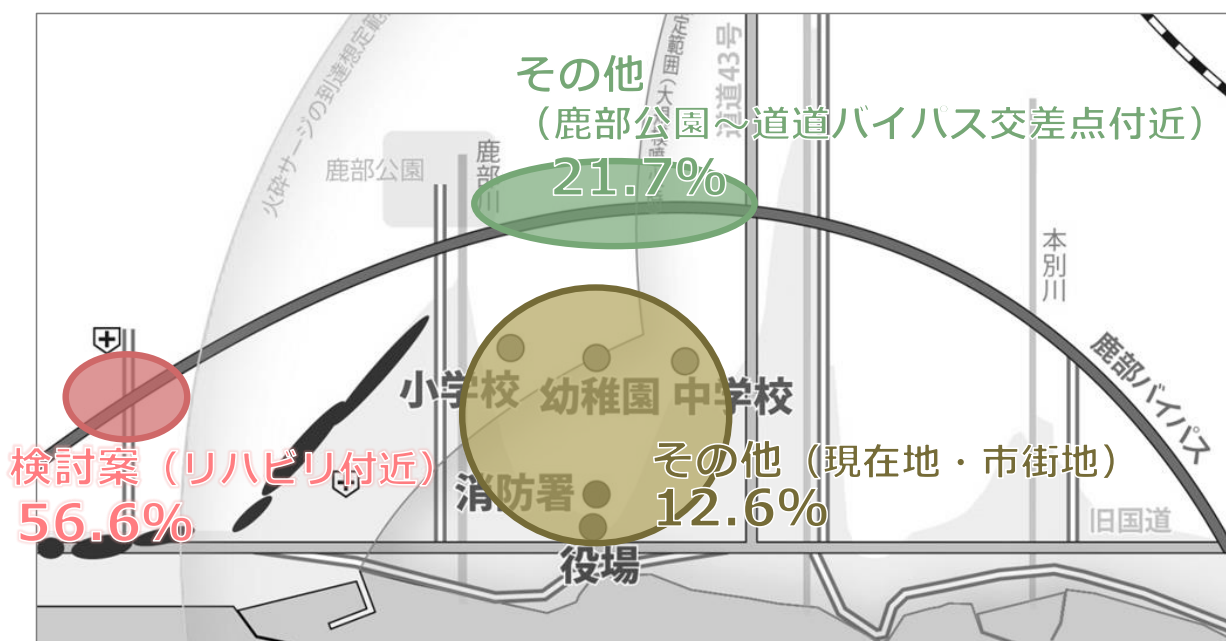


図 6-5 役場の配置に関するアンケート結果

② 比較評価のケース設定

アンケート結果を受け、次ページからの比較評価については、以下の場所を対象とする。

比較ケース	現在地	渡島リハビリ付近 (配置案)	鹿部公園付近 (参考案)
設定理由	-	町民からの支持率が 57.6%と過半を占めるため。	渡島リハビリ付近に次ぎ、 町民からの支持率が高いため、 参考として掲載。

③ 視点別の比較評価

ア. 視点1：アクセス性

「アクセス性」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (渡島リハビリ付近)	参考案 (鹿部公園付近)																														
徒歩	○	×	△																														
	・ 町民の半数程度が 20 分以内で役場にアクセス可能。 ※1	・ 「現在地」と比較して、20 分以内で役場にアクセス可能できる町民割合は 36%減少。 ※1	・ 「現在地」と比較して、20 分以内で役場にアクセス可能できる町民割合は 8%減少。 ※1																														
	<table><tr><th>時間</th><th>人口カバー率</th></tr><tr><td>～5 分</td><td>11.5%</td></tr><tr><td>～10 分</td><td>31.4%</td></tr><tr><td>～15 分</td><td>49.8%</td></tr><tr><td>～20 分</td><td>57.7%</td></tr></table>	時間	人口カバー率	～5 分	11.5%	～10 分	31.4%	～15 分	49.8%	～20 分	57.7%	<table><tr><th>時間</th><th>人口カバー率</th></tr><tr><td>～5 分</td><td>7.4%</td></tr><tr><td>～10 分</td><td>9.9%</td></tr><tr><td>～15 分</td><td>14.9%</td></tr><tr><td>～20 分</td><td>21.3%</td></tr></table>	時間	人口カバー率	～5 分	7.4%	～10 分	9.9%	～15 分	14.9%	～20 分	21.3%	<table><tr><th>時間</th><th>人口カバー率</th></tr><tr><td>～5 分</td><td>1.4%</td></tr><tr><td>～10 分</td><td>10.5%</td></tr><tr><td>～15 分</td><td>30.2%</td></tr><tr><td>～20 分</td><td>49.9%</td></tr></table>	時間	人口カバー率	～5 分	1.4%	～10 分	10.5%	～15 分	30.2%	～20 分	49.9%
	時間	人口カバー率																															
	～5 分	11.5%																															
～10 分	31.4%																																
～15 分	49.8%																																
～20 分	57.7%																																
時間	人口カバー率																																
～5 分	7.4%																																
～10 分	9.9%																																
～15 分	14.9%																																
～20 分	21.3%																																
時間	人口カバー率																																
～5 分	1.4%																																
～10 分	10.5%																																
～15 分	30.2%																																
～20 分	49.9%																																
・ 一方で、「役場へは自家用車でアクセスするため、市街地から離れた場所に配置しても問題ない」という声も見られる。 ※2																																	
公共交通	○	×	×																														
	・ 函館バスのバス停（鹿部役場前）の徒歩圏内に立地。 ※3	・ バイパス沿いにはバス停がなく ※3、 路線変更やコミュニティバス運行などの対応が必要。																															
自家用車	○	△	○																														
	・ 幹線道路に面し、アクセスしやすい。	・ 幹線道路に面し、アクセスしやすい。 ・ 市街地や本別からアクセスするのに時間がかかる。	・ 幹線道路に面し、アクセスしやすい。																														

※1：到達圏解析 ※2：事業者インタビュー調査 ※3：函館バスホームページ

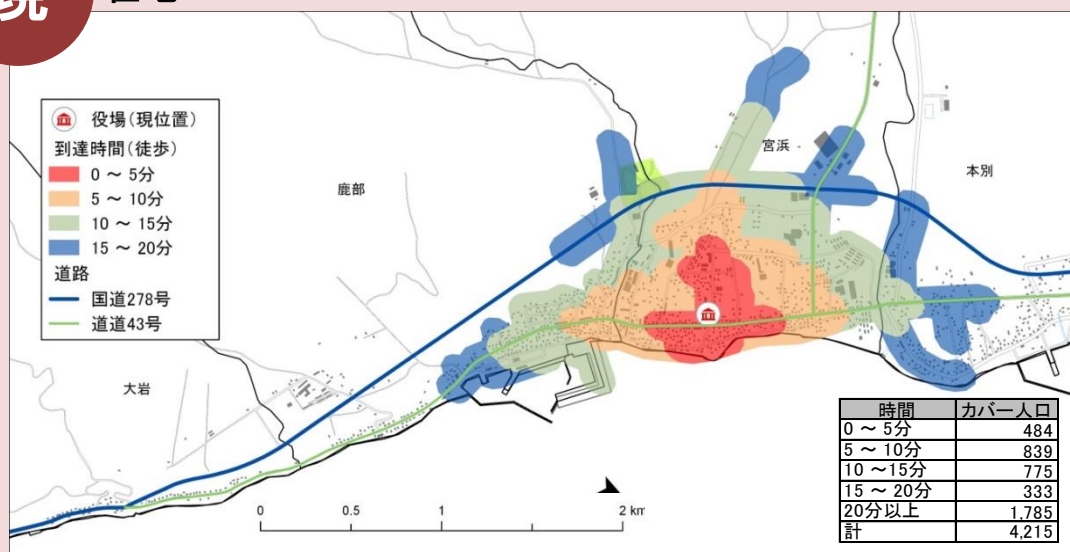
■参考：到達圏解析

到達圏解析とは、ある地点から交通ネットワークを用いた際に、指定した時間内に到達することができる圏域を算出するものである。

今回は、到達圏解析に加え、250mメッシュの人口（国勢調査）を建築面積に応じて按分することで、町民の居住地を推計し、徒歩圏に居住する町民割合を推計している。

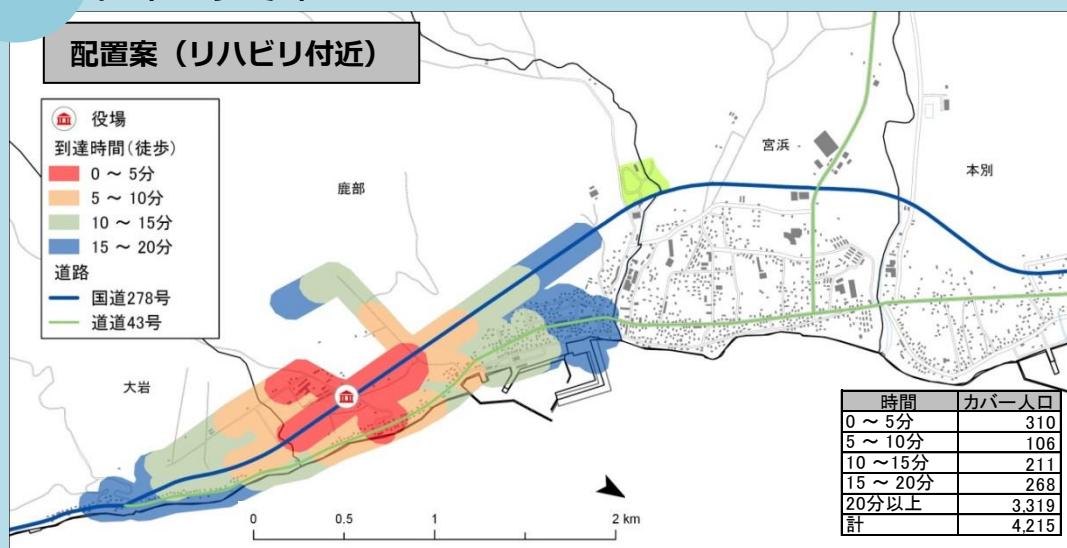
■参考：到達圏解析の結果

現 在 地

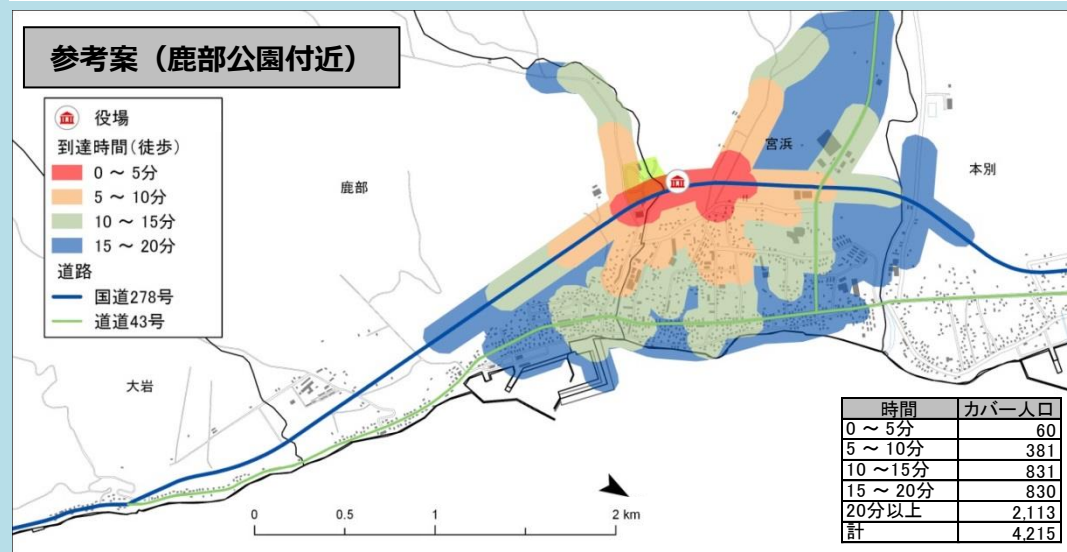


配 置 案 ・ 参考案

配置案（リハビリ付近）



参考案（鹿部公園付近）



イ. 視点2：災害リスク・安全性

「災害リスク・安全性」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (渡島リハビリ付近)	参考案 (鹿部公園付近)
津波 ※1	×	○	○
	・浸水予測最大 1.0m～2.0m。	・津波浸水想定区域外。	
噴火 ※2	火砕流	×	○
	・到達想定区域内。	・到達想定区域外。	
	火砕サージ	×	×
	・到達想定区域内。	・到達想定区域外。	・到達想定区域内。
災害 土砂 ※3	○	△	○
	・ハザードの指定なし。	・ハザードの指定なし。 ・付近にある「バイパス～道路の取り付け道路」がハザードに指定されており、緊急時に道路ネットワークが寸断される可能性がある。	・ハザードの指定なし。
アクセス 職員	○	×	△
	・役場は住宅地内にあり、緊急時に容易に出勤可能。	・最も住宅地から離れるため、緊急時に出勤しづらい。	・住宅地から離れるため、緊急時にやや出勤しづらい。
日常の安全性	交通安全性	×	×
		・「バイパスは高速で通過する車両が多い」「リハビリ付近の交差点の事故が心配」との意見が見られた。※5	・「バイパスは高速で通過する車両が多い」との意見が見られた。※5
	獣害	△	×
			・「クマが出る恐れがある」との意見が見られた。※5

※1：鹿部町津波ハザードマップ

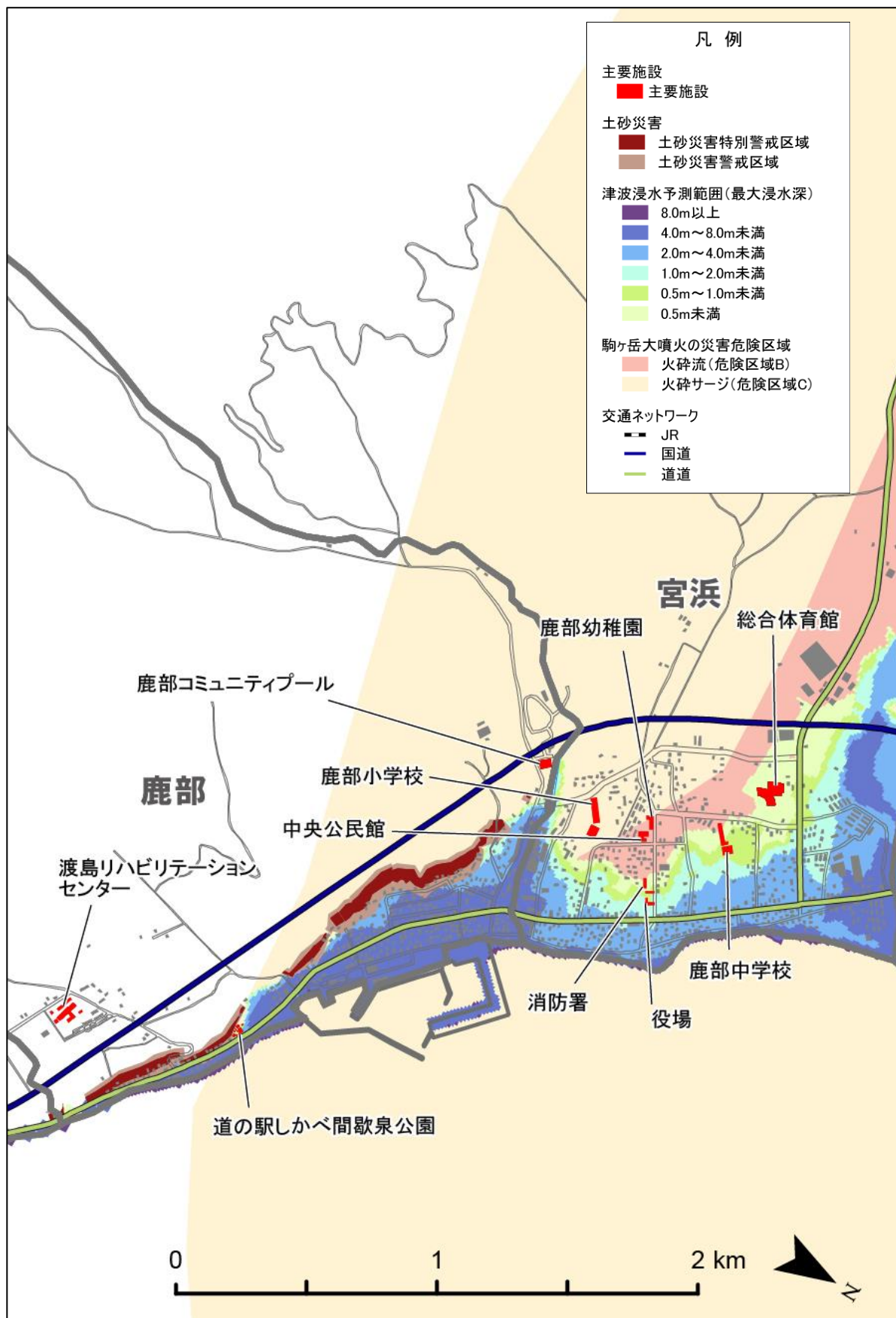
※2：鹿部町地域防災計画

※3：北海道土砂災害警戒情報システム

※4：鹿部町公共施設等総合管理計画

※5：町民アンケート

■参考：災害リスク（市街地）



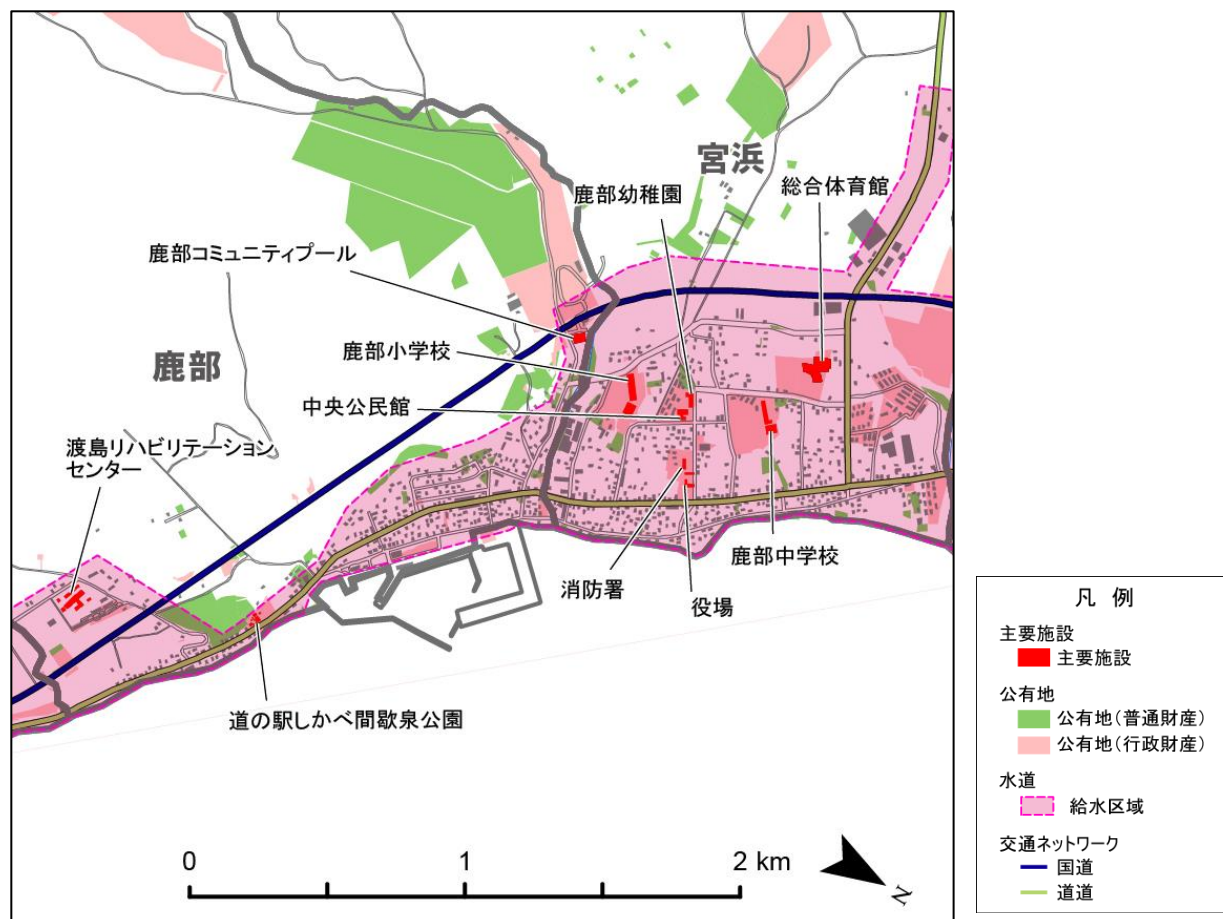
ウ. 視点3：財政

「財政」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (渡島リハビリ付近)	参考案 (鹿部公園付近)
用地	○	△	×
		・道の駅山側にはまとまった用地があるが、 リハビリ直近の用地は少ない。 ※ ¹	・付近に 公有地がない。 ※ ¹ ・バイパスと沿道の用地に高低差があるため、用地造成が必要。
上水道	○	△	△
		・基本的には 給水エリア内 であるが、需要に対応するための追加設備が必要となる可能性がある。※ ¹	
道路	○	○	×
			・バイパスを横断する交通需要に対応した 道路整備 が必要。

※1：鹿部町資料

■参考：用地と上水道給水エリア（市街地）



工. 視点4：まちづくりへの寄与

「まちづくりへの寄与」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。なお、施設連携については、消防署を「道道・バイパス交差点付近」、文教施設を「鹿部公園付近」に配置した場合について記載している。

		現在地	配置案 (渡島リハビリ付近)	参考案 (鹿部公園付近)
施設連携	リハビリ	×	○	×
			・リハビリと隣接することになり、デイサービス利用者による「 ついで利用 」の可能性はある。 ・ 渡島リハビリと連携した介護予防活動 の実施が可能。	
	消防署	○	○	○
		・消防署と隣接しており、 災害時に連携 が可能。	・消防署と分散することになり、 防災拠点 を分散することに繋がる。	・消防署と隣接することとなり、施設設計によっては、 会議室の共有等 を行うことができる。
	文教施設	×	×	○
				・文教施設と隣接することになり、父兄の送迎時に「 ついで利用 」される可能性がある。 ・文教施設は避難所になることが想定され、役場職員が円滑に 避難所運営 ができる。
賑わいづくり		○	×	△
		・まちなかの回遊づくりに貢献。	・市街地での町民の回遊が減り、 市街地の商業活動が低下 することが懸念される。 ・現庁舎跡地の活用方法の検討も必要。	・市街地での町民の回遊が減り、 市街地の商業活動が低下 することが懸念される。 ・文教施設と隣接させ、 新たな賑わい拠点 を整備することができる。 ・現庁舎跡地の活用方法の検討も必要。

■参考：町民・事業者の声 ～ 施設の集約・分散について

＜集約に賛同する声＞

- ・消防署と近い方が、災害時に連携できるのでは。(町民アンケート調査)
- ・全ての施設を1か所にまとめたほうが、機能的・効率的。(町民アンケート調査)
- ・役場とコンビニ、教育委員会・社会福祉協議会を併設させるなど、複合化を進めるべき。(町民WS)
- ・社会福祉協議会は災害時に災害ボランティアセンター支部となるため、役場の傍にあることが重要。(事業者インタビュー調査)
- ・コンパクトに全部の施設がまとまっていることが大事。コミュニティバスを運行したとしても、まとまっている方が、ついで利用しやすい。(事業者インタビュー調査)

＜分散に賛同する声＞

- ・災害時に、役場と消防が双方とも被災することは避けるべき。(役場内WS)

④ 役場の配置に関する評価の総括

視点1～視点4で実施した、「現在地」「配置案」「参考案」の評価をまとめると、下記ようになる。

視点		現在地	配置案 (渡島リハビリ付近)	参考案 (鹿部公園付近)
アンケート結果	町民からの支持率	- 支持率 12.3%※1	○ 支持率 57.6%	- 支持率 22.5%
アクセス性	徒歩	○	×	△
	公共交通	○	×	×
	自家用車	○	△	○
災害リスク・安全性	津波	×	○	○
	噴火	火砕流	×	○
		火砕サージ	×	×
	土砂災害		○	△
	職員アクセス		○	×
	日常の安全性	交通安全性	○	×
		獣害	○	△
財政	用地		○	△
	上水道		○	△
	道路		○	○
まちづくりへの寄与	他施設との連携	リハビリ	×	○
		消防署	○	○
		文教施設	×	×
	賑わいづくり		○	×

※1：「現在地」の支持率は、現在地の周辺や類する意見（まちの中心部等）も含む

⑤ 役場の配置に関する課題の総括

視点1～視点4で検討した内容を踏まえ、施設配置に伴う課題についてまとめると、下記のような。

	現在地	配置案 (渡島リハビリ付近)	参考案 (鹿部公園付近)
アクセス性	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通アクセス性の確保 (路線バスの路線変更・地域公共交通網の検討) 	
災害リスク 安全性	<ul style="list-style-type: none"> ● 津波浸水への対応 ● 噴火への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路ネットワーク寸断への対応の検討 ● 災害時の職員アクセス方法の検討 ● バイパスの交通安全性の確保(信号機や街灯の設置) ● 有害鳥獣出没への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 噴火への対応(火砕サージ) ● バイパスの交通安全性の確保(信号機や街灯の設置) ● 有害鳥獣出没への対応
財政	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 用地の確保 ● 上水道の追加設備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用地の確保 ● 用地造成 ● 上水道の追加設備の検討 ● 道路整備の検討
まちづくり への寄与	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣接や連携する施設の検討・具体的な連携案 ● 現庁舎の跡地の活用の検討 ● 現市街地の賑わいの低下への対応方針の検討 	

ページ調整用白紙

（２）消防署の配置に関する比較評価

① 町民アンケート結果

町民アンケート調査の結果、「検討案」の支持割合は83.0%と、多くの町民が支持している。

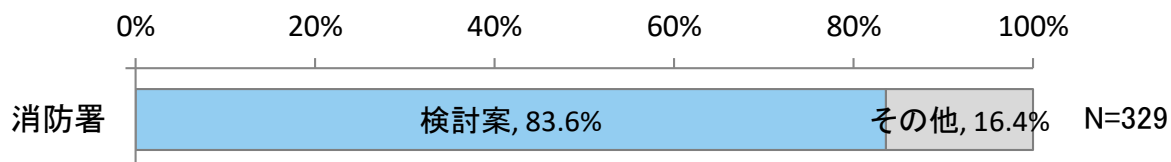


図 6-7 消防署の配置に関するアンケート結果

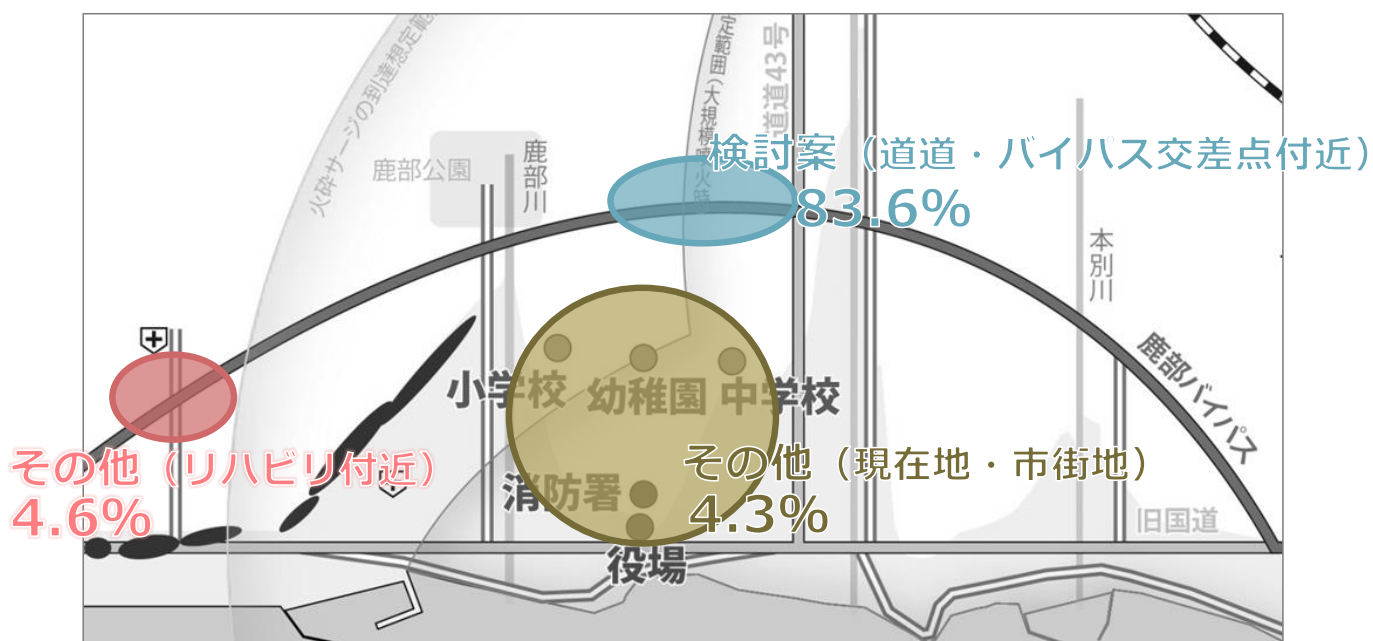


図 6-8 消防署の配置に関するアンケート結果

② 比較評価のケース設定

アンケート結果を受け、次ページからの比較評価については、以下の場所を対象とする。

比較ケース	現在地	バイパス・道道交差点付近 (配置案)	リハビリ付近 (参考案)
設定理由	-	町民からの支持率が 83.0%と大半を占めるため。	現在地と同程度の支持率であり、また「施設連携を促進すべき」「災害リスクを回避すべき」との意見が複数寄せられているため。

③ 視点別の比較評価

ア. 視点1：アクセス性（出勤利便性）

「出勤利便性」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (バイパス・道道交差点付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)																													
通行 車両の	×	○	○																													
	・ 取り付け道路の幅員が狭く、 大型車の出勤の利便性が低い。	・ 幹線道路に面するため、 大型車の通行が容易。																														
出勤時間	△	○	×																													
	<div>・ 市街地へは出勤利便性が高いものの、本別や駒見への出勤利便性は低い。</div> <table><thead><tr><th>時間</th><th>人口カバー率</th></tr></thead><tbody><tr><td>～3分</td><td>65.9%</td></tr><tr><td>～5分</td><td>83.1%</td></tr><tr><td>～10分</td><td>99.5%</td></tr><tr><td>～15分</td><td>99.5%</td></tr></tbody></table>	時間	人口カバー率	～3分	65.9%	～5分	83.1%	～10分	99.5%	～15分	99.5%	<div>・ 「現在地」と比べて、5分以内に到着できる町民割合は3.7%増加すると推計。^{※1}</div> <table><thead><tr><th>時間</th><th>人口カバー率</th></tr></thead><tbody><tr><td>～3分</td><td>68.3%</td></tr><tr><td>～5分</td><td>86.9%</td></tr><tr><td>～10分</td><td>99.5%</td></tr><tr><td>～15分</td><td>99.5%</td></tr></tbody></table>	時間	人口カバー率	～3分	68.3%	～5分	86.9%	～10分	99.5%	～15分	99.5%	<div>・ 「現在地」と比べて、5分以内に到着できる町民割合は9.3%減少すると推計。^{※1}</div> <table><thead><tr><th>時間</th><th>人口カバー率</th></tr></thead><tbody><tr><td>～3分</td><td>37.5%</td></tr><tr><td>～5分</td><td>73.8%</td></tr><tr><td>～10分</td><td>98.1%</td></tr><tr><td>～15分</td><td>99.5%</td></tr></tbody></table>	時間	人口カバー率	～3分	37.5%	～5分	73.8%	～10分	98.1%	～15分
時間	人口カバー率																															
～3分	65.9%																															
～5分	83.1%																															
～10分	99.5%																															
～15分	99.5%																															
時間	人口カバー率																															
～3分	68.3%																															
～5分	86.9%																															
～10分	99.5%																															
～15分	99.5%																															
時間	人口カバー率																															
～3分	37.5%																															
～5分	73.8%																															
～10分	98.1%																															
～15分	99.5%																															

※1：到達圏解析

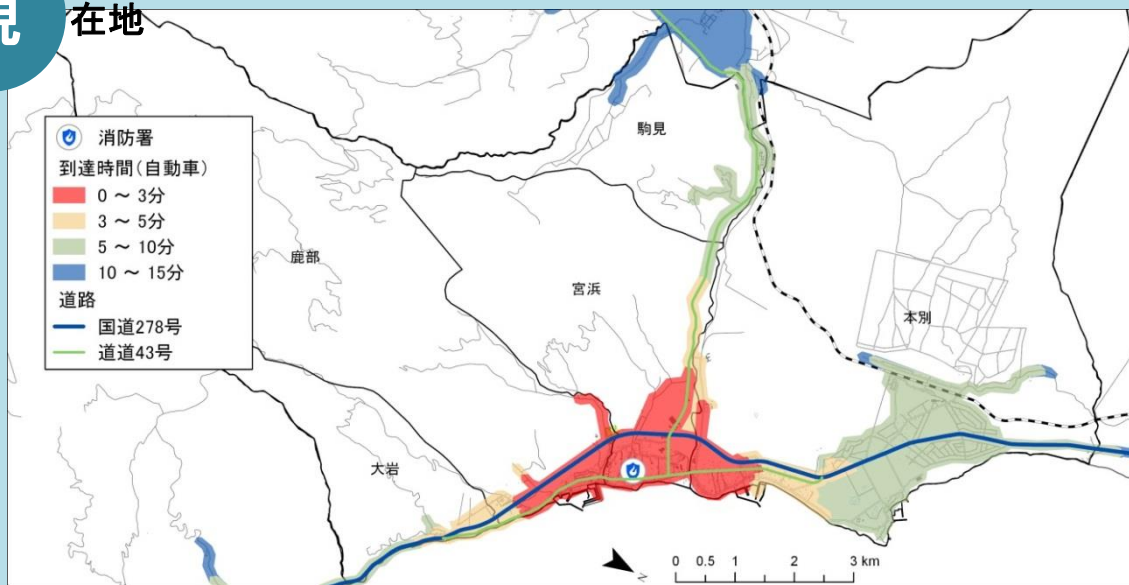
■参考：到達圏解析（※再掲）

到達圏解析とは、ある地点から交通ネットワークを用いた際に、指定した時間内に到達することができる圏域を算出するものである。

今回は、到達圏解析に加え、250mメッシュの人口（国勢調査）を建築面積に応じて按分することで、町民の居住地を推計し、一定の運転時間での到達できる圏域に居住する町民割合を推計している。

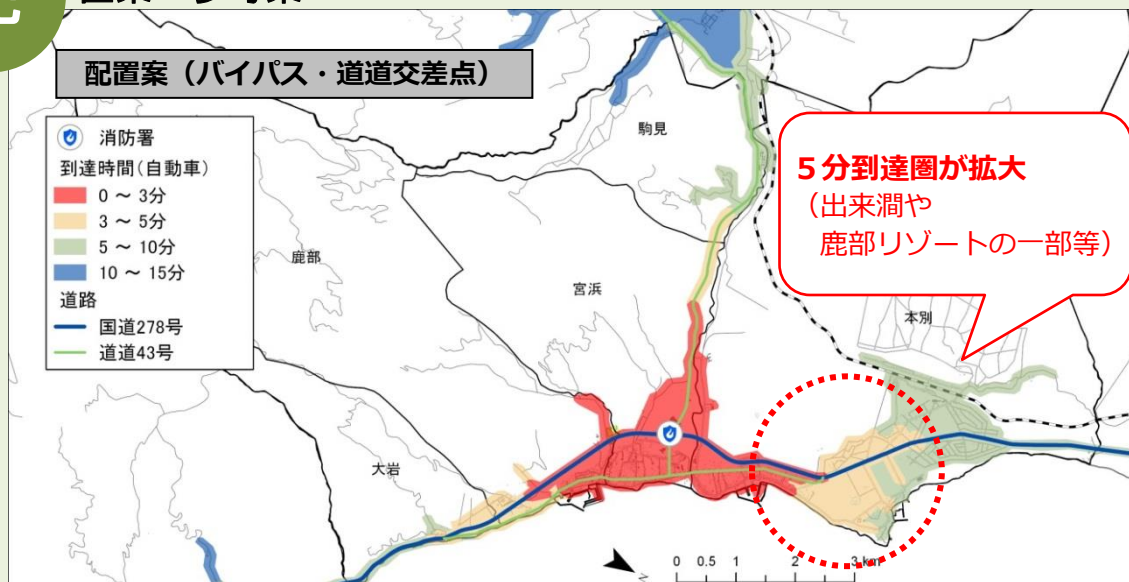
■参考：到達圏解析の結果

現 在 地

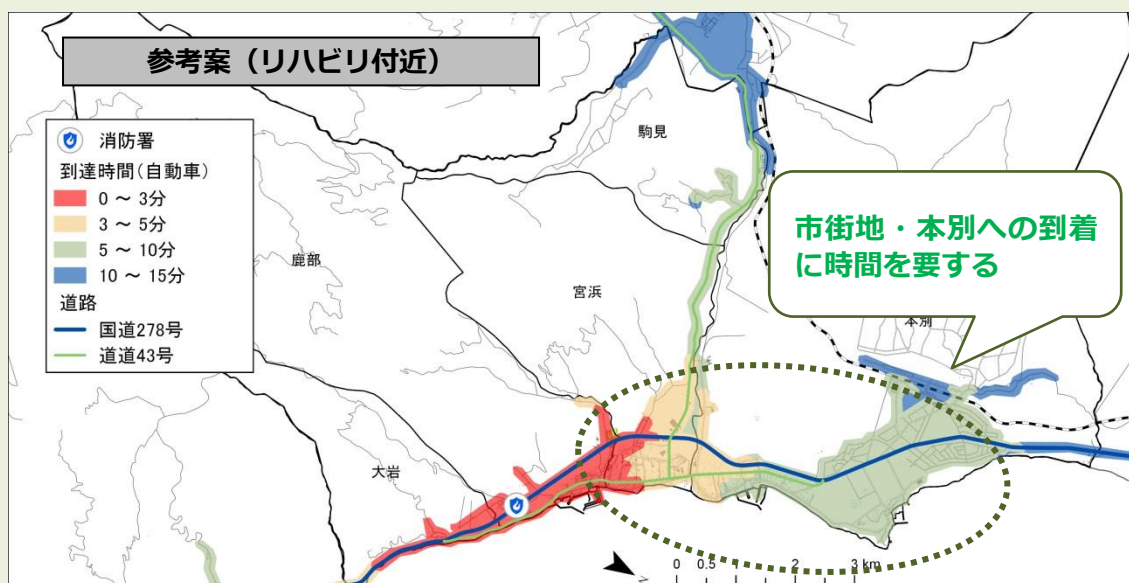


配 置 案 ・ 参 考 案

配置案 (バイパス・道道交差点)



参考案 (リハビリ付近)



イ. 視点2：災害リスク・安全性

「災害リスク・安全性」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

		現在地	配置案 (バイパス・道道交差点付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
津波 ※ 1		×	△	○
		・浸水予測最大 0.5m未満 。	・基本的には津波浸水想定区域 外 。 (道道・バイパス直近は0.5m浸水と予想)	・津波浸水想定区域 外 。
噴火 ※ 2	火砕流	×	△	○
		・到達想定区域 内 。	・基本的には到達想定区域 外 。 (道道・バイパス直近は到達想定区域内)	・到達想定区域 外 。
	火砕サージ	×	×	○
		・到達想定区域 内 。		・到達想定区域 外 。
災害 ※ 3	土砂	○	○	△
		・ハザードの 指定はない 。		・ハザードの 指定なし 。 ・付近の「バイパス～道道の取り付け道路」がハザードに指定されており、緊急時に 道路ネットワークが寸断 される可能性がある。
(日常の安全性) (交通安全性)		△	△	○
		・取り付け道路の幅員が狭く、 出勤時の利便性が低い 。	・文教施設と隣接した場合、「通学時の児童への安全性が心配」との意見がある。※ 5	

※1：鹿部町津波ハザードマップ

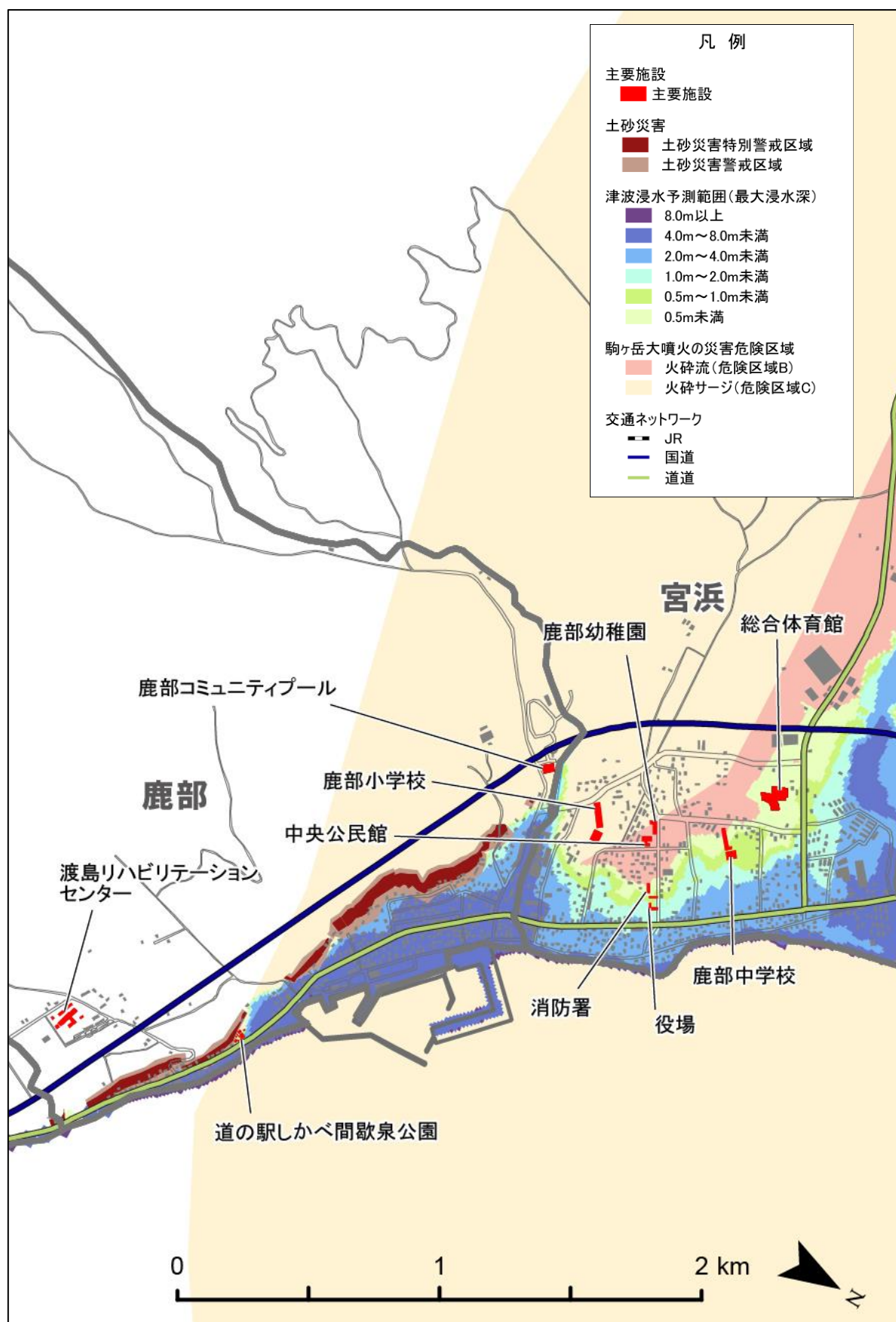
※2：鹿部町地域防災計画

※3：北海道土砂災害警戒情報システム

※4：鹿部町公共施設等総合管理計画

※5：町民アンケート

■参考：災害リスク（市街地） ※再掲



ウ. 視点3：財政

「財政」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (バイパス・道道交差点付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
用地	○	×	△
		・ 付近に 公有地がない 。 ^{※1}	・ 道の駅山側にはまとまった用地があるが、 リハビリ直近の用地は少ない 。 ^{※1}
上水道	○	△	△
		・ 基本的には 給水エリア内 であるが、需要に対応するための追加設備が必要となる可能性がある。	
道路	×	○	○
	・ 取り付け道路の幅員が狭く、拡張が望ましい。		

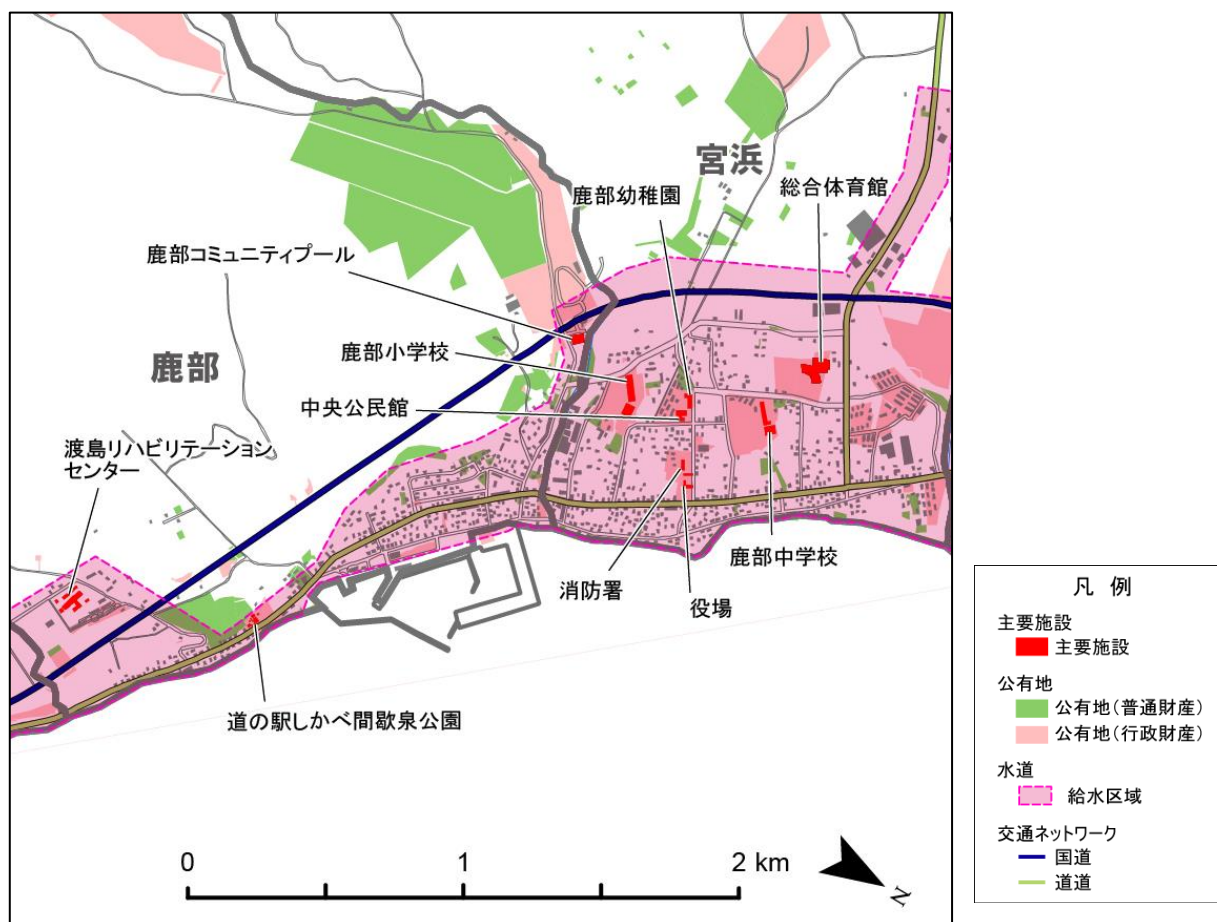
※1：鹿部町資料

工. 視点4：まちづくりへの寄与

「まちづくりへの寄与」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。なお、施設連携については、役場を「渡島リハビリ付近」に配置した場合について記載している。

		現在地	配置案 (バイパス・道道交差点付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
他施設との連携	役場	△	○	○
		・災害時に連携が可能。	・役場と分散させることとなり、 防災拠点を分散 することに繋がる。	・役場と隣接することとなり、施設設計によっては、役場と 会議室の共有等 を行うことができる。
まちづくり	賑わい	○	×	×
			・現消防署跡地の活用方法の検討も必要。	

■参考：用地と上水道給水エリア（市街地） ※再掲



④ 消防署の配置に関する評価の総括

視点1～視点4で実施した、「現在地」「配置案」「参考案」の評価をまとめると、下記のようなになる。

視点		現在地	配置案 (バイパス・ 道道交差点付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
アンケート 結果	町民の支持率	- 支持率 4.2%※1	○ 支持率 83.0%	- 支持率 4.6%
性 (アクセシ 性)	車両の通行	×	○	○
	出勤時間	△	○	×
災害リスク・安全性	津波	×	△	○
	噴火	火砕流	×	△
		火砕サージ	×	○
	土砂災害	○	○	△
	日常の安全性 (交通安全性)	△	△	×
財政	用地	○	×	△
	上水道	○	△	△
	道路	×	○	○
まちづくり への寄与	他施設との連携	役場	△	○
	賑わいづくり	○	×	×

※1：「現在地」の支持率は、現在地の周辺や類する意見（まちの中心部等）も含む

⑤ 消防署の配置に関する課題の総括

視点1～視点4で検討した内容を踏まえ、施設配置に伴う課題についてまとめると、下記のようなになる。

視点	現在地	配置案 (バイパス・道道交差点付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
アクセス性 (出勤利便性)	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両の通行利便性の向上 ● 本別等への出勤利便性の向上 	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地や本別等への出勤利便性の確保
災害リスク 安全性	<ul style="list-style-type: none"> ● 津波浸水への対応 ● 噴火への対応 ● 出勤利便性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 噴火への対応（火砕サーージ） ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路ネットワーク寸断への対応の検討
財政	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路の拡張の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用地の確保 ● 上水道の追加設備の検討 	
まちづくり への寄与	-	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣接や連携する施設の検討・具体的な連携案 ● 消防署跡地の活用の検討 	

ページ調整用白紙

（３）文教施設の配置に関する比較評価

① 町民アンケート結果

町民アンケート調査の結果、「検討案」の支持割合は82.6%と、多くの町民が支持している。

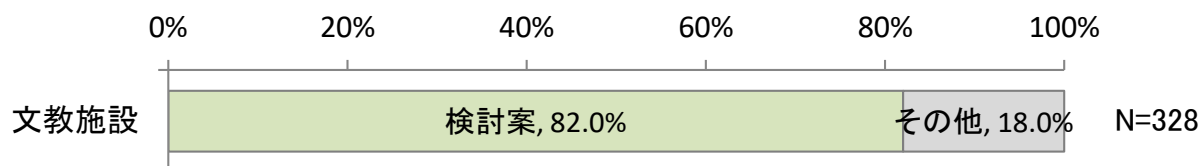


図 6-9 文教施設の配置に関するアンケート結果

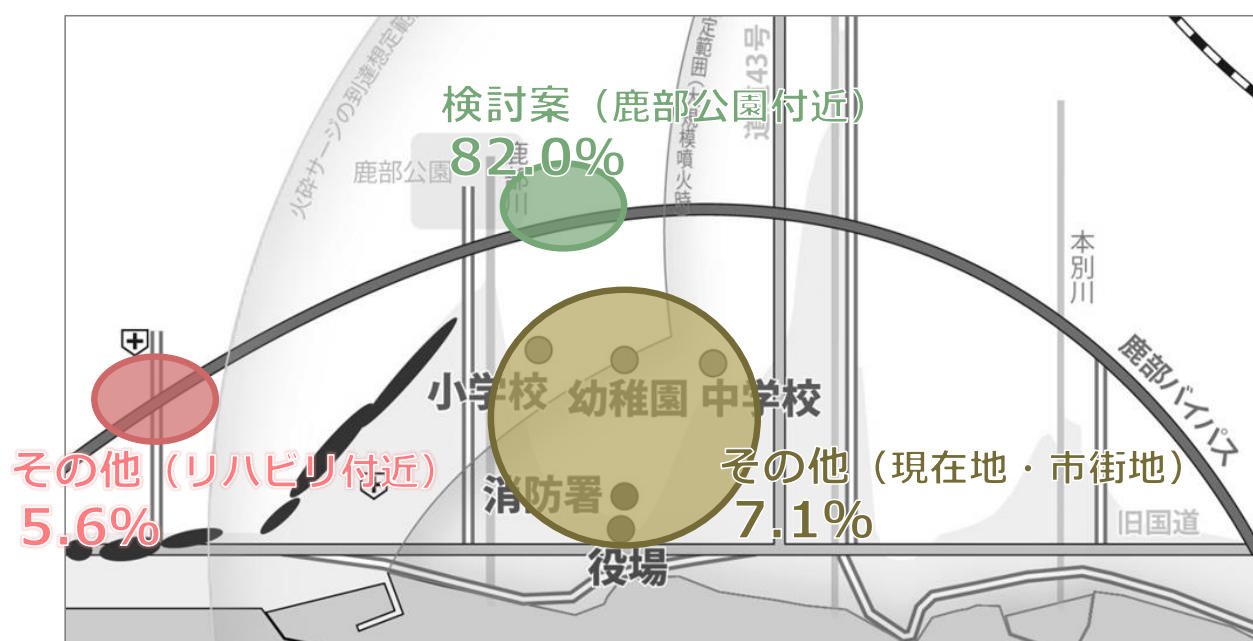


図 6-10 文教施設の配置に関するアンケート結果

② 比較評価のケース設定

アンケート結果を受け、次ページからの比較評価については、以下の場所を対象とする。

比較ケース	現在地	鹿部公園付近 (配置案)	渡島リハビリ付近 (参考案)
設定理由	-	町民からの支持率が83.0%と大半を占めるため。	現在地と同程度の支持率であり、また「施設連携を促進すべき」「災害リスクを回避すべき」との意見が複数寄せられているため。

③ 視点別の比較評価

ア. 視点1：アクセス性

「アクセス性」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (鹿部公園付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)																																										
徒歩 ※ 1	○	△	×																																										
	・幼稚園・小学校・中学校い ずれにおいても、 町民の半 数程度が 20 分以内でアクセ ス可能。	・「現在地」と比較して、 10 分以内 と短時間に到着でき る町民割合は 大きく減少す る と推計。 ・ 20 分以内 に到着できる町民 割合も減少と推計。	・「現在地」と比較して、 20 分以内 に到着できる町民割 合は 大幅に減少 と推計。																																										
	<table><tr><th rowspan="2">時間</th><th colspan="3">人口カバー率</th></tr><tr><th>幼稚園</th><th>小学校</th><th>中学校</th></tr><tr><td>～5 分</td><td>10.7%</td><td>6.0%</td><td>9.1%</td></tr><tr><td>～10 分</td><td>34.7%</td><td>22.1%</td><td>34.5%</td></tr><tr><td>～15 分</td><td>45.9%</td><td>42.5%</td><td>43.2%</td></tr><tr><td>～20 分</td><td>52.8%</td><td>50.2%</td><td>55.5%</td></tr></table>	時間	人口カバー率			幼稚園	小学校	中学校	～5 分	10.7%	6.0%	9.1%	～10 分	34.7%	22.1%	34.5%	～15 分	45.9%	42.5%	43.2%	～20 分	52.8%	50.2%	55.5%	<table><tr><th>時間</th><th>人口カバー率 文教施設</th></tr><tr><td>～5 分</td><td>1.4%</td></tr><tr><td>～10 分</td><td>10.4%</td></tr><tr><td>～15 分</td><td>29.8%</td></tr><tr><td>～20 分</td><td>49.5%</td></tr></table>	時間	人口カバー率 文教施設	～5 分	1.4%	～10 分	10.4%	～15 分	29.8%	～20 分	49.5%	<table><tr><th>時間</th><th>人口カバー率 文教施設</th></tr><tr><td>～5 分</td><td>7.4%</td></tr><tr><td>～10 分</td><td>9.9%</td></tr><tr><td>～15 分</td><td>14.9%</td></tr><tr><td>～20 分</td><td>21.3%</td></tr></table>	時間	人口カバー率 文教施設	～5 分	7.4%	～10 分	9.9%	～15 分	14.9%	～20 分
時間	人口カバー率																																												
	幼稚園	小学校	中学校																																										
～5 分	10.7%	6.0%	9.1%																																										
～10 分	34.7%	22.1%	34.5%																																										
～15 分	45.9%	42.5%	43.2%																																										
～20 分	52.8%	50.2%	55.5%																																										
時間	人口カバー率 文教施設																																												
～5 分	1.4%																																												
～10 分	10.4%																																												
～15 分	29.8%																																												
～20 分	49.5%																																												
時間	人口カバー率 文教施設																																												
～5 分	7.4%																																												
～10 分	9.9%																																												
～15 分	14.9%																																												
～20 分	21.3%																																												
公共交通	△	×	×																																										
	・ 中学校 は、函館バスの バス 停 （ひまわり団地）の 徒歩 圏内 に立地。※ ² ・ 幼稚園・小学校 はバス停の 徒歩圏外 。 （幼稚園・小学校前は道路 が狭く、大型バスでは通行 しづらい。※ ³ ）	・ バイパス沿いにはバス停がなく※ ² 、 路線変更やコミュニティ バス・スクールバスの運行 などの対応が必要。																																											
(送迎) 自家用車	△	△	○																																										
	・ 幹線道路に面しておらず、 アクセスしづらい。 （園児の登園は自家用車に よる送迎がメインであるた め、通園時間帯は車の出入 りが多いが、「学校前は道路 が狭く、 通いづらい 」との 意見が見られた。※ ⁴ ）	・ 幹線道路に面し、アクセス しやすくなる。 ・ 市街地や本別からアクセス するのに 時間がかかる 。	・ 幹線道路に面し、アクセス しやすくなる。																																										

※1：到達圏解析

※3：事業者インタビュー調査

※2：函館バスホームページ

※4：町民アンケート調査

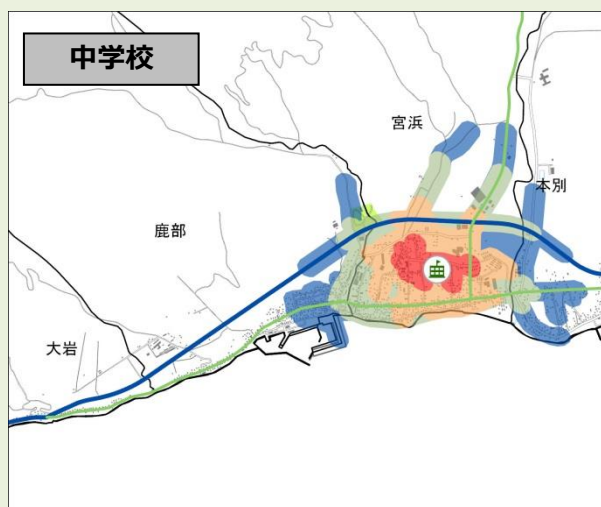
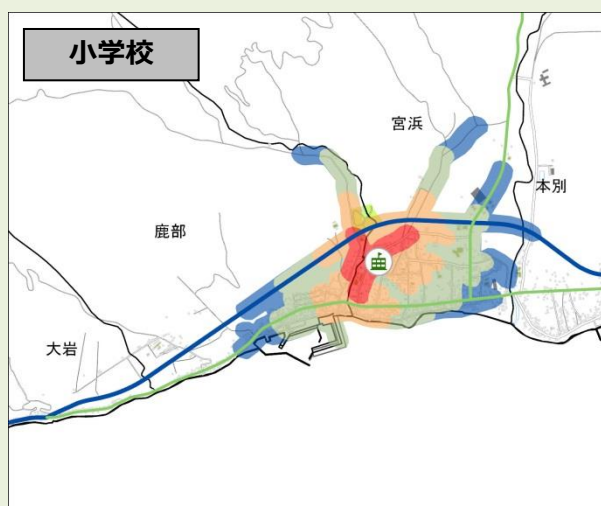
■参考：到達圏解析（※再掲）

到達圏解析とは、ある地点から交通ネットワークを用いた際に、指定した時間内に到達することができる圏域を算出するものである。

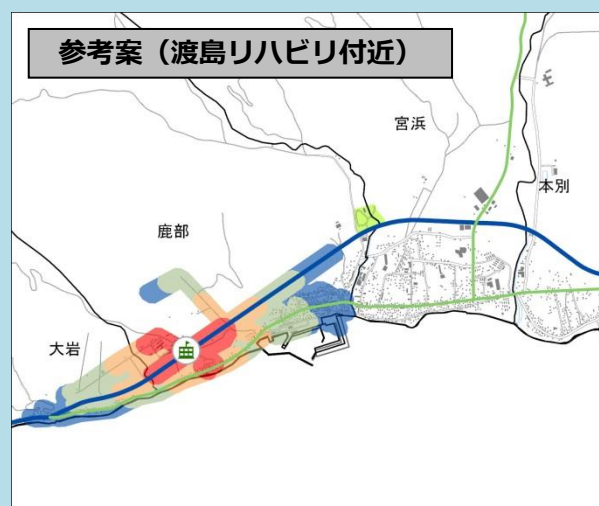
今回は、到達圏解析に加え、250mメッシュの人口（国勢調査）を建築面積に応じて按分することで、町民の居住地を推計し、徒歩圏に居住する町民割合を推計している。

■参考：到達圏解析の結果








現 在地



配 置案・参考案



時間	カバー人口（人）				
	現在地			配置案	参考案
	幼稚園	小学校	中学校	文教施設	文教施設
0 ～ 5分	451	253	383	60	484
5 ～ 10分	1,012	676	1,072	378	839
10 ～ 15分	470	860	364	820	775
15 ～ 20分	293	327	519	829	333
20分以上	1,989	2,099	1,876	2,128	1,785
計	4,215	4,215	4,215	4,215	4,215

 文教施設
 到達時間（徒歩）
 0 ～ 5分
 5 ～ 10分
 10 ～ 15分
 15 ～ 20分
 道路
 国道278号
 道道43号

イ. 視点2：災害リスク・安全性

「災害リスク・安全性」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

		現在地	配置案 (鹿部公園付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
津波 ※1		△	○	○
		・ 中学校は、最大浸水予測 0.5m～1.0m未満。 ・ 小学校・幼稚園は浸水想定 区域外。	・ 浸水想定区域外。	
噴火 ※2	火砕流	×	○	○
		・ 幼稚園と中学校は、到達想 定区域内。	・ 到達想定区域外。	
	火砕サージ	×	×	○
		・ 到達想定範囲内。		・ 到達想定区域外。
災害 土砂 ※3		○	○	△
		・ 土砂災害ハザードの指定はない。		・ ハザードの指定なし。 ・ 付近の「バイパス～道道の 取り付け道路」がハザード に指定されており、緊急時 に道路ネットワークが寸断 される可能性がある。
日常の安全性 ※4	交通安全性	○	×	×
			・ 「バイパスは高速で通過する車両が多い」「バイパスを横断するの危険では」との意見が見られた※5	
	獣害	○	×	△
			・ 「クマが出る恐れがある」「安心して子供を預けられない」との意見が見られた※5	

※1：鹿部町津波ハザードマップ

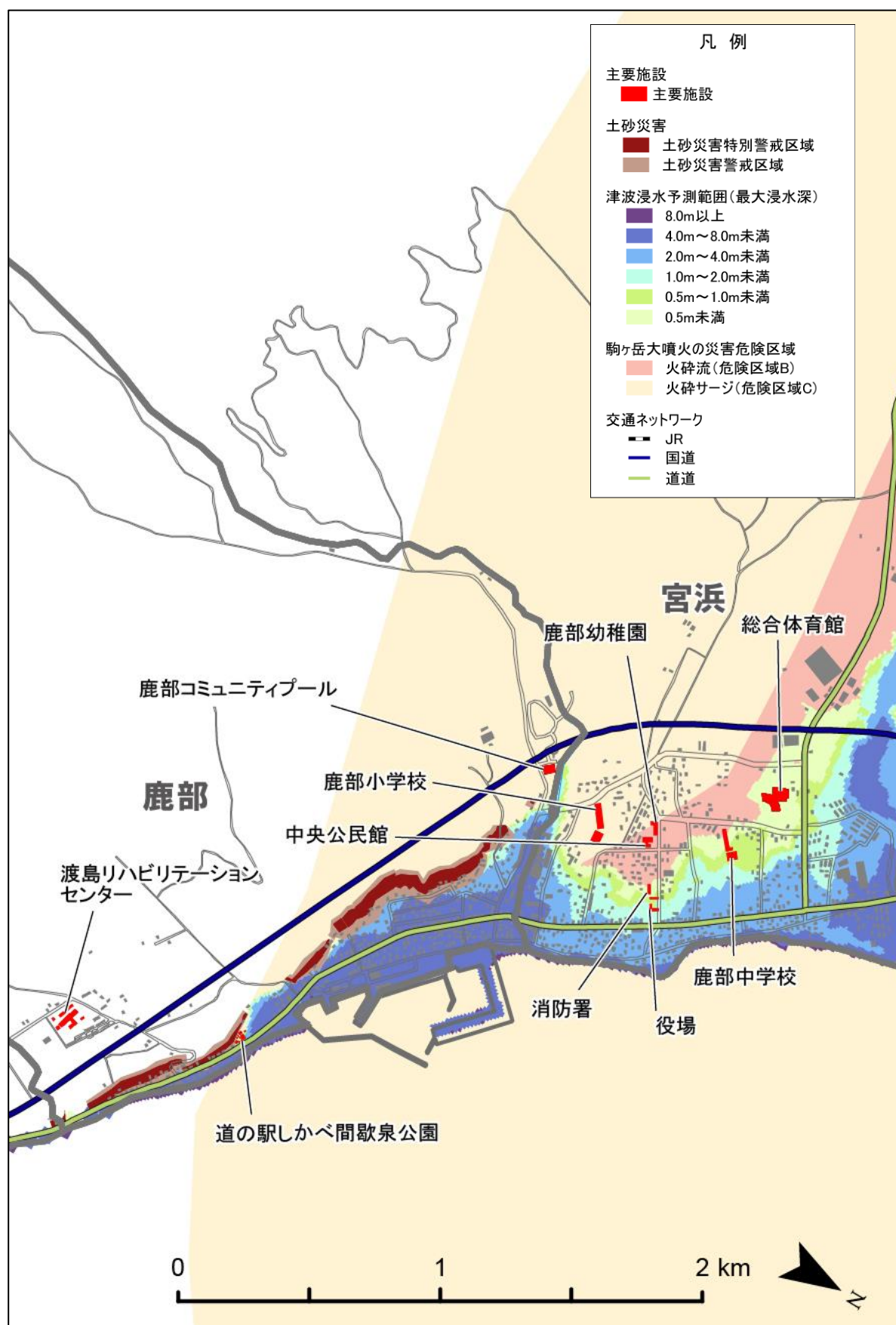
※2：鹿部町地域防災計画

※3：北海道土砂災害警戒情報システム

※4：鹿部町公共施設等総合管理計画

※5：町民アンケート

■参考：災害リスク（市街地） ※再掲



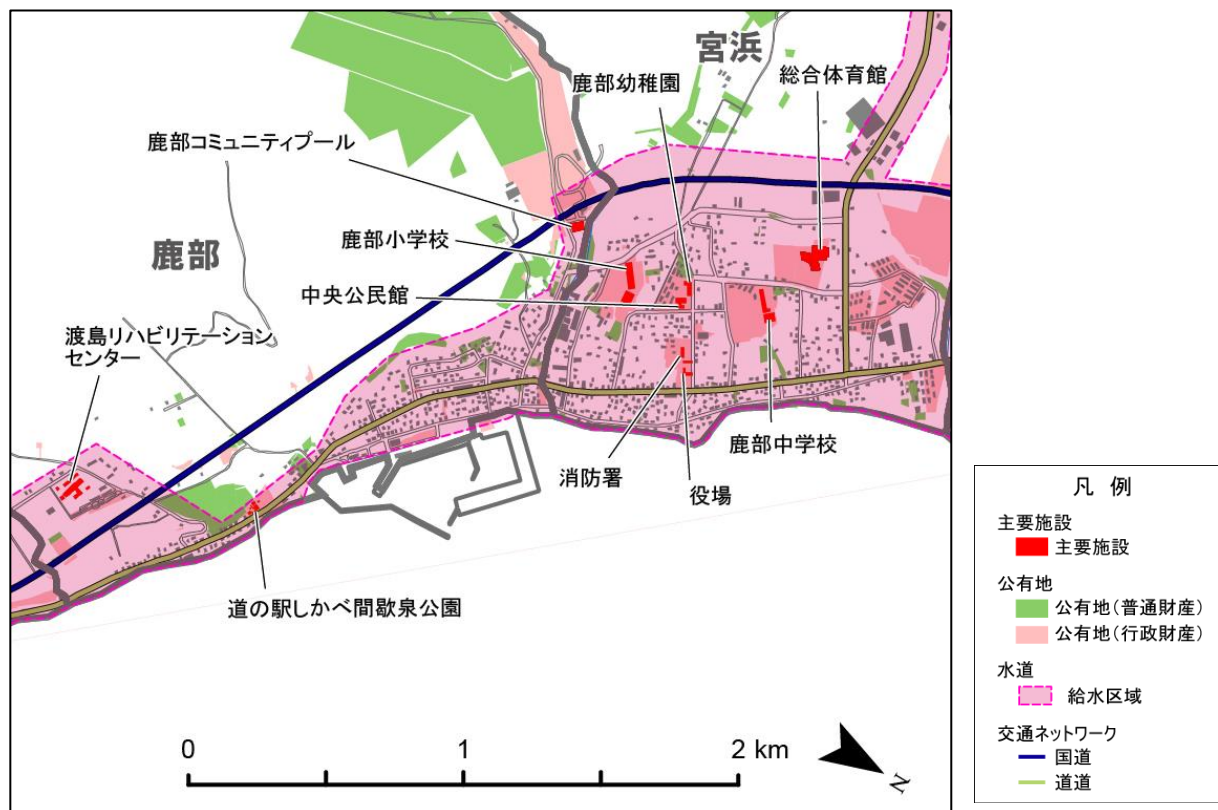
ウ. 視点3：財政

「財政」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。

	現在地	配置案 (鹿部公園付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
用地	○	×	△
		・ 付近に 公有地がない 。 ^{※1} ・ バイパスと沿道の用地に高低差があるため、用地造成が必要。	・ 道の駅山側にはまとまった用地があるが、 リハビリ直近の用地は少ない 。 ^{※1}
上水道	○	△	△
		・ 基本的には 給水エリア内 ^{※1} であるが、需要に対応するための追加設備が必要となる可能性がある。	
道路	○	×	○
		・ バイパスを横断する交通需要に対応した 道路整備 が必要。	

※1：鹿部町資料

■参考：用地と上水道給水エリア（市街地） ※再掲



工. 視点4：まちづくりへの寄与

「まちづくりへの寄与」の視点から、「現在地」「配置案」「参考案」を比較すると、以下のような評価となる。なお、施設連携については、役場を「渡島リハビリ付近」に配置した場合について記載している。

		現在地	配置案 (鹿部公園付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
他施設との連携	公民館	○	△	×
		・文教施設と近接しており、児童・生徒が 図書 を借りやすい。		
	公園 鹿部	△	○	×
			・遊び場所が確保できる。	
	役場	×	×	○
				・役場と隣接することとなる、父兄の送迎時に「 つい で利用」される可能性がある。 ・文教施設は災害時に避難所になることが想定され、役場職員が円滑に 避難所運営 をできる。
	リハビリ	×	×	○
				・リハビリと隣接することとなり、多世代交流の促進に寄与する可能性がある。
賑わいづくり		○	△	△
		・市街地に立地しており、 まちの賑わいづくり に貢献。	・市街地の賑わいが低下する恐れがある。 ・役場と隣接した場合、 新たな賑わい拠点 を創出することができる。 ・現施設 跡地 の活用方法の検討も必要。	

■参考：町民・事業者の声 ～ 幼稚園・小学校・中学校の合築について

- ・幼稚園、小学校、中学校、給食センターすべてを1つの校舎にしてみたらどうでしょう。1階が小学校、2階が中学校、隣の棟に子ども園など…。(町民アンケート調査)
- ・幼小中とまとまっていたら災害などの時、保護者が子供の安否が確認しやすい。(町民アンケート調査)
- ・幼・小・中の文教施設はまとまっていた方がよい。(役場内WS)
- ・学校は幼小中が一緒に建物に入ったほうがよい。活気が出る。(事業者インタビュー調査)

④ 文教施設の配置に関する評価の総括

視点1～視点4で実施した、「現在地」「配置案」「参考案」の評価をまとめると、下記ようになる。

視点		現在地	配置案 (鹿部公園付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
アンケート 結果	町民からの支持率	- 支持率 6.3%	○ 支持率 82.6%	- 支持率 5.6%
アクセス性	徒歩	○	△	×
	公共交通	△	×	×
	自家用車（送迎）	△	△	○
災害リスク・安全性	津波	△	○	○
	噴火	火砕流	×	○
		火砕サージ	×	○
	土砂災害		○	△
	日常の安全性	交通安全性	×	×
		獣害	○	△
財政	用地	○	×	△
	上水道	○	△	△
	道路	○	×	○
まちづくり への寄与	他施設との連携	公民館	○	△
		鹿部公園	×	○
		役場	×	○
		リハビリ	×	○
	賑わいづくり		○	△

⑤ 文教施設の配置に関する課題の総括

視点1～視点4で検討した内容を踏まえ、施設配置に伴う課題についてまとめると、下記のようなになる。

視点	現在地	配置案 (鹿部公園付近)	参考案 (渡島リハビリ付近)
アクセス性	● 狭隘な道路への対応	● 交通アクセス性の確保 (路線バスの路線変更・地域公共交通網の検討)	
災害リスク 安全性	● 津波への対応 ● 噴火(火砕流・火砕サー ジ)への対応	● 噴火(火砕サージ)への対 応 ● バイパスの交通安全性の確 保(信号機や街灯の設置) ● 有害鳥獣出没への対応	● 道路ネットワーク寸断への 対応の検討 ● バイパスの交通安全性の確 保(信号機や街灯の設置) ● 有害鳥獣出没への対応
財政	-	● 用地の確保 ● 用地造成 ● 上水道の追加設備の検討 ● 道路整備の検討	● 用地の確保 ● 上水道の追加設備の検討
まちづくり への寄与	-	● 隣接や連携する施設の検討・具体的な連携案 ● 現施設の跡地の活用を検討 ● 現市街地のまちの賑わいの低下への対応方針の検討	

第7章 まちづくりのビジョンの設定

- これまでの検討を踏まえ、「まちの将来像」「まちの構造」「主要施設の配置」を決定する。
- 決定した「主要施設の配置」を目指す上での課題を整理し、実現化につなげる。

7-1 目指すべき“まち”の構造

(1) まちの将来像

第6章で整理したとおり、「町長ビジョン」や「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、目指すべき「まちの将来像」を以下のとおり設定する。

●まちの将来像

「将来人口」

- ・人口が増加またはゆるやかな減少となっている。

- ・「鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、2040年には人口約3,400人を目指すこととしている。(高齢者割合41%、年少人口割合12%)
- ・「町長ビジョン」で2033～2038年頃に人口5,000人程度を目指すこととしている。
(2015年の人口は約4,200人。高齢者割合は36%、年少人口割合は10%)

「行政サービス」

- ・行政手続きのオンライン化が普及し、町民は窓口へ訪れる必要は少なくなっている。
- ・行政機能の効率化・高度化が図られている。
- ・防災拠点が整備されるとともに、町内で想定される災害に対し、適切にリスク分散が図られている。

「学校」

- ・オンライン教育の発達により町内で高等教育を受けることが可能となっている。

「産業」

- ・漁場整備や漁業の6次産業化により、漁業が憧れられるかつ儲かる産業となっている。
- ・「浜のかあさんシリーズ」「まるごと鹿部」など鹿部ブランドが確立し、食と観光によるまちづくりが推進されている。
- ・福祉産業による地域循環型経済が構築され、町民が様々な福祉サービスが享受できる環境整備が図られている。

「リゾート・移住」

- ・交流・関係人口増加から移住へという形態が確立している。
- ・リゾートエリアと浜の美しい融合が実現されている。

「自然」

- ・森・川・海の自然を間近に感じることができる生活を送ることができる。
- ・磯の保全と活用が図られている。

「交通」

- ・自動運転バスやAIによる効率的配車等により公共交通が維持されている。
- ・北海道新幹線(新函館北斗～札幌)が開業、北海道縦貫自動車道(函館～札幌)が開通している。

「エネルギー」

- ・地熱エネルギーが漁業や農業振興に活用されている。

（２）まちの構造

「まちの将来像」の実現に向けて、本町の目指すべき「まちの構造」を以下のとおり設定する。

① 拠点

町民にとって利便性が高く、また賑わいを実感できるまちづくりを目指し、「福祉・公共サービスゾーン」「産業・観光交流ゾーン」「リゾートゾーン」の３つの拠点を定める。

「福祉・公共サービスゾーン」は、「鹿部バイパス沿い（渡島リハビリテーションセンター～道道・バイパス交差点付近）」および「現小学校・幼稚園付近」とする。「福祉・公共サービスゾーン」内には、「町役場」や「リハビリセンター」「消防署」「文教施設」などの生活に必要な施設を配置し、一度に用事を済ますことのできる利便性の高い拠点を形成するものである。なお、「福祉・公共サービスゾーン」は火砕流や津波が到達しないと想定されている範囲に設定し、安心安全な拠点形成を図る。

「産業・観光交流ゾーン」は、「旧国道付近（道の駅～鹿部漁港～本別漁港～出来潤漁港）」に設定する。「産業・観光交流ゾーン」では、道の駅を核とし、町民・観光客が周遊し、まちの賑わいが溢れる拠点づくりを図るものである。

「リゾートゾーン」は、「鹿部リゾート～鹿部駅」とする。「リゾートゾーン」では、「鹿部リゾート」や「鉄道駅」を活かし、町外から人が訪れ、また居住したくなるような潤いある拠点形成を目指すものである。

② 軸

上記で位置付けた拠点をつなぎ、さらにまちの賑わいと利便性を生み出すため、「生活の軸」「広域交通軸」「観光周遊軸」の３つの軸を定める。

「生活の軸」は、「鹿部バイパス沿い（旧国道交差点（大岩）～道道・バイパス交差点）」とする。「生活の軸」は、各種公共サービスを結び、町民が円滑に公共サービスを享受できるような環境づくりを担うものである。「生活の軸」沿いでは、地域に根差した生活交通システム等の形成を図る。

「広域交通軸」は、「国道 278 号」、「道道大沼公園鹿部線」、「鉄道」とする。「国道 278 号」は、町内の地域間移動と町外移動の役割を果たし、「道道大沼公園鹿部線」は町外移動、「鉄道」は公共交通の移動軸として、町外との交流を支えるものである。

「観光周遊軸」は、「旧国道（道の駅～リゾートゾーン）」とする。「観光周遊軸」は、上記に位置付けた「産業・観光交流ゾーン」「リゾートゾーン」を結び、鹿部で遊び、鹿部で宿泊できる、周遊性の高いまちづくりを図るものである。

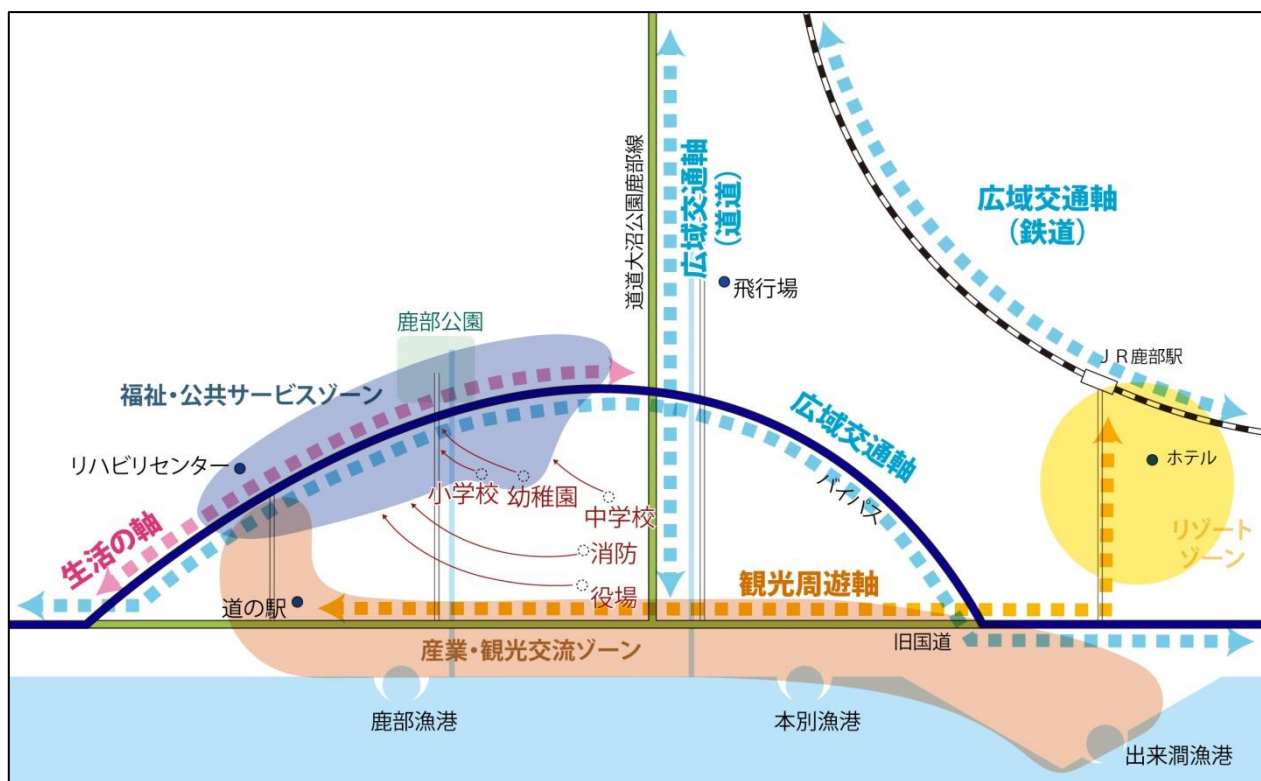


図 7-1 鹿部町の将来のまちの構造

表 7-1 拠点・軸の位置と主な構成施設

名称			位置	主な構成施設・基盤施設
拠点	福祉・公共サービスゾーン	●	・鹿部バイパス (渡島リハビリテーションセンター～道道・バイパス交差点付近) および現小学校・幼稚園付近 ※火砕流・津波の到達想定範囲外とする	・町役場 ・リハビリセンター ・消防署 ・文教施設 (幼稚園・小学校・中学校)
	産業・観光交流ゾーン	●	・旧国道付近 (道の駅～鹿部漁港～本別漁港～出来瀬漁港)	・小売店・飲食店 ・道の駅 ・旅館・温泉
	リゾートゾーン	●	・鹿部リゾート～鹿部駅	・鉄道駅 ・ホテル ・ゴルフ場
軸	生活の軸	↑↓	・鹿部バイパス (旧国道交差点(大岩)～道道・バイパス交差点)	・生活交通システム (路線バス、デマンド交通等) ・安全快適な歩行・自転車空間
	広域交通軸	↑↓	・鹿部バイパスを含む国道 278 号 (町内地域間移動と町外移動の自動車軸)	・国道
			・道道大沼公園鹿部線 (町外との主たる移動軸)	・道道 ・都市間バス
			・鉄道(公共交通の移動軸)	・鉄道
	観光周遊軸	↑↓	・旧国道ほか (道の駅～リゾートゾーン)	・安全快適な歩行空間 ・自転車空間

7-2 主要施設の配置

前述した「まちの構造」を実現するにあたっては、主要施設の具体的な配置を検討することとなる。そこで、主要施設の配置の検討を行う上にあたっての考え方を下記に整理する。

表 7-2 主要施設の配置・配置の考え方

施設	主要施設の配置・配置の考え方		課題 (「7-3 実現化に向けて」参照)
	配置		
役場	配置	<ul style="list-style-type: none"> ・役場は「福祉・公共サービスゾーン」内に配置する。 ・一度に用事を済ますことのできる環境形成を目指し、「福祉・公共サービスゾーン」には、役場以外の他の施設も配置する。 	-
	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・役場へは自家用車でのアクセス需要が高い※¹ため、全町から自家用車で円滑にアクセスできる環境整備が必要。 	道路ネットワーク整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・一方で、「車を持っていないため、役場が遠くなると困る」との意見も見られる※¹ため、高齢者や車を持たない方でもアクセスできる環境整備が必要。 	公共交通整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には職員が速やかに役場へ出勤する必要があるが、役場をバイパス沿いに配置すると、職員のアクセス性が下がる可能性がある。そのため、災害時のアクセス性の確保が必要。 	避難路ネットワーク整備 防災意識の向上
		<ul style="list-style-type: none"> ・「施設は集約して利便性を高めるべき」等の意見が見られるため※¹、どのような施設と連携するかを検討することが必要。 <p><アンケートや委員会などでの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害時の連携を円滑にするため、役場は避難所付近に建ててほしい」※¹ ・「役場と消防署は近い方が日常から連携が図れるのでは」「災害時に両施設とも被災するのは避けるべき」※^{1, 2} ・「渡島リハビリテーションセンターと近いと、福祉上の連携が図れるのではないか」※^{1, 2} 	公共施設間の連携
消防署	配置	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署は「福祉・公共サービスゾーン」内に配置する。 	-
	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各所へ出動できる環境整備が必要。 	道路ネットワーク整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・「施設は集約して利便性を高めるべき」等の意見が見られるため※¹、どのような施設と連携するかを検討することが必要。 <p><アンケートや委員会などでの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「役場と消防署は近い方が日常から連携が図れるのでは」「災害時に両施設とも被災するのは避けるべき」。※^{1, 2} 	公共施設間の連携

施設	主要施設の配置・配置の考え方		課題 (「7-3 実現化に向けて」参照)
文教施設	配置	<ul style="list-style-type: none"> ・文教施設は「福祉・公共サービスゾーン」内に配置する。 ・一度に用事を済ますことのできる環境形成を目指し、「福祉・公共サービスゾーン」には、文教施設以外の他の施設も配置する。 	-
	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・「市街地から遠くなるのであれば、スクールバス等があるとよいのでは」という意見が見られる※¹ため、児童の登下校の手段を確保することが必要。 	公共交通整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校用地には広い敷地が必要。 	用地の確保
		<ul style="list-style-type: none"> ・「施設は集約して利便性を高めるべき」等の意見が見られるため※¹、どのような施設と連携するかを検討することが必要。 <p>＜アンケートや委員会などでの意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園・小学校・中学校は統合したほうがよいのでは」※¹ ・「鹿部公園や町民プールと隣接すると、良好な学習環境となるのでは」※¹ 	公共施設間の連携
3施設 共通事項	配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉・公共サービスゾーン」内では、一部火砕サージ到達想定区域となっているとともに、「鹿部バイパス～道道」の取り付け道路の一部で土砂災害警戒区域となっている箇所があるため、安全に避難できる環境整備が必要。 	避難路ネットワーク整備 防災意識の向上
		<ul style="list-style-type: none"> ・バイパス沿いは高速で通過する車両が多いため、町民、特に児童が安心して通行できる環境整備が必要。 ・バイパス付近はクマ・シカ・ウマ等の有害鳥獣が出没する可能性があるため、有害鳥獣対策が求められる。 	バイパス付近の安全性の確保 有害鳥獣への対応
		<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉・公共サービスゾーン」内には、公有地が少なく、また鹿部公園付近等は土地の高低差があるため、用地取得・用地造成が必要。 ・公共施設の配置には、多額の財政支出が必要であるため、財政状況の改善が必要。 	用地の確保 財政状況の改善
		<ul style="list-style-type: none"> ・道路や上水道等へのインフラ需要の増加に対応するために、インフラへの追加投資が必要。 	インフラ整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・3施設をバイパス沿いへ移転すると、現市街地の賑わいが低下する可能性があるため、賑わいを維持できる取り組みが必要。 	まちの賑わいづくり

※1：町民アンケート ※2：策定委員会

7-3 実現化に向けて

「まちの構造」の実現化に向けた課題をハード面・ソフト面から整理する。

(1) ハード面に関する課題

ハード面に関する課題は、「道路ネットワーク」「避難路ネットワーク」「バイパス付近の安全性の確保」「用地の確保」「インフラ整備」「まちの賑わいづくり」の6つである。

① 道路ネットワークに関する課題 ～ バイパスと旧国道の取り付け道路が必要

本計画では、鹿部バイパスを「生活の軸」として位置づけているが、現状、鹿部バイパスへは取り付け道路が少なく、加えて鹿部バイパスへアクセスするためには迂回しなければならない箇所が見られるなど、鹿部バイパスへのアクセス利便性は十分とは言えない。そこで、町内のあらゆる場所から、鹿部バイパスへ円滑にアクセスできるような道路ネットワークを形成することが求められる。

課題解決に向けて

- ・ 取り付け道路の整備
- ・ 市街地でみられる狭隘な道路や曲がりくねった道路の解消
(特に「渡島リハビリテーションセンター付近の取り付け道路」と「森警察署鹿部駐在所から東光寺に至る取り付け道路」の改良)

② 避難路ネットワークに関する課題 ～ 災害を軽減する道路整備が必要

本計画で示したとおり、本町は駒ヶ岳の噴火や津波、土砂災害のリスクを抱えており、いざというときに適切に避難することが求められる。しかし、「道路ネットワークに関する課題」で触れたように、町内の道路ネットワークが十分でなく、また一部道路は発災時に使用できなくなる可能性がある。そのため、誰もが安全に避難できるように、避難路ネットワークを形成することが必要である。

課題解決に向けて

- ・ 取り付け道路の整備
- ・ 代替道路の整備
(特に、土砂災害特別警戒区域に指定されている「渡島リハビリテーションセンター付近の取り付け道路」に代わる道路の整備)

③ バイパス付近の安全性の確保に関する課題～ 信号機や街灯の設置、獣害対策が必要

本計画では、「福祉・公共サービスゾーン」を鹿部バイパス付近または現小学校・幼稚園付近としており、将来的には、町民が鹿部バイパスを横断して主要施設にアクセスする可能性がある。しかし、現状、鹿部バイパスは自動車が高速で通過している状態にあり、また鹿部バイパスを超えて駒見側はクマやシカ、ウマが出没する可能性がある。町民アンケートにおいても、「児童が交通事故にあわないか心配」「クマが怖い」等の声が寄せられた。そのため、町民が安心して通行・通学できるように、鹿部バイパス付近の交通安全性の確保や獣害対策を行うことが求められる。

課題解決に向けて

- ・交通安全対策の推進
(信号機・街灯の設置、防犯カメラの取り付け、横断歩道や標識の整備)
- ・有害鳥獣の出没防止策の推進
(道路法面の下刈りや刈り払いによる侵入経路の分断、侵入防止柵の設置、個体の管理など)

④ 用地の確保に関する課題 ～ 財政面を考慮した用地選定が必要

本計画を実現する上では、「主要施設の配置」について、具体的な用地を選定する必要がある。しかし、町内では活用可能な公有地が少なく、場合によっては用地の買い取りや土地の高低差を解消するための造成が必須となるが、そのためには多額の財政支出が必要となる。そこで、財政面も踏まえた用地の選定が重要となる。

課題解決に向けて

- ・財政面も踏まえた用地選定の検討
(「主要施設の配置によって得られる利益」と「財政支出」の比較、費用対効果が高い用地の選定など)

⑤ インフラ整備に関する課題 ～ 道路や上水道の整備が必要

本計画で位置付けた「まちの構造」を実現すると、鹿部バイパス沿いがまちの中心となり、鹿部バイパスへのアクセス需要が増えることが想定される。アクセス需要が増えた場合、現在の道路ネットワークや上水道等のインフラ施設では需要を受け止めきれない可能性があるため、インフラ施設への追加投資が求められる。

課題解決に向けて

- ・ 将来の需要も見通したインフラ施設への追加投資の検討

⑥ まちの賑わいづくりに関する課題 ～ 市街地の賑わいづくりが必要

本計画が実現すると、主要施設がバイパス沿いもしくは現小学校・幼稚園付近に移転配置となるが、それにより、現市街地の賑わいが低下することが懸念される。町民の居住場所や商業施設が必ずしも「生活の軸」としたバイパス沿いに移転するとは考えづらいため、今後とも、現市街地の賑わいを維持し、まちを盛り立てていくことが重要となる。そのため、市街地を空洞化させないように、うまく主要施設の跡地を活用し、新たなまちの賑わいを生む取り組みを進めることが重要となる。

課題解決に向けて

- ・ 役場、消防署、文教施設の跡地の改修の検討
(観光拠点・福祉施設の整備など)
- ・ 跡地を活用した観光拠点と道の駅との連携による、
産業・観光交流ゾーンづくりの検討(歩きたくなる街並み整備等)

(2) ソフト面に関する課題

ソフト面に関する課題は、「公共交通」「防災意識」「有害鳥獣対策」「財政状況の改善」「公共施設間の連携」の5つである。

① 公共交通に関する課題 ～「鹿部町地域公共交通活性化協議会」と連携した取り組みが必要

本計画で位置付けた「目指すべきまちの構造」を実現する上では、「生活の軸」となる鹿部バイパスをスムーズに移動できる環境が求められる。しかし、現状、鹿部バイパスは自家用車による通行が主であり、公共交通機関が運行しておらず、高齢者や自動車を所有していない方が鹿部バイパスを移動する手段が提供されていない状況にある。

一方、本町では、「第5次鹿部町総合計画」を受け、2016年度（平成28）に「鹿部町が目指す公共交通の方向性（案）」を策定し、「持続可能な公共交通体系の構築」「町内を面的に移動できる交通体系の構築」「新たな公共交通サービスの提供（デマンドバス・予約型乗合バス）」などに取り組むこととしている。これを踏まえ、「鹿部町地域公共交通勉強会」を立ち上げ、2018年度（平成30）には「循環バスやデマンドタクシーのモニター実験」を実施し、また今後は「本町と新函館北斗駅を結ぶ広域シャトルバスの実証実験」や「タクシー事業者の誘致」を検討している。

本計画においては、鹿部バイパス沿いを円滑に移動できる環境の整備に向け、これら「鹿部町地域公共交通勉強会」の取組と連携し、本町の特性とニーズにあった地域公共交通体系の形成を推進することが求められる。

課題解決に向けて

- ・「鹿部町地域公共交通活性化協議会」と連携した地域公共交通体系の整備
（循環バス・路線バスの導入検討、広域シャトルバスの実証実験の実施、タクシー事業者誘致の検討など）
- ・地域公共交通網形成計画の策定

② 防災意識に関する課題 ～ハザードマップの更新や防災訓練の実施などの意識啓発が必要

本計画で位置付けた「主要施設の配置」を実現することで、主要施設が被災する可能性は減少するものの、用地の選定によっては、火砕サージが到達する可能性がある。また、災害想定は絶対的なものではなく、時には想定を超えた甚大な災害が起こる可能性もある。そのため、ハード整備のみならず、町民各々が正しい知識を身に付け、いざというときに適切な対応を取れるよう、意識啓発を進めることが必要となる。

課題解決に向けて

- ・防災訓練の実施
- ・津波・土砂災害・駒ヶ岳噴火を網羅したハザードマップの作成の検討
- ・住民主体による地区防災計画の策定支援の検討
- ・役場職員への「鹿部町災害時職員初動マニュアル」の周知

③ 有害鳥獣に関する課題～ 関係各所が連携した有害鳥獣対策が必要

「ハード面に関する課題」において、有害鳥獣に対する出没防止策について触れたが、あらゆるハード整備を徹底したとしても、人間がその出没すべてをコントロールできるものではない。そのため、有害鳥獣が出没する可能性があることを念頭に、行政・町民が協働して、対応策を講じることが求められる。

課題解決に向けて

- ・ 有害鳥獣出没時の体制づくり
- ・ 町民に対する有害鳥獣に関する意識啓発の推進の検討
(有害鳥獣出没パンフレットの作成など)

④ 財政状況の改善に関する課題 ～ 公共施設の料金見直しが必要

本計画を実現する上では、施設自体の建設費に加え、用地の確保や造成、道路や上水道のインフラ整備を行う必要があり、多大な財政支出が必要となることが想定される。そのため、本町の財政収支を見直す必要がある。

課題解決に向けて

- ・ 町民の需要の把握による、財政収支の見なおしの検討
- ・ 施設の運営費・維持費に見合った、町民負担の検討
(「山村広場」「総合体育館」「鹿部コミュニティプール」の使用料の見直しなど)

⑤ 公共施設間の連携に関する課題 ～ 具体的な連携策の検討が必要

本計画では、「まちの構造」として複数のゾーンを設置し、機能が似た施設を集約することで、利便性や魅力の高いまちづくりを進めることとしている。しかし、単に施設を“集める”だけでは不十分であり、集めた施設をうまく“連携させる”ことで、まちの魅力や利便性が高まっていく。そのため、各施設間の具体的な連携案を検討することが求められる。

課題解決に向けて

- ・ 各施設間の具体的な連携案の検討
(幼稚園・小学校・中学校での年齢が異なる園児・生徒の交流、役場と渡島リハビリテーションセンターの連携による地域サービスの推進 など)
- ・ 施設間での連携に関する協定の締結の検討

「まちの構造」および「主要施設配置図」

- ・将来の鹿部のまちづくりに向けて、主要施設の配置については、**「災害リスクが低いこと」「交通利便性が高いこと」**の2つが重要であると考えます。
- ・そこで「駒ヶ岳噴火リスク（火砕流到達想定範囲）」「津波リスク（浸水予測範囲）」を踏まえ、かつ交通利便性の高い地区として、**鹿部バイパス沿線（渡島リハビリ～道道交差点）を「福祉・公共サービスゾーン」**に設定します。
- ・建て替え等の再整備が必要な**「消防署」「文教施設（幼稚園・小学校・中学校）」**は、この「福祉・公共サービスゾーン」へ配置することとし、集約も含め、今後事業手法などの具体的な検討を進めます。
- ・また、「福祉・公共サービスゾーン（鹿部バイパス沿線）」と「産業・観光交流ゾーン（旧国道沿線）」との連携を向上させるため、取り付け道路の整備や道路改良などを検討するなど、**ハード・ソフトの様々な課題**に取り組んでいきます。

